

IBM z/VSE
バージョン 6 リリース 2



インストール

バージョン 6 リリース 2

IBM z/VSE
バージョン 6 リリース 2



インストール

バージョン 6 リリース 2

お願い

本書および本書で紹介する製品をご使用になる前に、167 ページの『特記事項』に記載されている情報をお読みください。

本書は、IBM z/Virtual Storage Extended (z/VSE) バージョン 6 リリース 2 (プログラム番号 5686-VS6) および新しい版で明記されていない限り、以降のすべてのリリースおよびモディフィケーションに適用されます。

本書は、SC43-2942-00 の改訂版です。

資料のご注文方法については、<http://www.ibm.com/jp/manuals> の「ご注文について」をご覧ください。(URL は、変更になる場合があります)

また、FAX により、またはインターネット経由で送付することもできます。

Internet: s390id@de.ibm.com

FAX (Germany): 07031-16-3456

FAX (other countries): (+49)+7031-16-3456

IBM は、お客様が提供するいかなる情報も、お客様に対してなんら義務も負うことのない、自ら適切と信ずる方法で、使用もしくは配布することができるものとします。

お客様の環境によっては、資料中の円記号がバックスラッシュと表示されたり、バックスラッシュが円記号と表示されたりする場合があります。

原典： SC34-2678-01

IBM z/VSE

Version 6 Release 2

Installation

Version 6 Release 2

発行： 日本アイ・ビー・エム株式会社

担当： トランスレーション・サービス・センター

© Copyright IBM Corporation 1984, 2017.

内容

図	vii
表	ix
本書について	xi
本書の対象読者	xi
本書の使用法	xi
ダイアログへのアクセス	xii
関連資料	xii
変更の要約	xv
インストール作業の概要	xvii
第 1 章 z/VSE のインストールの概要	1
初期インストール - メディア・タイプ	1
自動初期インストール - 使用すべき場合	1
手動初期インストール - 使用すべき場合	2
初期インストールの概要図	2
初期インストールの概説	4
インストール・ワークシート	5
z/VSE 基本ファイルの概要	7
自動初期インストール用のデフォルト値	8
自動初期インストールが失敗した場合にとる方法	9
第 2 章 インストールの基本	11
インストール・ディスクからの z/VSE の初期イン ストール	11
LPAR 環境でインストール・ディスクを作成する 方法	13
z/VM CMS 環境でインストール・ディスクを作 成する方法	17
物理テープからの z/VSE の初期インストール	20
拡張物理装置アドレスのサポート	22
SCSI ディスク・サポート	22
z/VSE に用意されている事前定義環境	23
IBM 提供の監視プログラム	23
最小限必要なハードウェア	23
ユーザー独自のハードウェア設定の把握 - ハードウ ェア構成リスト	24
VTOC	26
初期インストールに使用されるディスク装置	26
統合コンソールを使用した z/VSE のインストール システム・コンソールの切り離し	27
インストール時に発生する可能性のある問題	28
時刻機構が設定されていない	28
装置タイプが検知できない	29
使用可能な数を超える入出力装置	29
不十分なシステム構成	30
ボリューム識別ラベルの重複の検出	30
HCPVMI232E IPL 装置エラー	31

第 3 章 経験を積んだ VSE ユーザー向け の簡単な説明	33
インストール 第 1 部	33
インストール 第 2 部	35
ローカルの非 SNA VTAM ディスプレイ端末の 定義	36
ローカルの SNA VTAM ディスプレイ端末の定 義	37
ハードウェア情報のカタログ登録	38
ASI IPL プロシージャのカタログ登録	38
VTAM スタートアップ情報のカタログ登録	38
ジョブ・リストの作成	38
ジョブ管理プログラムの制御するジョブの実行	38
第 4 章 インストール 第 1 部 - 詳細説 明	45
第 5 章 自動インストール 第 1 部 - LPAR モードおよび z/VM	47
z/VSE を LPAR モードでインストールするユーザ ーの準備作業	47
ステップ 1 - テープ/ディスクからの IPL の実行 (自動インストールの場合)	48
z/VSE を LPAR モードでインストールするユー ザー: IBM zEnterprise EC12 へのインストール 例	48
VM のもとで z/VSE をインストールするユーザ ーの場合	49
ステップ 2 - 自動インストールの開始	50
第 6 章 手動インストール 第 1 部 - LPAR モード	55
z/VSE を LPAR モードでインストールするユーザ ーの準備作業	55
ステップ 1 - テープ/ディスクからの IPL の実行 (手動/LPAR モード)	56
IBM zEnterprise EC12 へのインストール例	56
ステップ 2 - インストールの開始 (手動/LPAR モ ード)	57
ステップ 3 - ディスクの初期化および VTOC の配 置 (手動/LPAR モード)	59
ディスクの初期化 (VTOC をボリュームの中心に 配置する場合)	59
ディスクの初期化 (VTOC をボリュームの末尾に 配置)	60
ステップ 4 - システム・ライブラリー IJSYSRS の リストア (手動/LPAR モード)	61
ステップ 5 - DOSRES からの IPL の実行 (手 動/LPAR モード)	64

第 7 章 手動インストール 第 1 部 - VM	
のもとでのインストール	69
準備作業 (手動/VM のもとで)	69
ステップ 1 - テープ/ディスクからの IPL の実行 (手動/VM のもとで)	69
ステップ 2 - インストールの開始 (手動/VM のもとで)	70
ステップ 3 - ディスクの初期化および VTOC の配置 (手動/z/VM のもとで)	72
ディスクの初期化 (VTOC をボリュームの中心に配置する場合)	73
ディスクの初期化 (VTOC をボリュームの末尾に配置)	74
ステップ 4 - システム・ライブラリー IJSYSRS のリストア (手動/z/VM のもとで)	75
ステップ 5 - DOSRES からの IPL の実行 (手動/z/VM のもとで)	78
第 8 章 インストール 第 2 部 - 詳細説明 - LPAR モードおよび z/VM	83
ジョブ・ストリーム処理	83
z/VSE のインストール・プログラムの実行	84
ユーザー端末の定義	84
ハードウェア情報のカタログ登録	87
ASI IPL プロシーチャーのカタログ登録	87
VTAM スタートアップ情報のカタログ登録	87
ジョブ・リストの作成	87
ジョブ管理プログラムの制御するジョブの実行	87
VSE/POWER 制御のプリンターの始動	88
システム・ヒストリー・ファイルのリストア	89
VSAM カタログ、VSAM スペース、および VSAM クラスタの定義	89
ライブラリーとサブライブラリーの定義	90
VSE/ICCF DTSFILE のリストア	90
インストール情報の VSE/ICCF DTSFILE への穿孔	90
z/VSE 基本マクロのインストール	90
LE/VSE のインストール	90
言語別メンバーのリストア	90
言語別 VSE/ICCF メンバーのリストア	91
z/VSE 基本プログラムのインストール	91
TCP/IP および IPv6/VSE のインストール	91
VSE/VSAM ファイルの初期化およびロード	91
ソフトウェア情報/分析の作業ファイルの初期化	92
VSE システム・ライブラリーへのメンバーのカタログ登録	92
TCP/IP の構成 (オプション)	92
通信アクセス方式と CICS/ICCF のスタートアップ	94
第 9 章 インストール 第 3 部 - LPAR	
モードおよび z/VM	99
ヒストリー・ファイルの個別設定	101
ハードウェア・テーブルの完成	102
VTAM パスワードの活動化	105

セキュリティ機能をアクティブにしてシステムを使用するユーザー	106
その他の考慮事項	106
z/VSE ユーザー ID のパスワードの変更	108

第 10 章 オプション・インストール・タスクの実行 - LPAR モードおよび z/VM	111
システム・プリンター用の印刷バッファの作成	111
不要な z/VSE プログラムの削除	115
生成機能の概説	116
生成機能をインストールする時期	117
z/VSE 生成機能のインストール	117
サービス・インストール後の生成機能のインストール	118
その他の考慮事項	119
追加プログラムのインストールの概要	119
z/VSE 拡張基本テープからのプログラムのインストール	119
追加 VSE プログラムのインストール	120
z/VSE のもとでの他社製プログラムのインストール	120
追加 VSE プログラム用インストール・ダイアログの使用	121
その他の考慮事項	121
システムに複数のバージョンのプログラムをインストールする場合	122
追加 VSE プログラムのインストール	123
「Prepare for Installation」ダイアログ	124
テープからプログラムをインストールするダイアログ	127
プログラム・リストを使用しないプログラムのインストール (パネル INSSOPI3)	130
プログラムの再インストール	131
バージョン 1 フォーマットのプログラムのインストール	131
その他の考慮事項	132
プログラムのインストール - V1 形式 ダイアログ	132

第 11 章 VM/VSE インターフェース・ルーチンのインストール - (VM のみ)	135
VM/VSE インターフェース・ルーチンについて	135
VM/VSE インターフェースがサポートする機能	135
VM/VSE インターフェース・ルーチンの概説	136
VM/VSE インターフェースのインストール方法	136

付録 A. ジョブ管理の概説	139
インストールのダイアログに関する特別な考慮事項	140
ジョブ管理コマンド	140
エラー処理時に役立つ情報	141

付録 B. 199 を超える VSE/ICCF ユーザーまたは 199 を超える VSE/ICCF ライブラリーのマイグレーション	143
---	-----

付録 C. 新リリースへのマイグレーション	145
---------------------------------	-----

z/VSE マイグレーション・ユーティリティー	
IESBLDUP	145
IESBLDUP ユーティリティーの紹介	145
計画と概念について	146
IESBLDUP ユーティリティーの使用	148
z/VSE 6.2 へのマイグレーション	151
制御ステートメント	156
マイグレーション・エラーからのリカバリー	159

付録 D. 仮想テープからの初期インストールの準備	161
-------------------------------------	-----

インストールの準備	161
ワークステーションでの仮想テープ・ファイルの準備	161
初期インストールのための準備	162

基本テープを VSAM にアップロードして、仮想テープから FSU を行う方法	164
追加プロダクトのインストール	164
インターネットから z/VSE を受信するための追加情報	164
仮想テープを使用する場合のファイル名およびその他の考慮事項	165

特記事項	167
----------------	-----

プログラミング・インターフェース情報	169
商標	169
製品資料のご使用条件	169

アクセシビリティ	171
--------------------	-----

支援機能の使用	171
資料の形式	171

用語集	173
---------------	-----

索引	193
--------------	-----



1.	初期インストールの概要図	3	9.	パネル - Virtual Tape: Specify the Data Set (仮想テープ: データ・セットの指定) (リモート・システム)	127
2.	パネル - z/VSE SIGN ON	100	10.	パネル - Install Additional Programs from Tape (テープからの追加プログラムのインストール)	127
3.	パネル - Complete initial installation (初期 インストールの完了)	101	11.	z/VSE スケルトン SKVMVSE	139
4.	Hardware Configuration Panel - Unidentified Device List	103	12.	VSE 制御ファイルをバックアップする場合の ジョブ例	152
5.	Hardware Configuration: Unit Address List (ハードウェア構成: 装置アドレス・リスト) (情報追加後)	104	13.	VSE/ESA システムからのマイグレーション用 のジョブ・ストリーム例	154
6.	Hardware Configuration: Catalog Startup Members (ハードウェア構成: スタートアッ プ・メンバーのカタログ)	105	14.	マイグレーション・レポートの例	155
7.	「Prepare for Installation」ダイアログ	125	15.	状況報告書のジョブ・ストリーム例	155
8.	パネル - Virtual Tape: Specify the Data Set (仮想テープ: データ・セットの指定) (VSAM). 126		16.	状況報告書出力の例	156
			17.	VSE 制御ファイルのリストア	160

表

1. 初期インストール用のワークシート	6	10. プリンターのトレーン/ベルトのデフォルトの 組み合わせ	112
2. z/VSE イメージまたはファイルの内容	8	11. FCB のプロシージャー名	113
3. ディスク装置用の事前定義値	9	12. UCB のプロシージャー名	113
4. インストール・ディスク (LPAR) を作成するた めに必要なファイル	12	13. LUCB アテンション・コマンド	115
5. インストール・ディスク (z/VM) を作成する ために必要なファイル	13	14. z/VSE プログラムの削除ジョブ	115
6. 事前定義環境	23	15. PRD2.GEN1 のためのスペース所要量	117
7. z/VSE 6.2 のインストールに最小限必要なハー ドウェア	24	16. 配布テープのレイアウト	121
8. ローカル SNA コントロール・ユニットとロー カル非 SNA コントロール・ユニットのリスト	85	17. VM/VSE インターフェースのモジュールとフ ェーズ	136
9. z/VSE の事前定義ユーザー・プロファイル	108	18. ジョブ管理処理のための異常終了ジョブ名	141
		19. テープ・イメージのファイル名	161

本書について

本書では、オペレーティング・システム z/VSE® のインストール方法について説明します。

本書の対象読者

本書は、次の操作を行うユーザーを対象にしています。

- z/VSE のインストール。
- 追加の z/VSE プログラム、例えば z/VSE オプション・プログラムのインストール

VSE の基本機能に関する知識と、一部のハードウェア操作に関する知識が必要となります。

本書の使用法

本書は、いくつかのセクションに分かれています。最初のセクションでは、z/VSE システムのインストールを行うための計画について、その概略を説明し、次に、インストール作業の概要について説明します。インストールを開始する前には、前もって、このセクションを読んでおく必要があります。

その他のセクションでは、z/VSE のインストール方法について解説します。

初期インストールは、3 つのインストール部分で構成しています。インストールの第 1 部および第 2 部については、以下のとおり 2 度ずつ説明を行います。

1. すでに経験のあるユーザー向けの説明。インストールに必要なシステム・プロンプトとシステム・メッセージのみ抜き出して説明すれば十分な、ユーザー向けです。
2. 詳細なインストール情報を必要とするユーザー向けの説明。

インストールの第 3 部については、全ユーザーを対象とする説明を一度行います。

応答を入力するよう指示された場合は、データを打ち込んでから、**ENTER (END/ENTER)** キーを押してください。作業に応じて、次のいずれかを使用します。

- システム・コンソール
- 統合コンソール
- ユーザー端末

z/VSE の初期インストールには、システム・コンソールまたは統合コンソールを使用します。本書では、以下のとおりです。

- 初期インストール中に表示されるシステム・メッセージは、別のフォントの大文字で示してあります。本書にはすべてのメッセージが示してあるわけではありま

せんが、本書に示されているメッセージだけで、作業が正常に完了したかどうか確認することができます。次の例は、システム・メッセージがどのように表記されるかを示します。

```
BG 0000 IES10059D ENTER A 3270 ADDRESS (PCUU) OR "END"
```

- ユーザーの入力する応答は、太文字で示しています。入力が必要である応答については、大文字で示します。ユーザーが置き換えを行う必要がある変数については、小文字で示します。通常、応答の右側または前に、変数についての説明を示します。次の例は、システム・コンソールを使用した場合の応答がどのように表記されるかを示します。

0 pcuu

(pcuu は 3270 端末の物理装置アドレス)

表記では大文字/小文字を使い分けていますが、実際に入力を行うときには、当然、いずれの文字も使用することができます。

ダイアログへのアクセス

ダイアログへのアクセスを行いやすいように、本書では、シーケンス番号を使用して、対話式インターフェースのダイアログを表示するために入力する必要のある選択パネル名と選択番号を示します。例えば、生成機能のインストールを行う場合には、「z/VSE Function Selection」パネルから、次のように選択します。

1 (Installation (インストール))

3 (Install Generation Feature (生成機能のインストール))

管理者用ファースト・パス	同義語
13	デフォルト: ユーザー:

ファースト・パスの使用

上記のように、ダイアログのシーケンス番号の下にある枠のうち左側の枠内に、この選択を行う際のファースト・パスが示されています。このファースト・パス機能を使用すると、パネル階層を 1 つ 1 つたどっていかなくても、目的のダイアログに直接到達することができます。ファースト・パスを使用するには、階層内の個々のパネルで入力するはずの番号すべてを、1 つの選択パネルで入力します。

ファースト・パスに加えて、ダイアログのシーケンス番号の下にある枠のうち右側の枠内に、選択に使用する同義語が示されます。上記の例にはデフォルトの同義語はありませんが、「Maintain Synonyms」ダイアログで独自の同義語を作成できます。これは、初期インストールの後に行う作業です。「IBM z/VSE 管理」を参照してください。

関連資料

z/VSE についての説明は、z/VSE ライブラリー と呼ばれる一連の資料に記載されています。

「IBM z/VSE 計画」 および「IBM z/VSE リリース・ガイド」 には、z/VSE とそのプログラムおよび機能に関する詳細があります。

z/VSE ホーム・ページ

z/VSE は、WWW 上にホーム・ページがあります。ホーム・ページでは、VSE 関連プロダクトやサービス、z/VSE の新機能、およびその他の VSE ユーザーにとって興味深い項目に関する最新情報が記載されています。

z/VSE ホーム・ページは、次のアドレスで見ることができます。

<http://www.ibm.com/systems/z/os/zvse/>

次のサイトで VSE ユーザーの例 (ZIP 形式) を検索することもできます。

<http://www.ibm.com/systems/z/os/zvse/downloads/samples.html>

z/VSE Knowledge Center

IBM Knowledge Center とは、IBM の技術情報における新しいホームです。
z/VSE Knowledge Center へのリンク:

http://www.ibm.com/support/knowledgecenter/SSB27H/zvse_welcome.html

変更の要約

この資料は、z/VSE 6.2 に実装された機能拡張および変更を反映するように更新されました。また、この資料には、用語、細かな修正、および編集上の変更が含まれています。

- z/VSE 6.2 にはアーキテクチャー・レベル・セット (ALS) が導入され、IBM z114/z196 以降が必要です。
- z/VSE 6.2 へのアップグレードは、初期インストールまたは高速サービス・アップグレード (FSU) で実行できます。
- z/VSE 6.1 システムからアップグレードする場合、使用できるのは FSU のみです。z/VSE V5 から z/VSE V6 への FSU は実行できません。

注: 1 つのリリースの中での新しいリフレッシュ・レベルへの FSU は可能です。

- z/VSE 6.2 以降、z/VSE は、タイプ 3380 のディスク (または 3380 トラック互換モードの 3390 ディスク) にはインストールできません。タイプ 3380 のディスクは、データ・ディスクとしてサポートされています。
- z/VSE 6.2 以降、テープ・デリバリーは廃止されました。z/VSE 6.2 は DVD で、または Shopz の電子デリバリーによって入手できます。
- z/VSE 6.1 以降、z/VSE は、英語バージョンのみ用意されています。

本書の z/VSE 6.1 版では、以下の変更が実装されていました。

- *Barnard Software* 社によって提供されている *IPv6/VSE* 製品は現在、PRD2.TCPIPB にインストールされています。
- z/VSE 6.1 には Architectural Level Set (ALS) が導入され、IBM System z10 以降が必要です。

インストール作業の概要

z/VSE は、インストールが容易な事前生成システムです。初期インストールは約 2 時間で終了します。

インストール作業は、次の 4 つのカテゴリに分類されます。

1. z/VSE の初期インストール

このインストール作業はすべてのユーザーに必須です。初期インストールは、3 つの「部分」から構成されています。初期インストールが完了すると、z/VSE 基本プログラムはインストール済みとなります。

z/VSE 5.2 以降では、z/VSE をブート可能インストール・ディスクからインストールするのか物理テープからインストールするのを選択できます。詳細については、11 ページの『インストール・ディスクからの z/VSE の初期インストール』を参照してください。

2. z/VSE 生成機能のインストール

z/VSE 生成機能は、監視プログラムのリストが必要な場合、または生成マクロを変更した場合にのみ、インストールする必要があります。この作業は「オプション」であり、111 ページの『第 10 章 オプション・インストール・タスクの実行 - LPAR モードおよび z/VM』に説明を記載します。z/VSE 生成機能には約 15 000 ブロックのライブラリー・スペースが必要です。パラメーターは変更できないため、必要な場合のみインストールを行ってください。

3. z/VSE 拡張基本テープのインストール

z/VSE 拡張基本テープには、初期インストール時に自動的にインストールされない基本プログラムが含まれています。これらはオプション・プログラムとして扱われ、対応するダイアログを使用してインストールしなければなりません。この作業については、119 ページの『追加プログラムのインストールの概要』で説明します。

4. VSE プログラムの追加インストール

z/VSE は、z/VSE オプション・プログラムなどの VSE プログラムの追加インストールをサポートします。この作業は「オプション」であり、119 ページの『追加プログラムのインストールの概要』に説明を記載します。

VM/VSE インターフェースのインストール: z/VSE を z/VM[®] の下でインストールする場合は、VM/VSE インターフェース (VSE フェーズと CMS モジュールのセット) もインストールしなければならないことがあります。これらのフェーズとモジュールは、CMS から 1 つまたは複数の z/VSE ゲスト・システムを処理するのに必要な機能を提供します。この作業は「オプション」であり、135 ページの『第 11 章 VM/VSE インターフェース・ルーチンのインストール - (VM のみ)』に説明を記載します。

IBM[®] サービスのインストール: 特定の時機にサービスもインストールしなければならない場合があります。これを行うには、z/VSE リフレッシュまたはプログラマー

時修正 (PTF) をインストールします。 z/VSE の対話式インターフェースには、サービスを適用するために役立つダイアログが用意されています。サービスのインストール方法の詳細については、「*IBM z/VSE システム・アップグレードおよびサービス*」を参照してください。

第 1 章 z/VSE のインストールの概要

初期インストール - メディア・タイプ

z/VSE 5.2 以降では、z/VSE をブート可能インストール・ディスクからインストールするか、物理テープからインストールするかを選択できます。

z/VSE 6.2 以降、テープ・デリバリーは廃止されました。z/VSE 6.2 は DVD で、または Shopz の電子デリバリーによって入手できます。

- ブート可能インストール・ディスクからの初期インストールを選択する場合は、詳細について 11 ページの『インストール・ディスクからの z/VSE の初期インストール』を参照してください。
- テープからの初期インストールを選択する場合は、詳細について 20 ページの『物理テープからの z/VSE の初期インストール』を参照してください。

インストールは、自動か手動かを選択できます。自動インストールを使用すると、主に、作業の煩雑さが軽減でき、インストール時に必要な IPL の回数も減るため、インストール作業が簡単になります。

自動初期インストール - 使用すべき場合

z/VSE では、自動インストールを実行するのに必要な情報が入った事前定義カスタマイズ・テーブルを使用します。

8 ページの『自動初期インストール用のデフォルト値』に使用する事前定義値を示します。デフォルト値の変更を行うことはできません。

自動インストールを選択すると、システムが次のような特定のインストール作業を処理します。

- ディスク装置 (DOSRES および SYSWK1) の初期化
- ディスク・パックの中心への VTOC の配置
- z/VSE システム・ライブラリーのリストア
- DOSRES からの自動 IPL

上記によって、ユーザーは、ICKDSF INIT UNIT コマンドの入力を行う必要がなくなります。コマンドの入力の際には、システム・ディスク DOSRES と SYSWK1 用の値、および、VTOC の割り振り用の値も一緒に入力する必要がありますが、その手間が省略できるということです。さらに、ディスク装置に関する情報を収集するための関連システム・プロンプトは、すべて、z/VSE が処理します。

注: FCP 接続 SCSI ディスク装置にインストールを行う場合、自動インストールの選択が推奨されます。

キーの打ち間違いによるエラーや設定エラーを避けるため、自動インストールを選択することをお勧めします。ただし、何らかの理由で、ユーザーが自動インストー

ルのプロセスを使用しない場合もあります。この場合、「手動」によるインストールという選択をすることができます。『手動初期インストール - 使用すべき場合』

手動初期インストール - 使用すべき場合

自動インストールの場合とは異なり、手動インストールの場合は、上記であげた作業については手動で行う必要があります。

手動インストールを選択する理由としては、以下のことが考えられます。

- 初期インストール用に推奨されているデフォルト値以外の値を使用したい場合。
- 初期インストールにおいて、2 つを超えるディスク装置を初期化したい場合。
- 以前に一度も初期化したことがないディスク装置を使用する場合。
- これまでに VSE 以外のシステムで使用されていたディスク装置を使用する場合。
- エミュレーション・モードからネイティブ・モードへ、ディスク装置を切り替える場合。

初期インストールの概要図

次の図は、初期インストールの概要を示したものです。図を見て分かるように、初期インストールは 3 つの部分で構成されます。

インストール 第 1 部

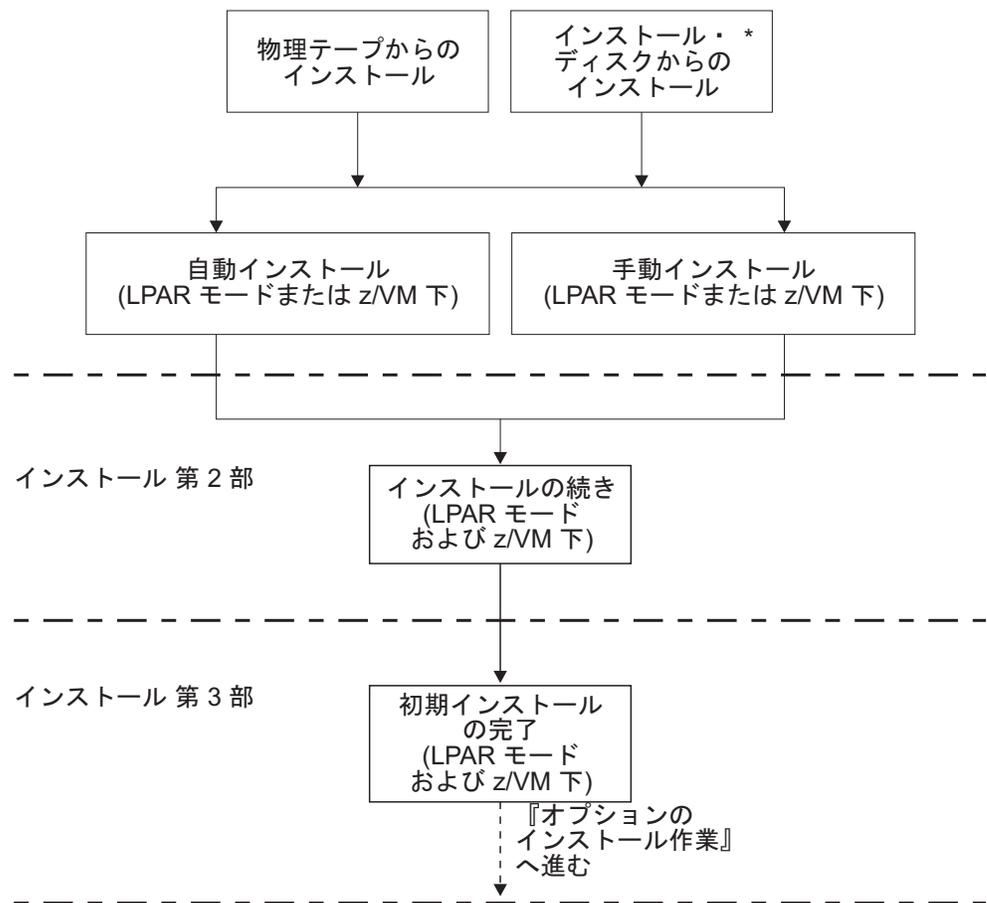


図 1. 初期インストールの概要図

注: * インストール・ディスクを作成する必要があります。 11 ページの『インストール・ディスクからの z/VSE の初期インストール』を参照してください。

インストールの第 1 部については、以下のユーザー別に説明を行います。

- 自動インストール・サポートを使用するユーザー
- z/VSE を LPAR モードでインストールするユーザー (手動で)
- z/VSE を z/VM の下でインストールするユーザー (手動で)

注: 本書全体を通して使用されている「LPAR モード」という表現は、z/VM の下でインストールを行うことと対比して、LPAR モードでの z/VSE のインストールを表します。z/VM の下でインストールを行う場合の違いについては、「z/VM 下」という見出しの個所に示されています。

インストールの第 2 部および第 3 部については、上記 3 つのインストール・タイプのすべてにおいて、ほぼ同一の作業となります。違いがある場合は、その違いが強調表示されます。

初期インストールの概説

概要図に示されているインストールの各部分は、いくつかのステップで構成されています。

1. インストール第 1 部の構成
 - テープまたはインストール・ディスクからの IPL の実行。
 - ディスク装置の初期化。
 - ボリューム目録 (VTOC) の配置。
 - システム・ライブラリー IJSYSRS のリストア。
 - DOSRES からの IPL の実行。
2. インストール第 2 部の構成
 - 決定作業
 - TCP/IP 使用の選択。
 - システム環境の選択。
 - セキュリティーの選択。
 - 実行する主要ジョブ
 - **HISTREST** システム・ヒストリー・ファイルのリストア。
 - **VSAMDEFS** VSE/VSAM カタログの定。
 - **LIBRDEFS** VSE/VSAM ライブラリーの定義。
 - **ICCFREST** VSE/ICCF DTSFILE のリストア。
 - **ICCFLOAD** VSE/ICCF DTSFILE へのシステム情報の追加。
 - **MACREST** 個々の基本マクロのインストール。
 - **LEREST** LE コードのリストア。
 - **NLLIBRES** 言語別メンバーのリストア。
 - **NLICFRES** 言語別 VSE/ICCF メンバーの DTSFILE へのリストア。
 - **BASEREST** z/VSE 基本プログラムのインストール。
 - **TCPREST** TCP/IP および IPv6 のインストール
 - **VSAMINIT** VSAM クラスターの初期化とロード。
 - **DUMPINIT** 情報/分析作業ファイルの初期化。
 - **SAVEMEMB** PRD2.CONFIG および PRD2.SAVE へのメンバーのカタログ。
 - **TCPIPCFG** TCP/IP の構成 (オプション)。
 - **TPSTART** VTAM[®] および CICS[®] の準備。
 - **CLEANUP** 初期インストール処理の完了。
 - **CICSBSX** 基本 CICS の始動。
 - **VTAMBSX** 基本 VTAM の始動。
3. インストール第 3 部の構成
 - z/VSE へのサインオン (ユーザー ID: POST)。ul style="list-style-type: none;"> - 個別設定データの入力。
- z/VSE へのサインオン (ユーザー ID: SYSA)。ul style="list-style-type: none;">- ハードウェア・テーブルの完成。

- パスワードの変更。
- 変更を有効にするための IPL。

インストール・ワークシート

初期インストールを開始する前に、計画についてこのワークシートに記入してください。これを記入しておけば、初期インストール時に装置アドレスや装置タイプが必要になった場合に役立ちます。ワークシートには、ユーザーが使用している装置アドレス、装置タイプ、および情報を書き込みます。インストール時に使用するデフォルトのディスク装置は、DOSRES および SYSWK1 です。2 つを超えるディスク装置を使用する場合には、それらのディスク装置に関する装置情報を追加することもできます。インストールの最後に、VSE アドレスをこのワークシートに定義した値に変更することができます。これは、ハードウェア構成パネルで行うことができます (詳細は 102 ページの『ハードウェア・テーブルの完成』を参照)。

インストール・ワークシートの記入

表 1. 初期インストール用のワークシート

インストール・メディア <input type="checkbox"/> テープ または <input type="checkbox"/> インストール・ディスク				
テープ装置の情報				
物理装置アドレス	VSE 装置アドレス	装置タイプ	装置タイプ・コード	
インストール・ディスク装置情報				
物理装置アドレス	VSE 装置アドレス	装置タイプ <input type="checkbox"/> 3390 <input type="checkbox"/> FBA <input type="checkbox"/> FCP 接続 SCSI		
ディスク装置の情報				
	物理装置アドレス	VSE 装置アドレス	装置タイプ	装置タイプ・コード
DOSRES				
SYSWK1				
SCSI 装置の情報				
装置アドレス (FBA)	FCP アドレス	LUN	ディスク・コントローラーのワールド・ワイド・ポート番号	
<input type="checkbox"/> TCP/IP または <input type="checkbox"/> VTAM				
	物理装置アドレス	VSE 装置アドレス		
端末アドレス 1				
端末アドレス 2				
端末アドレス 3				
コントロール・ユニットの情報				
SNA コントロール・ユニットか: <input type="checkbox"/> YES <input type="checkbox"/> NO	コントロール・ユニットのアドレス:	接続される端末タイプ:		
端末アドレス 1	端末アドレス 2	端末アドレス 3	注: OSA ICC 端末は VTAM および非 SNA でなければなりません。	
事前定義環境の情報				
環境 A: C:	B:	セキュリティー選択: <input type="checkbox"/> YES <input type="checkbox"/> NO		
プリンターの情報				
プリンターの装置アドレス		プリンター・クラス		
FCB または UCB の情報				
FCB のプロシージャー名		UCB のプロシージャー名		

z/VSE 基本ファイルの概要

z/VSE 6.2 以降、物理テープ・デリバリーは廃止されました。z/VSE は、以下の手段で入手できます。

- DVD
- インターネットを介して (Shopz)

DVD のラベルは VSE_{orm}_BASE_ENU_DVD です。DVD には以下のファイルが含まれています。

- VSE_{orm}EN.AWS
- VSE_{orm}XB.AWS
- DB2xxxx.AWS
- READM_{orm}.TXT
- VSE_{orm}EN.INS
- VSE_{orm}END.INS
- VSE_{orm}ENI.INS
- VSE_{orm}ENID.INS
- VSE_{orm}EN.IPL
- VSE_{orm}EN.PSW
- VSE_{orm}END.LP
- VSE_{orm}ENI.LP
- VSE_{orm}ENID.LP
- VSEIDISK.EXEC
- VSEIDISK.MODULE
- VSEIDISK.HELPCMS

注: ラベルにある「*orm*」は、現在のバージョン - リリース - モディフィケーション・レベルを示します。

z/VSE をインターネットからダウンロードする場合は、テープ・イメージ・ファイルは圧縮形式になっています。抽出ファイルのファイル名は以下のとおりです。

- VSE_{orm}EN.AWS
- VSE_{orm}XB.AWS
- DB2xxxx.AWS

インストール・ディスクを作成するには、インストール・ディスクを作成するためのユーティリティーが入っているファイルもダウンロードする必要があります。これは、Additional Materials にあります。

最初の 2 本のイメージと、DVD に入っているファイルが、初期インストールに必要なものです。それらの内容を 8 ページの表 2 に示します。Db2 Server for VSE ヘルプ・コンポーネントは、z/VSE DB2 HELP というラベルが付いたイメージから、または DB2SERVE.AWS ファイルでインストールできます。これはオプションで、DB2[®] をインストールするお客様のみ使用してください。

基本テープ/ファイルの概要

表 2. z/VSE イメージまたはファイルの内容

外部ラベル/ファイル名	内容
ベース DVD: VSE _{orm} EN.AWS インターネット: VSE _{orm} EN.AWS	<ul style="list-style-type: none"> • 装置サポート機能を含むスタンドアロン・ユーティリティー。システム・ライブラリー (IJSYSRS.SYSLIB) のバックアップ。 • VSE/ICCF DTSFILE バックアップ • 基本プロダクト・ライブラリー (PRD1.MACLIB) のライブラリー・バックアップ • LE/VSE • 言語別メンバーを含む VSE/ICCF DTSFILE。言語ライブラリーのライブラリー・バックアップ。 • 言語依存メンバー • 生成機能 • オンライン・メッセージ説明ファイルの VSE/VSAM バックアップ • PRD1.BASE • TCP/IP および IPv6 基本製品ライブラリーのバックアップ (PRD2.TCPIPC および PRD2.TCPIPB)
拡張ベース DVD: VSE _{orm} XB.AWS インターネット: VSE _{orm} XB.AWS	<ul style="list-style-type: none"> • Db2 Server for VSE • Db2 Server for VSE Client Edition • Db2 DataPropagator Relational Capture • LE/VSE DBCS ロケール • VSE コネクター・ワークステーション・コード • OS/390[®] API
Db2 ヘルプ DVD: DB2xxxx.AWS インターネット: DB2xxxx.AWS	z/VSE Db2 ヘルプ
オプション・プロダクト DVD: VSE _{orm} OP.AWS インターネット: VSE _{orm} OP.AWS	オプション・プロダクト z/VSE オプション・プログラムを注文した場合、1 枚のオプション・プログラム DVD を受け取ります。

注: z/VSE基本テープレイアウトの詳細については、「IBM z/VSE システム・アップグレードおよびサービス」を参照してください。

自動初期インストール用のデフォルト値

前述のとおり、自動初期インストールではユーザーに代わって以下のことが行われます。

- 2 つのディスク装置 (DOSRES および SYSWK1) を初期化し、VTOC をディスク・パックの中心に位置付けるためのデフォルト値を想定します。
- システム・ライブラリーの割り振りは事前定義されています。

自動初期インストールに使用される事前定義値については、表 3 を参照してください。ここにあげられた値は、「手動の」インストールを実行する場合の推奨値でもあります。

表 3. ディスク装置用の事前定義値

ディスク装置タイプ	DOSRES 用の VTOC 値	SYSWK1 用の VTOC 値	ディスクのタイプ	VSE システム・ライ ブラリーの割り振り
汎用 FBA	125440,228,8192	306176,228,8192	FBA	59390
3390	208,11,4	301,11,4	ECKD™ (1)	899 (1) (トラック数)
注: 1 = 3390 モードの場合。				

自動初期インストールが失敗した場合にとる方法

自動初期インストール時にエラー状態が生じた場合には、ユーザーの画面上に以下のメッセージが表示されます。

```
BG 0000 SA09I  SELECT ONE OF THE FOLLOWING PROGRAMS, OR TYPE END
BG 0000 SA10D  FASTCOPY, RESTORE, ICKDSF, DITTO, REIPL
```

この場合には、問題を修正した後に、以下のいずれかを行うことができます。

- インストール・テープ/ディスクの新規 IPL を実行せずに、手動で残りを行う。
- 新規 IPL をインストール・テープ/ディスクから実行する (テープは最初に巻き戻しておく必要があります)。この際、自動インストールか手動インストールかを、もう一度選択する必要があります。

注: SCSI 装置にインストールを行う場合、自動インストールを選択することが推奨されます。

初期インストール時にプリンターを指定した場合には、プリンター出力を使用して、出された全メッセージのリストについて検討を加えることができます。システム・コンソール上では、大半のメッセージが抑制されて表示されません。したがって、インストール時にはプリンターの指定を行っておくことをお勧めします。

第 2 章 インストールの基本

z/VSE のインストールを開始する前に、「IBM z/VSE 計画」をよくお読みください。この資料には、主な z/VSE 機能、サポートされるハードウェア、および計画の際の一般的な考慮事項に関する情報の概要が記載されています。例えば、次のような内容です。

- システムの編成と概念
- z/VSE 6.2 へのマイグレーション
- ハードウェア・サポート
- SCSI ディスク装置の使用
- VM のもとでの z/VSE
- システム・スタートアップの調整
- ストレージとチューニングに関する推奨事項

z/VSE を受け取ったら、追加の情報がないか必ず「プログラム・ディレクトリー」を確認してください。また、予防サービス計画 (PSP) バケットを IBM に要求することもできます。これには、最新のインストール情報が記載されています。

インストール・ディスクからの z/VSE の初期インストール

z/VSE 5.2 からは、LPAR 環境と z/VM ゲスト環境の両方で、ブート可能インストール・ディスクから z/VSE をインストールできるようになりました。引き続き、物理テープからの初期インストールもサポートされます。

- z/VSE には、LPAR 環境と z/VM CMS 環境の両方に使用できるブート可能インストール・ディスク (以後、インストール・ディスク) を作成するためのユーティリティが用意されています。インストール・ディスクのレイアウトは、インストール・ディスクが作成されたときの環境に関係なく同じです。
- インストール・ディスクには、AWS 形式の z/VSE 基本テープ、ブート・プログラム、および VTOC が含まれています。
- LPAR 環境で作成されたインストール・ディスクは z/VM ゲスト環境でも使用できますし、その逆も可能です。
- z/VSE インストール・ディスクは、必要に応じて何度でも使用できます。
- インストール・ディスクは、初期インストールにのみ使用できます。

ハードウェア要件

インストール・ディスク

以下のいずれかです。

- 500 シリンダー以上の 3390 ディスク装置。
- 少なくとも 600000 ブロックの FBA ディスク装置。z/VM 仮想 FBA、z/VM エミュレート FBA 装置、または FBA ミニディスクが考えられます。
- 少なくとも 600000 ブロックの FCP 接続 SCSI ディスク装置。

注:

- ディスク装置 3380 はサポートされていません。
- z/VSE 6.2 以降、インストール・ディスクとして FBA ディスク装置と FCP 接続 SCSI ディスク装置を使用できます。
- インストール・ディスクのタイプは、DOSRES 装置タイプと異なってもかまいません。

z/VM ディスク・スペース

- z/VSE 基本テープ (VSE`orm`EN.AWS) 用、およびインストール・ディスクを作成するための z/VM ユーティリティ用に約 400 個のシリンダーの CMS ディスク・スペース。

プロセッサ・ストレージ

- z/VSE の最小プロセッサ・ストレージは 64 MB です。
- LPAR でインストール・ディスクを作成するための最小プロセッサ・ストレージは 512 MB です。プロセッサ・ストレージは、インストール・ディスクの作成後に変更できます。

必須ファイル

表 4 および 13 ページの表 5 に、インストール・ディスクの作成に必要なファイルがリストされています。これらのファイルは DVD またはインターネットから入手できます。

DVD を注文した場合は、すべてのファイルがルート・ディレクトリーに収められています。

インターネット・デリバリーを選択する場合は、インストール・ディスクを作成するためのユーティリティが入っている圧縮ファイルをダウンロードし、解凍する必要があります。また、VSE`orm`EN.AWS が入っている圧縮ファイルもダウンロードしてください。

重要: インストール・ディスクを作成するためのユーティリティは、将来的な z/VSE インストール・テープ・イメージとの互換性がない場合もあります。そのため、注文したものに付属するユーティリティを必ず使用してください。そうしないと、インストール・ディスクの作成に失敗します。

表 4. インストール・ディスク (LPAR) を作成するために必要なファイル

ファイル	説明
VSE <code>orm</code> EN.AWS	AWS 形式の z/VSE 基本テープ。
VSE <code>orm</code> EN.INS	取り外し可能メディアまたはサーバーからロードするためのインストール・ファイル。
VSE <code>orm</code> END.INS	取り外し可能メディアまたはサーバーからロードするためのインストール・ファイル (デバッグ有効)。IBM 担当者から勧められた場合にのみ使用してください。
VSE <code>orm</code> ENI.INS	統合コンソールを使用して取り外し可能メディアまたはサーバーからロードするためのインストール・ファイル。

表 4. インストール・ディスク (LPAR) を作成するために必要なファイル (続き)

ファイル	説明
VSE _{vr} mENID.INS	統合コンソールを使用して取り外し可能メディアまたはサーバーからロードするためのインストール・ファイル (デバッグ有効)。IBM 担当者から勧められた場合にのみ使用してください。
VSE _{vr} mEN.IPL	取り外し可能メディアまたはサーバーからロードするためのブート・フェーズ。
VSE _{vr} mEN.PSW	取り外し可能メディアまたはサーバーからロードするためのブート PSW。
VSE _{vr} mEND.LP	取り外し可能メディアまたはサーバーからロードするためのロード・パラメーター (デバッグ有効)。
VSE _{vr} mENI.LP	統合コンソールを使用して取り外し可能メディアまたはサーバーからロードするためのロード・パラメーター。
VSE _{vr} mENID.LP	統合コンソールを使用して取り外し可能メディアまたはサーバーからロードするためのロード・パラメーター (デバッグ有効)。

表 5. インストール・ディスク (z/VM) を作成するために必要なファイル

ファイル	説明
VSE _{vr} mEN.AWS	AWS 形式の z/VSE 基本テープ。
VSEIDISK.EXEC	z/VM CMS 環境で z/VSE インストール・ディスクを作成するための REXX スクリプト。
VSEIDISK.MODULE	z/VM CMS 環境で z/VSE インストール・ディスクを作成するためのユーティリティー・プログラム。
VSEIDISK.HELPCMS	標準 z/VM CMS 形式のヘルプ・テキスト。

注: *vr*m: バージョン - リリース - モディフィケーション・レベル

VSEIDISK ファイルは z/VSE Installation Disk Tool と呼ばれます。

LPAR 環境でインストール・ディスクを作成する方法

手順

1. インストール手順を選択します。

ご使用の z/VSE 製品が電子 (インターネット) デリバリーによって取得されたものである場合は、インストール・ディスクを作成する前に以下のいずれかを実行する必要があります。

- 配布物を FTP サーバー・ディレクトリーにロードする (推奨)。
- 物理的な DVD を作成する。

インストール・ディスクは以下の場所から作成できます。

- 物理的な DVD または電子的な配布物に含まれるファイルが保管されているディレクトリーにアクセスできる FTP サーバー (推奨)。
- ハードウェア管理コンソール (HMC) または 1 次サポート・エレメント (SE) に接続されている DVD ドライブにマウントされた物理的な DVD。

FTP サーバーからインストールする場合:

- FTP サーバーは RFC 959 および RFC 1123 に適合していなければなりません。
- FTP サーバーは、インストール場所の LPAR の HMC と 1 次サポート・エレメント (SE) の両方と通信できなければなりません。つまり、HMC および 1 次 SE はどちらも、必要なファイアウォール許可など、TCP/IP 通信に対して有効になっていて、FTP の使用を許可されていなければなりません。

2. インストール・ファイルにアクセスする準備をします。

- FTP サーバー・ディレクトリーからインストールする場合:
 - a. FTP サーバー上に新規ディレクトリーを作成します。ディレクトリー・パス名 (ディレクトリーとファイル名と拡張子) の最大長は 40 文字です。ルート・ディレクトリーを使用することもできます。
 - b. 以下の必須ファイルをバイナリー転送モードで対象ディレクトリーにロードします。
 - VSE \overline{v} rmEN.AWS
 - VSE \overline{v} rmEN.INS
 - VSE \overline{v} rmEND.INS
 - VSE \overline{v} rmENI.INS
 - VSE \overline{v} rmENID.INS
 - VSE \overline{v} rmEN.IPL
 - VSE \overline{v} rmEN.PSW
 - VSE \overline{v} rmEND.LP
 - VSE \overline{v} rmENI.LP
 - VSE \overline{v} rmENID.LP
- HMC/SE DVD ドライブからインストールを行う場合は、z/VSE システム DVD を HMC/SE DVD ドライブにロードします。

3. 使用する LPAR を準備します。

- a. 少なくとも 512 MB のプロセッサ・ストレージを LPAR プロファイルで指定します。
- b. LPAR プロファイルの変更をアクティブにするには、LPAR を非アクティブ/アクティブにします。

4. z/VSE イメージをロードします。

- a. HMC/SE にログオンします。
- b. LPAR を選択し、「**Recovery** (リカバリー)」を選びます。
- c. 「**Load from Removable Media or Server** (取り外し可能メディアまたはサーバーからロード)」 (古いプロセッサでは「**Load from CD-ROM,**

DVD or Server (CD-ROM、DVD、またはサーバーからロード)」となっていることがあります) を選択します。

- d. タスク・ウィンドウで以下のいずれかを選択します。
- **Hardware Management Console CD-ROM / DVD** (ハードウェア管理コンソール CD-ROM/DVD)
 - **FTP source (FTP ソース)**

注: 「**Hardware Management Console CD-ROM / DVD and assign for operating system use** (ハードウェア管理コンソール CD-ROM/DVD、およびオペレーティング・システム用の割り当て)」は選択しないでください。

- e. 「**Hardware Management Console CD-ROM / DVD**」を選択した場合:
- サブディレクトリーを使用するのであれば、「**File location (optional)**」に値を指定します。
- f. 「**FTP source**」を選択した場合:
- サーバーの FTP 接続情報 (ホスト・コンピューター、ユーザー ID、およびパスワード) を指定します。
 - FTP サーバー・ディレクトリーを使用する場合は、必須ファイルをアップロードしたディレクトリーへのパスを「**File location (optional) (ファイルの位置 (オプション))**」に入力します。
- g. 「**OK**」をクリックして先に進みます。
- h. 「**Select Software to Install**」タスク・ウィンドウが表示されます。
- i. 必要に応じて、このタスク・ウィンドウで *VSEvrmEN.INS* または他の任意の *.INS* ファイルを選択し、「**OK**」をクリックします。
- j. 「**Confirm the Action (アクションの確認)**」プロンプトが 1 つ以上表示されます。「**YES**」をクリックして続行します。
- k. ロードの状況を示すメッセージがタスク進行状況ウィンドウに表示されます。ロードが成功したことを示すメッセージが表示されたら、「**OK**」をクリックしてウィンドウをクローズします。その後、インストールに使用する LPAR 用の 3270 コンソール・ウィンドウに戻ります。

インストール・ディスクを LPAR で作成しているときにメッセージ ACTZ0197 が出された場合、以下の項目について確認してください。

- LPAR プロファイルで、少なくとも 512 MB のプロセッサ・ストレージが指定されていますか? 「はい」であれば、LPAR を非アクティブ/アクティブにして、プロファイルの変更をアクティブにしましたか?
 - HMC と SE の両方が FTP ソースへのアクセスを許可されていますか?
 - すべての必要なファイルが、DVD または FTP ディレクトリーにありますか? 必要なのは、ユーティリティと *z/VSE* 基本テープ・イメージ・ファイル *VSEvrmEN.AWS* の両方です。
- l. *z/VSE* 基本テープ・イメージおよびブート・フェーズがプロセッサ・ストレージにロードされ、インストール・ディスクの作成が開始されます。1023 個を超える装置が構成に見つかった場合、必要のない装置を削除するよう指示されます。これは、*z/VSE* の初期インストールを行っているときと同じです。

基本的なインストール情報

5. インストール・ディスクを作成します。

- a. インストール・ディスクに使用する *valid* を指定するように促すプロンプトが出されます。

```
BG-0000 SI40D ENTER VOLID OF THE INSTALLATION DISK. DEFAULT IS 'ZVSEID'.
```

0 (Enter)。または、6 バイトの **VOLID** を入力します。

- b. インストール・ディスクのタイプを指定するよう指示されます。

```
BG-0000 SI71D IF YOU WANT TO PREPARE AN INSTALLATION DISK ON SCSI  
SPECIFY YES, ELSE NO.
```

0 (enter) YES or NO

- 1) **YES** を入力すると、SCSI ディスクへの接続パスを指定するよう指示されます。

```
BG 0000 SI77I ENTER SCSI COMMAND FOR INSTALLATION DISK  
BG-0000 SA80D SCSI,FBA=CUU,FCP=PCUU,WPN=PORTNAME,LUN=LUN
```

- 2) **NO** を入力すると、ご使用の (3390 または FBA) インストール・ディスクの *pcuu* を指定するよう指示されます。

```
BG-0000 SI41D ENTER PCUU OF valid
```

注: *valid* は、上で指定した **VOLID** です。

0 *pcuu* (enter)

- c. システムからメッセージが表示されます。

```
BG 0000 SI45D DO YOU WANT TO CONTINUE WITH CREATION OF  
INSTALLATION DISK PCUU=pcuu, CURRENT VOLID=valid (YES/NO) ?
```

注: *valid* は PCUU の現行 **VOLID** です (上で指定したものではありません)。

YES または **NO** を入力します。

- d. **NO** を入力した場合、インストール・ディスクの作成は終了し、メッセージ SA09I および SA10D が表示されます。
- e. **YES** を入力した場合は、インストール・ディスクが作成され、いくつかのメッセージが表示されます。

タスクの結果

インストール・ディスクが正常に作成された場合は、z/VSE システムから次のメッセージが表示されます。

```
BG 0000 SA17W ***** END OF STAND ALONE PROCESSING*****
```

処理を停止するためにハード待ち状態になります。

z/VM CMS 環境でインストール・ディスクを作成する方法

手順

- z/VSE インストール・テープ・イメージ VSE ν rmEN.AWS を可変ブロック CMS ファイルに転送します。バイナリー転送モード (CRLF レコード終了処理なし) を使用します。詳しくは、19 ページの『ファイルを z/VM に転送』を参照してください。
- z/VSE Installation Disk Tool ファイルを可変ブロック CMS ファイルに転送します。バイナリー転送モード (CRLF レコード終了処理なし) を使用します。
- 以下を使用して VSEIDISK ファイルをブロック化し直します。

```

- PIPE < VSEIDISK MODULE A | deblock cms | > VSEIDISK MODULE A
- PIPE < VSEIDISK EXEC A | deblock cms | > VSEIDISK EXEC A
- PIPE < VSEIDISK HELPCMS A | deblock cms | > VSEIDISK HELPCMS A
  
```

注: 例にあるファイル・モード A をご使用の CMS ディスクのファイル・モードに置き換えてください。

- z/VSE Installation Disk Tool (VSEIDISK) を使用して z/VSE インストール・テープ・イメージから z/VSE インストール・ディスクを作成します。

VSEIDISK fn ft fm vdev (options...

続行するように促すプロンプトが出されます。

```
IDSK151D REPLY 'CONTINUE' TO ALTER DASD vdev, ELSE 'CANCEL'
```

- 進行状況を示すために、IDSK009I メッセージがいくつか表示されます。

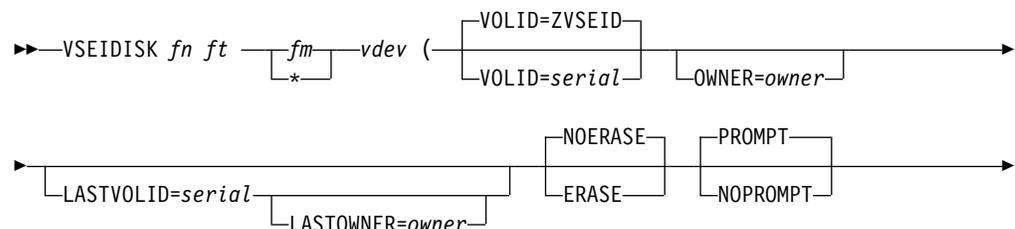
重要:

- z/VM ゲストは、少なくとも 64 MB のストレージを必要とします。これがない場合、インストール・ディスクを作成するために VSEIDISK ユーティリティを使用する際に、メッセージ HCPVMI232E IPL UNIT ERROR が表示されます。
- メッセージ IDSK069I が表示される場合は、間違ったテープ・イメージを使用しています。注文したものに付属していた圧縮ファイルを必ず使用してください。

```
IDSK069I NON-SUPPORTED Z/VSE INSTALLATION TAPE IMAGE VERSION: 5.2.0
```

```
IDSK144E CREATION OF Z/VSE INSTALLATION DISK FAILED WITH RC=16
```

形式





パラメーター

fn これは、AWS 形式の z/VSE インストール・テープ・イメージのファイル名を指定します。

ft これは、AWS 形式の z/VSE インストール・テープ・イメージのファイル・タイプを指定します。

fm これは、AWS 形式の z/VSE インストール・テープ・イメージのファイル・モード文字を指定します。アスタリスク (*) が指定された場合は、現在アクセスされているディスクと Shared File System (SFS) ディレクトリーにおいて標準 CMS 検索順序で検索が行われます。

vdev

これは、z/VSE インストール・ディスクとして準備される DASD の仮想装置番号を指定します。これは、X'0000' から X'FFFF' までの範囲にある 1 桁から 4 桁までの 16 進数でなければなりません。ECKD 3390 DASD および FBA (仮想 FBA、FBA ミニディスク、およびエミュレート FBA) DASD がサポートされています。

VOLID=serial

これは、ディスクのボリューム通し番号を指定します。ボリューム通し番号には、1 個から 6 個までの英数字、国別文字、および特殊文字を使用できます。指定された文字が 6 文字に満たない場合、通し番号は左に寄せられて、残りのフィールド部分にはブランク (X'40') が埋め込まれます。これが省略された場合は、デフォルト値である ZVSEID がボリューム通し番号として使用されます。

OWNER=owner

これは、ディスクの所有者識別コードを指定します。これには、1 文字から 14 文字までの英数字を使用できます。指定された文字が 14 文字に満たない場合、所有者識別コードは左に寄せられて、残りのフィールド部分にはブランク (X'40') が埋め込まれます。これが省略されて、オプション ERASE も省略された場合、所有者識別コードは未変更のままとなります。

LASTVOLID=serial

これは、ディスクの現行ボリューム通し番号を識別します。これは、ディスクを形式設定したり初期化したりする前にボリューム通し番号を確認するために使用されます。

LASTOWNER=owner

これは、ディスクの現行所有者識別コードを識別します。これは、ディスクを形式設定したり初期化したりする前に所有者識別コードを確認するために使用されます。このオプションを指定する場合は、LASTVOLID も指定する必要があります。

ERASE

これは、IBM 装置サポート機能 (ICKDSF) の TRKFMT ERASEDATA コマンドを使用してディスク上のトラックをすべて形式設定する (したがって、すべてのデータを消去する) ことを要求します。これにはかなりの時間がかかる可能性があることに注意してください。

NOERASE

これは、ディスク上のトラックをいっさい形式設定しないことを要求します。これはデフォルトです。

PROMPT

これは、破壊操作を実行する前に確認プロンプトを出すように要求します。これはデフォルトです。

NOPROMPT

これは、破壊操作を実行する前に確認プロンプトを出さないように要求します。

SCSI

このオプションは、*vdev* がエミュレート FBA ディスクを示している場合のみ使用できます。SCSI オプションを使用すると、VSEIDISK ユーティリティーはディスクに FBA ブート・プログラムを書き込まず、SCSI ブート・プログラムを書き込みます。つまり、インストール・ディスクは、ネイティブ z/VSE SCSI サポートを使用して、FCP 接続 SCSI ディスクとして IPL できます。このことによって、例えば、後で LPAR で使用するために SCSI インストール・ディスクを z/VM CMS ゲストに作成できます。

NOSCSI

ディスクのタイプ (3390 または FBA) に対応するブート・プログラムを書き込むよう要求します。これはデフォルトです。

例 1

z/VSE インストール・テープ・イメージから、z/VSE インストール・ディスクを DASD 装置番号 X'F600' に準備します。

z/VSE インストール・テープ・イメージがファイル VSETAPE AWS A に保管されます。

デフォルト・オプションが使用されます。

```
VSEIDISK VSETAPE AWS A F600
```

例 2

z/VSE インストール・テープ・イメージから、SCSI インストール・ディスクを装置番号 X'C600' のエミュレート FBA DASD に準備します。

z/VSE インストール・テープ・イメージがファイル VSETAPE AWS A に保管されます。

```
VSEIDISK VSETAPE AWS A C600 (SCSI
```

続行するように促すプロンプトが出されます。

```
IDSK151D REPLY 'CONTINUE' TO ALTER DASD vdev, ELSE 'CANCEL'
```

ファイルを z/VM に転送

ファイルをバイナリー・モードで (CRLF レコード終了処理なしで) z/VM CMS ゲストに転送する方法はいくつかあります。以下で 2 つの FTP ソリューションについて概説します。ただし、3270 端末エミュレーション (IND\$FILE) や、自分の好きな他の任意の方法でも、ファイル転送を使用できます。

z/VM FTP サーバーを使用してバイナリー転送モードでファイルを転送:

手順

1. ご使用のワークステーションから z/VM FTP サーバーに接続するために、次の入力を行います。

```
ftp < hostname or IP addresss >
```

2. 資格情報を使用してログインします。
3. バイナリー転送モードに切り替えてファイルをアップロードします。

```
binary  
put <local-file> <remote-file>
```

注: <remote-file> の形式は <file-name>.< file-type>.< file-mode> です。ファイル・モードが省略された場合は、現行リモート・ディレクトリーが使用されます。

z/VM FTP クライアントを使用してバイナリー転送モードでファイルを転送:

手順

1. z/VM ゲスト内から FTP サーバーに接続するために、次の入力を行います。

```
ftp < hostname or IP addresss >
```

2. 資格情報を使用してログインします。
3. リモート・ディレクトリーに移動し、バイナリー転送モードに切り替えてファイルをダウンロードします。

```
cd <remote-directory>  
binary  
get <remote-file> <local-file>
```

注: <local-file> の形式は <file-name>.< file-type>.< file-mode> です。ファイル・モードが省略された場合は、現行リモート・ディレクトリーが使用されます。

物理テープからの **z/VSE** の初期インストール

z/VSE の DVD を注文するか、または z/VSE をインターネットからダウンロードし、テープからインストールしたい場合、初期インストールを開始する前に物理テープを作成する必要があります。

どちらの方式も仮想テープ・フォーマット (AWS テープ・フォーマット) に基づいて、インストールは似ています。

8 ページの表 2 に、配布メディアごとの内容およびファイル名がリストされています。

インストール・テープの準備

物理テープからの z/VSE のインストールを開始するためには、以下の手順に従ってください。

1. 基本テープの仮想テープ・ファイルを準備する。

- z/VSE をインターネット (Shopz) からダウンロードした場合、圧縮ファイルを解凍する必要があります。Download Director によって作成された、DownloadDirector という名前のディレクトリーに置かれます。
 - z/VSE を DVD で受け取った場合は、仮想テープ・ファイルがすでに仮想テープ・フォーマット (aws) になっていて、すぐ使用することができます。
2. 基本テープが入っているファイルを、(ワークステーション上のリモート・テープ・イメージを介して) 実テープにコピーします。
- ファイルを実テープにコピーするには、カートリッジが最低 250 MB を収容可能でなければなりません。
 - ご使用のワークステーション上で z/VSE VTAPE Server が始動していることを確認してください。
 - 必要な APAR の最新情報と z/VSE VTAPE サポートについては、z/VSE プログラム・ディレクトリーを調べ、また z/VSE Web サイトにあるインストール指示を参照してください。
 - 次の例に示されているジョブを実行します。このジョブは、仮想テープ *cuu1* を使用して、実テープ *cuu2* に DITTO テープ間コピーを行います。

```
* $$ JOB JNM=COPYTAPE,CLASS=0,DISP=D
// JOB COPYTAPE
// PAUSE PLEASE MOUNT A TAPE ON <cuu2>
// UPSI 1
DVCDN <cuu1>
// PAUSE - DEVICE DOWN OK
// VTAPE START,UNIT=<cuu1>,LOC=<host_id>,FILE='<filename>',READ
DVCUP <cuu1>
// ASSGN SYS010,<cuu2>,08 * OUTPUT MEDIA, COMPRESSED
// ASSGN SYS011,<cuu1> * INPUT MEDIA
// EXEC DITTO
$$DITTO REW OUTPUT=SYS010
$$DITTO REW INPUT=SYS011
$$DITTO TT INPUT=SYS011,OUTPUT=SYS010,NFILES=<99>
/*
DVCDN <cuu1>
// VTAPE STOP,UNIT=<cuu1>
DVCUP <cuu1>
/&
* $$ EOJ
```

ジョブをサブミットする前に、以下のパラメーターを入力してください。

<cuu1>

入力テープ (仮想) の装置アドレス。

<cuu2>

出力テープ (実) の装置アドレス。

<host_id>

VSE 仮想テープ・サーバーが稼働しているワークステーションの IP アドレスまたはホスト名。

<'filename'>

z/VSE 基本テープが入っているリモート仮想テープ・イメージのファイル名およびパス。例: 'C:¥DownloadDirector¥VSEvrmEN.AWS'

注: すべてのファイルをコピーしてください。テープ上のファイルの数として、99 を入力できます。次のメッセージは無視してください: 0P36I NO REC FND

- 基本テープおよび拡張基本テープの NFILES の値については、z/VSE プログラム・ディレクトリーを参照してください。
- **VTAPE** コマンドについて詳しくは、「z/VSE System Control Statements」を参照してください。
- また、IBM z/VSE 管理も参照してください。

拡張物理装置アドレスのサポート

z/VSE 4.3 から、装置を定義することにより、X'FFF' より大きい物理装置アドレスを持てるようになりました。

z/VSE の初期インストールを実行する場合、拡張物理装置アドレスのサポートを実装するのは比較的単純です。

1. z/VSE の IPL 時に、以下のいずれかに定義された物理装置アドレスをシステムが検知します。
 - IOCD5
 - z/VM
2. X'FFF' より大きい物理装置アドレス (*pcuu*) は、システムにより、X'000' から X'FFF' の範囲の VSE アドレスに自動的に割り当てられます。物理装置アドレスが X'FFF' 以下の場合、VSE アドレスは物理装置アドレスと同じになります。
3. 自動的に割り当てられた VSE アドレスは静的ではないため、インストール処理中に変わる場合があります。アテンション・ルーチンの準備完了後、QUERY IO コマンドを使用して、現在の VSE アドレスを照会できます。スタンドアロンで処理中に発行される QUERY IO は、システムに接続されたすべての装置をリストするのではなく、その時点で使用されるサブセットのみリストします。このコマンドについて詳しくは、「z/VSE System Control Statements」を参照してください。
4. 必要な場合、自動的に割り当てられた VSE アドレスを変更できます。詳しくは、102 ページの『ハードウェア・テーブルの完成』を参照してください。
5. インストール手順中に、変数 *pcuu* を含むいくつかのメッセージに対して応答する必要があります。X'0000' から X'FFFF' までの範囲の物理装置アドレスを入力します。変数 *cuu* が表示された場合、X'000' から X'FFF' の範囲の VSE アドレスを入力します。
6. Power ダミー装置、仮想装置、および SCSI 装置の場合、物理装置アドレスは X'FFF' 以下でなければなりません。

SCSI ディスク・サポート

- SCSI ディスクという用語は、z/VSE 内に SCSI ディスクとして構成される FCP 接続 SCSI ディスクを指しています。z/VM によってエミュレートされた FBA ディスクおよび z/VM FBA ミニディスクは、z/VSE では実 FBA ディスクとして扱われます。
- SCSI サポートについて詳しくは、「IBM z/VSE 管理」を参照してください。

z/VSE に用意されている事前定義環境

以下に、z/VSE に用意されている事前定義環境についてのリストを示します。

初期インストール時に、これらの環境のうちの 1 つを選択するよう要求されます。したがって、次の表に示されている環境の特性をよく理解してください。なお、事前定義環境はいずれも、監視プログラム・モード ESA で実行されます。

表 6. 事前定義環境

事前定義環境	仮想記憶	アドレス・スペース	区画	特性
A	256 MB	12 + 動的区画	12 + 動的区画	エントリー・システム
B	512 MB	12 + 動的区画	12 + 動的区画	中規模システム
C	2 GB	12 + 動的区画	12 + 動的区画	大規模システム

IBM 提供の監視プログラム

z/VSE には、監視プログラム \$\$A\$SUPI のみが付属しています。この監視プログラムは、最大 1024 個の装置をサポートします。初期インストール中に、IPL プロシージャ \$IPLESA が作成されます。

監視プログラムとリストを生成するには、生成機能をインストールすれば監視プログラムを生成できます。ただし、生成オプションは変更できません。詳しくは、「IBM z/VSE 管理」の『監視プログラムの再生成』を参照してください。

最小限必要なハードウェア

次の表に、初期インストールに必要な z/VSE 6.2 の最小構成についてのリストを示します。

最小限必要なハードウェア

表 7. z/VSE 6.2 のインストールに最小限必要なハードウェア

最小限必要なハードウェア				
プロセッサ 1 台	ディスク装置 2 台	システム・コンソール 1 台	磁気テープ装置 1 台	ローカル端末 1 台
少なくとも 64 MB のプロセッサ・ストレージを備えていること。	同じ装置タイプで、少なくとも次のディスク・スペースがあること。 <ul style="list-style-type: none"> 環境 A: 1022 MB 環境 B: 1278 MB 環境 C: 2.8 GB 	サポート対象の、端末またはワークステーション。 (非 SNA コンソール、または統合コンソール。)	初期インストールでのみテープ装置を使用する場合は、インストール・ディスクの使用を検討してください。	24x80 文字の画面フォーマットと、10 個以上のプログラム・ファンクション・キーをサポートするもの (注 1 を参照)。
サポートされるディスク装置			サポートされるサーバー	
<ul style="list-style-type: none"> IBM TotalStorage Enterprise Storage Server® IBM RAMAC アレイ・ファミリー タイプ 3390 の ECKD IBM System Storage® DS8000® および DS6000™ シリーズ FBA FCP 接続 SCSI ディスク IBM Storwize® ファミリーのメンバー: V7000、V5000、V3700 IBM XIV® Storage System IBM System Storage SAN Volume Controller (SVC) (注 2 を参照) 			z/VSE 6.2 は、以下の IBM Z サーバーをサポートします。 <ul style="list-style-type: none"> IBM z14 IBM z13® IBM z13s IBM zEnterprise® EC12 (zEC12) IBM zEnterprise BC12 (zBC12) IBM zEnterprise 196 (z196) IBM zEnterprise 114 (z114) 	
<p>注:</p> <p>(1) 24x80 よりも大きい画面フォーマットを持つ端末をサポートします。ただし、対話式インターフェースは、最初の 24x80 の画面位置しか使用しません。</p> <p>(2) これらのディスク装置は初期インストールに対してサポートされています。FCP 接続 SCSI ディスク装置は、汎用 FBA ディスクとしてサポートされます。ディスク・レイアウトについて詳しくは、「IBM z/VSE 計画」を参照してください。</p> <p>リストされているディスク装置は、すべての事前定義環境でサポートされるものであり、ページ・データ・セット・エクステントを十分保持できる大きさを持つものです。環境 B の場合は 512 MB です。環境 C の場合は 2 GB です。環境 C の場合、3390-3 以上か、または適切なサイズの SCSI 装置が推奨されます。詳しくは、「IBM z/VSE 計画」を参照してください。</p> <p>注: システム常駐ディスクは同じサイズのものでなければなりません。</p>				

ユーザー独自のハードウェア設定の把握 - ハードウェア構成リスト

z/VSE においてハードウェア構成の定義を行うには、次の 2 つの方法があります。

- 初期インストール中に、z/VSE は、装置センシングを使用して自動的に次のことを行います。
 - z/VSE に接続されている装置のそれぞれを (例えば、接続されているテープを 181 として) 定義する。

- 装置すべての存在を調べ、存在が検知された装置を IPL プロシージャーに追加する (VM のもとで実行される z/VSE の場合)。
- X'FFF' より大きいすべての物理アドレスを X'000' から X'FFF' の範囲の VSE アドレスにマッピングする。物理アドレスが X'FFF' 以下の場合、VSE アドレスは物理アドレスと同じです。

装置検知機能を用いるには、検知処理を行う IPL の前に、z/VSE で使用する装置を接続 (または、定義) しておく必要があります。そうしておけば、IPL プロシージャーの作成および更新は自動的に行われます。

2. 初期インストールが完了すると、自動装置検知は行われなくなります。ハードウェア構成の修正を行う場合には、対話式インターフェースのダイアログを使用することになります。

注: 初期インストール作業に使用する装置についてはすべて、操作可能 (operational) かつ作動可能 (ready) な状態にしておく必要があります。

インストールを行う前には、まず、ユーザーのハードウェア構成内の全装置のリストを用意します。装置リストなどを作成しておくこと、初期インストールの実行時に何かと便利です。すでに VSE ユーザーである場合には、「*Hardware Configuration* (ハードウェア構成)」ダイアログ (ファースト・パス: 241) を使用して、既存のシステムのハードウェア構成リストを作成することができます。このリストは、新しいハードウェアの設定を行う際に基となる情報として、後で使用することができます。

必要となる情報は、「z/VSE System Control Statements」で説明されている ADD コマンドのパラメーターに対応しています。ハードウェア構成内の各チャンネル接続装置について、次の事項を記録してください。

1. 装置アドレス (物理アドレスおよび z/VSE アドレス)
2. 装置タイプ (例えば、IBM 3390 ディスク装置)
3. 装置タイプ・コード (例えば、IBM 3390 ディスク装置を示す ECKD など)
4. モード (一部の装置には、2 桁、3 桁、または 4 桁のモード指定が必要です)

また、次のことにも注意する必要があります。

- テープならば、2 つの隣接するチャンネルに物理的に接続 (切り替え) できるかどうか。
- ディスク装置ならば、最高 4 つの隣接するチャンネルに物理的に接続 (切り替え) できるかどうか。
- ディスク装置ならば、複数のシステムで共用できるかどうか。

ディスクおよびテープなどのほとんどの入出力装置は、コントロール・ユニットを介して接続されます。ディスク装置およびテープ装置の場合、コントロール・ユニット用に構成された各アドレスが、z/VSE に対する 1 台の入出力装置としてカウントされることとなります。したがって、構成されたアドレスに装置が物理的に存在しない場合でも、1 台としてカウントされます。端末装置については、次に示す SNA 端末装置と非 SNA 端末装置とを区別しておく必要があります。

- 非 SNA コントロール・ユニットに接続された端末は、テープ装置やディスク装置と同様に扱われます。すなわち、各端末は 1 台の入出力装置としてカウントされます。

ハードウェア構成リストの用意

- SNA コントロール・ユニットまたは通信コントローラーに接続された端末装置は、個別にはカウントされません。z/VSE は、SNA 通信コントローラーまたはコントロール・ユニットだけを入力装置と見なし、それに接続されている端末装置は入力装置とは見なしません。

ハードウェア構成、および装置を定義するのに使用できるダイアログの詳細については、「IBM z/VSE 管理」および「IBM z/VSE SNA ネットワーキング・サポート」を参照してください。

VTOC

VTOC は、使用予定の全ディスク・ボリュームについて、1 ボリュームにつき 1 つ必要となります。これは、各ディスクの内容を示すものです。ここでは、ディスクにロードされている全ファイル 1 つ 1 つについての開始ブロック/トラックとエクステント情報、および、未使用スペースすべてについての開始ブロック/トラックが書き込まれています。手動でディスク装置を初期化する場合には、ユーザーは VTOC をどこに配置するのが適切か知っておく必要があります。初期化を行う前に、以下について検討してください。

z/VSE では、各システム・ディスクの VTOC の位置を次の中から選択することができます。

- ディスク装置のほぼ中心にあたる位置。

注: システム・パフォーマンスを上げるには、VTOC はディスク装置のほぼ中心のあたりに配置することをお勧めします。

- ディスク装置の末尾。
- ディスク装置上の任意の場所 (スペースがシステム・ファイルによって使用されていない場合)。

VTOC スペースを減らす方法について詳しくは、「IBM z/VSE 計画」の『ストレージとチューニングに関する推奨事項』を参照してください。

注: VM ミニディスク上または VM 仮想ディスク上に z/VSE をインストールする場合は、十分なスペースを指定したかどうかを確認してください。FBA ディスクの場合、特に VTOC がボリュームの末尾に置かれている場合は、ブロックの数が 8*777 の倍数であることを確認してください。FBAVTOC(END) 構文を使用するのではなく、以下の説明にある位置に VTOC を配置することをお勧めします。

- 59 ページの『ステップ 3 - ディスクの初期化および VTOC の配置 (手動/LPAR モード)』
- 72 ページの『ステップ 3 - ディスクの初期化および VTOC の配置 (手動/z/VM のもとで)』

VM ベースの SCSI ミニディスクの場合、詳細について「IBM z/VSE 計画」を参照してください。

初期インストールに使用されるディスク装置

初期インストール用には、同じ装置タイプ、同じ型、さらに同じサイズのボリュームが 2 つ必要です。

例えば、1 つの IBM 3390-3 ディスク装置と 1 つの IBM 3390-9 ディスク装置を使用することはできません。

最初のボリュームは、常に DOSRES という ID にします。2 番目のボリュームは、常に SYSWK1 という ID にします。

注: DOSRES および SYSWK1 だけでは、インストールしたい z/VSE オプション・プログラムすべてを収めるのにスペースが十分ではない場合もあります。この場合は、ディスク装置を追加する必要があります。

手動インストール時には、ディスク (DOSRES および SYSWK1) を初期化して VTOC を入れるように指示されます。この指示を実行するには、ディスクの初期化を行うためのコマンドを知っておく必要があります。また、VTOC をディスクの中央または末尾のどちらかに配置することがなぜ重要なのかについても理解しておく必要があります。

注:

1. サポート対象ディスク装置のリストについては、24 ページの表 7 を参照してください。
2. 「IBM z/VSE 計画」に、DOSRES と SYSWK1 のディスク・レイアウトが示されています。
3. INIT コマンドの詳細については、「装置サポート機能 使用者の手引きおよび解説書」を参照してください。

統合コンソールを使用した z/VSE のインストール

IBM Z ファミリーのサーバーには、統合コンソールと呼ばれる機能があります。統合コンソールを z/VSE コンソールとして選択した場合には、通常、ローカル接続された非 SNA 端末なしのハードウェア環境でのインストール用に、このコンソールを使用します。

統合コンソール・サポートについて詳しくは、「IBM z/VSE 操作」を参照してください。

統合コンソールのアクセス方法

次の例は、IBM Z サーバーから統合コンソールにアクセスするための手順を示しています。詳細については、ご使用のサーバーの操作手順についての資料を参照してください。

統合プロセッサ・コンソールにアクセスするには、以下に示した手順を実行してください。

1. IPL を実行する CPC イメージを選択します。
2. CPC リカバリー選択メニューから、LOAD を選択します。
3. 表示されたパネル上で、装置アドレスおよび LOAD パラメーター (PARM) を入力するよう要求されます。必要なアドレスを入力し、I と指定してください。この I は、統合コンソールを使用して IPL を実行することを意味します。

4. 「Operating System Messages (オペレーティング・システム・メッセージ)」アイコンが明滅します。z/VSE と通信できるようにするには、そのアイコンをダブルクリックします。
5. VSE システム・コンソールが画面に表示されます。この時点で、z/VSE コマンドが入力できるようになります。z/VSE コマンドを入力し、SEND COMMAND を選択してください。

システム・コンソールの切り離し

z/VSE では、システム・コンソールを VTAM または CICS 端末に切り替えることができます。これには、ダミー装置の定義が必要です。次のコマンドは、出荷時の IPL プロシージャに組み込まれて提供されており、そのような装置の定義を行います。: **ADD FFF,CONS**

コマンド **OPERATE DISC** で、システム・コンソールを切断できます。

切り離しを行うと、この装置はシステム・コンソール状況から解放されて、VTAM 端末または CICS 端末として使用できるようになります。システム・コンソールが切り離されると、画面上にシステム・メッセージは表示されません。DISC オプションは、コマンドが出された時点でハードコピー・ファイルがオープンしていた場合にのみ、受け付けられます。

システム・コンソールへ戻すには、VTAM アプリケーションまたは CICS アプリケーションを終了させ、**ENTER** キーを押します。それが不可能な場合には、端末装置の電源を一度オフにし、再度オンにします。こうすると、システム・コンソールが再接続されます。

VM のもとで z/VSE を使用している場合は、* **CP DISC** というコマンドを使用して、システム・コンソールを切り離す必要があります。

ただし、このコマンドは、z/VSE 専用のコンソールに対しては使用できません。

システム・コンソール・タイプについて、および z/VSE システムの始動方法/シャットダウン方法について詳しくは、「IBM z/VSE 操作」を参照してください。

インストール時に発生する可能性のある問題

このセクションでは、z/VSE のインストール時に発生する可能性のある最も一般的なエラーと、そのエラーを解決する方法をリストします。

時刻機構が設定されていない

TOD (時刻機構) が設定されていないと、システムから次のメッセージが表示されます。

```
BG 0000 0I18D ENTER SET CMD
BG 0000      THE DATE VALUE FORMAT IS MM/DD/YYYY
```

SET DATE コマンドを入力してください。これ以外のコマンドは受け付けられません。

DATE=

指定する mm は月、dd は日、yyyy は年を示します。

CLOCK=

指定する hh は時、mm は分、ss は秒を示します。

SET DATE=mm/dd/yyyy,CLOCK=hh/mm/ss

BG 0000 0I19A ENABLE SETTING OF TOD CLOCK

メッセージ SI01D が出され、処理は引き続き行われます。

装置タイプが検知できない

システムが DOSRES または SYSWK1 の装置タイプを検知できない場合には、次のメッセージが出されます。

BG 0000 SI04I FOLLOWING DEVICE TYPES ARE SUPPORTED:
BG 0000 SI05I list of supported DASD

メッセージ SI05I には、サポートされる装置タイプのリストが表示されます。使用する装置タイプを選択して、次のシステム・プロンプトに応答します。

BG 0000 SI06D ENTER DEVICE TYPE OF DOSRES/SYSWK1

0 xxxx

(xxxx - 使用する装置タイプを指定します)

使用する装置タイプは、メッセージ SI05I に示されたサポートされる装置タイプの中にあるものでなければならぬため、ご注意ください。表示された装置タイプにはなかった装置タイプを指定すると、エラー・メッセージが戻されます。DOSRES および SYSWK1 の物理アドレスを再度入力するように求められます。

使用可能な数を超える入出力装置

1024 台を超える装置の電源をオンにすると、次のメッセージが表示されます。

BG 0000 0J74D SUPERVISOR GENERATED FOR 1024 DEVICES - nnnn DEVICES PRESENT
ENTER DEL COMMAND FOR DEVICES NOT NEEDED
BG-0000

この場合は、装置を削除する必要があります。これは、z/VSE が初期インストール時に受け入れる入出力装置が最大で 1024 個であるためです。

- 装置番号 FF0 および FF1 は、システムで必要なため削除しないでください。
- 必須のハードウェア装置 (ディスク・ボリューム SYSWK1 など) を削除しないように気を付けてください。

インストール・プロセスに不要な装置がどれかを識別し、IPL DEL コマンドを使用して、それらの装置を削除してください。

IPL DEL コマンド以外の **IPL** コマンドは、受け付けられません。DEL コマンド以外のコマンドを入力すると、システムは再度次のプロンプトを出してきます。

BG 0000 0I60D ENTER DEL COMMAND

次のように入力してください。

0 DEL pcuu1:pcuu2

インストール時に発生する可能性のある問題

DEL コマンドの詳細については、「z/VSE System Control Statements」を参照してください。

不十分なシステム構成

次のメッセージが表示されたら、以下の指示にしたがってください。

```
BG 0000 IESIO101I INSUFFICIENT SYSTEM CONFIGURATION FOR
          INITIAL INSTALLATION
BG 0000 IESIO102A SPECIFY IPL ADD COMMAND FOR xxxxxxxxxx
```

システムは、初期インストールに必要な最小ハードウェア構成が使用可能になっているかどうかの検査を行います。検知されない装置があると、システムは上記のメッセージを表示します。

2 番目のメッセージ (IESIO102A) は、必要な装置のうち検知されなかった装置について、各装置ごとに表示されます。xxxxxxx は、特定の装置タイプです。ここには、次のいずれかの装置タイプが入ります。

```
TAPE DEVICE
PRINTER
DASD DEVICE - TYPE AS SYSRES
```

最小構成で必要なのは、2 個のディスク・ボリューム (DOSRES と SYSWK1) だけであることを覚えておいてください。検知されなかったけれども必要なディスクのディスク・タイプは、DOSRES と同じタイプにする必要があります。

検知されなかったけれども必要な装置タイプそれぞれについて、1 つずつ IPL ADD コマンドを入力してください。このコマンドについて詳しくは、「z/VSE System Control Statements」を参照してください。

```
0 ADD cuu,device-type
      (cuu - VSE アドレス)
```

または

```
0 ADD pcuu as cuu,device-type
      (pcuu - X'FFF' より大きい物理装置アドレス)
```

例えば、システムから次のメッセージが表示されたとします。

```
BG 0000 IESIO102A SPECIFY IPL ADD COMMAND FOR CICS
BG 0000          TERMINAL/LOCAL SNA CONTROL UNIT
```

この場合、少なくとも端末/ローカル SNA コントロール・ユニットのアドレスを 1 つ追加する必要があります。例えば、次のようにします。

```
0 ADD 380,3277 または
```

```
0 ADD 1380 as 380,3277
```

ボリューム識別ラベルの重複の検出

次のメッセージが表示されたら、以下の指示に従ってください。

```
BG 0000 IESIO120I VOLID xxxxxx FOUND ON FOLLOWING ADDRESSES (PCUU):
BG 0000          pcuu1 pcuu2 ...
```

システムは、すべてのディスクのボリューム識別ラベル (VOLID) を検査します。これは、z/VSE の VOLID (DOSRES、SYSWK1) がいずれも固有 (他と異なっている) であることを確認するためです。同じ VOLID を持つディスクが 2 つあると、上記のメッセージが表示されます。ここで、xxxxxx は重複する VOLID を示します。このメッセージに続いて、重複する VOLID を持つディスクのアドレス (pcuu1、pcuu2 ...) のリストが表示されます。

DOSRES の場合、z/VSE は DOSRES として IPL が実行されたディスクのアドレスを自動的に使用します。システムから、次のメッセージが表示されます。

```
BG 0000 IESI0123I DASD WITH ADDRESS xxx WILL BE USED AS DOSRES
```

また、自動インストールを実行している場合は、SYSWK1 でもメッセージ IESI0123I が表示されます。手動インストールを実行している場合、VOLID SYSWK1 では次のメッセージがシステムから表示されます。

```
BG 0000 IESI0121D ENTER ADDRESS OF DASD TO BE USED AS SYSWK1: PCUU
```

z/VSE のインストールに使用するディスク装置のアドレス (pcuu) を入力します。

0 pcuu

(pcuu - SYSWK1 の物理ディスク・アドレス)

同一の VOLID を持つ他のすべてのディスク装置は、装置ダウン 状況に設定されます。システムから、次のメッセージが表示されます。

```
BG 0000 IESI0124I FOLLOWING DEVICE(S) WILL BE SET IN DEVICE DOWN STATUS:  
BG 0000          pcuu1 pcuu2...
```

このメッセージの後に、装置ダウン 状況に設定されているディスク・アドレス (pcuu1, pcuu2 ...) のリストが続きます。

HCPVMI232E IPL 装置エラー

z/VM ゲストは、インストール・ディスクの IPL を行うために、少なくとも 64 MB のストレージを必要とします。これがない場合、メッセージ HCPVMI232E IPL UNIT ERROR が表示されます。

第 3 章 経験を積んだ VSE ユーザー向けの簡単な説明

このセクションで扱うインストールでは、z/VSE 自動初期インストールについての説明を行います。この説明は、z/VSE の LPAR モードでのインストールまたは VM のもとでのインストールのどちらにも適用されます。

本章で示すのは、最小限必要なシステム・プロンプトおよびシステム・メッセージです。この標準的なインストールとは異なるインストールを行う場合は、45 ページの『第 4 章 インストール 第 1 部 - 詳細説明』をお読みください。

SCSI 装置にインストールを行う場合、自動インストールを選択することが推奨されます。z/VSE SCSI ディスク・サポートに関する詳細については、「IBM z/VSE 計画」を参照してください。

注: SCSI インストール・ディスクの場合は、SCSI オプションを選択し、SCSI インストール・ディスクへの接続パスを指定して、FCP 装置を IPL します。

注: 問題が発生する場合は、28 ページの『インストール時に発生する可能性のある問題』を参照してください。

インストール 第 1 部

1. テープからのインストール

VSEvrmen.AWS から作成した z/VSE 6.2 基本テープをマウントします。このテープは、指示があるまで位置変更したり取り外したりしないでください。

インストール・ディスクからのインストール

次のステップに進みます。

2. テープ/ディスクから IPL を実行します。

注: SCSI インストール・ディスクの場合は、FCP 装置から IPL を実行します。

IPL の実行が終了すると、システムはコンソールからの割り込みを待機する状態になります。ENTER キーを押して次に進みます。

注: ここからは、実テープが使用されたかのようにディスクからのインストールが続きます。

3. 自動インストールのプロセスを開始します。

z/VSE を LPAR モードでインストールする場合は、必ず時刻機構を設定してください。エラーが起きた場合には、28 ページの『インストール時に発生する可能性のある問題』を参照してください。

IPL が終了した後でシステム・コンソールに最初に表示されるシステム・プロンプトは次のプロンプトです。

インストールの第 1 部および第 2 部についての簡単な説明

BG 0000 SI01D DO YOU WANT TO DO AN AUTOMATIC INSTALLATION (YES/NO?)

0 YES

BG 0000 SA02D IF YOU WANT A LISTING, SPECIFY PCUU OF PRINTER, ELSE (ENTER)

0 pcuu

物理装置アドレスが X'FFF' より大きい場合、次のメッセージで物理装置アドレスおよび対応する VSE アドレスが表示されます。

BG 0000 SA07I THE PHYSICAL DEVICE ADDRESS pcuu CORRESPONDS TO THE ADDRESS cuu USED BY VSE

BG 0000 SI70D IF YOU WANT TO INSTALL VSE ON SCSI SPECIFY YES, ELSE NO

SCSI にインストールしない場合

0 NO DOSRES および SYSWK1 の物理装置アドレスを次のように入力します。

BG 0000 SI02D ENTER PCUU OF DOSRES

0 pcuu

BG 0000 SI03D ENTER PCUU OF SYSWK1

0 pcuu

SCSI にインストールする場合

0 YES

BG 0000 SI75I ENTER SCSI COMMAND FOR DOSRES

BG 0000 SA80D SCSI,FBA=CUU,FCP=PCUU,WWPN=PORTNAME,LUN=LUN

注:

1. SCSI 装置アドレスは、X'FFF' 以下でなければなりません。
2. DEL コマンドで削除された装置アドレスは SCSI DOSRES 装置 SCSI SYSWK1 装置として再利用できません。
3. FBA *cuu* については、(IOCDS または z/VM ゲストのどちらにおいても) 実装置によって割り当てられていない、また z/VSE によって仮想 FBA 装置として追加されていない装置アドレスを選択してください。

0 SCSI,FBA=608,FCP=C001,WWPN=5005076300C69A76,LUN=5745

BG 0000 SA07I THE PHYSICAL DEVICE ADDRESS C001 CORRESPONDS TO THE ADDRESS 101 USED BY VSE

AR 0033 0S45I SCSI DEVICE 608 CONSISTS OF 09765632 BLOCKS, 09756789 BLOCKS ARE AVAILABLE, 651 BLOCKS ARE UNUSED

BG 0000 SI76I ENTER SCSI COMMAND FOR SYSWK1

BG 0000 SA80D SCSI,FBA=CUU,FCP=PCUU,WWPN=PORTNAME,LUN=LUN

0 SCSI,FBA=609,FCP=C001,WWPN=5005076300C69A76,LUN=5746

AR 0033 0S45I SCSI DEVICE 609 CONSISTS OF 09765632 BLOCKS, 09756789 BLOCKS ARE AVAILABLE, 651 BLOCKS ARE UNUSED

自動インストール・プロセスが開始される前に、次の通知メッセージが表示されます。

DOSRES の場合

インストールの第 1 部および第 2 部についての簡単な説明

- 入力した物理装置アドレスが X'FFF' 以下の場合
BG 0000 SI08I DOSRES IS cuu, DEVICE TYPE xxxx
- 入力した物理装置アドレスが X'FFF' より大きい場合
BG 0000 SI18I DOSRES PHYSICAL DEVICE ADDRESS IS pcuu, VSE ADDRESS IS cuu,
DEVICE TYPE xxxx

SYSWK1 の場合

- 入力した物理装置アドレスが X'FFF' 以下の場合
BG 0000 SI09I SYSWK1 IS cuu, DEVICE TYPE xxxx
- 入力した物理装置アドレスが X'FFF' より大きい場合
BG 0000 SI19I SYSWK1 PHYSICAL DEVICE ADDRESS IS pcuu, VSE ADDRESS IS cuu,
DEVICE TYPE xxxx

ここで、*pcuu* は物理装置アドレス、*cuu* は対応する VSE アドレス、*xxxx* は DOSRES および SYSWK1 の装置タイプを示します。

次にあげるメッセージは、自動インストール部分を開始するか、あるいは自動インストール部分を定義しなおすかについて、ユーザーが選択できるようにするものです。

```
BG 0000 SI10D START WITH AUTOMATIC INSTALLATION (YES/NO?)
```

0 YES

ここから始まるジョブ処理は、完了までにある程度時間がかかります。また、インストールの進行にともなって、複数のシステム・メッセージがユーザーに通知されます。自動インストール 第 1 部が終了すると、次のメッセージがユーザーに出されます。

```
BG 0000 SA17W ***** END OF STAND ALONE PROCESSING *****
```

ここで、システムは DOSRES から自動 IPL を実行します。

インストール 第 2 部

まだ VSE.CONTROL.FILE はないので、以下のメッセージが表示されます。

```
FB 0011 // JOB SECSERV
      DATE xx/xx/xxxx, CLOCK yy/yy/yy
FB 0074 4228I FILE IJSYSCT  OPEN ERROR X'B4'(180) CAT=..N/A..
      (OPNCT-20) VOLUME 'DOSRES' NOT OWNED BY VSAM
FB 0074 4228I FILE IESCNTL  OPEN ERROR X'B4'(180) CAT=VSESPUC ( 4,AD, 2)
      (OPNHC-10) RC X'00000004' FROM CATLG
FB 0074 4228I FILE BSTCNTL  OPEN ERROR X'B4'(180) CAT=VSESPUC ( 4,AD, 2)
      (OPNHC-10) RC X'00000004' FROM CATLG
FB 0074 BST300E THE II CONTROL FILE COULD NOT BE OPENED.
FB 0075 1J017I CRYPTO HARDWARE NOT INSTALLED OR NOT DEFINED.
BG 0000 BST001I BASIC SECURITY MANAGER INITIALIZED
```

このメッセージは通知のみで、引き続き処理が行われて、z/VSE の INSTALL プログラムが実行されます。

```
BG 0001 1Q47I  BG INSTALL xxxxx FROM (SYSA), TIME=hh:mm:ss
BG 0000 // JOB INSTALL z/VSE INSTALL PROGRAM
```

```
BG 0000 IESI0051D DO YOU WANT TO CONFIGURE TCP/IP DURING INITIAL STARTUP? YES/NO
```

0 xxx

インストールの第 1 部および第 2 部についての簡単な説明

ここで、z/VSE が用意している事前定義環境のいずれかを選択するよう求めるメッセージが出されます。事前定義済み環境についての詳しい情報は、23 ページの『z/VSE に用意されている事前定義環境』を参照してください。

```
BG 0000 IESI0078D SELECT AN ENVIRONMENT OUT OF A (SMALL), B (MEDIUM) OR C (LARGE).
```

0 x

```
BG 0000 IESI0079D DO YOU WANT TO RUN YOUR SYSTEM WITH SECURITY ON? YES/NO
```

0 xxx

```
BG 0000 IESI0062D CHECK YOUR ANSWERS. DO YOU WANT TO CONTINUE ? YES/NO
```

0 YES

TCP/IP の構成

最初の始動時に TCP/IP を構成することを選択した場合に限り、メッセージ IESI0098D が表示されます。

```
IESI0098D DO YOU WANT TO SPECIFY VTAM DEFINITIONS ? YES/NO
```

NO で応答すると、VTAM 定義に関する質問がスキップされます。

YES で応答すると、メッセージ IESI0065D が表示されます。

VM のもとでインストールするユーザー: VM のもとで z/VSE をインストールし、かつ、CP DIAL コマンドによってシステムにアクセスする場合は、次のメッセージに対して **NO** と答えてください。これは、DIAL コマンドが実行された端末は、VSE から見てローカルの非 SNA 装置として認識されるためです。

```
IESI0065D IS THE LOCAL CONTROL UNIT AN SNA CU ? YES/NO
```

YES で応答すると、プロンプトが出されます。

```
IESI0071D ENTER ADDRESS OF 3270 CONTROL UNIT: cuu OR pcuu  
IESI0066I DEFINE TERMINAL TYPE ATTACHED TO THIS CONTROL UNIT  
IESI0067D ENTER 24X80, 32X80 OR 43X80
```

SNA 接続端末の定義をスキップする場合は、メッセージ IESI0065D に対して NO で応答します。プロンプトが出されます。

```
IESI0064I DEFINE UP TO 3 LOCAL VTAM TERMINALS  
IESI0059D ENTER A 3270 ADDRESS (CUU) OR (PCUU) OR "END"
```

0 xxx

ローカルの非 SNA VTAM ディスプレイ端末の定義

ローカルの非 SNA VTAM ユーザーは、少なくとも 1 台、3 台を超えないローカル VTAM ディスプレイ端末を定義する必要があります。

TCP/IP を使用したい場合、CICS 初期スタートアップのために VTAM 端末も定義しなければなりません。

注: 物理端末アドレスは、昇順で指定してください。端末アドレスを正しい順序で入力しないと、システムは VTAM のスタートアップ・ブックを誤って生成します。

インストールの第 1 部および第 2 部についての簡単な説明

```
BG 0000 IESI0064I DEFINE UP TO 3 LOCAL VTAM TERMINALS
BG 0000 IESI0059D ENTER A 3270 ADDRESS (PCUU) OR "END"
```

0 pcuu

```
BG 0000 IESI0059D ENTER A 3270 ADDRESS (PCUU) OR "END"
```

0 pcuu

```
BG 0000 IESI0059D ENTER A 3270 ADDRESS (PCUU) OR "END"
```

0 pcuu

3 台目の 3270 のアドレスを入力すると、端末定義セッションは終了します。

```
BG 0000 IESI0062D CHECK YOUR ANSWERS. DO YOU WANT TO CONTINUE ? YES/NO
```

0 YES

```
BG 0000 EOJ INSTALL MAX.RETURN CODE=xxxx
```

38 ページの『ハードウェア情報のカタログ登録』に進んでください。

ローカルの SNA VTAM ディスプレイ端末の定義

ローカルの SNA コントロール・ユニットで VTAM を選択した場合は、

そのコントロール・ユニットを定義し、さらに、少なくとも 1 台、3 台を超えないローカル 3270 ディスプレイ端末を定義する必要があります。TCP/IP を使用する場合、CICS 初期スタートアップのために VTAM 端末も定義しなければなりません。

注: 物理端末アドレスは、昇順で指定してください。端末アドレスの入力順序を間違えると、エラー・メッセージの IESI0076A が出されます。

```
BG 0000 IESI0071D ENTER ADDRESS OF 3270 CONTROL UNIT: PCUU
```

0 pcuu

```
BG 0000 IESI0066I DEFINE TERMINAL TYPE ATTACHED TO THIS CONTROL UNIT
BG 0000 IESI0067D ENTER 24x80, 32x80, 43x80
```

0 nnxnn

```
BG 0000 IESI0064I DEFINE UP TO 3 LOCAL VTAM TERMINALS
```

```
BG 0000 IESI0073D ENTER ADDRESS OF A 3270 TERMINAL
(2 TO 33) OR "END"
```

0 xx

```
BG 0000 IESI0073D ENTER ADDRESS OF A 3270 TERMINAL
(2 TO 33) OR "END"
```

0 xx

```
BG 0000 IESI0073D ENTER address OF A 3270 TERMINAL
(2 TO 33) OR "END"
```

0 xx

3 台目のアドレスを入力すると、端末定義セッションは終了します。

インストールの第 1 部および第 2 部についての簡単な説明

```
BG 0000 IESI0062D CHECK YOUR ANSWERS. DO YOU WANT TO CONTINUE ? YES/NO
```

```
0 YES
```

```
BG 0000 EOJ INSTALL MAX.RETURN CODE=xxxx
```

ハードウェア情報のカタログ登録

ジョブ **DTRIHARD** は IPL プロシージャからハードウェア情報をカタログに登録します。

```
BG 0001 1Q47I BG DTRIHARD nnnnn FROM LOCAL , TIME=hh:mm:ss
BG 0000 // JOB DTRIHARD CATALOG HARDWARE RELATED INFORMATION
BG 0000 EOJ DTRIHARD MAX.RETURN CODE=xxxx
```

ASI IPL プロシージャのカタログ登録

ジョブ **DTRIASI** は、ASI IPL プロシージャをカタログに登録します。

```
BG 0001 1Q47I BG DTRIASI nnnnn FROM LOCAL , TIME=hh:mm:ss
BG 0000 // JOB DTRIASI CATALOG ASI IPL PROCEDURE
BG 0000 EOJ DTRIASI MAX.RETURN CODE=xxxx
```

VTAM スタートアップ情報のカタログ登録

ジョブ **DTRIVTAM** は、VTAM ユーザーに対してのみ実行され、VTAM スタートアップ情報をカタログに登録します。

```
BG 0001 1Q47I BG DTRIVTAM nnnnn FROM LOCAL , TIME=hh:mm:ss
BG 0000 // JOB DTRIVTAM CREATE VTAM STARTUP BOOK ...
BG 0000 EOJ DTRIVTAM MAX.RETURN CODE=xxxx
```

ジョブ・リストの作成

ジョブ **DTRIJBLD** は、実行されるジョブのリストを作成します。

```
BG 0001 1Q47I BG DTRIJBLD nnnnn FROM LOCAL , TIME=hh:mm:ss
BG 0000 // JOB DTRIJBLD BUILD ORDERED JOB LIST
BG 0000 EOJ DTRIJBLD MAX.RETURN CODE=xxxx
```

ジョブ管理プログラムの制御するジョブの実行

次にあげるジョブは、ジョブ管理プログラムの制御下で実行されるジョブです。いずれのジョブも、取り消さないようにしてください。

システム・ヒストリー・ファイルのリストア

ジョブ **HISTREST** は、システム・ヒストリー・ファイルをリストアします。

```
BG 0001 1Q47I BG HISTREST nnnnn FROM (SYSA) , TIME=hh:mm:ss
BG 0000 // JOB HISTREST RESTORE SYSTEM HISTORY FILE
DATE xx/xx/xxxx,CLOCK yy/yy/yy
BG 0000 EOJ HISTREST MAX.RETURN CODE=xxxx
DATE xx/xx/xxxx,CLOCK yy/yy/yy,DURATION zz/zz/zz
```

VSAM カタログ、VSAM スペース、および VSAM クラスターの定義

ジョブ **VSAMDEFS** は、VSAM マスター・カタログ、VSAM ユーザー・カタログ、VSAM スペース、VSAM クラスターを定義します。エラー・メッセージ 4228I が出されますが、無視してかまいません。

インストールの第 1 部および第 2 部についての簡単な説明

```
BG 0001 1Q47I  BG VSAMDEFS nnnnn FROM (SYSA) , TIME=hh:mm:ss
BG 0000 // JOB VSAMDEFS - DEFINE VSAM MCAT, UCAT SPACE AND CLUSTERS
BG 0000 * THIS JOB WILL DEFINE THE VSAM MASTER CATALOG, A USER CATALOG,
BG 0000 * VSAM DATA SPACE, AND VSAM CLUSTERS. FIRST TIME EXECUTION
BG 0000 * WILL RESULT IN A VSAM OPEN ERROR X'B4' (180) ON FILE IJSYSCT.
BG 0000 4228I FILE IJSYSCT OPEN ERROR X'B4'(180) CAT=..N/A..
          (IKQPNCT) VOLUME 'DOSRES' NOT OWNED BY VSAM
BG 0000 EOJ VSAMDEFS  MAX.RETURN CODE=0000
```

ライブラリーとサブライブラリーの定義

ジョブ **LIBRDEFS** は、必要な z/VSE のライブラリーおよびサブライブラリーを定義します。

```
BG 0001 1Q47I  BG LIBRDEFS nnnnn FROM (SYSA) , TIME=hh:mm:ss
BG 0000 // JOB LIBRDEFS DEFINE LIBRARIES AND SUBLIBRARIES
BG 0000 EOJ LIBRDEFS  MAX.RETURN CODE=0000
```

VSE/ICCF DTSFILE のリストア

ジョブ **ICCFREST** は、z/VSE 提供の VSE/ICCF DTSFILE をリストアします。

```
BG 0001 1Q47I  BG ICCFREST nnnnn FROM (SYSA) , TIME=hh:mm:ss
BG 0000 // JOB ICCFREST RESTORE THE VSE/ICCF DTSFILE
BG 0000 K237I LIBRARY REALLOCATION FROM nnnn TO nnnn
BG 0000 K236I USER REALLOCATION FROM nnnn TO nnnn
BG 0000 EOJ ICCFREST  MAX.RETURN CODE=xxxx
```

インストール情報の VSE/ICCF DTSFILE への穿孔

ジョブ **ICCFLOAD** は、z/VSE 提供の VSE/ICCF DTSFILE に必要なシステム情報を追加します。

```
BG 0001 1Q47I  BG ICCFLOAD nnnnn FROM (SYSA) , TIME=hh:mm:ss
BG 0000 // JOB ICCFLOAD PUNCH INSTALL INFO TO ICCF LIBRARY
BG 0000 EOJ ICCFLOAD  MAX.RETURN CODE=xxxx
```

個々の z/VSE 基本マクロのインストール

ジョブ **MACREST** は、個々のマクロを PRD1.MACLIB にインストールします。

```
BG 0001 1Q47I  BG MACREST nnnnn FROM (SYSA) , time=hh:mm:ss
BG 0000 // JOB MACREST - RESTORE SUB-LIBRARY PRD1.MACLIB
          DATE xx/xx/xxxx,CLOCK yy/yy/yy
BG 0000 EOJ MACREST  MAX.RETURN CODE=xxxx
```

LE/VSE のインストール

ジョブ **LEREST** は、LE/VSE をサブライブラリー PRD2.SCEEBASE にインストールします。

```
BG 0001 1Q47I  BG LEREST nnnnn FROM (SYSA) , TIME=hh:mm:ss
BG 0000 // JOB LEREST - RESTORE LE/VSE LIBRARY PRD2.SCEEBASE
          ⋮
BG 0000 EOJ LEREST  MAX.RETURN CODE=xxxx
```

言語別メンバーのリストア

ジョブ **LLIBRES** は、各国言語依存メンバーをテープからリストアし、IJSYSRS.SYSLIB に格納します。

```
BG 0001 1Q47I  BG LLIBRES nnnnn FROM (SYSA) , TIME=hh:mm:ss
BG 0000 // JOB LLIBRES - RESTORE LANGUAGE DEPENDENT MEMBERS INTO SYSLIB
          DATE xx/xx/xxxx,CLOCK yy/yy/yy
BG 0000 EOJ LLIBRES  MAX.RETURN CODE=xxxx
          DATE xx/xx/xxxx,CLOCK yy/yy/yy,DURATION zz/zz/zz
```

言語別 VSE/ICCF メンバーのリストア

ジョブ **NLICFRES** は、各国語言語別 VSE/ICCF メンバーをテープからリストアし、VSE/ICCF DTSFILE に格納します。

```
BG 0001 1Q47I  BG NLICFRES nnnnn FROM (SYSA) , TIME=hh:mm:ss
BG 0000 // JOB NLICFRES - RESTORE LANGUAGE DEPENDENT MEMBERS INTO DTSFILE
          DATE xx/xx/xxxx,CLOCK yy/yy/yy
BG 0000 EOJ NLICFRES MAX.RETURN CODE=xxxx
          DATE xx/xx/xxxx,CLOCK yy/yy/yy,DURATION zz/zz/zz
```

z/VSE 基本プログラムのインストール

ジョブ **BASEREST** は、z/VSE のサブライブラリー PRD1.BASE をインストールします。

注: このジョブには数分間かかります。途中で取り消さないようにしてください。

```
BG 0001 1Q47I  BG BASEREST nnnnn FROM (SYSA) , TIME=hh:mm:ss
BG 0000 // JOB BASEREST - RESTORE SUB-LIBRARY PRD1.BASE
          DATE xx/xx/xxxx,CLOCK yy/yy/yy
BG 0000 * *****
BG 0000 * RESTORING PRD1 - THIS STEP WILL TAKE SEVERAL MINUTES
BG 0000 * *****
BG 0000 EOJ BASEREST MAX.RETURN CODE=xxxx
          DATE xx/xx/xxxx,CLOCK yy/yy/yy,DURATION zz/zz/zz
```

TCP/IP および IPv6/VSE のインストール

ジョブ **TCPREST** は、TCP/IP を PRD2.TCPIPC に、また IPv6/VSE を PRD2.TCPIPB にインストールします。

注: このジョブには数分間かかります。途中で取り消さないようにしてください。

```
BG 0001 1Q47I  BG TCPREST 00010 FROM (SYSA) , TIME=hh:mm:ss , TKN=000000
BG 0000 // JOB TCPREST - RESTORE SUB-LIBRARY PRD2.TCPIPC
          DATE xx/xx/xxxx, CLOCK yy/yy/yy
BG 0000 M235I INSTALLATION WILL BE DONE AS FOLLOWS:
BG 0000          PRD2.TCPIPC          INTO  PRD2.TCPIPC
BG 0000 M235I INSTALLATION WILL BE DONE AS FOLLOWS:
BG 0000          PRD2.TCPIPB          INTO  PRD2.TCPIPB

BG 0000 EOJ TCPREST  MAX.RETURN CODE=0000
          DATE xx/xx/xxxx, CLOCK yy/yy/yy, DURATION  zz/zz/zz
```

VSE/VSAM ファイルの初期化およびロード

ジョブ **VSAMINIT** は、z/VSE に必要な VSAM ファイルを初期化し、ロードします。

注:

1. このジョブには数分間かかります。途中で取り消さないようにしてください。
2. このジョブの間、制御ファイルがオープンされ、基本セキュリティー管理プログラムの全セキュリティー・サポートが活動化します。

```
BG 0001 1Q47I  BG VSAMINIT nnnnn FROM (SYSA) , TIME=hh:mm:ss
BG 0000 // JOB VSAMINIT - INITIALIZE AND LOAD VSAM FILES
BG 0000 EOJ VSAMINIT  MAX.RETURN CODE=xxxx
```

ソフトウェア情報/分析の作業ファイルの初期化

ジョブ **DUMPINIT** は、情報/分析作業ファイルを初期化します。

インストールの第 1 部および第 2 部についての簡単な説明

```
BG 0001 1Q47I  BG DUMPINIT nnnnn FROM (SYSA) , TIME=hh:mm:ss
BG 0000 // JOB DUMPINIT - INITIALIZE INFO/ANALYSIS WORK FILES
BG 0000 EOJ DUMPINIT  MAX.RETURN CODE=xxxx
```

VSE システム・ライブラリーへのメンバーのカタログ登録

```
BG 0001 1Q47I  BG SAVEMEMB nnnnn FROM (SYSA) , TIME=hh:mm:ss
BG 0000 // JOB SAVEMEMB CATALOG MEMBERS INTO PRD2.CONFIG AND PRD2.SAVE
BG 0000 EOJ SAVEMEMB  MAX.RETURN CODE=xxxx
```

TCP/IP の構成 (オプション)

```
BG 0001 1Q47I  BG TCPIPCFG 00019 FROM (SYSA) , TIME=hh:mm:ss
BG 0000 // JOB TCPIPCFG - CONFIGURE TCP/IP
          DATE dd/mm/yyyy, CLOCK hh/mm/ss
BG 0000 * *****
BG 0000 * *
BG 0000 * *  THIS JOB WILL START A CONFIGURATION DIALOG TO SETUP AN
BG 0000 * *  INITIAL STARTUP FOR TCP/IP.
BG 0000 * *****
```

⋮

ジョブ処理について詳しくは、92 ページの『TCP/IP の構成 (オプション)』を参照してください。

通信アクセス方式と CICS/ICCF のスタートアップ

```
BG 0001 1Q47I  BG TPSTART nnnnn FROM (SYSA), TIME=hh:mm:ss
BG 0000 // JOB TPSTART START ICCF, CICS AND VTAM (IF APPLICABLE)
```

```
BG 0000 1S47I  PRELEASE RDR,VTAMSTRT
```

⋮

```
BG 0001 1Q47I  F3 VTAMSTRT nnnnn FROM (SYSA), TIME=hh:mm:ss
```

```
F3 0003 // JOB VTAMSTRT START UP VTAM
```

⋮

```
BG 0000 1S47I  PRELEASE RDR,CICSICCF
```

```
BG 0001 1Q47I  F2 CICSICCF nnnnn FROM (SYSA), TIME=hh:mm:ss
```

```
F2 0002 // JOB CICSICCF CICS/ICCF STARTUP
```

⋮

```
F3 0024 IST093I VTMAPPL ACTIVE
```

```
F3 0024 IST093I VTMSNA ACTIVE
```

```
F3 0024 IST093I VTMSNA ACTIVE
```

⋮

```
F3 0024 IST093I VTMA1 ACTIVE
```

```
F3 0024 IST093I VTMA2 ACTIVE
```

⋮

```
F3 0024 IST093I VTMSW1 ACTIVE
```

```
F3 0024 IST020I VTAM INITIALIZATION COMPLETE FOR V4R2
```

(additional SESSION SETUP messages may be displayed)

```
BG 0000 EOJ TPSTART  MAX.RETURN CODE=xxxx
```

初期インストール処理の完了

ジョブ **CLEANUP** は、初期インストール処理を完了させます。ジョブ **CLEANUP** からのメッセージが、CICS/ICCF スタートアップ・ジョブのメッセージとともに表示されます。

インストールの第 1 部および第 2 部についての簡単な説明

```
BG 0001 1Q47I  BG CLEANUP nnnnn FROM (SYSA), TIME=hh:mm:ss
BG 0000 // JOB CLEANUP
BG 0000 *  BASE INSTALL PROCESSING IS NOW FINISHED.
BG 0000 *  COMPLETION OF THE INSTALL PROCESS MUST
BG 0000 *  BE PERFORMED USING THE z/VSE DIALOGS.

BG 0000 EOJ CLEANUP  MAX.RETURN CODE=xxxx

:

F2 0002 DFHPA1101 DBDCCICS DFHSITSP IS BEING LOADED.
F2 0002 DFHPA1108 DBDCCICS DFHSITSP HAS BEEN LOADED. (GENERATED AT: MM/DD=
xx/xx HH:MM= yy:yy).
F2 0002 DFHPA1100 DBDCCICS OVERRIDE PARAMETERS FROM JCL EXEC STATEMENT:

F2 0002 DFHPA1927 DBDCCICS APPLID=DBDCCICS,START=COLD,EDSALIM=14M,SI

F2 0002 DFHPA1102 DBDCCICS OVERRIDE PARAMETERS FROM SYSIPT:
F2 0002 DFHPA1927 DBDCCICS SIT=SP,STATRCD=OFF,MXT=20,NEWSIT=YES

F2 0002 DFHPA1103 DBDCCICS END OF FILE ON SYSIPT.
F2 0002 DFHTR0103 TRACE TABLE SIZE IS 256K
F2 0002 DFHSM0122I DBDCCICS Limit of DSA storage below 16MB is n,nnnK.
F2 0002 DFHSM0123I DBDCCICS Limit of DSA storage above 16MB is nnM.
F2 0002 DFHSM0113I DBDCCICS Storage protection is not active.
F2 0082 DFHDM0101I DBDCCICS CICS is initializing.
F2 0083 DFHXS1100I DBDCCICS Security initialization has started.
F2 0083 DFHWB0109I DBDCCICS Web domain initialization has started.
F2 0083 DFHS00100I DBDCCICS Sockets domain initialization has started.
F2 0083 DFHDH0100I DBDCCICS Document domain initialization has started.
F2 0083 DFHSI1500 DBDCCICS CICS startup is in progress for CICS Transaction
Server Version 2.1.0
F2 0083 DFHXS1105 DBDCCICS Resource profiles for class TCICSTRN have been
built.
F2 0083 DFHXS1103I DBDCCICS Default security for userid CICSUSER has been
established.
F2 0083 DFHSI1501I DBDCCICS Loading CICS nucleus.
:
F2 0083 DFHXS1101I DBDCCICS Security initialization has ended.
F2 0083 DFHWB0110I DBDCCICS Web domain initialization has ended.
F2 0083 DFHS00101I DBDCCICS Sockets domain initialization has ended.
F2 0083 DFHMN0105I DBDCCICS Using default Monitoring Control Table.
F2 0083 DFHMN0110I DBDCCICS CICS Monitoring is inactive.
F2 0083 DFHDH0101I DBDCCICS Document domain initialization has ended.
F2 0083 DFHSI1502I DBDCCICS CICS startup is Cold.
F2 0083 DFHSI1503I DBDCCICS Terminal data sets are being opened.
F2 0083 DFHDU0304I DBDCCICS Transaction Dump Data set DFHMMPA opened.
F2 0083 DFHCP0101I DBDCCICS CPI initialization has started.
F2 0083 DFHPR0104I DBDCCICS Partner resource manager initialization has
started.
F2 0083 DFHFC0100I DBDCCICS File Control initialization has started.
F2 0083 DFHFC0101I DBDCCICS File Control initialization has ended.
F2 0083 DFHTD0100I DBDCCICS Transient Data initialization has started.
F2 0083 DFHAI0101I DBDCCICS AITM initialization has started.
F2 0083 DFHTD0101I DBDCCICS Transient Data initialization has ended.
F2 0083 DFHTS0100I DBDCCICS Temporary Storage initialization has started.
F2 0083 DFHTS0102I DBDCCICS About to format the temporary storage data set
(104 control intervals).
F2 0083 DFHTS0101I DBDCCICS Temporary Storage initialization has ended.
F2 0083 DFHCP0102I DBDCCICS CPI initialization has ended.
F2 0083 DFHPR0105I DBDCCICS Partner resource manager initialization has ended.

F2 0083 DFHAI0102I DBDCCICS AITM initialization has ended.
F2 0083 DFHSI1511I DBDCCICS Installing group list VSELIST .
F2 0083 DFHFC0208I DBDCCICS
LSR pool 1 is being built dynamically by CICS because the following
are not defined: 'CI SIZE' 'STRINGS' 'MAXKEYLENGTH' . A delay is
```

インストールの第 1 部および第 2 部についての簡単な説明

```
possible.  
BG 0000 1S47I PRELEASE RDR,CICSICCF  
F2 0083 DFHAP1203I DBDCCICS Language Environment for z/VSE is being  
initialized.  
F2 0083 CEE3550I LE/VSE C/VSE Run-Time initialized  
F2 0083 CEE3551I LE/VSE COBOL Run-Time initialized  
F2 0083 CEE3552I LE/VSE PL/I Run-Time initialized  
F2 0083 DFHWB1007 DBDCCICS Initializing CICS Web environment.  
F2 0083 DFHWB1008 DBDCCICS CICS Web environment initialization is complete.  
F2 0083 DFHSI8430I DBDCCICS About to link to PLT programs during the third  
stage of initialization.  
F2 0085 K002I BEGIN ICCF INITIALIZATION  
F2 0085 K042I VSE ACCESS CONTROL NOT ACTIVE, VSE/ICCF ACCESS CONTROL ACTIVE  
F2 0085 K481I DYNAMIC FILE SPACE INITIALIZATION BYPASSED  
F2 0085 K001I DEVICE TYPE IS nnn  
F2 0085 K088I HI FILE RECORDS= nnn,nnn (nn%)  
F2 0083 K029I ICCF INITIALIZATION COMPLETED  
F2 0083 DFHSI8434I DBDCCICS Control returned from PLT programs during the  
third stage of initialization.  
F3 0003 IST899I RETRY OF AUTOLOGON(S) TO VTAM1.DBDCCICS IN PROGRESS  
F2 0083 DFHSI1517 DBDCCICS Control is being given to CICS.
```

メッセージ **DFHSI1517** が表示されたら、システムは使用可能な状態になります。
99 ページの『第 9 章 インストール 第 3 部 - LPAR モードおよび z/VM』に進
んで、作業を続けてください。インストールを完了するには、z/VSE ダイアログを
使用してください。

```
⋮  
BG 0000 * BASE INSTALL PROCESSING IS NOW FINISHED. COMPLETION OF THE  
BG 0000 *  
BG 0000 * INSTALL PROCESS MUST BE PERFORMED USING THE z/VSE DIALOGS  
BG 0000 *  
BG 0000 EOJ CLEANUP MAX.RETURN CODE=0000  
DATE xx/xx/xxxx, CLOCK yy/yy/yy, DURATION zz/zz/zz
```

インストールの第 1 部および第 2 部についての簡単な説明

第 4 章 インストール 第 1 部 - 詳細説明

インストールの第 1 部は、多くのステップから構成されています。3 ページの図 1 に示したとおり、これらのステップは、自動的に実行するか、あるいは手動で実行するか、選択することが可能です。自動インストールを使用する場合に、ユーザー側での対話が必要になるのは、アスタリスク (*) が付いたステップに関するのみです。

- テープ/ディスクからの IPL の実行 (*)
- ディスク装置の初期化
- VTOC の位置づけ
- システム・ライブラリー IJSYSRS のリストア
- DOSRES からの IPL の実行

5 ページの『インストール・ワークシート』も参照してください。初期インストール時に必要な値を準備するのに役立つ情報を記載しています。

経験を積んだ VSE ユーザーであれば、33 ページの『第 3 章 経験を積んだ VSE ユーザー向けの簡単な説明』を参照し、そこにある説明に従って z/VSE をインストールできます。

第 5 章 自動インストール 第 1 部 - LPAR モードおよび z/VM

z/VSE をインストールする場合、ユーザーのシステム・コンソールに表示される最初のプロンプトは、z/VSE の自動インストールを行うのかどうかについて、質問します。この質問に YES と答えると、特定のインストール作業が、ユーザーに代わって自動的に処理されます。その際に必要となる値は、z/VSE のインストール・テープ/ディスクに用意されているカスタマイズ・テーブルから取り出されて使用されます。デフォルト値の変更を行うことはできません。

1 ページの『第 1 章 z/VSE のインストールの概要』を参照して、自動インストール・プロセス、および使用されるデフォルト値を理解してください。

重要: 問題が発生する場合は、28 ページの『インストール時に発生する可能性のある問題』を参照してください。

SCSI 装置にインストールを行う場合、自動インストールを選択することが推奨されます。z/VSE SCSI ディスク・サポートに関する詳細については、「IBM z/VSE 計画」を参照してください。

以下の各節では、自動インストールのプロセスをとどこおりなく実行するために、ユーザー側で準備しておかなければならない作業について、説明します。

z/VSE を LPAR モードでインストールするユーザーの準備作業

プロセッサ・リソース/システム管理機構 (PR/SM) を持つプロセッサ上に z/VSE を LPAR モードでインストールする場合、このセクションで説明されている手順に従う必要があります。

PR/SM™ について詳しくは、ご使用のプロセッサに付属の「*Processor Resource/Systems Manager™ Planning Guide*」を参照してください。

この資料は、IBM サポート・ポータルにあります。

入出力構成データ・セットのダウンロード

z/VSE のインストールを行う前に、入出力構成データ・セット (IOCDS) が、プロセッサに正しくロードされていることを確認してください。

入出力構成プログラム (IOCP) は、IOCDS でシステムの入出力構成を記述します。

入出力構成プログラム (IOCP) について詳しくは、ご使用のプロセッサに付属の「*Input/Output Configuration Program User Guide ICP IOCP*」を参照してください。

この資料は、IBM サポート・ポータルにあります。

z/VSE入出力構成プログラム

z/VSE をインストールすると、z/VSE IOCP バッチ・プログラムは自動的にインストールされます。スタンドアロン・バージョンとソフトウェア・バージョンの IOCP があります。ハードウェア構成を変更する場合、新しい IOCDS を作成するために z/VSE バッチ IOCP が必要になります。また、新しいプロセッサのインストールを準備する場合、IOCP マクロ命令を定義したり、検査するのにも、このバッチ・プログラムが必要になります。構成変更を行う際のベースには、スケルトン SKIOPCPN (VSE/ICCF ライブラリー 59 で入手可能) を使用してください。

ステップ 1 - テープ/ディスクからの IPL の実行 (自動インストールの場合)

テープからのインストール

VSEvrmEN.AWS から作成した z/VSE 6.2 基本テープをマウントします。このテープは、指示があるまで位置変更したり取り外したりしないでください。

インストール・ディスクからのインストール

次のステップに進みます。

z/VSE を LPAR モードでインストールするユーザー: IBM zEnterprise EC12 へのインストール例

テープ/ディスク装置からのロードを実行します。

注: SCSI インストール・ディスクの場合は、SCSI オプションを選択し、SCSI インストール・ディスクへの接続パスを指定して、FCP 装置を IPL します。

ロードを実行するには、「サポート・エレメント・ワークスペース」を使用します。ロードでは、システムまたは論理区画がリセットされ、オペレーティング・システムをロードするためにそのシステムまたは論理区画が準備され、オペレーティング・システムがロードされます。(他のシステムでは、ロードのことを初期プログラム・ロード (IPL) と呼ぶことがあります。)「CPC Recovery Task List (CPC リカバリー・タスク・リスト)」でロード・アイコンをダブルクリックしてロード・ウィンドウを表示します。

重要: この例では、IBM zEnterprise EC12 での IPL の実行方法を示しています。これは、1 つの例に過ぎません。ユーザーのサーバーでの IPL の実行方法の詳細については、それぞれのプロセッサの操作手順資料を参照してください。

The screenshot shows a dialog box titled "Load - P35:R35LP11". It contains the following fields and controls:

- CPC: P35:R35LP11
- Image: P35:R35LP11
- Load type: Normal Clear SCSI SCSI dump
- Store status
- Load address: 9958
- Load parameter: [Empty text box]
- Time-out value: 60 (with a spinner control) and "60 to 600 seconds" text.
- Worldwide port name: 0
- Logical unit number: 0
- Boot program selector: 0
- Boot record logical block address: 0
- Operating system specific load parameters: [Large empty text area]

Buttons at the bottom: OK, Reset, Cancel, Help.

要求された情報を入力して「OK」をクリックします。 IPL ロード・パラメーターについての詳しい情報は、*z/VSE System Control Statements*を参照してください。その他のパラメーターについての詳細は、ご使用のサーバーの操作手順資料を参照してください。

確認ウィンドウが表示され、指定した情報を確認することができます。情報が正しければ、「YES」プッシュ・ボタンを選択してロードを実行します。進行状況ウィンドウが表示されて、ロードの進行状況と結果が示されます。ロードが正常に完了したら、「OK」をクリックしてウィンドウをクローズしてください。異常終了した場合は、表示される指示またはメッセージに従って問題を判別し、修正してください。

VM のもとで z/VSE をインストールするユーザーの場合

z/VSE の初期インストールのために VM システムを準備するには、以下のステップに従ってください。

コンソール・モードを定義するには、CP モードで次のように入力します。

TERM CON 3270

端末を VM に定義するには、CP モードで次のように入力します。

DEF GRAF pcuu (*pcuu* は物理端末アドレス)

定義したい端末がまだユーザーの VM ディレクトリーに定義されていない場合、未定義の端末分だけ、このコマンドを繰り返し入力します。

ストレージは、少なくとも 64 MB は定義する必要があります。最大値は 32 GB です。CP モードで次のように入力してください。

DEF STOR xxxM または DEF STOR xxG (xxx に指定したいストレージの値を入れる。)

SCSI インストール・ディスクの場合、SET LOADDEV コマンドを使用して、SCSI ディスクへのアクセスに必要な定義を入力する必要があります。例えば、

```
SET LOADDEV PORT 50050763 00C69A76 LUN 57050000 00000000
```

IPL を実行するには、CP モードで次のように入力します。

IPL *pcuu* (*pcuu* は z/VSE テープまたはインストール・ディスクが入っているドライブの物理アドレスで、SCSI インストールの場合、*pcuu* は FCP 装置のアドレス)

すべてのパラメーターを入力し終わったら、ENTER キーを押します。

ステップ 2 - 自動インストールの開始

IPL の実行が終了すると、システムはコンソールからの割り込みを待機する状態になります。ENTER キーを押して次に進みます。

z/VSE を LPAR モードでインストールする場合は、必ず時刻機構を設定してください。エラーが起きた場合には、28 ページの『インストール時に発生する可能性のある問題』を参照してください。

IPL が終了した後でシステム・コンソールに最初に表示されるシステム・プロンプトは次のプロンプトです。

```
BG 0000 SI01D DO YOU WANT TO DO AN AUTOMATIC INSTALLATION (YES/NO)?
```

0 YES

重要: 自動インストールを行う場合には、YES と応答します。YES と入力すると、前述のとおり、z/VSE はユーザーに代わって初期インストールの第 1 部を自動的に処理します。自動インストールのプロセスを開始するのにユーザーが指定する必要があるのは、ほんの数個の値だけとなります。

このシステム・プロンプトに NO と答えた場合には、55 ページの『第 6 章 手動インストール 第 1 部 - LPAR モード』または 69 ページの『第 7 章 手動インストール 第 1 部 - VM のもとでのインストール』に進み、そこに記述してある内容にしたがってインストールを行う必要があります。

このセクションでは、上記のシステム・プロンプトに YES と答えたという想定のもとに、インストールの第 1 部の説明をします。

ここで、自動インストールのプロセスのリストが欲しいかどうかを質問するメッセージが出されます。ここでプリンターを指定した場合に受け取るリストには、インストールを行うのに必要なメッセージとシステム・プロンプトがすべて入っています。したがって、プリンターを指定することをお勧めします。

注: 自動インストール時にプリンターを指定できるのは、この時点のみです。

SCSI 装置にインストールを行う場合、SCSI 定義に関連するメッセージを受け取ります。SCSI 装置を使用しない場合、これらのメッセージは表示されません。

煩雑にならないように、自動初期インストール時に出されるメッセージの大半は、システム・コンソール上には表示されないようになっています。

SA02D IF YOU WANT A LISTING, SPECIFY PCUU OF PRINTER, ELSE (ENTER)

0 pcuu

(pcuu - プリンターの物理アドレス)

プリンターを指定しない場合は、0 と入力して次に進んでください。

物理装置アドレスが X'FFF' より大きい場合、次のメッセージで物理装置アドレスおよび対応する VSE アドレスが表示されます。

BG 0000 SA07I THE PHYSICAL DEVICE ADDRESS pcuu CORRESPONDS TO THE ADDRESS cuu USED BY VSE

注: 指定したプリンターが検知できない場合には、メッセージ SA04I、SA05I、および SA06D が出力され、ユーザーに正しい装置タイプの入力を求めます。

BG 0000 SI70D IF YOU WANT TO INSTALL VSE ON SCSI SPECIFY YES, ELSE NO

SCSI にインストールしない場合

0 NO DOSRES および SYSWK1 の物理アドレスを次のように入力します。

BG 0000 SI02D ENTER PCUU OF DOSRES

0 pcuu

BG 0000 SI03D ENTER PCUU OF SYSWK1

0 pcuu

SCSI にインストールする場合

0 YES

BG 0000 SI75I ENTER SCSI COMMAND FOR DOSRES

BG 0000 SA80D SCSI,FBA=CUU,FCP=PCUU,WPPN=PORTNAME,LUN=LUN

注:

1. SCSI 装置アドレスは、X'FFF' 以下でなければなりません。
2. DEL コマンドで削除された装置アドレスは SCSI DOSRES 装置 SCSI SYSWK1 装置として再利用できません。
3. FBA cuu については、(IOCDs または z/VM ゲストのどちらにおいても) 実装置によって割り当てられていない、また z/VSE によって仮想 FBA 装置として追加されていない装置アドレスを選択してください。

0 SCSI,FBA=608,FCP=C001,WPPN=5005076300C69A76,LUN=5745

BG 0000 SA07I THE PHYSICAL DEVICE ADDRESS C001 CORRESPONDS TO THE ADDRESS 101 USED BY VSE

AR 0033 0S45I SCSI DEVICE 608 CONSISTS OF 09765632 BLOCKS, 09756789 BLOCKS ARE AVAILABLE, 651 BLOCKS ARE UNUSED

BG 0000 SI76I ENTER SCSI COMMAND FOR SYSWK1

BG 0000 SA80D SCSI,FBA=CUU,FCP=PCUU,WPPN=PORTNAME,LUN=LUN

0 SCSI,FBA=609,FCP=C001,WPPN=5005076300C69A76,LUN=5746

AR 0033 0S45I SCSI DEVICE 609 CONSISTS OF 09765632 BLOCKS, 09756789 BLOCKS ARE AVAILABLE, 651 BLOCKS ARE UNUSED

FBA は SCSI 装置の装置タイプです。

重要: インストール時にメッセージ SI04I が表示されたり他の問題が発生したりする場合は、28 ページの『インストール時に発生する可能性のある問題』を参照してください。

自動インストール・プロセスが開始される前に、次の通知メッセージが表示されます。

DOSRES の場合

- 入力した物理装置アドレスが X'FFF' 以下の場合
BG 0000 SI08I DOSRES IS cuu, DEVICE TYPE xxxx
- 入力した物理装置アドレスが X'FFF' より大きい場合
BG 0000 SI18I DOSRES PHYSICAL DEVICE ADDRESS IS pcuu, VSE ADDRESS IS cuu,
DEVICE TYPE xxxx

SYSWK1 の場合

- 入力した物理装置アドレスが X'FFF' 以下の場合
BG 0000 SI09I SYSWK1 IS cuu, DEVICE TYPE xxxx
- 入力した物理装置アドレスが X'FFF' より大きい場合
BG 0000 SI19I SYSWK1 PHYSICAL DEVICE ADDRESS IS pcuu, VSE ADDRESS IS cuu,
DEVICE TYPE xxxx

ここで、*pcuu* は物理装置アドレス、*cuu* は対応する VSE アドレス、*xxxx* は DOSRES および SYSWK1 の装置タイプを示します。

次にあげるメッセージは、自動インストール部分を開始するか、あるいは自動インストール部分を定義しなおすかについて、ユーザーが選択できるようにするものです。

```
BG 0000 SI10D START WITH AUTOMATIC INSTALLATION (YES/NO?)
```

0 YES

このメッセージは、今までの入力を確認し、さらに、自動インストール・プロセスを開始するかあるいは自動インストール・プロセスを定義しなおすかについて、ユーザーが選択できるようにするものです。

NO と応答すると、もう一度、メッセージ SI01D から新たにやり直すこととなります。

ここから、自動インストールのプロセスが実行されます。ご使用のディスク装置は初期化されます。VTOC はディスク・バックのほぼ中心に作成されて、システム・ライブラリーのリストアが行われます。

重要: このプロセスが完了するまでには、ある程度時間がかかります。プロセスが中断されてしまうため、いずれのキーも押さないようにしてください。

自動インストールのプロセス中には、システムから、処理状況についての通知が時々出されます。例えば、次のようなシステム・メッセージが、ユーザーの画面に表示されます。

```
BG 0000 SI20I  FORMATTING OF DOSRES IN PROGRESS  
BG 0000 SI20I  FORMATTING OF SYSWK1 IN PROGRESS  
...  
BG 0000 L306I  RESTORE OF LIBRARY IJSYSR1 IN PROGRESS  
...  
BG 0000 L326I  RESTORE COMPLETE FOR LIBRARY IJSYSR1
```

自動インストールが完了すると、次のメッセージが表示されます。

```
BG 0000 SA17W  ***** END OF STAND ALONE PROCESSING *****
```

ここで、システムは DOSRES から自動 IPL を実行します。

83 ページの『第 8 章 インストール 第 2 部 - 詳細説明 - LPAR モードおよび z/VM』に進み、引き続き z/VSE のインストールを行ってください。

重要: 問題が発生する場合は、28 ページの『インストール時に発生する可能性のある問題』を参照してください。

第 6 章 手動インストール 第 1 部 - LPAR モード

このセクションでは、手動サポートを使用して z/VSE を LPAR モードでインストールする方法について説明します。

重要: 問題が発生する場合は、28 ページの『インストール時に発生する可能性のある問題』を参照してください。

SCSI 装置にインストールを行う場合、自動インストールを選択することが推奨されます。z/VSE SCSI ディスク・サポートに関する詳細については、「IBM z/VSE 計画」を参照してください。

z/VSE を LPAR モードでインストールするユーザーの準備作業

プロセッサ・リソース/システム管理機構 (PR/SM) を持つプロセッサ上に z/VSE を LPAR モードでインストールする場合、このセクションで説明されている手順に従う必要があります。

PR/SM について詳しくは、ご使用のプロセッサに付属の「*Processor Resource/Systems Manager Planning Guide*」を参照してください。

この資料は、IBM サポート・ポータルにあります。

入出力構成データ・セットのダウンロード

z/VSE のインストールを行う前に、入出力構成データ・セット (IOCDs) が、プロセッサに正しくロードされていることを確認してください。

入出力構成プログラム (IOCP) は、IOCDs でシステムの入出力構成を記述します。

入出力構成プログラム (IOCP) について詳しくは、ご使用のプロセッサに付属の「*Input/Output Configuration Program User Guide ICP IOCP*」を参照してください。

この資料は、IBM サポート・ポータルにあります。

z/VSE 入出力構成プログラム

z/VSE をインストールすると、z/VSE IOCP バッチ・プログラムは自動的にインストールされます。スタンドアロン・バージョンとソフトウェア・バージョンの IOCP があります。ハードウェア構成を変更する場合、新しい IOCDs を作成するために z/VSE バッチ IOCP が必要になります。また、新しいプロセッサのインストールを準備する場合、IOCP マクロ命令を定義したり、検査するのにも、このバッチ・プログラムが必要になります。構成変更を行う際のベースには、スケルトン SKIOCPN (VSE/ICCF ライブラリー 59 で入手可能) を使用してください。

ステップ 1 - テープ/ディスクからの IPL の実行 (手動/LPAR モード)

テープからのインストール

VSEvrmen.AWS から作成した z/VSE 6.2 基本テープをマウントします。
このテープは、指示があるまで位置変更したり取り外したりしないでください。

インストール・ディスクからのインストール

次のステップに進みます。

IBM zEnterprise EC12 へのインストール例

ロードを実行するには、「サポート・エレメント・ワークスペース」を使用します。ロードでは、システムまたは論理区画がリセットされ、オペレーティング・システムをロードするためにそのシステムまたは論理区画が準備され、オペレーティング・システムがロードされます。他のシステムでは、ロードのことを初期プログラム・ロード (IPL) と呼ぶことがあります。「CPC Recovery Task List (CPC リカバリー・タスク・リスト)」でロード・アイコンをダブルクリックしてロード・ウィンドウを表示します。

重要: この例では、IBM zEnterprise EC12 での IPL の実行方法を示しています。これは、1 つの例に過ぎません。ユーザーのサーバーでの IPL の実行方法の詳細については、それぞれのプロセッサの操作手順資料を参照してください。

The screenshot shows a dialog box titled "Load - P35:R35LP11". The fields are as follows:

CPC:	P35:R35LP11
Image:	P35:R35LP11
Load type	<input checked="" type="radio"/> Normal <input type="radio"/> Clear <input type="radio"/> SCSI <input type="radio"/> SCSI dump
<input type="checkbox"/> Store status	
Load address	9958
Load parameter	
Time-out value	60 (60 to 600 seconds)
Worldwide port name	0
Logical unit number	0
Boot program selector	0
Boot record logical block address	0
Operating system specific load parameters	

Buttons: OK, Reset, Cancel, Help

必要な情報を入力して、「OK」をクリックします。IPL ロード・パラメーターについての詳しい情報は、*z/VSE System Control Statements*を参照してください。その他のパラメーターについての詳細は、ご使用のサーバーの操作手順資料を参照してください。

確認ウィンドウが表示され、指定した情報を確認することができます。情報が正しければ、「YES」ボタンを選択してロードを実行します。進行状況ウィンドウが表示されて、ロードの進行状況と結果が示されます。ロードが正常に完了したら、「OK」をクリックしてウィンドウをクローズしてください。異常終了した場合は、表示される指示またはメッセージに従って問題を判別し、修正してください。

ステップ 2 - インストールの開始 (手動/LPAR モード)

IPL の実行が終了すると、システムはコンソールからの割り込みを待機する状態になります。ENTER キーを押して次に進みます。

重要: z/VSE を LPAR モードでインストールする場合は、必ず時刻機構を設定してください。エラーが起きた場合には、28 ページの『インストール時に発生する可能性のある問題』を参照してください。

IPL が終了した後でシステム・コンソールに最初に表示されるシステム・プロンプトは次のプロンプトです。

```
BG 0000 SI01D DO YOU WANT TO DO AN AUTOMATIC INSTALLATION (YES/NO)?
```

0 NO

手動インストールを行うには、NO と応答します。

```
BG 0000 SA01I ***** STAND ALONE PROGRAMS LOADED *****
BG 0000 SA02D IF YOU WANT A LISTING,SPECIFY PCUU OF PRINTER, ELSE (ENTER)
```

0

リストが必要な場合は、プリンターの物理アドレス (例えば、0 100e) を指定してください。不要であれば、0 を入力してください。指定したプリンターを検知できない場合には、メッセージ SA04I、SA05I、および SA06D が表示され、ユーザーに正しい装置タイプの入力を求めます。

物理装置アドレスが X'FFF' より大きい場合、次のメッセージで物理装置アドレスおよび対応する VSE アドレスが表示されます。

```
BG 0000 SA07I THE PHYSICAL DEVICE ADDRESS pcuu CORRESPONDS TO THE ADDRESS cuu
USED BY VSE
```

その場合ユーザーは、プリンターの装置タイプを指定する必要があります。

```
BG 0000 SA03D DEVICE TYPE IS xxxxyy. ACCEPT (ENTER) OR SPECIFY ALTERNATE TYPE
```

これが、指定したい装置タイプであれば、次のように入力します。

0

PRT1 に対してサポートされている装置タイプ・コードを含め、サポートされている装置タイプ・コードの完全なリストについては、「z/VSE System Control Statements」を参照してください。

```
BG 0000 SA08D DATE IS mm/dd/yyyy. ACCEPT DATE (ENTER) OR SPECIFY
DATE MM/DD/YYYY
```

日付を変更する場合には、2 桁の月および日と 4 桁の年を斜線で区切る形式で入力してください。変更しない場合は、0 を入力します。

テープ/ディスクからの IPL の実行 (手動/LPAR モード)

0 mm/dd/yyyy

SCSI 装置にインストールを行う場合、SCSI 定義に関連するメッセージを受け取ります。SCSI 装置を使用しない場合、これらのメッセージは表示されません。

BG 0000 SA70D IF YOU WANT TO USE SCSI DEVICES SPECIFY YES, ELSE NO

SCSI にインストールしない場合

0 NO

SCSI にインストールする場合

0 YES

BG 0000 SA75I ENTER SCSI COMMAND OR ENTER

BG 0000 SA80D SCSI, FBA=CUU, FCP=PCUU, WWPN=PORTNAME, LUN=LUN

注:

1. SCSI 装置アドレスは、X'FFF' 以下である必要があります。
2. DEL コマンドで削除された装置アドレスは SCSI DOSRES 装置 SCSI SYSWK1 装置として再利用できません。

例:

0 SCSI, FBA=602, FCP=14A3, WWPN=5005076300CA9A76, LUN=5703000000000000

BG 0000 SA07I THE PHYSICAL DEVICE ADDRESS 14A3 CORRESPONDS TO THE ADDRESS 140 USED BY VSE

AR 0033 0S45I SCSI DEVICE 602 CONSISTS OF 19531264 BLOCKS, 19522902 BLOCKS ARE AVAILABLE, 170 BLOCKS ARE UNUSED

BG 0000 SA85D MORE SCSI DEFINITIONS NEEDED? YES OR NO

0 YES

BG 0000 SA75I ENTER SCSI COMMAND OR ENTER

BG 0000 SA80D SCSI, FBA=CUU, FCP=PCUU, WWPN=PORTNAME, LUN=LUN

例:

0 SCSI, FBA=605, FCP=14A2, WWPN=5005076300CE9A76, LUN=570D000000000000

BG 0000 SA07I THE PHYSICAL DEVICE ADDRESS 14A2 CORRESPONDS TO THE ADDRESS 141 USED BY VSE

AR 0033 0S45I SCSI DEVICE 605 CONSISTS OF 03906304 BLOCKS, 03897432 BLOCKS ARE AVAILABLE, 680 BLOCKS ARE UNUSED

BG 0000 SA62I A MAXIMUM OF TWO SCSI DEVICES IS ACCEPTED. PROCESSING CONTINUES

SCSI へのインストールの終了

BG 0000 SA09I SELECT ONE OF THE FOLLOWING PROGRAMS, OR TYPE END

BG 0000 SA10D FASTCOPY, RESTORE, ICKDSF, DITTO, REIPL

0 ICKDSF

次のメッセージは、現在、VSE アドレスの入力が必要なこと、および **QUERY IO** コマンドによる VSE アドレスの表示方法を通知します。コマンドについて詳しくは、「z/VSE System Control Statements」を参照してください。

BG 0000 SA60I ***** FOR THE ICKDSF UTILITY YOU NEED TO SPECIFY VSE DEVICE ADDRESSES WHICH YOU CAN FIND BY USING THE QUERY IO COMMAND. *****

BG 0000 ICKDSF-VSE DEVICE SUPPORT FACILITIES 17.0 TIME

BG 0000 xx/xx/xx MM/DD/YYYY

BG 0000 ENTER INPUT COMMAND:

次に要求される入力は、『ステップ 3 - ディスクの初期化および VTOC の配置 (手動/LPAR モード)』で説明されている **INIT UNIT** コマンドです。

ステップ 3 - ディスクの初期化および VTOC の配置 (手動/LPAR モード)

z/VSE のインストールに関しては、**INIT** コマンドを使用して DOSRES と SYSWK1 という 2 つのディスク装置を初期化する必要があります。まず、ボリューム DOSRES を初期化し、次にボリューム SYSWK1 を初期化します。

注: データ・ボリュームは、必要に応じていくつでも初期化して、それぞれに独自の名前を付けることができます。

また、VTOC を配置する必要があります。VTOC を配置する位置としては、ディスク・パックの中心のあたりか、末尾のあたりかを選択することができます。

装置サポート機能プログラムで新しい ECKD ディスクを初期化する場合、あるいは別のオペレーティング・システム (例えば、z/OS®) のもとで使用されていた ECKD ディスクを初期化する場合には、そのプログラムで、そのディスクの各トラックのホーム・アドレスおよびレコード 0 の妥当性検査と再書き込みを行わなければなりません。

この場合、ディスクを正しく初期化するには、**INIT** コマンドにパラメーター (VALIDATE、CHECK) を追加する必要があります。必要なパラメーターを指定しておかないと、リストアしたシステムに後で IPL を実行するときに、問題が生じることがあります。なお、validate はすべてのディスク装置で使用できるわけではないのでご注意ください。

INIT コマンドの使い方はよく確認しておいてください。特に次の場合には注意が必要です。

- 初めて初期化されるディスクを初期化する場合。
- 直前まで VSE 以外のシステムで使用されていたディスクを初期化する場合。
- エミュレーション・モードからディスク固有モードに切り替える場合。

注: **INIT** コマンドの入力の際に画面上で 70 文字を超えてしまった場合は、継続文字としてダッシュ (-) を使用します。このとき、システムは超えてしまった分の情報を入力するよう要求します。

VTOC スペースを減らす方法については、「IBM z/VSE 計画」の『ストレージとチューニングに関する推奨事項』を参照してください。事前定義値では、最大 230 ラベルまでは受け入れることができます。

ディスクの初期化 (VTOC をボリュームの中心に配置する場合)

以下の **INIT** コマンドは、ディスク装置の真ん中あたりの推奨位置に VTOC を設置します。

DOSRES と SYSWK1 で、位置は異なります。このため、DOSRES 用と SYSWK1 用に 1 つずつ、別の 2 つのコマンドを入力する必要があります。cuu には、それぞれの VSE アドレスを入れます。

ディスクの初期化 (手動/LPAR モード)

FBA 装置:

```
0 INIT UNIT(cuu) NVFY NOMAP PURGE FBAVTOC(125440,228,8192)
VOLID(DOSRES)
```

```
0 INIT UNIT(cuu) NVFY NOMAP PURGE FBAVTOC(306176,228,8192)
VOLID(SYSWK1)
```

IBM 3390 (ECKD 装置):

```
0 INIT UNIT(cuu) NVFY NOMAP PURGE DOSVTOC(208,11,4) VOLID(DOSRES)
```

```
0 INIT UNIT(cuu) NVFY NOMAP PURGE DOSVTOC(301,11,4) VOLID(SYSWK1)
```

適切な入力コマンドを入力したら、以下のメッセージに対して U と応答し、コマンド処理を続行します。

```
BG 0000 ICK003D REPLY U TO ALTER VOLUME cuu CONTENTS, ELSE T
```

0 U

```
BG 0000 ICK01314I VTOC IS LOCATED AT CCHH=X'nnnn nnnn' AND IS nn TRACKS.
BG 0000 ICK00001I FUNCTION COMPLETED, HIGHEST CONDITION CODE WAS nn
ENTER INPUT/COMMAND:
```

ICKDSF コマンド処理から抜け出し、独立型ユーティリティーの選択に戻るには、次のように入力します。

0 END

```
BG 0000 ICK00002I ICKDSF PROCESSING COMPLETE. MAXIMUM CONDITION CODE WAS 0
```

ディスクの初期化 (VTOC をボリュームの末尾に配置)

以下の **INIT** コマンドは、ディスク装置の VTOC 終了を設置します。DOSRES と SYSWK1 で、位置は異なります。このため、DOSRES 用と SYSWK1 用に 1 つずつ、別の 2 つのコマンドを入力する必要があります。cuu には、それぞれの VSE アドレスを入れます。

注:

1. ICKDSF の制限により、4369 シリンダーを超える大容量のディスクは、ボリュームの終わりにある VTOC を使用して初期化できません。
2. FBA 装置の場合、VTOC をボリュームの終わりに置くことは推奨されません。このことは、システム装置とデータ装置の両方に当てはまります。
3. VTOC がディスク・パックの末尾にある FBA のミニディスクの初期化は、VTOC がディスク・パックの末尾にある専用ディスクを初期化する場合と同じです。
4. SCSI ディスク装置を含む FBA ディスクでは、ディスクのブロック数が、いわゆるアクチュエーター・ファイルの倍数、つまり 8*777 の倍数であることを確かめてください。ブロック数が倍数になっていない場合、VTOC をボリュームの終わりに置くと、システムが VTOC を読みとれないため問題が生じます。
5. **IPL SYS** コマンドの DASDFP オペランドも VTOC 読み取りに影響します。このオペランドは、出荷時には、YES に設定されており、FBAVTOC(END) の場

合は 8*777 の倍数が必要です。これを NO (DASDFP=NO) に設定した場合、(ファイル保護は犠牲になりますが) 必ずしも 8*777 の倍数でなくても、FBAVTOC(END) を使用できます。

FBA 装置:

0 INIT UNIT(cuu) NVFY NOMAP PURGE FBAVTOC(END)
VOLID(DOSRES)

0 INIT UNIT(cuu) NVFY NOMAP PURGE FBAVTOC(END)
VOLID(SYSWK1)

IBM 3390 (ECKD 装置):

0 INIT UNIT(cuu) NVFY NOMAP PURGE DOSVTOC(END)
VOLID(DOSRES)

0 INIT UNIT(cuu) NVFY NOMAP PURGE DOSVTOC(END)
VOLID(SYSWK1)

以下のメッセージに対して U と応答し、コマンド処理を続行します。

BG 0000 ICK003D REPLY U TO ALTER VOLUME cuu CONTENTS, ELSE T

0 U

BG 0000 ICK01314I VTOC IS LOCATED AT CCHH=X'nnnn nnnn' AND IS nn TRACKS.
BG 0000 ICK00001I FUNCTION COMPLETED, HIGHEST CONDITION CODE WAS nn
ENTER INPUT/COMMAND:

ICKDSF コマンド処理から抜け出し、独立型ユーティリティーの選択に戻るには、次のように入力します。

0 END

その他のメッセージ

以前に使用したディスク装置にインストールすると、システムが以下のメッセージを出します。

ICK001D CONFIRM PURGING OF UNEXPIRED DATA SETS, REPLY U TO PURGE, ELSE T

0 U

ICK019D CONFIRM PURGING OF ALL VSAM FILES, REPLY U TO PURGE, ELSE T

0 U

ステップ 4 - システム・ライブラリー IJSYSRS のリストア (手動/LPAR モード)

このステップでは、システム・ライブラリー IJSYSRS (IJSYSR1) をリストアします。次のシステム・プロンプトおよびメッセージが表示されます。

BG 0000 SA09I SELECT ONE OF THE FOLLOWING PROGRAMS, OR TYPE END
BG 0000 SA10D FASTCOPY, RESTORE, ICKDSF, DITTO, REIPL

システム・ライブラリーのリストア (手動/LPAR モード)

0 RESTORE

テープからのインストール

メッセージ SA11D が表示されます。

BG 0000 SA11D SPECIFY ADDRESS OF INPUT DEVICE PCUU

0 *pcuu*

(*pcuu* - z/VSE テープがマウントされているテープ装置のアドレス)

インストール・ディスクからのインストール

メッセージ SA11D の前にメッセージ SA32I が表示されます。

BG 0000 SA32I INSTALLATION DISK WAS ASSIGNED TO VIRTUAL TAPE cuu
FOR RESTORE FROM INSTALLATION DISK SPECIFY cuu AS INPUT DEVICE PCUU

BG-0000 SA11D SPECIFY ADDRESS OF INPUT DEVICE PCUU

0 *pcuu*

(メッセージ SA32I に表示されている *pcuu* を指定します)

テープまたはインストール・ディスクからのインストール

物理装置アドレスが X'FFF' より大きい場合、次のメッセージで物理装置アドレスおよび対応する VSE アドレスが表示されます。

BG 0000 SA07I THE PHYSICAL DEVICE ADDRESS pcuu CORRESPONDS TO THE ADDRESS cuu
USED BY VSE

BG 0000 SA03D DEVICE TYPE IS xxxxyy. ACCEPT (ENTER) OR SPECIFY ALTERNATE TYPE

0

すると、次のメッセージが表示されます。

BG 0000 SA13D TAPE MODE IS XX. ACCEPT (ENTER) OR SPECIFY ALTERNATE MODE YY

0

SYSRES ボリュームの内容をリストアする場合は、使用しているテープ装置のタイプに関係なく、必ずこのデフォルトを使用してください。

BG 0000 SA15D FOR TAPE LABEL CHECKING SPECIFY // TLBL, ELSE (ENTER)

0

BG 0000 SA16D SPECIFY ADDRESS OF SYSRES DISK PCUU

0 *pcuu*

(*pcuu*- DOSRES のアドレス)

物理装置アドレスが X'FFF' より大きい場合、次のメッセージで物理装置アドレスおよび対応する VSE アドレスが表示されます。

BG 0000 SA07I THE PHYSICAL DEVICE ADDRESS pcuu CORRESPONDS TO THE ADDRESS cuu
USED BY VSE

BG 0000 SA03D DEVICE TYPE IS xxxxyy. SPECIFY ALTERNATE TYPE, OR ACCEPT (ENTER)

0

BG 0000 L302A ENTER YES TO RESTORE SYSRES FILE IJSYSR1 OR NO TO SKIP
TO NEXT SYSRES

0 YES

BG 0000 L315I ORIGINAL FILE ID= VSE.SYSRES.LIBRARY
L316A ENTER YES TO KEEP OR NO TO RESPECIFY THE SYSRES FILE ID

システム・ライブラリーのリストア (手動/LPAR モード)

0 YES

以下のプロンプトに対して、**NO** と応答しなければなりません。

```
BG 0000 L309I ORIGINAL ALLOCATION= xxxx ....
BG 0000 L310A ENTER YES TO KEEP OR NO TO RESPECIFY THE ALLOCATION
```

0 NO

次のシステム・プロンプトに対して、以下の表の値を使用して応答してください。

ディスク装置タイプ	割り振りする値 (xxxxx)
3390 の場合 (3390 モード)	899
汎用 FBA ディスク	59390

```
BG 0000 L312I MINIMUM ALLOCATION= xxx ....
BG 0000 L304I ENTER THE DESIRED ALLOCATION AS NUMBER OF ....
BG 0000 L313A ALLOC=
```

0 xxxxx

```
BG 0000 L329A ENTER YES TO RESTORE ALL SUBLIBRARIES OR NO FOR
SELECTIVE RESTORE
```

0 YES

```
BG 0000 L338I SUMMARY OF RESTORE PARAMETERS:
BG 0000 L318I FILE NAME = IJSYSR1
BG 0000 L319I FILE ID = VSE.SYSRES.LIBRARY.xxx
BG 0000 L321I ALLOCATION= xxxx ....
BG 0000 L344I START= ..... - END= ....
BG 0000 L327I RESTORE ALL SUBLIBRARIES
BG 0000 L322A ENTER YES IF THE SPECIFICATION IS CORRECT OR NO TO RESPECIFY
```

0 YES

リストアのやり直し

このステップをやり直して、次のメッセージが出されたとします (xxxxxxx はファイル名です)。

```
BG 0000 L324I EQUAL FILE ID IN VTOC xxxxxxxx ...
BG 0000 L319I FILE ID=id
BG 0000 L330A TYPE CANCEL OR DELETE
```

この場合は、次のように入力してください。

0 DELETE

システムから、次のメッセージが表示されます。

```
BG 0000 L300I FORMATTING OF LIBRARY IJSYSR1 IN PROGRESS
BG 0000 L306I RESTORE OF LIBRARY IJSYSR1 IN PROGRESS
BG 0000 L325I RESTORE OF SUBLIBRARY IJSYSR1.SYSLIB IN PROGRESS
BG 0000 L326I RESTORE COMPLETE FOR LIBRARY IJSYSR1
BG 0000 SA09I SELECT ONE OF THE FOLLOWING PROGRAMS, OR TYPE END
BG 0000 SA10D FASTCOPY, RESTORE, ICKDSF, DITTO, REIPL
```

システム・ライブラリー IJSYSRS は、この時点でリストアされました。

テープからのインストール (**SCSI** ではない)

0 END

システム・ライブラリーのリストア (手動/LPAR モード)

テープからのインストール (SCSI)

```
0 REIPL
BG-0000 SA55D ENTER ADDRESS OF REIPL DEVICE PCUU
0 pccu

BG-0000 SA79D REIPL FROM SCSI? SPECIFY YES OR NO
0 YES
BG-0000 SA77D ENTER CUU OF SYSWK1
0 cuu
```

インストール・ディスクからのインストール

```
0 REIPL
BG-0000 SA55D ENTER ADDRESS OF REIPL DEVICE PCUU
0 pccu
BG-0000 SA57D CONTINUE MANUAL INSTALLATION? SPECIFY YES OR NO
```

- インストール・ディスクを使用して手動インストールを続行する場合は「YES」を指定します。
- ディスクからの手動インストールを終了する場合は「NO」を指定します。

```
BG-0000 SA79D REIPL FROM SCSI? SPECIFY YES OR NO
0 YES
BG-0000 SA77D ENTER CUU OF SYSWK1
0 cuu
```

ステップ 5 - DOSRES からの IPL の実行 (手動/LPAR モード)

このステップでは、z/VSE 提供の IPL プロシージャラーを使用します。ディスク・タイプに基づいて、適切な IPL プロシージャラーが自動的に選択されます。z/VSE が、ご使用のシステム用に適切なオプションを選択します。

通常、この作業では装置を追加する必要はありません。z/VSE 用の IPL プログラムは装置検知を使用して、システム上にある装置を自動的に定義します。したがって、IPL 時に定義する必要のある装置の電源はオンにしておく必要があります。初期インストールでは、最大 1024 台の装置しか使用できないので、ご注意ください。ユーザー環境に 1024 台を超える装置がある場合は、システムのインストールに不要な装置がどれかを識別し、それらの装置をインストール・プロセスの間は除外する必要があります。

装置を除外するには、次のようないくつかの選択があります。

1. 検知対象にしたくないデバイスの電源をオフにできます。
2. 装置の電源をオフにはしないことにした場合には、システムは作動可能な装置すべてを検知します。その場合、検知された装置の数が示され、**IPL DEL** コマンドを使用して不要な装置を削除するように要求されます。詳しくは、28 ページの『インストール時に発生する可能性のある問題』を参照してください。
3. 最大 1024 台の装置を含む IOCDS を使用できます。

必要な情報のうち検知されなかったものがある場合は、初期インストールの完了時にその装置を定義するよう要求されます (99 ページの『第 9 章 インストール 第 3 部 - LPAR モードおよび z/VM』)。

最小構成に必要な装置が検知されなかった場合は、その装置について IPL ADD コマンドを入力するよう要求されます。

DOSRES からの IPL の実行 (手動/LPAR モード)

注: システム・プリンターまたは端末プリンターをシステムに接続しておく必要があります。システムにプリンターの有無はチェックされませんが、プリンターは用意しておくことをお勧めします。 端末プリンターしか接続されていない場合は、z/VSE が稼働状態でないと、VSE システム・プリンターの出力を端末プリンターに送ることはできません。

注: SCSI 装置にインストールを行う場合、この時点で、ハードウェア・コンソールで SCSI パラメーターを再定義する必要があります。詳しくは、56 ページの『ステップ 1 - テープ/ディスクからの IPL の実行 (手動/LPAR モード)』を参照してください。

DOSRES からの IPL の実行

使用するプロセッサのタイプに応じて、56 ページの『ステップ 1 - テープ/ディスクからの IPL の実行 (手動/LPAR モード)』の記述にしたがって IPL を実行します。

IPL の実行が終了すると、システムはコンソールからの割り込みを待機する状態になります。

ENTER キーを押して次に進みます。

注: 問題が発生する場合は、28 ページの『インストール時に発生する可能性のある問題』を参照してください。

```
BG 0000 0I04I IPLDEV=X'pcuu',VOLSER=DOSRES,CPUID=xxxxxxxxxxx
BG 0000 0J01I IPL=$IPLExx ,JCL=$JCL7xx
BG 0000 $$A$SUPI,VSIZE=nnM,VPOOL=nnnK,VIO=nnnK,LOG, IODEV=1024
BG 0000 0I30I DATE=xx/xx/xxxx,CLOCK=yy/yy/yy,ZONE=nnnn/00/00
BG 0000 THE DATE VALUE FORMAT IS MM/DD/YYYY
BG 0000 0J47I CHANNEL SUBSYSTEM: nnnn DEVICE(S) FOUND OPERATIONAL.
BG 0000 ...
BG 0000 ...
BG 0000 ADD FDF,FBAV VIRTUAL DISK FOR LABEL AREA
BG 0000 ADD FEC,3505
BG 0000 ADD FFC,3505 ICCF DUMMY DEVICE DON'T DELETE
BG 0000 ...
BG 0000 ...(additional devices added)
BG 0000 ...
BG 0000 ADD FFF,CONS DEDICATED CONSOLE DON'T DELETE
BG 0000 DEF SYSCAT=DOSRES,SYSREC=SYSWK1

BG 0000 0J10I IPL RESTART POINT BYPASSED

BG 0000 0J99I DEVICE ADDRESS VSE ADDRESS ASSIGNED
BG 0000 1081 001
BG 0000 2000 002
BG 0000 2001 003
BG 0000 3081 004
BG 0000 9000 005
BG 0000 9001 006
BG 0000 SYS DASDFP=YES
BG 0000 SYS SEC=NO
BG 0000 SYS PASIZE=nnM
BG 0000 SYS SPSIZE=nK
BG 0000 SYS SERVPART=FB
BG 0000 DPD VOLID=DOSRES,CYL=xxx,NCYL=xx,TYPE=N,DSF=N
BG 0000 0I52I PDS EXT 01 ON cuu: LOW HIGH
BG 0000 CC HH: xxx x xxx xx4
BG 0000 PAGE NUMBER: x xxxx
BG 0000 DPD VOLID=DOSRES,CYL=xxx,TYPE=N,DSF=N
```

DOSRES からの IPL の実行 (手動/LPAR モード)

```
BG 0000 0I52I PDS EXT 02 ON cuu:          LOW          HIGH
BG 0000          CC HH:          xxx          x          xxx          xx
BG 0000          PAGE NUMBER:          xxxx          xxxxx
BG 0000          VIO START PAGE NUMBER:          xxxxx
BG 0000 0I52I LABEL AREA ON cuu:          LOW          HIGH
BG 0000          CC HH:          xx          x          xx          xx
BG 0000 SVA SDL=nnn,GETVIS=(nnnK,nM),PSIZE=(nnnK,nM)
BG 0000 0J24I DASD SHARING SUPPORT RESET
BG 0000 0J62I ACTUAL CHANQ IS nnn
BG 0000 0J83I ACTUAL SYSTEM TIME ZONE=EAST/00/00
BG 0000 0J69I ACTUAL SIZE OF PRIVATE AREA IS nnM
BG 0000          31-BIT SYSTEM GETVIS AREA ROUNDED BY 692K
BG 0000 0J73I ACTUAL NUMBER OF USER SDL ENTRIES IS xxx
AR 0030 VMCF10I VM/VSE INTERFACE INITIALIZED
BG 0000 0J39I ACTUAL BUFSIZE IS nnnn
BG 0000 0J76I software/hardware COMPRESSION INITIALIZED
BG 0000
0I26I $$BFCB23 LOADED          CUU=xxx
BG 0000 0I20I IPL COMPLETE FOR system identification
BG 0000          SUPVR USERID IS: .....
```

その他のメッセージ

システムによっては、次のメッセージが表示されることがあります。

```
BG 0000 4301I NO FORMAT 1 LABEL FOUND IJSYSCN SYSREC=xxx SYSWK1
BG 0000 1194I HARD COPY OPEN FAILED, HC=CREATE FORCED
BG 0000 ALLOC BG=xxxxK
BG 0000 SIZE BG=xxxxK
:
```

(さらに ALLOC および SIZE ステートメントがある場合は表示されます)

まだ VSE.CONTROL.FILE はないので、以下のメッセージが表示されます。

```
FB 0011 // JOB SECSERV
          DATE xx/xx/xxxx, CLOCK yy/yy/yy
FB 0074 4228I FILE IJSYSCT OPEN ERROR X'B4'(180) CAT=..N/A..
          (OPNCT-20) VOLUME 'DOSRES' NOT OWNED BY VSAM
FB 0074 4228I FILE IESCNTL OPEN ERROR X'B4'(180) CAT=VSESPUC (4,AD,2)
          (OPNHC-10) RC X'00000004' FROM CATLG
FB 0074 BST300E THE II CONTROL FILE COULD NOT BE OPENED.
```

このエラー・メッセージは通知のみで、引き続き処理が行われます。

```
BG 0000 STOP
F1 0001 // JOB POWSTART
```

ディスクから行う 2 回目以降の IPL

このステップをもう一度行くと、VSE/POWER の QUEUE.FILE、DATA.FILE、または ACCOUNT.FILE に関して、次のようなメッセージが表示される場合があります。

```
F1 0001 4733D EQUAL FILE ID IN VTOC ...
```

次のように入力してください。

1 DELETE

```
...
```

```
          DATE xx/xx/xxxx, CLOCK yy/yy/yy
```

```
F1 0001 1Q20I AUTOSTART IN PROGRESS
```

DOSRES からの IPL の実行 (手動/LPAR モード)

```
F1 0001 1R75I  BG AUTOSTARTED
F1 0001 1R75I  F2 AUTOSTARTED
F1 0001 1R75I  F3 AUTOSTARTED
F1 0001 1R75I  F4 AUTOSTARTED
F1 0001 1R75I  F5 AUTOSTARTED
F1 0001 1R88I  OK
F1 0001 1Q12I  VSE/POWER 9.2 INITIATION COMPLETED
F1 0001 1Q34I  F3 WAITING FOR WORK
F1 0001 1Q34I  F2 WAITING FOR WORK
F1 0001 1Q34I  F4 WAITING FOR WORK
F1 0001 1Q34I  F5 WAITING FOR WORK
BG 0000 * *****
BG 0000 *
BG 0000 *          INSTALLATION OF          *
BG 0000 * *****
BG 0000 *
BG 0000 *          z/VSE 6.2.x          xx/xx/xxxx *
BG 0000 *
BG 0000 * *****
BG 0000 * LICENSED MATERIALS - PROPERTY OF IBM *
BG 0000 * 5686-VS6 AND OTHER MATERIALS (C) COPYRIGHT*
BG 0000 * IBM CORP. 2017 AND OTHER DATES *
BG 0000 * US GOVERNMENT USERS RESTRICTED RIGHTS - *
BG 0000 * USE, DUPLICATION OR DISCLOSURE *
BG 0000 * RESTRICTED BY *
BG 0000 * GSA ADP SCHEDULE CONTRACT WITH IBM CORP. *
BG 0000 * *****
BG 0000 *
BG 0000 * *****
F3 0003 // JOB STARTF3
        DATE xx/xx/xxxx, CLOCK yy/yy/yy
F2 0002 // JOB STARTF2
        DATE xx/xx/xxxx, CLOCK yy/yy/yy
F4 0004 // JOB STARTF4
        DATE xx/xx/xxxx, CLOCK yy/yy/yy
F5 0005 // JOB STARTF5
        DATE xx/xx/xxxx, CLOCK yy/yy/yy
F3 0003 1N90I  EOP WAS FORCED BY EOJ
F3 0003 EOJ STARTF3
        DATE xx/xx/xxxx, CLOCK yy/yy/yy, DURATION  zz/zz/zz
F3 0001 1Q34I  F3 WAITING FOR WORK
F2 0002 1N90I  EOP WAS FORCED BY EOJ
F2 0002 EOJ STARTF2
        DATE xx/xx/xxxx, CLOCK yy/yy/yy, DURATION  zz/zz/zz
F2 0001 1Q34I  F2 WAITING FOR WORK
F4 0004 1N90I  EOP WAS FORCED BY EOJ
F4 0004 EOJ STARTF4
        DATE xx/xx/xxxx, CLOCK yy/yy/yy, DURATION  zz/zz/zz
F4 0001 1Q34I  F4 WAITING FOR WORK
F5 0005 1N90I  EOP WAS FORCED BY EOJ
F5 0005 EOJ STARTF5
        DATE xx/xx/xxxx, CLOCK yy/yy/yy, DURATION  zz/zz/zz
F5 0001 1Q34I  F5 WAITING FOR WORK
BG 0000 1S47I  PRELEASE RDR, INSTALL
BG 0000 1N90I  EOP WAS FORCED BY EOJ
BG 0000 EOJ BGINIT  MAX.RETURN CODE=xxxx
        DATE xx/xx/xxxx,CLOCK yy/yy/yy,DURATION zz/zz/zz
```

インストールの続き

インストールを引き続き行うには、83 ページの『第 8 章 インストール 第 2 部 - 詳細説明 - LPAR モードおよび z/VM』を参照してください。初期インストールの第 2 部は、どのユーザーでも同じ作業となります。

第 7 章 手動インストール 第 1 部 - VM のもとでのインストール

このセクションでは、z/VM のもとで z/VSE をインストールする方法について説明します。

このセクションの情報は、IBM Knowledge Center に用意されている z/VM オンライン製品資料に対する補足になります。z/VSE ゲスト・システムの計画および使用に関する詳細があります。

z/VSE は、VM のどのバージョン (サポートされているもの) のもとでも、ゲスト・システムとしてインストールし使用することができます。こういった複合環境においては、次のことが可能です。

- z/VSE ゲスト・システムに対して定義された ID とパスワードで VM にログオンする。こうすると、ユーザーの端末を z/VSE のコンソールとして使用することができます。
- z/VSE システムをダイヤルで呼び出し、対話式インターフェースが提供する機能を使用する。
- CMS にログオンして、z/VSE と対話する。z/VSE には、CMS ユーザーが z/VSE システムを操作できるようにする VM/VSE インターフェースが用意されています。これについては、135 ページの『第 11 章 VM/VSE インターフェース・ルーチンのインストール - (VM のみ)』を参照してください。

注: このセクションでいう『仮想マシン・コンソール』とは、各 VM ユーザー用に定義された装置のことを指します。また、『z/VSE コンソール』は、z/VSE の操作を制御するために使用する z/VSE システム・コンソールのことを指します。

準備作業 (手動/VM のもとで)

VM のもとで z/VSE をインストールするには、z/VSE ゲスト・システムを VM に認識させる必要があります。また、VM のもとでディスクを初期化する場合は、まず、そのディスクを各自のユーザー ID 専用にしてから (CP ATTACH コマンドを使用します)、初期化を行う必要があります。ディスク装置は、専用ディスクとしても、またミニディスクとしても、使用することが可能です。

VM のもとで z/VSE のインストールを開始する前に、計画および準備作業がいろいろと必要です。「IBM z/VSE 計画」にある『VM のもとでの z/VSE の稼働』を必ず読んでおいてください。

ステップ 1 - テープ/ディスクからの IPL の実行 (手動/VM のもとで)

テープからのインストール

VSEvrmEN.AWS から作成した z/VSE 6.2 基本テープをマウントします。このテープは、指示があるまで位置変更したり取り外したりしないでください。

テープからの IPL の実行 (手動/z/VM のもとで)

インストール・ディスクからのインストール
次のステップに進みます。

z/VSE の初期インストールのために VM システムを準備するには、以下のステップに従ってください。

コンソール・モードを定義するには、CP モードで次のように入力します。

TERM CON 3270

端末を VM に定義するには、CP モードで次のように入力します。

DEF GRAF *pcuu* (*pcuu* - 物理端末アドレス)

定義したい端末がまだユーザーの VM ディレクトリーに定義されていない場合、未定義の端末分だけ、このコマンドを繰り返し入力します。

ストレージは、少なくとも 64 MB は定義する必要があります。最大値は 32 GB です。CP モードで次のように入力してください。

DEF STOR *xxxM* または DEF STOR *xxG* (*xxx* に指定したいストレージの値を入れる。)

SCSI ディスク装置の場合、SCSI ディスクにアクセスするために必要な定義を SET LOADDEV コマンドを使用して入力する必要があります。例えば、

```
SET LOADDEV PORT 50050763 00C69A76 LUN 57050000 00000000
```

IPL を実行するには、CP モードで次のように入力します。

IPL *pcuu* (*pcuu* は z/VSE テープまたはインストール・ディスクが入っているドライブの物理アドレスで、SCSI インストールの場合、*pcuu* は FCP 装置のアドレス)

すべてのパラメーターを入力し終わったら、**ENTER** キーを押します。

ステップ 2 - インストールの開始 (手動/VM のもとで)

IPL の実行が終了すると、システムはコンソールからの割り込みを待機する状態になります。 **ENTER** キーを押して次に進みます。

注: 問題が発生する場合は、28 ページの『インストール時に発生する可能性のある問題』を参照してください。

IPL が終了した後でシステム・コンソールに最初に表示されるシステム・プロンプトは次のプロンプトです。

```
BG 0000 SI01D DO YOU WANT TO DO AN AUTOMATIC INSTALLATION (YES/NO)?
```

0 NO

手動インストールを行うには、**NO** と応答します。

```
BG 0000 SA01I ***** STAND ALONE PROGRAMS LOADED *****  
BG 0000 SA02D IF YOU WANT A LISTING,SPECIFY PCUU OF PRINTER, ELSE (ENTER)
```

0

リストが必要な場合は、プリンターの物理アドレス (例えば、0 100e) を指定してください。不要であれば、0 を入力してください。指定したプリンターを検知できない場合には、メッセージ SA04I、SA05I、および SA06D が表示され、ユーザーに正しい装置タイプの入力を求めます。

物理装置アドレスが X'FFF' より大きい場合、次のメッセージで物理装置アドレスおよび対応する VSE アドレスが表示されます。

```
BG 0000 SA07I THE PHYSICAL DEVICE ADDRESS pcuu CORRESPONDS TO THE ADDRESS cuu
USED BY VSE
```

その場合ユーザーは、プリンターの装置タイプを指定する必要があります。

```
BG 0000 SA03D DEVICE TYPE IS xxxxyy. ACCEPT (ENTER) OR SPECIFY ALTERNATE TYPE
```

これが、指定したい装置タイプであれば、次のように入力します。

0

PRT1 に対してサポートされている装置タイプ・コードを含め、サポートされている装置タイプ・コードの完全なリストについては、「z/VSE System Control Statements」を参照してください。

```
BG 0000 SA08D DATE IS mm/dd/yyyy. ACCEPT DATE (ENTER) OR SPECIFY
DATE MM/DD/YYYY
```

日付を変更する場合には、2桁の月および日と4桁の年を斜線で区切る形式で入力してください。変更しない場合は、0 を入力します。

0 mm/dd/yyyy

SCSI 装置にインストールを行う場合、SCSI 定義に関連するメッセージを受け取ります。SCSI 装置を使用しない場合、これらのメッセージは表示されません。

```
BG 0000 SA70D IF YOU WANT TO USE SCSI DEVICES SPECIFY YES, ELSE NO
```

SCSI にインストールしない場合

0 NO

SCSI にインストールする場合

0 YES

```
BG 0000 SA75I ENTER SCSI COMMAND OR ENTER
BG 0000 SA80D SCSI,FBA=CUU,FCP=PCUU,WPN=PORTNAME,LUN=LUN
```

注:

1. SCSI 装置アドレスは、X'FFF' 以下である必要があります。
2. DEL コマンドで削除された装置アドレスは SCSI DOSRES 装置 SCSI SYSWK1 装置として再利用できません。

例:

0 SCSI,FBA=602,FCP=14A3,WPN=5005076300CA9A76,LUN=5703000000000000

```
BG 0000 SA07I THE PHYSICAL DEVICE ADDRESS 14A3 CORRESPONDS TO THE ADDRESS 140
USED BY VSE
```

テープからの IPL の実行 (手動/z/VM のもとで)

```
AR 0033 0S45I SCSI DEVICE 602 CONSISTS OF 19531264 BLOCKS, 19522902 BLOCKS ARE
AVAILABLE, 170 BLOCKS ARE UNUSED
BG 0000 SA85D MORE SCSI DEFINITIONS NEEDED? YES OR NO
```

0 YES

```
BG 0000 SA75I ENTER SCSI COMMAND OR ENTER
BG 0000 SA80D SCSI,FBA=CUU,FCP=PCUU,WPN=PORTNAME,LUN=LUN
```

例:

0 SCSI,FBA=605,FCP=14A2,WPN=5005076300CE9A76,LUN=570D000000000000

```
BG 0000 SA07I THE PHYSICAL DEVICE ADDRESS 14A2 CORRESPONDS TO THE ADDRESS 141
USED BY VSE
AR 0033 0S45I SCSI DEVICE 605 CONSISTS OF 03906304 BLOCKS, 03897432 BLOCKS ARE
AVAILABLE, 680 BLOCKS ARE UNUSED
BG 0000 SA62I A MAXIMUM OF TWO SCSI DEVICES IS ACCEPTED. PROCESSING CONTINUES
```

SCSI へのインストールの終了

```
BG 0000 SA09I SELECT ONE OF THE FOLLOWING PROGRAMS, OR TYPE END
BG 0000 SA10D FASTCOPY, RESTORE, ICKDSF, DITTO, REIPL
```

0 ICKDSF

次のメッセージは、現在、VSE アドレスの入力が必要なこと、および QUERY IO コマンドによる VSE アドレスの表示方法を通知します。コマンドについて詳しくは、「z/VSE System Control Statements」を参照してください。

```
BG 0000 SA60I ***** FOR THE ICKDSF UTILITY YOU NEED TO SPECIFY VSE DEVICE
ADDRESSES WHICH YOU CAN FIND BY USING THE QUERY IO COMMAND. *****
BG 0000 ICKDSF-VSE DEVICE SUPPORT FACILITIES 17.0 TIME
BG 0000 xx/xx/xx MM/DD/YYYY
BG 0000 ENTER INPUT COMMAND:
```

次に要求される入力は、『ステップ 3 - ディスクの初期化および VTOC の配置 (手動/z/VM のもとで)』で説明されている INIT UNIT コマンドです。

ステップ 3 - ディスクの初期化および VTOC の配置 (手動/z/VM のもとで)

z/VSE のインストールに関しては、INIT コマンドを使用して DOSRES と SYSWK1 という 2 つのディスク装置を初期化する必要があります。まず、ボリューム DOSRES を初期化し、次にボリューム SYSWK1 を初期化します。

注: データ・ボリュームは、必要に応じていくつでも初期化して、それぞれに独自の名前を付けることができます。

また、VTOC を配置する必要があります。VTOC を配置する位置としては、ディスク・パックの中心のあたりか、末尾のあたりかを選択することができます。

装置サポート機能プログラムで新しい ECKD ディスクを初期化する場合、あるいは別のオペレーティング・システム (例えば、z/OS) のもとで使用されていた ECKD ディスクを初期化する場合には、そのプログラムで、そのディスクの各トラックのホーム・アドレスおよびレコード 0 の妥当性検査と再書き込みを行わなければなりません。

この場合、ディスクを正しく初期化するには、**INIT** コマンドにパラメーター (VALIDATE、CHECK) を追加する必要があります。必要なパラメーターを指定しておかないと、リストアしたシステムに後で IPL を実行するときに、問題が生じることがあります。なお、**validate** はすべてのディスク装置で使用できるわけではないのでご注意ください。

INIT コマンドの使い方はよく確認しておいてください。特に次の場合には注意が必要です。

- 初めて初期化されるディスクを初期化する場合。
- 直前まで VSE 以外のシステムで使用されていたディスクを初期化する場合。
- エミュレーション・モードからディスク固有モードに切り替える場合。

注: **INIT** コマンドの入力の際に画面上で 70 文字を超えてしまった場合は、継続文字としてダッシュ (-) を使用します。システムは超えてしまった分の情報を入力するよう要求します。

VTOC スペースを減らす方法については、「IBM z/VSE 計画」の『ストレージとチューニングに関する推奨事項』を参照してください。事前定義値では、最大 230 ラベルまでは受け入れることができます。

ディスクの初期化 (VTOC をボリュームの中心に配置する場合)

以下の **INIT** コマンドは、ディスク装置の真ん中あたりの推奨位置に VTOC を設置します。

DOSRES と SYSWK1 の場合で、位置は異なることに注意してください。このため、DOSRES 用と SYSWK1 用に 1 つずつ、別の 2 つのコマンドを入力する必要があります。*cuu* には、それぞれの VSE アドレスを入れます。

FBA 装置:

```
0 INIT UNIT(cuu) NVFY NOMAP PURGE FBAVTOC(125440,228,8192)
VOLID(DOSRES)
```

```
0 INIT UNIT(cuu) NVFY NOMAP PURGE FBAVTOC(306176,228,8192)
VOLID(SYSWK1)
```

IBM 3390 (ECKD 装置):

```
0 INIT UNIT(cuu) NVFY NOMAP PURGE DOSVTOC(208,11,4) VOLID(DOSRES)
```

```
0 INIT UNIT(cuu) NVFY NOMAP PURGE DOSVTOC(301,11,4) VOLID(SYSWK1)
```

適切な入力コマンドを入力したら、以下のメッセージに対して U と応答し、コマンド処理を続行します。

```
BG 0000 ICK003D REPLY U TO ALTER VOLUME cuu CONTENTS, ELSE T
```

```
0 U
```

```
BG 0000 ICK01314I VTOC IS LOCATED AT CCHH=X'nnnn nnnn' AND IS nn TRACKS.
BG 0000 ICK00001I FUNCTION COMPLETED, HIGHEST CONDITION CODE WAS nn
ENTER INPUT/COMMAND:
```

ディスクの初期化 (手動/z/VM のもとで)

ICKDSF コマンド処理から抜け出し、独立型ユーティリティーの選択に戻るには、次のように入力します。

0 END

BG 0000 ICK00002I ICKDSF PROCESSING COMPLETE. MAXIMUM CONDITION CODE WAS 0

ディスクの初期化 (VTOC をボリュームの末尾に配置)

以下の INIT コマンドは、ディスク装置の VTOC 終了を設置します。DOSRES と SYSWK1 の場合で、位置は異なることに注意してください。このため、DOSRES 用と SYSWK1 用に 1 つずつ、別の 2 つのコマンドを入力する必要があります。cuu には、それぞれの VSE アドレスを入れます。

注:

1. ICKDSF の制限により、4369 シリンダーを超える大容量のディスクは、ボリュームの終わりにある VTOC を使用して初期化できません。
2. FBA 装置の場合、VTOC をボリュームの終わりに置くことは推奨されません。このことは、システム装置とデータ装置の両方に当てはまります。
3. VTOC がディスク・パックの末尾にある FBA のミニディスクの初期化は、VTOC がディスク・パックの末尾にある専用ディスクを初期化する場合と同じです。
4. SCSI ディスク装置を含む FBA ディスクでは、ディスクのブロック数が、いわゆるアクチュエーター・ファイルの倍数、つまり 8*777 の倍数であることを確かめてください。ブロック数が倍数になっていない場合、VTOC をボリュームの終わりに置くと、システムが VTOC を読みとれないため問題が生じます。
5. IPL SYS コマンドの DASDFP オペランドも VTOC 読み取りに影響します。このオペランドは、出荷時には、YES に設定されており、FBAVTOC(END) の場合は 8*777 の倍数が必要です。これを NO (DASDFP=NO) に設定した場合、(ファイル保護は犠牲になりますが) 必ずしも 8*777 の倍数でなくても、FBAVTOC(END) を使用できます。

FBA 装置:

**0 INIT UNIT(cuu) NVFY NOMAP PURGE FBAVTOC(END)
VOLID(DOSRES)**

**0 INIT UNIT(cuu) NVFY NOMAP PURGE FBAVTOC(END)
VOLID(SYSWK1)**

IBM 3390 (ECKD 装置):

**0 INIT UNIT(cuu) NVFY NOMAP PURGE DOSVTOC(END)
VOLID(DOSRES)**

**0 INIT UNIT(cuu) NVFY NOMAP PURGE DOSVTOC(END)
VOLID(SYSWK1)**

以下のメッセージに対して U と応答し、コマンド処理を続行します。

BG 0000 ICK003D REPLY U TO ALTER VOLUME cuu CONTENTS, ELSE T

0 U

BG 0000 ICK01314I VTOC IS LOCATED AT CCHH=X'nnnn nnnn' AND IS nn TRACKS.
 BG 0000 ICK00001I FUNCTION COMPLETED, HIGHEST CONDITION CODE WAS nn
 ENTER INPUT/COMMAND:

ICKDSF コマンド処理から抜け出し、独立型ユーティリティーの選択に戻るには、次のように入力します。

0 END

その他のメッセージ

以前に使用したディスク装置にインストールすると、システムが以下のメッセージを出します。

ICK001D CONFIRM PURGING OF UNEXPIRED DATA SETS, REPLY U TO PURGE, ELSE T

0 U

ICK019D CONFIRM PURGING OF ALL VSAM FILES, REPLY U TO PURGE, ELSE T

0 U

ステップ 4 - システム・ライブラリー IJSYSRS のリストア (手動/z/VM のもとで)

このステップでは、システム・ライブラリー IJSYSRS (IJSYSR1) をリストアします。次のシステム・プロンプトおよびメッセージが表示されます。

BG 0000 SA09I SELECT ONE OF THE FOLLOWING PROGRAMS, OR TYPE END
 BG 0000 SA10D FASTCOPY, RESTORE, ICKDSF, DITTO, REIPL

0 RESTORE

テープからのインストール

メッセージ SA11D が表示されます。

BG 0000 SA11D SPECIFY ADDRESS OF INPUT DEVICE PCUU

0 *pcuu*

(*pcuu* - z/VSE テープがマウントされているテープ装置のアドレス)

インストール・ディスクからのインストール

メッセージ SA11D の前にメッセージ SA32I が表示されます。

BG 0000 SA32I INSTALLATION DISK WAS ASSIGNED TO VIRTUAL TAPE cuu
 FOR RESTORE FROM INSTALLATION DISK SPECIFY cuu AS INPUT DEVICE PCUU

BG-0000 SA11D SPECIFY ADDRESS OF INPUT DEVICE PCUU

0 *pcuu*

(メッセージ SA32I に表示されている *pcuu* を指定します)

テープまたはインストール・ディスクからのインストール

物理装置アドレスが X'FFF' より大きい場合、次のメッセージで物理装置アドレスおよび対応する VSE アドレスが表示されます。

BG 0000 SA07I THE PHYSICAL DEVICE ADDRESS *pcuu* CORRESPONDS TO THE ADDRESS *cuu*
 USED BY VSE

BG 0000 SA03D DEVICE TYPE IS xxxxyy. ACCEPT (ENTER) OR SPECIFY ALTERNATE TYPE

システム・ライブラリーのリストア (手動/z/VM のもとで)

0

すると、次のメッセージが表示されます。

BG 0000 SA13D TAPE MODE IS XX. ACCEPT (ENTER) OR SPECIFY ALTERNATE MODE YY

0

SYSRES ボリュームの内容をリストアする場合は、使用しているテープ装置のタイプに関係なく、必ずこのデフォルトを使用してください。

BG 0000 SA15D FOR TAPE LABEL CHECKING SPECIFY // TLBL, ELSE (ENTER)

0

BG 0000 SA16D SPECIFY ADDRESS OF SYSRES DISK PCUU

0 *pcuu*

(*pcuu*- DOSRES のアドレス)

物理装置アドレスが X'FFF' より大きい場合、次のメッセージで物理装置アドレスおよび対応する VSE アドレスが表示されます。

BG 0000 SA07I THE PHYSICAL DEVICE ADDRESS *pcuu* CORRESPONDS TO THE ADDRESS *cuu* USED BY VSE

BG 0000 SA03D DEVICE TYPE IS *xxxxyy*. SPECIFY ALTERNATE TYPE, OR ACCEPT (ENTER)

0

BG 0000 L302A ENTER YES TO RESTORE SYSRES FILE IJSYSR1 OR NO TO SKIP TO NEXT SYSRES

0 YES

BG 0000 L315I ORIGINAL FILE ID= VSE.SYSRES.LIBRARY
L316A ENTER YES TO KEEP OR NO TO RESPECIFY THE SYSRES FILE ID

0 YES

以下のプロンプトに対して、**NO** と応答しなければなりません。

BG 0000 L309I ORIGINAL ALLOCATION= *xxxx*

BG 0000 L310A ENTER YES TO KEEP OR NO TO RESPECIFY THE ALLOCATION

0 NO

次のシステム・プロンプトに対して、以下の表の値を使用して応答してください。

ディスク装置タイプ	割り振りする値 (xxxxx)
3390 の場合 (3390 モード)	899
汎用 FBA ディスク	59390

BG 0000 L312I MINIMUM ALLOCATION= *xxx*

BG 0000 L304I ENTER THE DESIRED ALLOCATION AS NUMBER OF

BG 0000 L313A ALLOC=

0 *xxxxx*

BG 0000 L329A ENTER YES TO RESTORE ALL SUBLIBRARIES OR NO FOR SELECTIVE RESTORE

0 YES

システム・ライブラリーのリストア (手動/z/VM のもとで)

```
BG 0000 L338I SUMMARY OF RESTORE PARAMETERS:
BG 0000 L318I FILE NAME = IJSYSR1
BG 0000 L319I FILE ID = VSE.SYSRES.LIBRARY.xxx
BG 0000 L321I ALLOCATION= xxxx ....
BG 0000 L344I START= ..... - END= ....
BG 0000 L327I RESTORE ALL SUBLIBRARIES
BG 0000 L322A ENTER YES IF THE SPECIFICATION IS CORRECT OR NO TO RESPECIFY
```

0 YES

リストアのやり直し

このステップをやり直して、次のメッセージが出されたとします (xxxxxxx はファイル名です)。

```
BG 0000 L324I EQUAL FILE ID IN VTOC xxxxxxxx ...
BG 0000 L319I FILE ID=id
BG 0000 L330A TYPE CANCEL OR DELETE
```

この場合は、次のように入力してください。

0 DELETE

システムから、次のメッセージが表示されます。

```
BG 0000 L300I FORMATTING OF LIBRARY IJSYSR1 IN PROGRESS
BG 0000 L306I RESTORE OF LIBRARY IJSYSR1 IN PROGRESS
BG 0000 L325I RESTORE OF SUBLIBRARY IJSYSR1.SYSLIB IN PROGRESS
BG 0000 L326I RESTORE COMPLETE FOR LIBRARY IJSYSR1
BG 0000 SA09I SELECT ONE OF THE FOLLOWING PROGRAMS, OR TYPE END
BG 0000 SA10D FASTCOPY, RESTORE, ICKDSF, DITTO, REIPL
```

システム・ライブラリー IJSYSRS は、この時点でリストアされました。

テープからのインストール (SCSI ではない)

0 END

テープからのインストール (SCSI)

```
0 REIPL
BG-0000 SA55D ENTER ADDRESS OF REIPL DEVICE PCUU
0 pcuu

BG-0000 SA79D REIPL FROM SCSI? SPECIFY YES OR NO
0 YES
BG-0000 SA77D ENTER CUU OF SYSWK1
0 cuu
```

インストール・ディスクからのインストール

```
0 REIPL
BG-0000 SA55D ENTER ADDRESS OF REIPL DEVICE PCUU
0 pcuu
BG-0000 SA57D CONTINUE MANUAL INSTALLATION? SPECIFY YES OR NO
```

- インストール・ディスクを使用して手動インストールを続行する場合は「YES」を指定します。
- ディスクからの手動インストールを終了する場合は「NO」を指定します。

```
BG-0000 SA79D REIPL FROM SCSI? SPECIFY YES OR NO
0 YES
BG-0000 SA77D ENTER CUU OF SYSWK1
0 cuu
```

ステップ 5 - DOSRES からの IPL の実行 (手動/z/VM のもとで)

このステップでは、z/VSE 提供の IPL プロシージャーを使用します。ディスク・タイプと CPU モードに基づいて、適切な IPL プロシージャーが自動的に選択されます。z/VSE が、ご使用のシステム用に適切なオプションを選択します。

通常、この作業では装置を追加する必要はありません。z/VSE 用の IPL プログラムは装置検知を使用して、システム上にある装置を自動的に定義します。初期インストールでは、最大 1024 台の装置しか使用できないことに注意してください。ユーザー環境に 1024 台を超える装置がある場合は、システムのインストールに不要な装置がどれかを識別し、それらの装置をインストール・プロセスの間は除外する必要があります。

装置を除外するには、次のようないくつかの選択があります。

1. 検知対象にしたくない装置を z/VM ゲストから切り離すことができます。
2. 装置を切り離さない場合は、システムが作動可能な装置すべてを検知します。その場合、検知された装置の数が表示され、**IPL DEL** コマンドを使用して余分な装置を削除するよう要求されます。詳しくは、28 ページの『インストール時に発生する可能性のある問題』を参照してください。
3. 最大 1024 台の装置を含む IOCDS を使用できます。

必要な情報のうち検知されなかったものがある場合は、初期インストールの完了時にその装置を定義するよう要求されます (99 ページの『第 9 章 インストール 第 3 部 - LPAR モードおよび z/VM』)。

最小構成に必要な装置が検知されなかった場合は、その装置について **IPL ADD** コマンドを入力するよう要求されます。

注: SCSI 装置にインストールを行う場合、**REIPL** がすでに実行されているため、システムの **IPL** を行う必要はありません。

DOSRES のアドレスから IPL を実行

CP モードで次のように入力します。

IPL pcuu

(*pcuu* - DOSRES の物理アドレス)

IPL の実行が終了すると、システムはコンソールからの割り込みを待機する状態になります。

ENTER キーを押して次に進みます。

注: 問題が発生する場合は、28 ページの『インストール時に発生する可能性のある問題』を参照してください。

```
BG 0000 0I04I IPLDEV=X'pcuu',VOLSER=DOSRES,CPUID=xxxxxxxxxxxx
BG 0000 0J01I IPL=$IPLExx ,JCL=$$JCL7xx
BG 0000 $$A$SUPI,VSIZE=nnM,VPOOL=nnnK,VIO=nnnK,LOG,IODEV=1024
BG 0000 0I30I DATE=xx/xx/xxxx,CLOCK=yy/yy/yy,ZONE=nnnn/00/00
BG 0000 THE DATE VALUE FORMAT IS MM/DD/YYYY
BG 0000 0J47I CHANNEL SUBSYSTEM: nnnn DEVICE(S) FOUND OPERATIONAL.
BG 0000 ...
BG 0000 ...
```

DOSRES からの IPL の実行 (手動/z/VM のもとで)

```
BG 0000 ADD FDF,FBAV VIRTUAL DISK FOR LABEL AREA
BG 0000 ADD FEC,3505
BG 0000 ADD FFC,3505 ICCF DUMMY DEVICE DON'T DELETE
BG 0000      ...
BG 0000      ... (additional devices added)
BG 0000      ...
BG 0000 ADD FFF,CONS      DEDICATED CONSOLE DON'T DELETE
BG 0000 DEF SYSCAT=DOSRES,SYSREC=SYSWK1

BG 0000 0J10I IPL RESTART POINT BYPASSED
BG 0000 SVA PSIZE=nnnK,SDL=nnn,GETVIS=nnK
BG 0000 0J24I DASD SHARING SUPPORT RESET
BG 0000 0J62I ACTUAL CHANQ IS nnn
BG 0000 0J69I ACTUAL SIZE OF PRIVATE AREA IS xxxxxx
BG 0000 0I20I IPL COMPLETE FOR system identification
BG 0000      SUPVR USERID IS: Z.VSE.SUPI
BG 0000 VMCF10I CMS-Z/VSE CONSOLE INTERFACE ACTIVATED
BG 0000 0J39I ACTUAL BUFSIZE IS nnnn
BG 0000 0J76I software/hardware COMPRESSION INITIALIZED
BG 0000 PRTY BG,FA,F9,F8,F6,F5,F4,F2,F7,F3,FB,F1
BG 0000 // JOB BGINIT
      DATE xx/xx/xxxx,CLOCK yy/yy/yy
BG 0000 1193I RECORDER FILE IS  n% FULL
```

その他のメッセージ

システムによっては、次のメッセージが表示されることがあります。

```
BG 0000 4301I NO FORMAT 1 LABEL FOUND  IJSYSCN SYSREC=xxx SYSWK1
BG 0000 1194I HARD COPY OPEN FAILED, HC=CREATE FORCED
BG 0000 ALLOC BG=xxxxK
      SIZE  BG=xxxxK
:
      (さらに ALLOC および SIZE ステートメントがある場合は表示されます)
:
```

まだ VSE.CONTROL.FILE はないので、以下のメッセージが表示されます。

```
FB 0011 // JOB SECSERV
      DATE xx/xx/xxxx, CLOCK yy/yy/yy
FB 0058 4228I FILE IJSYSCT  OPEN ERROR X'B4'(180) CAT=..N/A..
      (OPNCT-20) VOLUME 'DOSRES' NOT OWNED BY VSAM
FB 0058 4228I FILE IESCNTL  OPEN ERROR X'B4'(180) CAT=VSESPUC ( 4,AD, 2)
      (OPNHC-10) RC X'00000004' FROM CATLG
FB 0074 4228I FILE BSTCNTL  OPEN ERROR X'B4'(180) CAT=VSESPUC ( 4,AD, 2)
      (OPNHC-10) RC X'00000004' FROM CATLG
FB 0058 BST300E THE II CONTROL FILE COULD NOT BE OPENED.
```

このエラー・メッセージは通知のみで、引き続き処理が行われます。

```
BG 0000 STOP
F1 0001 // JOB POWSTART
```

ディスクから行う 2 回目以降の IPL

このステップをもう一度行くと、VSE/POWER の QUEUE.FILE、DATA.FILE、または ACCOUNT.FILE に関する、次のようなメッセージが表示される場合があります。

```
F1 0001 4733D EQUAL FILE ID IN VTOC .....
```

次のように入力してください。

1 DELETE

:

DOSRES からの IPL の実行 (手動/z/VM のもとで)

```

:
DATE xx/xx/xxxx,CLOCK yy/yy/yy

F1 0001 1Q20I  AUTOSTART IN PROGRESS
F1 0001 1R75I  BG AUTOSTARTED
F1 0001 1R75I  F2 AUTOSTARTED
F1 0001 1R75I  F3 AUTOSTARTED
F1 0001 1R75I  F4 AUTOSTARTED
F1 0001 1R75I  F5 AUTOSTARTED
F1 0001 1R88I  OK
F1 0001 1Q12I  VSE/POWER 9.2 INITIATION COMPLETED
F1 0001 1Q34I  F3 WAITING FOR WORK
F1 0001 1Q34I  F2 WAITING FOR WORK
F1 0001 1Q34I  F4 WAITING FOR WORK
F1 0001 1Q34I  F5 WAITING FOR WORK
BG 0000 * *****
BG 0000 *
BG 0000 *          INSTALLATION OF          *
BG 0000 * *****
BG 0000 *
BG 0000 *          z/VSE 6.2.x          xx/xx/xxxx *
BG 0000 *
BG 0000 * *****
BG 0000 * LICENSED MATERIALS - PROPERTY OF IBM *
BG 0000 * 5686-VS6 AND OTHER MATERIALS (C) COPYRIGHT*
BG 0000 * IBM CORP. 2017 AND OTHER DATES *
BG 0000 * US GOVERNMENT USERS RESTRICTED RIGHTS - *
BG 0000 * USE, DUPLICATION OR DISCLOSURE *
BG 0000 * RESTRICTED BY *
BG 0000 * GSA ADP SCHEDULE CONTRACT WITH IBM CORP. *
BG 0000 * *****
BG 0000 *
BG 0000 * *****
F3 0003 // JOB STARTF3
DATE xx/xx/xxxx, CLOCK yy/yy/yy
F2 0002 // JOB STARTF2
DATE xx/xx/xxxx, CLOCK yy/yy/yy
F4 0004 // JOB STARTF4
DATE xx/xx/xxxx, CLOCK yy/yy/yy
F5 0005 // JOB STARTF5
DATE xx/xx/xxxx, CLOCK yy/yy/yy
F3 0003 1N90I  EOP WAS FORCED BY EOJ
F3 0003 EOJ STARTF3
DATE xx/xx/xxxx, CLOCK yy/yy/yy, DURATION  zz/zz/zz
F3 0001 1Q34I  F3 WAITING FOR WORK
F2 0002 1N90I  EOP WAS FORCED BY EOJ
F2 0002 EOJ STARTF2
DATE xx/xx/xxxx, CLOCK yy/yy/yy, DURATION  zz/zz/zz
F2 0001 1Q34I  F2 WAITING FOR WORK
F4 0004 1N90I  EOP WAS FORCED BY EOJ
F4 0004 EOJ STARTF4
DATE xx/xx/xxxx, CLOCK yy/yy/yy, DURATION  zz/zz/zz
F4 0001 1Q34I  F4 WAITING FOR WORK
F5 0005 1N90I  EOP WAS FORCED BY EOJ
F5 0005 EOJ STARTF5
DATE xx/xx/xxxx, CLOCK yy/yy/yy, DURATION  zz/zz/zz
F5 0001 1Q34I  F5 WAITING FOR WORK
BG 0000 1S47I  PRELEASE RDR INSTALL
BG 0000 1N90I  EOP WAS FORCED BY EOJ
BG 0000 EOJ BGINIT  MAX.RETURN CODE=xxxx
DATE xx/xx/xxxx,CLOCK yy/yy/yy,DURATION zz/zz/zz

```

インストールの続き

z/VSE のインストールを引き続き行うには、83 ページの『第 8 章 インストール 第 2 部 - 詳細説明 - LPAR モードおよび z/VM』を参照してください。初期イン

ストールの第 2 部は、どのユーザーでも同じ作業となります。

第 8 章 インストール 第 2 部 - 詳細説明 - LPAR モードおよび z/VM

インストールの第 2 部では、z/VSE の初期インストールを引き続き行う方法について説明します。z/VSE を LPAR モードでインストールするユーザーであっても、VM のもとでインストールするユーザーであっても、同じ作業となります。

インストールの第 2 部には、ユーザーの応答が必要なステップが多く含まれています。ユーザーの応答が必要なステップには、アスタリスク (*) が付けてあります。それ以外のステップはすべて、自動的に実行されます。その場合、ユーザーはなにも応答を入力する必要はありません。

次に、インストール 第 2 部の主なステップを示します。

- システム環境の選択 (*)
- セキュリティーの選択 (*)
- 通信アクセス方式の選択 (*)
- プリンターの始動 (*)
- システム・ヒストリー・ファイルのリストア
- VSE/VSAM のカタログ、スペース、クラスターの定義
- VSE/VSAM ライブラリーおよびサブライブラリーの定義
- VSE/ICCF DTSFILE のリストア
- z/VSE 基本プログラムのインストール
- VTAM および CICS の開始

経験を積んだ z/VSE ユーザーであれば、35 ページの『インストール 第 2 部』を参照し、そこにある説明に従って z/VSE をインストールできます。

ジョブ・ストリーム処理

最初に行うインストール・ジョブの 1 つに、ハードウェア構成とソフトウェア構成に関する情報の収集があります。使用するシステムについての情報を入力してください。

一定の間隔をおいて、作業を続けるかどうかの確認が行われます。続ける場合は、YES と入力します。NO と入力すると、最後に YES と入力した時点まで戻ります。最初の確認で NO と入力すると、インストール・ジョブ・ストリームの開始点まで戻ります。

インストール・ジョブ・ストリームは、ジョブ管理の初期化を行い、制御されたジョブ管理シーケンスを開始します。ジョブ管理が制御権をもっているときに何か問題が生じた場合は、139 ページの『付録 A. ジョブ管理の概説』を参照してください。

インストール・ジョブ・ストリーム (INSTALL) そのものが取り消された場合は、もう一度実行し直すことができます。次のように入力してください。

R RDR,INSTALL

ジョブ実行時に表示されるメッセージについては、「IBM z/VSE メッセージおよびコード 第 1 巻」を参照してください。

z/VSE のインストール・プログラムの実行

```
BG 0001 1Q47I  BG INSTALL xxxxx FROM (SYSA), TIME=yy:yy:yy
BG 0000          // JOB INSTALL z/VSE INSTALL PROGRAM
                  DATE xx/xx/xxxx,CLOCK yy/yy/yy

BG 0000 IESI0051D DO YOU WANT TO CONFIGURE TCP/IP DURING INITIAL STARTUP? YES/NO
```

0 xxx

ここで、z/VSE が用意している事前定義環境のいずれかを選択するよう求めるメッセージが出されます (詳しくは、23 ページの『z/VSE に用意されている事前定義環境』を参照)。

```
BG 0000 IESI0078D SELECT AN ENVIRONMENT OUT OF A (SMALL), B (MEDIUM) OR C (LARGE).
```

0 x (x には A、B、または C を指定できます)

次のシステム・プロンプトが表示されます。

```
BG-0000 IESI0079D DO YOU WANT TO RUN YOUR SYSTEM WITH SECURITY ON? YES/NO
```

0 xxx (xxx - yes または no)

YES と答えると、IPL コマンドの `sys sec=(yes,notape)` が実行されます。このコマンドにより、セキュリティー検査の対象が、DASD ファイルおよび DASD ライブラリーに限定されます。セキュリティーは、初期インストールを完了した後に実行する IPL でアクティブになります。セキュリティーについて詳しくは、「IBM z/VSE 管理」で、リソースの保護について記述しているセクションを参照してください。

ここで、ご自分の応答を確認できます。

```
BG-0000 IESI0062D CHECK YOUR ANSWERS. DO YOU WANT TO CONTINUE? YES/NO
```

0 xxx (xxx - yes または no)

ユーザー端末の定義

TCP/IP の構成
最初の始動時に TCP/IP を構成することを選択した場合に限り、メッセージ IESI0098D が表示されます。
IESI0098D DO YOU WANT TO SPECIFY VTAM DEFINITIONS ? YES/NO
NO で応答すると、VTAM 定義に関する質問がスキップされます。
YES で応答すると、メッセージ IESI0065D が表示されます。

VM のもとでインストールするユーザー: VM のもとで z/VSE をインストールし、かつ、CP DIAL コマンドによってシステムにアクセスする場合は、次のメッ

セージに対して **NO** と答えてください。これは、DIAL コマンドが実行された端末は、VSE から見てローカルの非 SNA 装置として認識されるためです。

```
IESI0065D IS THE LOCAL CONTROL UNIT AN SNA CU ? YES/NO
```

YES で応答すると、プロンプトが出されます。

```
IESI0071D ENTER ADDRESS OF 3270 CONTROL UNIT: cuu OR pcuu
IESI0066I DEFINE TERMINAL TYPE ATTACHED TO THIS CONTROL UNIT
IESI0067D ENTER 24X80, 32X80 OR 43X80
```

SNA 接続端末の定義をスキップする場合は、メッセージ IESI0065D に対して **NO** で応答します。プロンプトが出されます。

```
IESI0064I DEFINE UP TO 3 LOCAL VTAM TERMINALS
IESI0059D ENTER A 3270 ADDRESS (CUU) OR (PCUU) OR "END"
```

0 xxx

表 8 には、SNA コントロール・ユニットと非 SNA コントロール・ユニットの概要を示します。

表 8. ローカル SNA コントロール・ユニットとローカル非 SNA コントロール・ユニットのリスト

ローカル非 SNA コントロール・ユニット	ローカル SNA コントロール・ユニット
チャンネル接続非 SNA コントロール・ユニット (IBM 3174-S1L 型、3174-T1L 型、3174-01L 型)	チャンネル接続 SNA コントロール・ユニット (IBM 3174-S1L 型、3174-T1L 型、3174-01L 型)
チャンネル接続非 SNA コントロール・ユニット (IBM 3274-x1B 型、3274-x1D 型)	チャンネル接続 SNA コントロール・ユニット (IBM 3274-x1A 型)
Open Systems Adapter-Express 統合コンソール制御装置 (OSA-ICC)。 TELNET ベース。	

YES と入力した場合は、86 ページの『ローカルの SNA VTAM ディスプレイ端末の定義』に進みます。

NO と入力した場合は、『ローカルの非 SNA VTAM ディスプレイ端末の定義』に進みます。

ローカルの非 SNA VTAM ディスプレイ端末の定義

ローカルの非 SNA VTAM ユーザーは、少なくとも 1 台、3 台を超えないローカル VTAM ディスプレイ端末を定義する必要があります。

端末アドレスは、昇順で指定してください。端末アドレスの入力順序が間違っていると、VTAM のスタートアップ・ブックが正しく生成されません。

```
BG 0000 IESI0064I DEFINE UP TO 3 LOCAL VTAM TERMINALS
BG-0000 IESI0059D ENTER A 3270 ADDRESS (PCUU) OR "END"
```

0 pcuu

(pcuu は物理的な 3270 端末のアドレス)

```
BG-0000 IESI0059D ENTER A 3270 ADDRESS (PCUU) OR "END"
```

0 pcuu

(*pcuu* は物理的な 3270 端末のアドレス。端末を 1 台だけ定義したい場合は、**0 END** と入力します。)

BG-0000 IESI0059D ENTER A 3270 ADDRESS (PCUU) OR "END"

0 pcuu

(*pcuu* は物理的な 3270 端末のアドレス。端末を 2 台だけ定義したい場合は、**0 END** と入力します。)

3 台目の 3270 のアドレスを入力すると、端末定義セッションは終了します。

BG-0000 IESI0062D CHECK YOUR ANSWERS. DO YOU WANT TO CONTINUE ? YES/NO

0 xxx (*xxx* - yes または no)

BG 0000 EOJ INSTALL MAX.RETURN CODE=xxxx
DATE xx/xx/xxxx,CLOCK yy/yy/yy,DURATION zz/zz/zz

87 ページの『ハードウェア情報のカタログ登録』に進んでください。

ローカルの SNA VTAM ディスプレイ端末の定義

ローカルの SNA コントロール・ユニットで VTAM を選択した場合は、そのコントロール・ユニットを定義し、さらに、少なくとも 1 台、3 台を超えないローカル 3270 ディスプレイ端末を定義します。

BG-0000 IESI0071D ENTER ADDRESS OF 3270 CONTROL UNIT: PCUU

0 pcuu

(*pcuu* は物理的なコントロール・ユニットのアドレス)

BG 0000 IESI0066I DEFINE TERMINAL TYPE ATTACHED TO THIS CONTROL UNIT
BG 0000 IESI0067D ENTER 24x80, 32x80, 43x80

0 nnnnn

(*nnnnn* は、ユーザーのディスプレイ端末タイプのサイズです。例えば 24x80 のように指定します。)

以下メッセージに対し、端末のアドレスを昇順で指定する必要があります。端末アドレスの入力順序を間違えると、エラー・メッセージの IESI0076A が出されます。

BG 0000 IESI0064I DEFINE UP TO 3 LOCAL VTAM TERMINALS

BG-0000 IESI0073D ENTER ADDRESS OF A 3270 TERMINAL
(2 TO 33) OR "END"

0 xx (*xx* は、3270 端末のアドレス 2~33)

BG-0000 IESI0073D ENTER ADDRESS OF A 3270 TERMINAL
(2 TO 33) OR "END"

0 xx (*xx* は、3270 端末のアドレス 2~33) 端末を 1 台だけ定義したい場合は、**0 END** と入力します。

BG-0000 IESI0073D ENTER address OF A 3270 TERMINAL
(2 TO 33) OR "END"

0 xx (*xx* は、3270 端末のアドレス 2~33) 端末を 2 台だけ定義したい場合は、**0 END** と入力します。

3 台目のアドレスを入力すると、端末定義セッションは終了します。

BG-0000 IESI0062D CHECK YOUR ANSWERS. DO YOU WANT TO CONTINUE ? YES/NO

```
0 xxx (xxx - yes または no)
BG 0000 EOJ INSTALL MAX.RETURN CODE=xxxx
DATE xx/xx/xxxx,CLOCK yy/yy/yy,DURATION zz/zz/zz
```

ハードウェア情報のカタログ登録

ジョブ **DTRIHARD** は IPL プロシージャからハードウェア情報をカタログに登録します。

```
BG 0001 1Q47I BG DTRIHARD nnnnn FROM LOCAL , TIME=yy:yy:yy
BG 0000 // JOB DTRIHARD CATALOG HARDWARE RELATED INFORMATION
DATE xx/xx/xxxx,CLOCK yy/yy/yy
BG 0000 EOJ DTRIHARD MAX.RETURN CODE=xxxx
DATE xx/xx/xxxx,CLOCK yy/yy/yy,DURATION zz/zz/zz
```

ASI IPL プロシージャのカタログ登録

ジョブ **DTRIASI** は、ASI IPL プロシージャをカタログに登録します。

```
BG 0001 1Q47I BG DTRIASI nnnnn FROM LOCAL , TIME=yy:yy:yy
BG 0000 // JOB DTRIASI CATALOG ASI IPL PROCEDURE
DATE xx/xx/xxxx,CLOCK yy/yy/yy
BG 0000 EOJ DTRIASI MAX.RETURN CODE=xxxx
DATE xx/xx/xxxx,CLOCK yy/yy/yy,DURATION zz/zz/zz
```

ディスクから行う 2 回目以降の IPL

次のメッセージは表示されても無視してください。

```
F1 0001 1R72I PSTART VIRTUAL STORAGE FOR Fn SMALLER THAN 128K
:
F1 0001 1R65I PLOAD DYNAMIC PARTITION SCHEDULING NOT SUPPORTED
```

VTAM スタートアップ情報のカタログ登録

ジョブ **DTRIVTAM** は、VTAM ユーザーに対してのみ実行され、VTAM スタートアップ情報をカタログに登録します。

```
BG 0001 1Q47I BG DTRIVTAM nnnnn FROM LOCAL , TIME=yy:yy:yy
BG 0000 // JOB DTRIVTAM CREATE VTAM STARTUP BOOK ...
DATE xx/xx/xxxx,CLOCK yy/yy/yy
BG 0000 EOJ DTRIVTAM MAX.RETURN CODE=xxxx
DATE xx/xx/xxxx,CLOCK yy/yy/yy,DURATION zz/zz/zz
```

ジョブ・リストの作成

ジョブ **DTRIJBLD** は、実行されるジョブのリストを作成します。

```
BG 0001 1Q47I BG DTRIJBLD nnnnn FROM LOCAL , TIME=yy:yy:yy
BG 0000 // JOB DTRIJBLD BUILD ORDERED JOB LIST
DATE xx/xx/xxxx,CLOCK yy/yy/yy
BG 0000 EOJ DTRIJBLD MAX.RETURN CODE=xxxx
DATE xx/xx/xxxx,CLOCK yy/yy/yy,DURATION zz/zz/zz
```

ジョブ管理プログラムの制御するジョブの実行

ここで、多くのジョブが実行されます。ジョブ管理は、自動的にこれらのジョブをリリースします。このため、ほとんどのジョブでは、ユーザーの応答は必要ありません。

ただし、実行中のジョブを取り消すことはしないでください。取り消しを行うと、ジョブ管理の処理が中断してしまいます。リカバリーの方法については、140 ページの『ジョブ管理コマンド』を参照してください。

VSE/POWER 制御のプリンターの始動

端末プリンターを使用するユーザー:

ユーザーのプリンターが、VSE/POWER 制御のプリンターではなくて、システムに接続されている端末プリンターである場合には、この時点でそのプリンターを開始するかどうかについて質問するメッセージは出されません。CICS が始動するまで待って、その後に、端末プリンターをアクティブにしてください。詳細については、94 ページの『通信アクセス方式と CICS/ICCF のスタートアップ』に記載されています。

VSE/POWER プリンターの始動に使用するアドレス (*cuu*) は、物理装置の実アドレス、あるいは、VM ユーザーの場合は仮想装置のいずれかでなければなりません。装置アドレスは、X'FFF' 以下でなければなりません。

そのプリンター (*cuu*) 用に正しい FCB または UCB (あるいはその両方) が用意されていない場合は、この時点でそのプリンターの始動は行わないようにしてください。

プリンターを始動させるには、次のように入力してください。

S LST,*cuu*,class

(*cuu* - VSE アドレス) (class - プリンター・クラス)

F1 0001 1Q34I LST WAITING FOR WORK ON *cuu*

VM のもとでインストールするユーザー

次のコマンドを使用して、プリンターを始動させることができます。

S LST,*cuu*,*class*,D,VM (*cuu* - device address)(*class* - printer class)

これにより、リスト書き出しタスクが開始され、スプールされているリスト出力をアドレス *cuu* の仮想プリンターに印刷します。

オペランド D を使用して 2 つの入力バッファーと 2 つの出力バッファーを指定します。これにより、パフォーマンスが向上します。この 2 つの出力バッファーを示す 2、あるいは 1 つの出力バッファーを示す 2 つのコンマ (,) を入力することもできます。VM オペランドは、その装置が VM 所有の仮想装置であることを VSE/POWER に伝えるはたらきをします。VM を指定しないと、VSE オペレーターがその装置に対して CP CLOSE を出さなにかぎり、VM には出力が渡されません。

S LST コマンドのオペランドは、定位置オペランドです。入力または出力バッファーにオペランドを指定しない場合は、*class* と VM の間に 2 つのコンマ (,) を挿入しなければなりません。

「IBM z/VSE VSE 中央機能 VSE/POWER 管理と操作」では、PSTART コマンドについて詳しく説明しています。

以下のプリンター情報を確認します。

1. プリンターに FCB があると、システムから次のメッセージが表示されます。

```
F1 0016 1B19I X'cuu' LFCB WITH PHASE nnnnn EXECUTED
```

2. プリンターを VM 書き出しタスクとして始動させないと、プリンター出力をと
もなう最初のジョブが終了したときに、システムは次のメッセージを表示しま
す。

```
F1 0001 1Q40A ON cuu FORMS xxxx NEEDED FOR nnnnnnnn nnnnn
```

このメッセージが表示されたら、PGO コマンドを入力してください。

G cuu

(cuu - 実 VSE/POWER プリンターのアドレス)

3. 実プリンターのアドレスが PRT1 以外の装置タイプであると、印刷ジョブがそ
のプリンターに送られるたびに、システムから次のメッセージが表示されます。

```
1Q41I WRONG PRINTER/PUNCH FOR XXX YYY, cuu
```

このメッセージが表示されないようにするには、ダミーの VSE/POWER プリ
ンター FEE の装置タイプを、ユーザーのプリンターと同じ装置タイプにするよ
うにします。ユーザーのプリンターは、次のいずれかになります。

- 実プリンター。(VM を使用しない実行の場合、または z/VSE ゲスト・シ
ステムに専用プリンターを割り当てている場合。)
- VM 仮想プリンター。(z/VSE ゲスト・システム専用のプリンターを割り当
てずに、VM のもとで実行する場合。)

システム・ヒストリー・ファイルのリストア

ジョブ HISTREST は、システム・ヒストリー・ファイルをリストアします。

```
BG 0001 1Q47I BG HISTREST nnnnn FROM (SYSA) , TIME=yy:yy:yy
BG 0000 // JOB HISTREST RESTORE SYSTEM HISTORY FILE
DATE xx/xx/xxxx,CLOCK yy/yy/yy
BG 0000 EOJ HISTREST MAX.RETURN CODE=xxxx
DATE xx/xx/xxxx,CLOCK yy/yy/yy,DURATION zz/zz/zz
```

VSAM カタログ、VSAM スペース、および VSAM クラスターの定義

ジョブ VSAMDEFS は、VSAM マスター・カタログ、VSAM ユーザー・カタログ、
VSAM スペース、VSAM クラスターを定義します。エラー・メッセージ 4228I が
出されますが、無視してかまいません。

```
BG 0001 1Q47I BG VSAMDEFS nnnnn FROM (SYSA) , TIME=yy:yy:yy
BG 0000 // JOB VSAMDEFS - DEFINE VSAM MCAT, UCAT SPACE AND CLUSTERS
DATE xx/xx/xxxx,CLOCK yy/yy/yy
BG 0000 * THIS JOB WILL DEFINE THE VSAM MASTER CATALOG, A USER CATALOG,
BG 0000 * VSAM DATA SPACE, AND VSAM CLUSTERS. FIRST TIME EXECUTION
BG 0000 * WILL RESULT IN A VSAM OPEN ERROR X'B4' (180) ON FILE IJSYSCT.
BG 0000 4228I FILE IJSYSCT OPEN ERROR X'B4'(180) CAT=..N/A..
(IKQOPNCT) VOLUME 'DOSRES' NOT OWNED BY VSAM
BG 0000 EOJ VSAMDEFS MAX.RETURN CODE=0000
DATE xx/xx/xxxx,CLOCK yy/yy/yy,DURATION zz/zz/zz
```

注: このジョブでは、制御ファイルが定義されます。ただし、まだ初期化されていま
せん。後で問題が発生してシステムを再 IPL しなければならなくなった場合は、コ
マンド MSG FB,DATA='CLOSECNTL' を発行して制御ファイルを手動でクローズしない
かぎり、後続ジョブ VSAMINIT が失敗することがあります。

ライブラリーとサブライブラリーの定義

ジョブ **LIBRDEFS** は、必要な z/VSE のライブラリーおよびサブライブラリーを定義します。

```
BG 0001 1Q47I  BG LIBRDEFS nnnnn FROM (SYSA) , TIME=yy:yy:yy
BG 0000 // JOB LIBRDEFS DEFINE LIBRARIES AND SUBLIBRARIES
          DATE xx/xx/xxxx,CLOCK yy/yy/yy
BG 0000 EOJ LIBRDEFS  MAX.RETURN CODE=0000
          DATE xx/xx/xxxx,CLOCK yy/yy/yy,DURATION zz/zz/zz
```

VSE/ICCF DTSFILE のリストア

ジョブ **ICCFREST** は、z/VSE 提供の VSE/ICCF DTSFILE をリストアします。

```
BG 0001 1Q47I  BG ICCFREST nnnnn FROM (SYSA) , TIME=yy:yy:yy
BG 0000 // JOB ICCFREST RESTORE THE VSE/ICCF DTSFILE
          DATE xx/xx/xxxx,CLOCK yy/yy/yy
BG 000 K237I LIBRARY REALLOCATION FROM nnnn TO nnnn
BG 000 K236I USER REALLOCATION FROM nnnn TO nnnn
BG 000 EOJ ICCFREST  MAX.RETURN CODE=xxxx
          DATE xx/xx/xxxx,CLOCK yy/yy/yy,DURATION zz/zz/zz
```

インストール情報の VSE/ICCF DTSFILE への穿孔

ジョブ **ICCFLOAD** は、z/VSE 提供の VSE/ICCF DTSFILE に必要なシステム情報を追加します。

```
BG 0001 1Q47I  BG ICCFLOAD nnnnn FROM (SYSA) , TIME=yy:yy:yy
BG 0000 // JOB ICCFLOAD PUNCH INSTALL INFO TO ICCF LIBRARY
          DATE xx/xx/xxxx,CLOCK yy/yy/yy
BG 0000 EOJ ICCFLOAD  MAX.RETURN CODE=xxxx
          DATE xx/xx/xxxx,CLOCK yy/yy/yy,DURATION zz/zz/zz
```

z/VSE 基本マクロのインストール

ジョブ **MACREST** は、個々のマクロを PRD1.MACLIB にインストールします。

```
BG 0001 1Q47I  BG MACREST nnnnn FROM (SYSA) , time=yy:yy:yy
BG 0000 // JOB MACREST - RESTORE SUB-LIBRARY PRD1.MACLIB
          DATE xx/xx/xxxx,CLOCK yy/yy/yy
BG 0000 EOJ MACREST  MAX.RETURN CODE=0000
          DATE xx/xx/xxxx,CLOCK yy/yy/yy,DURATION zz/zz/zz
```

LE/VSE のインストール

ジョブ **LEREST** は、LE/VSE をサブライブラリー PRD2.SCEEBASE にインストールします。

```
BG 0001 1Q47I  BG LEREST nnnnn FROM (SYSA) , TIME=yy:yy:yy
BG 0000 // JOB LEREST - RESTORE LE/VSE LIBRARY PRD2.SCEEBASE
          DATE xx/xx/xxxx,CLOCK yy/yy/yy
          ⋮
BG 0000 EOJ LEREST  MAX.RETURN CODE=xxxx
```

言語別メンバーのリストア

ジョブ **NULLIBRES** は、各国語言語依存メンバーをテープからリストアし、IJSYSRS.SYSLIB に格納します。

```
BG 0001 1Q47I  BG NULLIBRES nnnnn FROM (SYSA) , TIME=yy:yy:yy
BG 0000 // JOB NULLIBRES - RESTORE LANGUAGE DEPENDENT MEMBERS INTO SYSLIB
          DATE xx/xx/xxxx,CLOCK yy/yy/yy
BG 0000 EOJ NULLIBRES MAX.RETURN CODE=xxxx
          DATE xx/xx/xxxx,CLOCK yy/yy/yy,DURATION zz/zz/zz
```

言語別 VSE/ICCF メンバーのリストア

ジョブ **NLICFRES** は、各国言語別 VSE/ICCF メンバーをテープからリストアし、VSE/ICCF DTSFILE に格納します。

```
BG 0001 1Q47I BG NLICFRES nnnnn FROM (SYSA) , TIME=yy:yy:yy
BG 0000 // JOB NLICFRES - RESTORE LANGUAGE DEPENDENT MEMBERS INTO DTSFILE
DATE xx/xx/xxxx,CLOCK yy/yy/yy
BG 0000 EOJ NLICFRES MAX.RETURN CODE=xxxx
DATE xx/xx/xxxx,CLOCK yy/yy/yy,DURATION zz/zz/zz
```

z/VSE 基本プログラムのインストール

ジョブ **BASEREST** は、z/VSE のサブライブラリー PRD1.BASE をインストールします。

注: このジョブには数分間かかります。途中で取り消さないようにしてください。

```
BG 0001 1Q47I BG BASEREST nnnnn FROM (SYSA) , TIME=yy:yy:yy
BG 0000 // JOB BASEREST - RESTORE SUB-LIBRARY PRD1.BASE
DATE xx/xx/xxxx,CLOCK yy/yy/yy
BG 0000 * -----
BG 0000 * RESTORING PRD1 - THIS STEP WILL TAKE SEVERAL MINUTES
BG 0000 * -----
BG 0000 EOJ BASEREST MAX.RETURN CODE=xxxx
DATE xx/xx/xxxx,CLOCK yy/yy/yy,DURATION zz/zz/zz
```

TCP/IP および IPv6/VSE のインストール

ジョブ **TCPREST** は、TCP/IP を PRD2.TCPIPC に、また IPv6/VSE を PRD2.TCPIPB にインストールします。

注: このジョブには数分間かかります。途中で取り消さないようにしてください。

```
BG 0001 1Q47I BG TCPREST 00010 FROM (SYSA) , TIME=hh:mm:ss , TKN=000000
BG 0000 // JOB TCPREST - RESTORE SUB-LIBRARY PRD2.TCPIPC
DATE xx/xx/xxxx, CLOCK yy/yy/yy
BG 0000 M235I INSTALLATION WILL BE DONE AS FOLLOWS:
BG 0000 PRD2.TCPIPC INTO PRD2.TCPIPC
BG 0000 M235I INSTALLATION WILL BE DONE AS FOLLOWS:
BG 0000 PRD2.TCPIPB INTO PRD2.TCPIPB
BG 0000 EOJ TCPREST MAX.RETURN CODE=0000
DATE xx/xx/xxxx, CLOCK yy/yy/yy, DURATION zz/zz/zz
```

VSE/VSAM ファイルの初期化およびロード

ジョブ **VSAMINIT** は、z/VSE に必要な VSAM ファイルを初期化し、ロードします。

注:

1. このジョブには数分間かかります。途中で取り消さないようにしてください。
2. このジョブの間、制御ファイルがオープンされ、基本セキュリティー管理プログラムの全セキュリティー・サポートが活動化します。

```
BG 0001 1Q47I BG VSAMINIT nnnnn FROM (SYSA) , TIME=yy:yy:yy
BG 0000 // JOB VSAMINIT - INITIALIZE AND LOAD VSAM FILES
DATE xx/xx/xxxx,CLOCK yy/yy/yy
BG 0000 EOJ VSAMINIT MAX.RETURN CODE=xxxx
DATE xx/xx/xxxx,CLOCK yy/yy/yy,DURATION zz/zz/zz
```

ソフトウェア情報/分析の作業ファイルの初期化

ジョブ **DUMPINIT** は、情報/分析作業ファイルを初期化します。

```
BG 0001 1Q47I  BG DUMPINIT nnnnn FROM (SYSA) , TIME=yy:yy:yy
BG 0000 // JOB DUMPINIT - INITIALIZE INFO/ ANALYSIS WORK FILES
          DATE xx/xx/xxxx,CLOCK yy/yy/yy
BG 0000 EOJ DUMPINIT  MAX.RETURN CODE=xxxx
          DATE xx/xx/xxxx,CLOCK yy/yy/yy,DURATION zz/zz/zz
```

VSE システム・ライブラリーへのメンバーのカタログ登録

ジョブ **SAVEMEMB** は、PRD2.CONFIG および PRD2.SAVE にメンバーをカタログ登録します。また、特定の VSE/拡張機能ライブラリー・メンバー名の変更も行います。

一部の環境では、ジョブ完了時に戻りコード 4 が返される場合があります。これはエラーではありません。

```
BG 0001 1Q47I  BG SAVEMEMB nnnnn FROM (SYSA) , TIME=yy:yy:yy
BG 0000 // JOB SAVEMEMB CATALOG MEMBERS INTO PRD2.CONFIG AND PRD2.SAVE
          DATE xx/xx/xxxx,CLOCK yy/yy/yy
BG 0000 EOJ SAVEMEMB  MAX.RETURN CODE=xxxx
          DATE xx/xx/xxxx,CLOCK yy/yy/yy,DURATION zz/zz/zz
```

TCP/IP の構成 (オプション)

```
BG 0001 1Q47I  BG TCPIPCFG 00019 FROM (SYSA) , TIME=hh:mm:ss
BG 0000 // JOB TCPIPCFG - CONFIGURE TCP/IP
          DATE dd/mm/yyyy, CLOCK hh/mm/ss
BG 0000 * *****
BG 0000 * *
BG 0000 * *   THIS JOB WILL START A CONFIGURATION DIALOG TO SETUP AN
BG 0000 * *   INITIAL STARTUP FOR TCP/IP.
BG 0000 * *
BG 0000 * *****
BG 0000 TCPCONF: ***** SET IPADDR *****
BG-0000 TCPCONF: Enter your IP address in dotted decimal notation (as four
          integers separated by periods - such as 1.2.3.4)
0 10.0.20.58
BG 0000 TCPCONF: ***** SET MASK *****
BG 0000 TCPCONF:   identifies what portion of the host number in a
BG 0000 TCPCONF:   network address is used to identify a sub-network
BG 0000 TCPCONF:   Sample: SET MASK = 255.255.224.000
BG-0000 TCPCONF: Enter your IP mask in dotted decimal notation ("n.n.n.n",
          where n is the decimal representation of one byte)
0 255.255.224.000
BG 0000 TCPCONF: ***** DEFINE_LINK *****
BG 0000 TCPCONF: Syntax of DEFINE LINK is:
BG 0000 TCPCONF: DEF LINK ID=name TY={CLAW|ETHER|TOKEN|3172|OSA|OSAX|CTC|IPNET} D
BG 0000 EV=hexaddr ...
BG-0000 TCPCONF: Please enter your DEFINE LINK command.
0 DEFINE LINK,ID=VM_TCPIP,TYPE=OSAX,DEV=E580
BG-0000 TCPCONF: Do you want to add another LINK definition? Yes/No
0 no
BG 0000 TCPCONF: ***** DEFINE_ROUTE *****
BG 0000 TCPCONF: Syntax of DEFINE ROUTE is:
BG 0000 TCPCONF: DEF ROUT ID=name LINK=name1 IP=ipaddr [GAT=ipaddr1] ...
BG-0000 TCPCONF: Please enter your DEFINE ROUTE command.
0 DEF ROUT ID=ALL LINK=VM_TCPIP IP=0.0.0.0 GATEWAY=9.164.188.224
BG-0000 TCPCONF: Do you want to add another ROUTE definition? Yes/No
0 no
BG 0000 TCPCONF: ***** DEFINE_TELNETD *****
BG 0000 TCPCONF: the following TELNETD definition:
BG 0000 TCPCONF: DEFINE TELNETD ID=TELNET TARGET=DBDCCICS TERMNAME=T1000 COU
```

```

BG 0000 NT=20 -
BG 0000 TCPCONF: LOGMODE=SP3272QN LOGMODE3=SP3272QN LOGMODE4=SP3272QN LOGMOD
BG 0000 E5=SP3272QN
BG 0000 TCPCONF: could be added
BG 0000 TCPCONF: together with a corresponding VTAM definition in PRD2.CONFI
BG 0000 G.TCPAPP00.B .
BG-0000 TCPCONF: Do you want to add these definitions for your TELNET terminal
      sessions? Yes/No
0
BG-0000 TCPCONF: Do you want to add these definitions for your TELNET terminal
      sessions? Yes/No
0 yes
BG 0000 TCPCONF: VTAM configuration member PRD2.CONFIG.TCPAPP00.B is created
BG 0000 ]
BG-0000 TCPCONF: Do you want to add another TELNETD definition? Yes/No
0 yes
BG 0000 TCPCONF: Syntax of DEFINE TELNETD is:
BG 0000 TCPCONF: DEF TEL ID=name TAR=name1 TERM=term1u CO=num [LOGM=name2].
BG-0000 TCPCONF: Please enter your DEFINE TELNETD command.
0 DEF TEL ID=TEL1 TAR=DBDCCICS TERM=TEL1 CO=5 LOGMODE=SP3272QN LOGMODE3=SP3272
QN LOGMODE5=SP3272QN
BG 0000 TCPCONF: the TELNETD definition:
BG 0000 TCPCONF: DEF TEL ID=TEL1 TAR=DBDCCICS TERM=TEL1 CO=5 LOGMODE=SP3272
BG 0000 QN LOGMODE3=SP3272QN LOGMODE5=SP3272QN
BG 0000 TCPCONF: could get a corresponding VTAM definition in member PRD2.CO
BG 0000 NFIG.TCPAPP00.B .
BG-0000 TCPCONF: Do you want to enhance VTAM configuration member PRD2.CONFIG.
      TCPAPP00.B ? Yes/No
0 yes
BG 0000 TCPCONF: Old version of PRD2.CONFIG.TCPAPP00.B has been saved in PR
BG 0000 D2.CONFIG.TCPAPP00.BOLD1
BG 0000 TCPCONF: VTAM configuration member VTAM_BOOK is updated
BG-0000 TCPCONF: Do you want to add another TELNETD definition? Yes/No
0 yes
BG 0000 TCPCONF: Syntax of DEFINE TELNETD is:
BG 0000 TCPCONF: DEF TEL ID=name TAR=name1 TERM=term1u CO=num [LOGM=name2].
BG-0000 TCPCONF: Please enter your DEFINE TELNETD command.
0 DEF TEL ID=TEL2 TAR=DBDCCICS TERM=TEL2 CO=2 LOGMODE=SP3272QN LOGMODE3=SP3272
QN LOGMODE5=SP3272QN
BG 0000 TCPCONF: the TELNETD definition:
BG 0000 TCPCONF: DEF TEL ID=TEL2 TAR=DBDCCICS TERM=TEL2 CO=2 LOGMODE=SP3272
BG 0000 QN LOGMODE3=SP3272QN LOGMODE5=SP3272QN
BG 0000 TCPCONF: could get a corresponding VTAM definition in member PRD2.CO
BG 0000 NFIG.TCPAPP00.B .
BG-0000 TCPCONF: Do you want to enhance VTAM configuration member PRD2.CONFIG.
      TCPAPP00.B ? Yes/No
0 yes
BG 0000 TCPCONF: Old version of PRD2.CONFIG.TCPAPP00.B has been saved in PR
BG 0000 D2.CONFIG.TCPAPP00.BOLD2
BG 0000 TCPCONF: VTAM configuration member VTAM_BOOK is updated]
BG-0000 TCPCONF: Do you want to add another TELNETD definition? Yes/No
0 no
BG 0000 TCPCONF: These are now the actual definitions
BG 0000 TCPCONF: that are relevant for TELNET sessions:
BG 0000 TCPCONF: *****
BG 0000 TCPCONF: SET IPADDR=10.0.20.58
BG 0000 TCPCONF: SET MASK=255.255.224.000
BG 0000 TCPCONF: DEFINE LINK ID=VM_TCPIP TYPE=OSAX DEV=E580
BG 0000 TCPCONF: DEFINE ROUTE ID=ALL LINK=VM_TCPIP IP=0.0.0.0 GATEWAY=9.164.
BG 0000 188.224
BG 0000 TCPCONF: DEFINE TELNETD ID=TELNET TARGET=DBDCCICS TERMNAME=T1000 COU
BG 0000 NT=20 LOGMODE=SP3272QN LOGMODE3=SP3272QN LOGMODE4=SP3272QN LOGMODE5=
BG 0000 SP3272QN
BG 0000 TCPCONF: DEFINE TELNETD ID=TEL1 TAR=DBDCCICS TERM=TEL1 CO=5 LOGMODE
=SP3272QN LOGMODE3=SP3272QN LOGMODE5=SP3272QN
BG 0000 TCPCONF: DEFINE TELNETD ID=TEL2 TAR=DBDCCICS TERM=TEL2 CO=2 LOGMODE
=SP3272QN LOGMODE3=SP3272QN LOGMODE5=SP3272QN

```

```

BG 0000 TCPCONF: *****
BG-0000 TCPCONF: Do you want to save them in PRD2.CONFIG.IPINIT00.L ? Yes/No
0 yes
BG 0000 TCPCONF: TCP/IP configuration changes saved in PRD2.CONFIG.IPINIT00.
BG 0000 L
BG 0000 TCPCONF: TCP/IP for z/VSE is licensed and enabled by a key.
BG-0000 TCPCONF: Do you want to install TCP/IP product keys now? Yes/No
0 yes
BG 0000 TCPCONF: ***** PRODKEY DEFINE *****
BG-0000 TCPCONF: Enter product key of Application Pak in format
                XXXX-XXXX-XXXX-XXXX-XXXX
0 1234-5678-9012-3456-7890
BG-0000 TCPCONF: Enter product key of NFS in format XXXX-XXXX-XXXX-XXXX-XXXX
                if you plan to use NFS - ENTER otherwise
0
BG-0000 TCPCONF: Enter product key of GPS in format XXXX-XXXX-XXXX-XXXX-XXXX
                if you plan to use GPS - ENTER otherwise
0
BG 0000 TCPCONF: TCP/IP for z/VSE requires a customer definition.
BG-0000 TCPCONF: Do you want to update TCP/IP customer information? Yes/No
0 y
BG 0000 TCPCONF: ***** CUSTDEF DEFINE *****
BG-0000 TCPCONF: Enter name of Customer Information
0 CUSTOMERNAME
BG-0000 TCPCONF: Enter number of Customer Information
0 C111-111-1111
BG 0000 EOJ TCPCONF   MAX.RETURN CODE=0000
    
```

通信アクセス方式と CICS/ICCF のスタートアップ

この作業中は、いくつかのことが同時に起こります。さまざまな区画からのメッセージがシステム・コンソールに表示されます。メッセージは、慎重に確認する必要があります。

ジョブ **TPSTART** が実行されます。このジョブにはいくつかのステップがあります。VTAM ユーザーの場合は、VTAM を区画 F3 で始動させるジョブ **VTAMSTRT** がリリースされます。この区画は、インストールの初めに定義された VTAM 端末を制御します。

TPSTART は、ジョブ **CICSICCF** のリリースも行います。これは、区画 F2 で **CICS** と **VSE/ICCF** を始動させるジョブです。ジョブ **CLEANUP** も同時に実行され、初期インストール処理を完了させます。

注: この作業でのメッセージは、本書に示したものと異なる順序で画面に表示される場合があります。

```

BG 0001 1Q47I   BG TPSTART nnnnn FROM (SYSA), TIME=yy:yy:yy
BG 0000 // JOB TPSTART START ICCF, CICS AND VTAM (IF APPLICABLE)
                DATE xx/xx/xxxx,CLOCK yy/yy/yy
    
```

システムから次のメッセージが表示されます。

```

BG 0000 1S47I   PRELEASE RDR,VTAMSTRT
:
BG 0001 1Q47I   F3 VTAMSTRT nnnnn FROM (SYSA), TIME=yy:yy:yy
F3 0003 // JOB VTAMSTRT START UP VTAM
:
:
BG 0000 1S47I   PRELEASE RDR,CICSICCF
BG 0001 1Q47I   F2 CICSICCF nnnnn FROM (SYSA), TIME=yy:yy:yy
F2 0002 // JOB CICSICCF CICS/ICCF STARTUP
    
```

```
DATE xx/xx/xxxx,CLOCK yy/yy/yy
BG 0000 EOJ TPSTART MAX.RETURN CODE=xxxx
DATE xx/xx/xxxx,CLOCK yy/yy/yy,DURATION zz/zz/zz
```

システムから次のメッセージが表示されます。

```

:
F3 0024 IST093I VTMAPPL ACTIVE
F3 0024 IST093I VTMSNA ACTIVE
F3 0024 IST093I VTMSNA ACTIVE
:
F3 0024 IST093I VTMA1 ACTIVE
F3 0024 IST093I VTMA2 ACTIVE
:
F3 0024 IST093I VTMSW1 ACTIVE

F3 0024 IST020I VTAM INITIALIZATION COMPLETE FOR V4R2
:
:
(追加の SESSION SETUP メッセージが表示されます)
:

```

初期インストール処理の完了

ジョブ **CLEANUP** は、初期インストール処理を完了させます。ジョブ **CLEANUP** からのメッセージが、CICS/ICCF スタートアップ・ジョブのメッセージとともに表示されます。

```

:
F2 0002 // JOB CICSICCF CICS/ICCF STARTUP
DATE xx/xx/xxxx, CLOCK yy/yy/yy
F2 0002 1T20I SYS009 HAS BEEN ASSIGNED TO X'01F' (TEMP)
F2 0002 LOG
F2 0002 ID (PARAMETERS SUPPRESSED)
F2 0002 NOLOG
F2 0002 * WAITING FOR VTAM TO COME UP
F2 0002 1T20I SYS020 HAS BEEN ASSIGNED TO X'FEE' (TEMP)
F2 0002 DFHPA1101 DBDCCICS DFHSITSP IS BEING LOADED.
F2 0002 DFHPA1108 DBDCCICS DFHSITSP HAS BEEN LOADED. (GENERATED AT: MM/DD=
xx/xx HH:MM= yy:yy).
F2 0002 DFHPA1100 DBDCCICS OVERRIDE PARAMETERS FROM JCL EXEC STATEMENT:

F2 0002 DFHPA1927 DBDCCICS APPLID=DBDCCICS,START=COLD,EDSALIM=14M,SI

F2 0002 DFHPA1102 DBDCCICS OVERRIDE PARAMETERS FROM SYSIPT:
F2 0002 DFHPA1927 DBDCCICS SIT=SP,STATRCD=OFF,MXT=20,NEWSIT=YES

F2 0002 DFHPA1103 DBDCCICS END OF FILE ON SYSIPT.
F2 0002 DFHTR0103 TRACE TABLE SIZE IS 256K
F2 0002 DFHSM0122I DBDCCICS Limit of DSA storage below 16MB is n,nnnK.
F2 0002 DFHSM0123I DBDCCICS Limit of DSA storage above 16MB is nnM.
F2 0002 DFHSM0113I DBDCCICS Storage protection is not active.
F2 0082 DFHDM0101I DBDCCICS CICS is initializing.
F2 0083 DFHXS1100I DBDCCICS Security initialization has started.
F2 0083 DFHWB0109I DBDCCICS Web domain initialization has started.
F2 0083 DFHSO0100I DBDCCICS Sockets domain initialization has started.
F2 0083 DFHDH0100I DBDCCICS Document domain initialization has started.
F2 0083 DFHSI1500 DBDCCICS CICS startup is in progress for CICS Transaction
Server Version 2.2.0
F2 0083 DFHXS1105 DBDCCICS Resource profiles for class TCICSTRN have been

```

インストール 第 2 部 - LPAR モードおよび z/VM

```
built.
F2 0083 DFHXS1103I DBDCCICS Default security for userid CICSUSER has been
established.
F2 0083 DFHSI1501I DBDCCICS Loading CICS nucleus.
F2 0083 DFHXS1101I DBDCCICS Security initialization has ended.
F2 0083 DFHXB0110I DBDCCICS Web domain initialization has ended.
F2 0083 DFHS00101I DBDCCICS Sockets domain initialization has ended.
F2 0083 DFHMN0105I DBDCCICS Using default Monitoring Control Table.
F2 0083 DFHMN0110I DBDCCICS CICS Monitoring is inactive.
F2 0083 DFHDH0101I DBDCCICS Document domain initialization has ended.
F2 0083 DFHSI1502I DBDCCICS CICS startup is Cold.
F2 0083 DFHSI1503I DBDCCICS Terminal data sets are being opened.
F2 0083 DFHDU0304I DBDCCICS Transaction Dump Data set DFHDMPA opened.
F2 0083 DFHCP0101I DBDCCICS CPI initialization has started.
F2 0083 DFHPR0104I DBDCCICS Partner resource manager initialization has
started.
F2 0083 DFHFC0100I DBDCCICS File Control initialization has started.
F2 0083 DFHFC0101I DBDCCICS File Control initialization has ended.
F2 0083 DFHTD0100I DBDCCICS Transient Data initialization has started.
F2 0083 DFHAI0101I DBDCCICS AITM initialization has started.
F2 0083 DFHTD0101I DBDCCICS Transient Data initialization has ended.
F2 0083 DFHTS0100I DBDCCICS Temporary Storage initialization has started.
F2 0083 DFHTS0102I DBDCCICS About to format the temporary storage data set
(104 control intervals).
F2 0083 DFHTS0101I DBDCCICS Temporary Storage initialization has ended.
F2 0083 DFHCP0102I DBDCCICS CPI initialization has ended.
F2 0083 DFHPR0105I DBDCCICS Partner resource manager initialization has ended.

F2 0083 DFHAI0102I DBDCCICS AITM initialization has ended.
F2 0083 DFHSI1511I DBDCCICS Installing group list VSELIST .
F2 0083 DFHST0103 DBDCCICS A DMF error has occurred with return code X'10'.
BG 0000 EOJ TPSTART MAX.RETURN CODE=0000
DATE xx/xx/xxxx, CLOCK yy/yy/yy, DURATION zz/zz/zz
BG 0001 IQ47I BG CLEANUP 00022 FROM (SYSA) , TIME=yy:yy:yy
F2 0083 DFHAP1203I DBDCCICS Language Environment for z/VSE is being
initialized.
BG 0000 // JOB CLEANUP
DATE xx/xx/xxxx, CLOCK yy/yy/yy
F2 0083 CEE3550I LE/VSE C/VSE Run-Time initialized
F2 0083 CEE3551I LE/VSE COBOL Run-Time initialized
F2 0083 CEE3552I LE/VSE PL/I Run-Time initialized
F2 0083 DFHXB1007 DBDCCICS Initializing CICS Web environment.
F2 0083 DFHXB1008 DBDCCICS CICS Web environment initialization is complete.
F2 0083 DFHSI8430I DBDCCICS About to link to PLT programs during the third
stage of initialization.
F2 0085 K002I BEGIN ICCF INITIALIZATION
F2 0085 K042I VSE ACCESS CONTROL NOT ACTIVE, VSE/ICCF ACCESS CONTROL ACTIVE
F2 0085 K481I DYNAMIC FILE SPACE INITIALIZATION BYPASSED
F2 0085 K001I DEVICE TYPE IS nnnn
F2 0085 K088I HI FILE RECORDS= nnn,nnn (nn%)
F2 0083 K029I ICCF INITIALIZATION COMPLETED
F2 0083 DFHSI8434I DBDCCICS Control returned from PLT programs during the
third stage of initialization.
F3 0003 IST899I RETRY OF AUTOLOGON(S) TO VTAM1.DBDCCICS IN PROGRESS
F2 0083 DFHSI1517 DBDCCICS Control is being given to CICS.
```

メッセージ DFHSI1517 が表示されると、システムは使用可能な状態になります。
99 ページの『第 9 章 インストール 第 3 部 - LPAR モードおよび z/VM』に進
んで、作業を続けてください。インストールを完了するには、z/VSE ダイアログを
使用してください。

⋮

```
BG 0000 * BASE INSTALL PROCESSING IS NOW FINISHED. COMPLETION OF THE
BG 0000 *
BG 0000 * INSTALL PROCESS MUST BE PERFORMED USING THE z/VSE DIALOGS
```

```
BG 0000 *  
BG 0000 EOJ CLEANUP MAX.RETURN CODE=0000  
DATE xx/xx/xxxx, CLOCK yy/yy/yy, DURATION zz/zz/zz
```

第 9 章 インストール 第 3 部 - LPAR モードおよび z/VM

インストールの第 3 部では、z/VSE の初期インストールを完了させる方法について説明します。第 3 部は、オプションのインストール作業を行ったり、z/VSE システムを使用したりする前に、行わなければなりません。そうしないと、システムが正常に動作しない可能性があります。

インストールの第 3 部は、多くのステップから構成されています。インストールの第 3 部については、全ステップで、ユーザーは決定または応答を行う必要があります。作業を行うときには、対話式インターフェース・ダイアログが役立ちます。

完了する必要があるステップは、次のとおりです。

- POST というユーザー ID で z/VSE にサインオンします。
 - 個別設定データの入力
- SYSA というユーザー ID で z/VSE にサインオンします。
 - ハードウェア・テーブルの完成
 - システムにより割り当てられた VSE アドレスの、 5 ページの『インストール・ワークシート』で指定した値への変更
- パスワードの変更
- システムのシャットダウンの実行
- ユーザーの z/VSE システムの IPL の実行

z/VSE へのサインオン

初期インストール時に指定した端末のうちの少なくとも 1 つで、電源をシステム始動時にオンにする必要があります。100 ページの図 2 に示されている z/VSE サインオン・パネル (「z/VSE Online」パネル) が表示されます。

```

IESADMS01                                z/VSE SIGN ON
5609-VSE and Other Materials (C) Copyright IBM Corp. 2016 and other dates

      ++
      ++  VV  VV  SSSSS  EEEEEEE
ZZZZZZ  ++  VV  VV  SSSSSS  EEEEEEE
ZZZZZ   ++  VV  VV  SS      EE
ZZ      ++  VV  VV  SSSSSS  EEEEEEE
ZZ      ++  VV  VV  SSSSSS  EEEEEEE
ZZZZZZ  ++  VV  VV          SS  EE
ZZZZZZZ ++  VVVV  SSSSSS  EEEEEEE
          VV      SSSSS  EEEEEEE

Your terminal is xxxx and its name in the network is xxxxxxxx
Today is mm/dd/yyyy To sign on to DBDCCICS -- enter your:

user ID..... _____ The name by which the system knows you.
PASSWORD..... Your personal access code.

PF1=HELP      2=TUTORIAL  3=TO VM      4=REMOTE APPLICATIONS
                                10=NEW PASSWORD
    
```

図 2. パネル - z/VSE SIGN ON

サインオン・パネルが表示されない場合には、APPLID(DBDCCICS) でログオンを再度やり直してみてください。この方法でもサインオン・パネルが表示されます。

注: 初期インストール後にシステムを始動すると、電源がオンにされていた端末すべてに、このサインオン・パネルが表示されます。

VSE/ICCF にアクセスするユーザーが使用できるユーザー ID は、最大 4 文字までとなります。それ以外のユーザーはすべて、最大 8 文字で構成されるユーザー ID を使用することができます。ユーザー ID の大/小文字の区別はされません。

注: VSE の旧バージョンと異なり、パスワードも 8 文字まで使用できます。

VM のもとでインストールするユーザー: 初期インストール中に、VM システムに戻ることはできません。初期インストールが完了した後、すなわち、次の IPL が完了した後に、PF3 キーは使用可能になり、その PF3 キーを使用して VM システムに戻るができるようになります。

初期インストールを完了するために、事前定義ユーザー ID **POST** およびパスワード **BASE** を使用して、「z/VSE SIGN ON」パネルでシステムにサインオンします。

```

USER-ID..... POST
PASSWORD..... BASE
    
```

注: POST というユーザー ID は予約されています。このユーザー ID は、初期インストールを完了させるため、および特別な処理を行うためだけに使用されるものです。このセッションからサインオフした後は、このユーザー ID POST は二度と使用できなくなります。POST および BASE を入力しても、必ずリジェクトされてしまいます。

ユーザー ID POST でサインオンすると、システムから次のメッセージが表示されます。

```
INPUT ACCEPTED, PLEASE WAIT
```

これで、初期インストールのオンライン・インストール作業は完了します。

重要: この処理には数分かかります。中断しないでください。

ヒストリー・ファイルの個別設定

図 3 のパネルで、ユーザーごとのインストールに固有のデータの入力を求めるダイアログが表示されます。

該当フィールドに、名前、住所、および電話番号を入力します。最後のフィールドには、システムの保守責任者の名前を入力します。通常これは、システム管理者になります。必要な情報をすべて入力したら、**ENTER** キーを押してください。

```

ADM$FST5                COMPLETE INITIAL INSTALLATION

Enter the required data and press ENTER.

This panel accepts information for your system history file.
This information uniquely identifies your installation and is
placed in the general header record of the history file.

CUSTOMER NAME..... _____
ADDRESS..... _____
PHONE NUMBER..... _____
PROGRAMMER NAME... _____

PF1=HELP      2=REDISPLAY  3=END
    
```

図 3. パネル - *Complete initial installation* (初期インストールの完了)

注: 最低でも自分の名前と住所は必ず入力してください。

対話式インターフェースは、「*Personalize History File* (活動記録ファイルの個別化)」ダイアログを使用して、システム・ヒストリー・データの更新を行います。この作業の後で、システム・ヒストリー情報を変更する必要があるときには、このダイアログを使用してください。詳しくは、106 ページの『その他の考慮事項』を参照してください。

このダイアログは **FIRSTUSE** という名前のジョブを作成します。このジョブは、**VSE** システムに自動的にサブミットされます。システムから、次のメッセージが表示されます。

```
JOB HAS BEEN SUBMITTED AND FILED AS FIRSTUSE
```

ジョブ **FIRSTUSE** には、制御ジョブ **PERSONAL** が含まれています。**PERSONAL** は **MSHP** ジョブ・ストリームを作成し、システム・ヒストリー・ファイルをユーザーの個人データによって更新します。

ハードウェア構成テーブルの検査も行われます。

表示されるパネルでは、これらのステップについての情報と、初期インストールが完了し、最終的なハウスキーピングが終了したことが通知されます。その後、**ENTER** キーを押します。これにより、自動的にサインオフが行われ、「z/VSE Online」パネルが表示されます。

POST セッションが終了したら、まず最初に「*Hardware Configuration* (ハードウェア構成)」ダイアログを使用して、システムに対して VTAM 定義と CICS 定義を作成し活動化させてください。

ハードウェア・テーブルの完成

ユーザー ID SYSA を使用して、対話式インターフェースへサインオンします。z/VSE オンライン パネルで、次のように入力します。

```
USER-ID..... SYSA
PASSWORD..... SYSA
```

ここで、パスワードを変更するよう要求されます。パスワードは、3 ~ 8 文字の、特殊文字 @、#、\$ を含む英数字です。セキュリティ上の理由から、パスワードは画面に表示されません。

初期インストール処理で、IPL プログラムは、ユーザーのシステム内の装置を検知し、それらの装置の定義を行いました。これらの定義はハードウェア構成テーブルを作成するのに使用されます。ハードウェア構成テーブルは、装置に関する情報を収めており、他の対話式インターフェース・ダイアログによって使用されます。

情報が欠けている装置が 1 つ以上あると、これらの装置を、ハードウェア構成パネルである「Unidentified Device List (識別不能装置リスト)」(103 ページの図 4 を参照) で定義するようにシステムから要求されます。

また、このリストは、インストール時に物理装置アドレスに割り当てられた VSE アドレスを表示します。アドレスを任意の値に変更する場合、変更はインストールのこの時点でのみ行うことができます。

欠けている情報を補うには、まず「*Function Selection* (機能選択)」パネルで、次のように選択します。

- 2 (Resource Definition: リソース定義)
- 4 (Hardware Configuration and IPL: ハードウェア構成および IPL)
- 1 (Configure Hardware: ハードウェアの構成)

管理者用ファースト・パス	同義語
241	デフォルト: ユーザー:

103 ページの図 4 は、「Unidentified Device List (識別不能装置リスト)」の例を示します。このパネルには、システムが物理装置アドレス (pcuu) を認識するすべての装置がリストされます。

```

ADM$HDWF          HARDWARE CONFIGURATION: UNIDENTIFIED DEVICE LIST

OPTIONS:  1 = DEFINE A DEVICE    5 = DELETE A DEVICE
          6 = ALTER MAPPING
          '=' = REPEAT LAST DEFINED DEVICE

OPT   VSE   PHYSICAL  DEVICE  DEVICE TYPE  DEVICE SPECIFICATION
      ADDR  ADDR      3490E   CODE         (MODE)
-     001   1081     3490E   3490E
-     002   2000     3390-3  ECKD
-     003   2001     3390-3  ECKD
-     004   3081     ?       3277
-     005   9000     3390-X  ECKD
-     006   9001     3390-X  ECKD
-     380   0380     ?       3277
-     382   0382     ?       3277
-
-
PF1=HELP      2=REDISPLAY  3=END          5=PROCESS
PF7=BACKWARD  8=FORWARD
    
```

図 4. Hardware Configuration Panel - Unidentified Device List

上の「Unidentified Device List (識別不能装置リスト)」には、情報が完備していない装置が表示されています。システムから、以下のように入力をさらに求められます。

オプション 1 - Define a device (装置の定義)

DEVICE 列に疑問符『?』が付いている場合、装置タイプが不足しているため、オプション 1 を使用して指定する必要があります。

このパネル上に、直接、装置名を入力することができます。無効な装置タイプを入力するか、装置タイプを入力しない (疑問符を置き換えない) 場合、システムは装置タイプを選べる選択メニューを表示します。

オプション 5 - Delete a device (装置の削除)

不明装置のリストから装置を削除する場合は、その装置の横のオプション欄に 5 と入力します。

オプション 6 - Alter mapping (マッピングの変更)

X'FFF' より大きい物理装置アドレスが付いた装置がある場合、5 ページの『インストール・ワークシート』で指定した値により VSE アドレスを変更できます。

'=' - Repeat last defined device (最後に定義した装置の繰り返し)

同じ装置タイプの装置が複数ある場合、等号『=』を使用して、最後に定義した装置の割り当てを繰り返すことができます。

不明装置のリスト全体に目を通して、表示されたアドレスについてそれぞれ定義したり、あるいは削除を行ったことを確認してから、PF5 を押して、入力データを処理してください。すると、システムから、104 ページの図 5 に示したパネルが表示されます。このパネルには、今の作業で追加した情報が表示されています。

複数のアドレス (pcuu) を占有するリンクを介して接続された装置がリストされている場合、それらの装置はこのパネルで定義することはできません。例えば、トークンリング・アダプターから IBM トークンリングへのリンク

このパネルで、これらの装置は削除してください。リンク/装置の追加と構成を行うには、初期インストールの完了後に、「Configure Hardware (ハードウェアの構成)」ダイアログを使用してください。

```

ADM$HDWB          HARDWARE CONFIGURATION: UNIT ADDRESS LIST

OPTIONS: 2 = ALTER DEVICE TYPE CODE/MODE      3 = SELECT FOR FURTHER PROCESSING
         4 = LIST SIMILAR DEVICES              5 = DELETE A DEVICE

      OPT   VSE   PHYSICAL DEVICE   DTYPE   DEVICE  DEVICE  DEF
          ADDR  ADDR                CODE    MODE   DOWN   INCOMPL
      --
      --    801   1801   FBA       FBA
      --    806   1806   FBA       FBA
      --    809   1809   FBA       FBA
      --    810   1810   FBA       FBA
      --    8A0   28A0   FBA       FBA
      --    8AB   28AB   FBA       FBA
      --    8AF   18AF   FBA       FBA
      --    8B0   18B0   FBA       FBA
      --    900   B900   FBA       FBA
      --    901   B901   FBA       FBA
POSITION NEAR ADDR == >
PF1=HELP      2=REDISPLAY  3=END          5=PROCESS    6=ADD ADDR
PF7=BACKWARD  8=FORWARD   9=PRINT      10=SORT-VSE
    
```

図 5. Hardware Configuration: Unit Address List (ハードウェア構成: 装置アドレス・リスト) (情報追加後)

注: 「Hardware Configuration (ハードウェアの構成)」ダイアログにある「DEVICE DOWN (装置ダウン)」オプションがサポートするのは、テープ装置およびディスク装置のみです。「Hardware Configuration (ハードウェアの構成)」ダイアログについての詳細は、「IBM z/VSE 管理」の項を参照してください。

ハードウェア構成が完全かどうか、また装置の追加または削除が必要かどうかをよく確認してください。

- VSE/POWER および VSE/ICCF のダミー装置である FED、FEE、FEF、FFD、FFE については、変更はできますが削除することはできません。
- VSE/POWER および VSE/ICCF のダミー装置である FEC、FFA、FFC については、変更も削除もできません。
- ダミー装置 FFF は、専用システム・コンソール用のプレースホルダーであり、変更も削除もできません。
- 装置 FDF は削除しないでください。これは、ラベル域用の仮想ディスクです。

PF10 キーを使用して、VSE ADDR 列および PHYSICAL ADDR 列のソート順を変更できます。PF10=SORT-VSE が表示されている場合、PF10 キーを押すと、VSE ADDR 列は昇順にソートされます。PF10=SORT-PHY が表示されている場合、PF10 キーを押すと、PHYSICAL ADDR 列は昇順にソートされます。

入力を処理し、次のパネルを表示させるには、再度 **PF5** を押します。

```

ADM$CRE1          HARDWARE CONFIGURATION: CATALOG STARTUP MEMBERS

Press ENTER to catalog the objects marked by an X. You may add or delete
an X as needed.

          X      IPL Procedures
          -      VTAM Book with Startup Options
          X      VTAM Books for Model Terminal Support
          -      VTAM Book for Local Non-SNA Terminals
          X      VTAM Book Local SNA Terminals
          -      VTAM Books for OSA or 3172 attached Terminals
          X      CICS CSD Group for terminals - VSETERM1
          -      CICS CSD Group for terminals - VSETERM2
          -      CICS CSD Group for terminals - VSETERM3

PF1=HELP          2=REDISPLAY  3=END

IPLPROC          VTAM          SOURCE CREATED.
    
```

図 6. Hardware Configuration: Catalog Startup Members (ハードウェア構成: スタートアップ・メンバーのカタログ)

注: 上記のパネルは、VTAM ユーザー用の単なる一例です。ユーザーのハードウェア構成が上記と異なれば、別のオブジェクトに x マークが付けられることとなります。

追加した情報をシステムに通知するジョブを作成するには、**ENTER** キーを押します。「Job Disposition (ジョブの後処理)」パネルが表示され、そのジョブがサブミットされます。

後になって、ハードウェア構成を変更する必要がある場合は、「IBM z/VSE SNA ネットワーキング・サポート」を参照してください。この資料には、装置の追加または削除の方法や、装置特性の変更方法が記載されています。

VTAM パスワードの活動化

z/VSE 6.2 には、VTAM バージョン 4 リリース 2 が取められています。VTAM は、3 つの異なるレベルで構成されています。VTAM を発注したとき、いずれかのレベルを指定しなければならなかったはずですが、z/VSE 配布メディアには、ユーザー・サイト用にカスタマイズされた固有の VTAM パスワードも取められています。

初期インストール時には、z/VSE は事前定義のパスワードを使用しますので、ユーザーは何も行う必要はありません。ただし、初期インストールが完了しユーザー・システムを調整するときには、スケルトンの SKVTAM の修正を行って、ユーザー独自の VTAM パスワードをアクティブにする必要があります。このスケルトンは、VSE/ICCF ライブラリー 59 に取められています。

- スケルトンをユーザーの VSE/ICCF 1 次ライブラリーにコピーします。
- スケルトンのコピーを使用して、VTAM パスワードを修正します。
- スケルトンを受け渡して、処理を行います。

概要情報と技術詳細については、「VTAM Overview」 および 「VTAM Network Implementation Guide Overview」 を参照してください。

セキュリティー機能をアクティブにしてシステムを使用するユーザー

インストール処理の開始時に、以下のメッセージが表示されます。

```
BG 0000 IESI0079D DO YOU WANT TO RUN YOUR SYSTEM WITH SECURITY ON? YES/NO
```

YES と応答すると、事前定義テーブル DTSECTAB が生成されます。これは、バッチ・リソースに対するアクセス制御を定義します。このテーブルは、初期インストール後の最初の IPL でアクティブになります。

セキュリティー関連のユーザー・プロファイル情報は、VSE.CONTROL.FILE に保管されます。

DTSECTAB を変更するには、VSE/ICCF ライブラリー 59 のソース DTSECTRC を使用して、それを PRD2.SAVE にカタログ登録します。DTSECTAB にエントリーを追加する方法については、「IBM z/VSE 管理」を参照してください。

その他の考慮事項

考慮すべきポイントがさらにあります。

初期インストール後のハードウェア・テーブルの更新

初期インストールの完了後に、ハードウェア・テーブルまたはシステム・ヒストリー・ファイルの個別設定データを更新する必要がある場合には、次の 2 つのダイアログを使用することができます。

1. Configure Hardware (ファースト・パス 241)
2. Personalize History File (ファースト・パス 145)

「Configure Hardware (ハードウェアの構成)」ダイアログには、装置タイプ・コードに関する情報を提供するヘルプ・パネルがいくつかあります。使用している装置のタイプを確認できない場合は、PF1 を押して、詳しい情報を参照してください。

BSTCNTL のマイグレーション

以前にご使用の VSE システムが BSM ベース・セキュリティーですすでに実行している場合、これらのセキュリティー定義は、VSE/ICCF ライブラリー 59 内のスケルトン SKBSTSAV を使用してマイグレーションする必要があります。詳細については、「IBM z/VSE 管理」を参照してください。

パスワード規則の指定

BSTADMIN PERFORM PASSWORD コマンドを使用して、パスワード規則 (例えば、最小限の長さ、無効な試行の回数) を調整してください。詳細については、「IBM z/VSE 管理」を参照してください。

旧 TCT の CICS Transaction Server CSD ファイルへのマイグレーション

CICS MIGRATE コマンドを使用して、ユーザーが固有に定義し修正した CICS パラメーター・テーブルをマイグレーションすることができます。また、「*Hardware Configuration* (ハードウェアの構成)」ダイアログを介して、ユーザー端末を再定義することができます。

このコマンドは、CICS DFHCSDUP ユーティリティーでサポートしています。

MIGRATE コマンドを使用する際は、次の点に注意してください。

- 変更の多くを手作業で行う必要がある。
- この種のマイグレーションには、特別な z/VSE サポートがない。

DFHCSDUP ユーティリティーについては、「CICS TS 資源定義の手引き」を参照してください。

注: この時点で、システムのシャットダウンを行う必要があります。

次に、システムのシャットダウンの実行例を示します。システムのシャットダウンの詳細については、「IBM z/VSE 操作」を参照してください。

- CICS のシャットダウンを、次のように行います。

MSG F2,DATA='CEMT P SHUT I'

- VTAM のシャットダウンを、次のように行います。

Z NET,QUICK

- VSE/POWER のシャットダウンを、次のように行います。

PEND

環境 B または C を選択した (または IPL プロシーチャーをユーザー独自の要求に合わせて調整した) 場合、変更されたディスク・レイアウトは、次の IPL 以降にアクティブになります。事前定義の環境 B (512 MB) または環境 C (2 GB) 用に拡大されたページ・データ・セットが DOSRES で使用できることを確認してください。使用できない場合、「Tailor IPL (IPL の調整)」ダイアログを使用して、ページ・データ・セットを別のボリュームに再配置しなければならない可能性があります。

引き続きオプションのインストール作業へと進む前に、この時点で、DOSRES から IPL を実行する必要があります。IPL を実行して、新規のシステム設定を活動化してください。

IPL 実行が終了した時点で、初期インストールは完了します。

これで、オプションのインストール作業に進むことができるようになりました。また、次の作業も可能になりました。

1. 不要な z/VSE コンポーネント・プログラムの削除。
2. z/VSE 生成機能のインストール。
3. z/VSE オプション・プログラムのインストール。

以上の作業を行うには、111 ページの『第 10 章 オプション・インストール・タスクの実行 - LPAR モードおよび z/VM』に進みます。

VM の下に z/VSE をインストールする場合は、135 ページの『第 11 章 VM/VSE インターフェース・ルーチンのインストール - (VM のみ)』も参照します。ここでは、VM/VSE インターフェースのインストール方法を説明しています。

199 人を超える VSE/ICCF ユーザーまたは 199 を超える VSE/ICCF ライブラリーをマイグレーションしなければならないユーザーは、143 ページの『付録 B. 199 を超える VSE/ICCF ユーザーまたは 199 を超える VSE/ICCF ライブラリーのマイグレーション』を参照してください。

z/VSE ユーザー ID のパスワードの変更

事前定義 z/VSE ユーザー ID のパスワードは、有効期限付きで定義されています。そのため、このパスワードは最初のログオン時に変更する必要があります。パスワードを変更することにより、無許可ユーザーによるシステムへのアクセスを防止できます。

事前定義セキュリティ・サポートには、ユーザー ID とパスワード (FORSEC) があります。ユーザー FORSEC は、VSE.CONTROL.FILE および DTSECTAB に定義され、システム・スタートアップ時に適切なアクセス権を提供します。

セキュリティ機能について詳しくは、「IBM z/VSE 管理」で、リソースの保護について記述しているセクションを参照してください。

次の表は、POST/BASE (初期インストールを完了するためにのみ使用される) に加えて z/VSE に用意されているユーザー ID およびパスワードを示しています。

表 9. z/VSE の事前定義ユーザー・プロファイル

プロファイル	ユーザー ID	パスワード
システム管理者	SYSA	SYSA
プログラマー	PROG	PROG
システム・コンソール・オペレーター	OPER	OPER
リモート問題判別用	\$SRV	\$SRV
システム管理者	FORSEC	FORSEC
CICS デフォルト・ユーザー	CICSUSER	CICSUS
CICS 区画ユーザー	DBDCCICS	DBDCCI
CICS 区画ユーザー	PRODCICS	PRODCI
CICS/TS デフォルト・コンソールのデフォルト・ユーザー	CNSL	CNSL
コネクター・サーバー区画ユーザー	VCSRVS	VCSRVS

z/VSE には、リモート問題判別用に、特殊ユーザー ID の \$SRV が用意されています。データ・リンクがあれば、例えば IBM サポート・センターが、このユーザー ID を使用してユーザーのシステムにログオンし、オンライン・システム診断を実行する、などといったことが可能です。\$SRV によって VSE/ICCF にアクセスし

使用することはできますが、\$SRV には管理権限は与えられません。\$SRV というユーザー ID によって実行できる作業は、次のとおりです。

- システム・コンソールの検査 (コマンド権限なし)。
- VSE/POWER キューの読み取り、およびそのユーザー ID に割り当てられたリストの検査。
- 他のユーザーとのメッセージ交換。
- z/VSE に用意されている「*Problem Handling* (問題処理)」ダイアログの使用。

\$SRV については、*z/VSE Guide for Solving Problems*を参照してください。

100 ページの図 2 に示されている「z/VSE Online」パネルでパスワードを変更します。パネル上で、次のように入力してください。Enter キーを押すと、「*Change Password* (パスワードの変更)」パネルが表示されます。

```
USER-ID.....  PROG
PASSWORD.....  PROG
```

セキュリティ上の理由から、パスワードは画面に表示されません。「*Change Password* (パスワードの変更)」パネルで、2 つの「NEW PASSWORD (新規パスワード)」フィールドに新規パスワードを入力し、検査用に現行パスワードを入力します。これらのパスワードは表示されません。システムは、2 つの新規パスワードの入力が一致しているかどうかを検査します。パスワードは、特殊文字の @、#、\$ を含む、3~8 文字の英数字を使用することができます。

新しいパスワードを入力すると、対話式インターフェースにサインオンされます。**PF3** を押してサインオフすると、「z/VSE Online」パネルが再び表示されます。上記の手順を繰り返して、次のユーザー ID のパスワードを変更してください。

- OPER
- \$SRV
- CICSUSER

FORSEC 用のパスワードを変更することもできますが、システムは、そのためのプロンプトは表示しません。

CICSUSER の場合、選択パネル DFLESEL が定義されていないというメッセージが表示されます。このユーザーは、システムにサインオンするように設計されていません。パスワードはシステムによって変更されるので、このメッセージは無視してください。

106 ページの『セキュリティ機能をアクティブにしてシステムを使用するユーザー』ページに説明があるように、バッチ・セキュリティをアクティブにすることを選択した場合、バッチ・セキュリティをアクティブに指定して VSE を再始動する必要があります。ユーザー ID (DBDCCICS、PRODCICS および VCSR) のパスワードを変更する前に、以下のスタートアップ・ジョブをサブミット済みであることを確認してください。

- ICCF ライブラリー 59:
 - SKCICS
 - SKCICS2
 - SKTCPSTR

インストール 第 3 部 - LPAR モードおよび z/VM

- SKVTASTJ
- SKVCSSTJ
- ICCF ライブラリー 62:
 - CEEWARC

「IBM z/VSE 管理」で説明されているように、「*Maintain User Profiles*」ダイアログを使用することによって、パスワードを変更し、有効期限を指定できます。

第 10 章 オプション・インストール・タスクの実行 - LPAR モードおよび z/VM

このセクションでは、z/VSE の初期インストールが終了した後で実行できるオプション・インストール・タスクについて説明します。

これらの作業は全部あるいはその一部を実行することができます。また、全く実行しなくても構いません。作業はすべて個別に実行します。

LPAR モードまたは z/VM での z/VSE のオプション・インストール・タスク

作業	説明
印刷バッファの作成	ジョブ LFCBLINK を実行して、印刷バッファを作成します。
不要なプログラムの削除。	DELETE ジョブを実行して不要なプログラムを削除します。
z/VSE 生成機能のインストール。	対話式インターフェース・ダイアログを使用して、z/VSE 生成機能をインストールします。
追加プログラムのインストール。	対話式インターフェース・ダイアログを使用して、追加プログラムをインストールします。

z/VM のもとの z/VSE 用のオプションのインストール作業

作業	説明
VM/VSE インターフェース・ルーチンのインストール。	スケルトンを使用して VM/VSE インターフェース・ルーチンをインストールします。

システム・プリンター用の印刷バッファの作成

この項は、システムに、VSE/POWER の制御するシステム・プリンターが接続されている場合にのみお読みください。

注: ジョブ LFCBLINK は、「ジョブ管理プログラム制御ジョブ」リストから除去されています。FCB と UCB を作成する必要がある場合は、初期インストールが完了した後で LFCBLINK ジョブを実行することができます。LFCBLINK ジョブを POWER 読み取りキューにロードするには、プログラム DTRIINIT を使用してください。

UCB は、文字セットの使用を制御し、さまざまな文字配列を提供します。これには、言語別情報などが含まれます。

また、FCB も UCB も作成しないようにすることも可能です。この場合は、次のように入力します。

0

FCB または UCB の作成を求めるプロンプトが出された場合。デフォルト設定を使用します。

VM のもとでインストールするユーザー：専用の実プリンターがある場合は、UCB を作成しなければなりません。ただし、IBM 4245、4248、1403 および 6262 プリンターの場合は除きます。

物理印刷装置が専用プリンターではない場合、FCB は作成できますが、プリンターが z/VSE の制御下にはないので、UCB を作成することはできません。詳細については、「z/VSE System Control Statements」の「システム・バッファ・ロード」を参照してください。

使用しているトレーン/ベルトが、表 10 に示されたプリンターとトレーン/ベルトの組み合わせのいずれかである場合は、そのトレーン/ベルトは、z/VSE が用意しているデフォルトの UCB と一致しています。

表 10. プリンターのトレーン/ベルトのデフォルトの組み合わせ

IBM プリンター	トレーン/ベルト
3211	A11 トレーン
3203-5	AN または HN トレーン
3262	64 文字ベルト
3289-4	64 文字ベルト
4245	適用外
4248	適用外
6262-014	適用外

z/VSE 標準 FCB は、次のパラメーターで生成されます。

- 1 インチあたり 6 行 または 12 インチ・ページ。

これ以外に異なる要件がある場合、あるいは示されているデフォルトのいずれでもない場合には、113 ページの表 11 または 113 ページの表 12 を参照してください。

```
BG 0001 1Q47I BG LFCBLINK nnnnn FROM (SYSA) , TIME=yy:yy:yy
BG 0000 // JOB LFCBLINK
          DATE xx/xx/xxxx,CLOCK yy/yy/yy
BG 0000 * EXECUTE THE PROCEDURE FOR THE FORMS CONTROL BUFFER THAT YOU
BG 0000 * WANT LOADED INTO YOUR PRINTER OR IF NOT REQUIRED EXECUTE THE
BG 0000 * PROCEDURE FOR THE CHARACTER SET BUFFER YOU WANT LOADED INTO
BG 0000 * YOUR PRINTER. IF NEITHER IS REQUIRED REPLY "0 (END/ENTER)".
BG 0000 // PAUSE
BG 0000
```

デフォルトの UCB と FCB を受け入れる場合は、次のように入力してください。

0

1. このプリンターには複式機構が必要です。複式機構がないと、デフォルトの UCB が HN トレーンに一致しません。

88 ページの『VSE/POWER 制御のプリンターの始動』に進んでください。次の 2 つの図では、FCB と UCB のプロシージャー名をリストします。

表 11. FCB のプロシージャー名

IBM プリンター	6 LPI 11 インチ・ページ	6 LPI 12 インチ・ページ	8 LPI 8.5 インチ・ページ
3211	LFCB611A	LFCB612A	LFCB885A
3203-5	LFCB611C	LFCB612C	LFCB885C
3262	LFCB611E	LFCB612E	LFCB885E
3289-4	LFCB611F	LFCB612F	LFCB885F
4245	LFCB611G	LFCB612G	LFCB885G
4248	LFCB611H	LFCB612H	LFCB885H
6262-014	LFCB611H	LFCB612H	LFCB885H
1403U	適用外	適用外	適用外

表 12. UCB のプロシージャー名

IBM プリンター	トレーン/ベルト	UCB プロシージャー名
3211	(P11 トレーン)	LUCBP11A
3203-5	(PN トレーン)	LUCBPNC
3262	(48 文字ベルト)	LUCB48E
3262	(63 文字ベルト)	LUCB63P
3262	(96 文字ベルト)	LUCB96E
3289-4	(48 文字ベルト)	LUCB48F
1403U	(PN トレーン)	LUCBPNG
4245	入力不要	入力不要
4248	入力不要	入力不要
6262-014	入力不要	入力不要

FCB または UCB いずれかのプロシージャー名を入力できます。プロシージャー名は、表 11 および表 12 に示してあります。この場合、ユーザーは次の方法のいずれかを選択することができます。

1. **FCB** を作成したい場合は、FCB プロシージャー名を入力します。
2. FCB を使用したくないが、UCB を作成したい場合は、UCB プロシージャー名を入力します。

FCB プロシージャー

0 EXEC PROC=LFCBxxxx (xxxx - プロシージャー名の接尾部)

表 11 を参照してください。

FCB プロシージャー名を入力すると、次のメッセージが表示されます。

```

BG 0000 * THIS PROC WILL CATALOG $$BFCBxx FCB PHASE FOR
BG 0000 * xx INCH LONG PAPER WITH A LINE DENSITY OF x LINES PER INCH
BG 0000 * FOR THE PRINTER TYPE : xxxx
BG 0000 *
BG 0000 * EXECUTE THE PROCEDURE FOR THE CHARACTER SET BUFFER YOU WANT
BG 0000 * LOADED INTO YOUR PRINTER OR REPLY
          "0 (END/ENTER)" IF NONE
BG 0000 * IS REQUIRED.
BG-0000 EOP LFCBxxxx

```

使用するプリンターのタイプに合わせて、LFCB アテンション・コマンドを入力します。 **cuu** には、実プリンターの VSE アドレスを入れてください。

LFCB cuu,\$\$BFCBxx

ここで、ユーザーのプリンターの出力をチェックしてください。 ページ形式が用紙サイズに合っていない場合は、選択した FCB プロシージャが間違っていると思われる。正しい FCB プロシージャを選択して、上記のステップをやり直してください。

UCB が不要な場合は、次のように入力します。

0

UCB プロシージャ

0 exec proc=LUCBxxxx (xxxx - プロシージャ名の接尾部)

113 ページの表 12 を参照してください。

UCB プロシージャ名を入力すると、システムは次のメッセージを表示します。

```
BG 0000 * THIS PROC WILL LINK, AND CATALOG THE UCB PHASE: $$BUCBxx
BG 0000 * FOR A PRINTER TYPE : xxxx WITH A xx-YYYYYYY YYYYY
BG 0000 *
BG 0000 * ENTER THE LUCB ATTENTION COMMAND TO LOAD YOUR CHARACTER SET
BG 0000 * BUFFER INTO THE PRINTER. ONCE THAT IS COMPLETED REPLY
BG 0000 * "0 (END/ENTER)" TO CONTINUE.
BG-0000 EOP LUCBxxxx
```

使用するプリンターのタイプに合わせて、LUCB アテンション・コマンドを入力します。 コマンドは、115 ページの表 13 に示してあります。 **cuu** には、実プリンターの VSE アドレスを入れてください。

LUCB cuu,\$\$BUCBxx,NOCHK[,FOLD]

コマンドを入力したら、プリンターの出力が読めるかどうかを確認します。読めない場合は、間違った UCB プロシージャを選択したと思われる。正しい UCB プロシージャを選択して、上記のステップをやり直してください。

```
AR 0015 1140I READY
BG-0000
```

次のように入力してください。

0

表 13. LUCB アテンション・コマンド

IBM プリンター	LUCB アテンション・コマンド
3211	LUCB cuu,\$\$BUCB,NOCHK,FOLD
3203-5	LUCB cuu,\$\$BUCB00,NOCHK,FOLD
3262 (48 文字)	LUCB cuu,\$\$BUCB22,NOCHK,FOLD
3262 (63 文字)	LUCB cuu,\$\$BUCB22,NOCHK
3262 (96 文字)	LUCB cuu,\$\$BUCB22,NOCHK
3289-4	LUCB cuu,\$\$BUCB10,NOCHK,FOLD
1403U	LUCB cuu,\$\$BUCB4,NOCHK,FOLD
4245	適用外
4248	適用外
6262-014	適用外

BG 0000 EOJ LFCBLINK MAX.RETURN CODE=xxxx
DATE xx/xx/xxxx,CLOCK yy/yy/yy,DURATION zz/zz/zz

不要な z/VSE プログラムの削除

z/VSE システムの初期インストールを終了すると即時に、不要な z/VSE 基本プログラムを削除することができます。

詳しくは、IBM z/VSE 計画を参照してください。また、ライセンスを所有していないプログラムは削除する必要があります。z/VSE では、この目的のための削除ジョブが VSE/ICCF ライブラリー 59 に用意されています。

削除ジョブの名前は、必ず **DEL** で始まり、プログラムの ID がその後続きます。例えば、基本プログラム CICS Transaction Server の場合は CICS です。削除ジョブを使用するには、VSE/ICCF ライブラリー 59 に切り替え、そのジョブを 1 次ライブラリーにコピーしてください。さらに、その削除ジョブをサブミットしてください。

削除ジョブは、システム・ヒストリー・ファイルを更新します。削除ジョブが終了して戻りコードの 4 が返されても、エラーではありません。

削除ジョブのサブミットにあたっては、プログラムの機能が失われるということの重要性について、考慮してください。重要なシステム機能が失われる恐れがあります。

使用できる削除ジョブと、それに対応する z/VSE 基本プログラムのリストを次に示します。

表 14. z/VSE プログラムの削除ジョブ

削除ジョブ	z/VSE プログラム	注を参照
DELCICS	CICS Transaction Server 2.2.0. Report Control Feature、REXX、CICS および CWS を含む。	4
DELDB275	Db2 Server 7.5.0	3
DELDIT	DITTO/ESA 1.3.0	4
DELHLASM	High Level Assembler/VSE 1.6.0	4
DELLECOB	LE/VSE Cobol 1.4.10	4

z/VSE プログラムの削除

表 14. z/VSE プログラムの削除ジョブ (続き)

削除ジョブ	z/VSE プログラム	注を参照
DELLELOC	LE/VSE DBCS Locals 1.4.10	4
DELLEPL1	LE/VSE PL/I 1.10	4
DELOS390	OS/390 API	4
DELREXX	REXX/VSE 9.4.0	4
DELTCPIP	TCP/IP for z/VSE 2.2.0	4
DELIPV6	IPv6/VSE 1.3	4
DELVTAM	VTAM 4.2.0	4
DELCOBII	Cobol II	3
DELCONN	VSE コネクター・ワークステーション・コード	3

削除対象のプログラムについては、以下の点に注意してください。

- 再インストールが容易に行えないことがあります。また、z/VSE 基本プログラムを削除すると、システムに問題が起こる恐れがあります。
- 高速サービス・グレードアップ (Fast Service Upgrade) (FSU) を実行した後、もう一度削除する必要があります。

注:

1. DITTO/ESA 用の削除ジョブを実行し、その後でスタンドアロン・テープを作成し直した場合、DITTO/ESA はスタンドアロン・テープには保管されません。
2. VSE C 言語ランタイム・サポートは削除しないでください。これは、CICS Transaction Server の始動に必要です。
3. インストール済み製品が個別のライセンス交付オーダー/状態と同期するよう、「インストール・クリーンアップ」が必要な場合に、実行依頼を待っている削除ジョブ。
4. カスタマーが使用されていない VSE コンポーネントを確実に削除したい (例えば、ライブラリー・スペースを節約したい) 場合に、オプションの使用に有効な削除ジョブ。

生成機能の概説

z/VSE 基本テープには、監視プログラムに生成機能を提供するためのソース・コードが含まれています。

この (生成機能と呼ばれる) コードのインストールは、オプションです。このインストールは、監視プログラムのリストが必要な場合、または、例えばベンダー・コードのために生成マクロを変更した場合にのみ、行う必要があります。

注: パラメーターを変更することはできません。

したがって、z/VSE 生成機能は、必要な場合にのみインストールしてください。

PRD2.GEN1 サブライブラリーに必要なスペース割り振り量は、ほぼ表 15 のとおりです。リストされたディスク装置は、z/VSE の初期インストールに使用することができます。

表 15. PRD2.GEN1 のためのスペース所要量

IBM ディスク装置	PRD2.GEN1 に必要なスペース	ライブラリー・ブロック数
3390	435 トラック (29 シリンダー)	15000
FBA	28714 ブロック	15000

生成機能をインストールする時期

生成機能のインストールを決定した場合には、初期インストールの直後にインストールすることをお勧めします。

生成機能は、最初の配布カートリッジの一部です。 **z/VSEorm-EN** というラベルの付いた装置をマウントして、生成機能をインストールします。

生成機能をインストールするには、「*Install Generation Feature* (生成機能のインストール)」ダイアログを使用します。次のセクションで、このダイアログと z/VSE 生成機能のインストール・プロセスについて詳しく説明します。

注: お客様が z/VSE を DVD で注文したか、インターネットからダウンロードした場合は、生成機能のインストールは FSU で行うか、または基本テープを実テープにコピーしていれば、その実テープからインストールする必要があります。

z/VSE 生成機能のインストール

「*Install Generation Feature* (生成機能のインストール)」ダイアログでは、生成機能をライブラリー PRD2.GEN1 にインストールするジョブを作成します。またインストールに合わせてシステム・ヒストリー・ファイルを更新します。これにより、これを必要とする他の作業をする場合 (例えば、生成機能に影響を与えるサービスをインストールする場合)、生成機能を利用することができます。

このダイアログにアクセスするには、まず「*Function Selection* (機能選択)」パネルを表示して、次のものを選択してください。

- 1 (Installation (インストール))
- 3 (Install Generation Feature (生成機能のインストール))

管理者用ファースト・パス	同義語
13	デフォルト: ユーザー:

生成機能を実テープまたは仮想テープからインストールできます。このダイアログでは、デフォルト名 INSGEN のジョブを作成します。「*Job Disposition* (ジョブの後処置)」パネルでは、ジョブのバッチをサブミットするか、それをデフォルトの VSE/ICCF 1 次ライブラリーに保管するか、あるいはその両方を行うことができます。

ジョブを VSE/ICCF ライブラリー・メンバーとして保管し、インストールの準備ができたなら、次のようにして、そのジョブを VSE システムにサブミットする必要があります。

1. このダイアログにアクセスするには、まず「*Function Selection* (機能選択)」パネルを表示して、次のものを選択してください。

5 (Program Development) (プログラム開発)

1 (Program Development Library) (プログラム開発ライブラリー)

管理者用ファースト・パス	同義語
51	デフォルト: iccfs ユーザー:

2. 「*Program Development Library* (プログラム開発ライブラリー)」パネルで、**ENTER** を押します。
3. 「*Primary Library* (1 次ライブラリー)」パネルで、次のとおり入力します。
7 (Submit) (サブミット)

入力する場所は、ライブラリー・メンバー INSGEN の隣のオプション (OPT) 欄です。

4. **ENTER** を押して、ジョブをサブミットします。

z/VSE6.2.x-EN というラベルの付いたテープをマウントするようにジョブから要求されます。これには、z/VSE 生成機能が含まれています。仮想テープからインストールを行った場合、該当する情報を指定してください。ダイアログで指定したのと同じ磁気テープ装置を使用してください。

ジョブ INSGEN は、監視プログラムの生成マクロを、サブライブラリーの PRD2.GEN1 にリストアします。監視プログラムを実際に再生成するには、アセンブリー・ジョブを実行して、そのフェーズをシステム・サブライブラリーの IJSYSRS.SYSLIB にカタログ登録する必要があります。VSE/ICCF ライブラリー 59 のスケルトン SKSUPASM を参照してください。

サービス・インストール後の生成機能のインストール

一般に、監視プログラム生成マクロのサービスは、2 つの PTF で構成されます。生成機能がインストールされている場合には、事前生成システムおよび生成機能の両方に対する PTF が自動的に適用されます。

- PTF1 は、事前生成システムにサービスを適用します。
- PTF2 は、生成機能にサービスを適用します。

インストールした生成機能をオフラインにしている場合には、まずこれをリストアして、監視プログラム生成マクロに影響を与えるサービスを適用してください。これにより、必要なサービスのすべてが、確実にシステムに適用されます。

生成機能がインストールされていない場合は、事前生成システムのサービスだけがインストールされます。

事前生成システムと生成機能は、同じサービス・レベルでなければならないことに注意してください。このため、監視プログラム生成マクロにサービスを適用した後に生成機能をインストールする場合、事前生成部分と生成機能を必ず同じサービス・レベルにしなければなりません。

つまり、下記のうちの 1 つを実行しなければなりません。

1. 現在のシステムより高いサービス・レベルにある z/VSE のサービス・リフレッシュが利用可能である場合:
 - a. サービス・リフレッシュを発注する。生成機能は自動的に提供されます。
 - b. 「高速サービス・グレードアップ (Fast Service Upgrade) (FSU)」ダイアログを使用してサービス・リフレッシュをインストールする。
 - c. 「生成機能のインストール」ダイアログを使用して、リフレッシュ・テープから生成機能をインストールする。
2. 最初に受け取った生成機能をインストールしたい場合:
 - a. 「生成機能のインストール」ダイアログを使用して、システムとともに提供された生成機能をインストールする。
 - b. システムに以前から適用していた監視プログラム生成マクロに対するサービスを再インストールする。これらの PTF の再適用を指定すると、MSHP は自動的に、関連する生成機能の PTF も適用します。適用されたサービスのリストを取得するには、高速サービス・グレードアップ (Fast Service Upgrade)のステージ 0 (ダウン・レベル検査) を使用できます。

高速サービス・グレードアップ (Fast Service Upgrade)の詳細については、「IBM z/VSE システム・アップグレードおよびサービス」を参照してください。

システムを正しく作動させるためには、上記の 2 つのプロシーチャーのいずれかを実行しなければなりません。これを行わない場合は、異なるサービス・レベルが混在して、システムの運用に悪影響が及ぶおそれがあります。

その他の考慮事項

生成機能は、ディスクに常駐させる必要はありません。サブライブラリー PRD2.GEN1 のバックアップを作成して、使用しないときは、生成機能をテープに保存しておいてもかまいません。ただし、生成またはこれを必要とするサービス作業を行うときは、生成機能をオンラインにしておく必要があります。

生成機能に影響するサービスを適用することについて詳しくは、「IBM z/VSE システム・アップグレードおよびサービス」を参照してください。

追加プログラムのインストールの概要

z/VSE 拡張基本テープからのプログラムのインストール

z/VSE を DVD として注文したか、インターネットからダウンロードした場合、テープ・イメージのファイル名は VSEvrmXB.AWS になります。

z/VSE 6.2 の z/VSE 拡張基本テープには、以下の基本プログラムが入っています。

追加プログラムのインストールの概要

- Db2 Server for VSE
- Db2 Server for VSE Client Edition
- Db2 DataPropagator Relational Capture
- LE/VSE DBCS ロケール
- VSE コネクター・ワークステーション・コード
- OS/390 API

これらは基本プログラムの一部ですが、オプション・プログラムとして扱い、対話式インターフェースを使用してインストールしなければなりません。対応するダイアログについての詳細は、121 ページの『追加 VSE プログラム用インストール・ダイアログの使用』を参照してください。

追加 VSE プログラムのインストール

z/VSE は、追加 VSE プログラムのインストールをサポートします。追加 VSE プログラムのサブセットは、z/VSE オプション・プログラムとして指定されます。これらのオプション・プログラムは z/VSE と一緒にテストされており、ダイアログを使用して簡単にインストールできます。

z/VSE オプション・プログラムについては、「IBM z/VSE 計画」にリストが示されています。最新情報については、z/VSE に付属のプログラム・ディレクトリーを参照してください。

z/VSE オプション・プログラムは、ライブラリアンのバージョン 2 (V2) スタック・フォーマットで出荷されます。一部の追加 VSE プログラムは、ライブラリアンのバージョン 1 (V1) スタック/非スタック形式で収められています。

- バージョン 2 (V2) フォーマット
 - テープは、VSE 拡張機能バージョン 2 のライブラリアン・フォーマットで配布されます。
 - 1 つ以上のプログラムがテープに収められています。
 - 磁気テープをスキャンすると、テープ上の追加 VSE プログラムに必要なスペースの量がわかります。
 - ダイアログを使用して磁気テープをスキャンすることができます。
- バージョン 1 (V1) フォーマット
 - テープは、VSE/拡張機能のバージョン 2 より前のライブラリアン (V1) フォーマットで配布されます。
 - 1 つ以上のプログラムがテープに収められています。

z/VSE のもとでの他社製プログラムのインストール

ベンダー・プログラムや、IBM 以外の製造業者から提供される他のプログラムをインストールする場合、使用するテープまたはカートリッジが特定の形式で作成されているのであれば、z/VSE ダイアログを使用できます。

次の表は、そのような形式で作成された配布テープ (DVD またはインターネット・デリバリーの場合はファイル) のレイアウトを示しています。プログラム 022A10

は、例にすぎません。DVD にベンダー製品も提供されている場合は、その製品が z/VSE 仮想テープ・サポートを使用して作成されたものである場合に限り、その製品をインストールできます。

表 16. 配布テープのレイアウト

ファイル番号	内容	例
1	ヘッダー・ファイル	HD022A10
2	プロダクト・ヒストリー・ファイル	プログラム 022A10 のヒストリー・ファイル
3	プロダクト・ライブラリー	DW202DA.PR\$A10
4	ヌル・ファイル (テープ・マーク)	ヌル・ファイル
5	EOB (BACKUP 情報の終わり)	EOB
6	ヌル・ファイル (テープ・マーク)	ヌル・ファイル

テープを正しく作成して z/VSE ダイアログからインストールを実行できるようにする方法については、「*Preparing a Product for VSE*」を参照してください。

テープが正しい形式で作成されている場合、「*Install Additional Programs - Version 2 Format* (追加プログラムのインストール - V2 形式)」ダイアログを使用して追加プログラムをインストールすることができます。

追加 VSE プログラム用インストール・ダイアログの使用

追加 z/VSE プログラムをインストールする場合、「*Install Programs - V2 Format* (プログラムのインストール - V2 形式)」ダイアログを介して、以下のダイアログを使用できます。

1. テープ・スキャン・レポートを印刷する、「*Prepare for Installation* (インストールの準備)」ダイアログ。この報告書は、磁気テープ上のプログラムおよび必要なライブラリー・スペースの量に関する情報を示します。さらに、このダイアログでは、インストールの内部テーブルも作成されます。

スキャン・レポートの情報は、プログラムのインストール前にライブラリー構造を計画するときに役立ちます。

2. 1 つまたは複数のプログラムをインストールする「*Install Program(s) from Tape* (テープからプログラムをインストール)」ダイアログ。

注: 対話式インターフェース・ダイアログを使わずに、VSE オptional・プログラムをインストールすることは可能です。しかし、後でダイアログを使用してこれらのプログラムに保守を行う場合に、特別なステップを実行しなければなりません。ダイアログを使用せずにインストールされた VSE プログラムにサービスを適用する方法については、「*IBM z/VSE システム・アップグレードおよびサービス*」を参照してください。

その他の考慮事項

1. 追加 VSE プログラムをインストールする前に、ライブラリーもしくはサブライブラリーに十分なスペースがあることを確認してください。スペースの所要量は、スキャン・レポートで調べてください。

追加プログラムのインストールの概要

2. 「*Prepare for Installation* (インストールの準備)」は、それまでに保管されていたリストをすべて置き換えます。
3. システム管理者だけが、「*Install Programs - V2 Format* (プログラムのインストール - V2 形式)」ダイアログにアクセスできます。このユーザー ID には、すべてのライブラリーを変更 (ALTER) する権限が与えられています (セキュリティー機能がアクティブになっている z/VSE システムに関係します)。
4. コンポーネントによっては、I-ブックと呼ばれる VSE/ICCF タイプのメンバーも含んでいます。これらは、ダイアログにより自動的に、対応する VSE/ICCF ライブラリーにロードされます。
5. 追加 VSE プログラムの機能をインストールするときに問題が発生する場合は、COMPATIBLE WITH ステートメントが必要になることがあります。このステートメントは、出荷されたプログラムと互換性を持つプログラムを、インストール時に MSHP に指示するために使用します。

この MSHP ステートメントに関する説明については、「*z/VSE System Control Statements*」を参照してください。

システムに複数のバージョンのプログラムをインストールする場合

すでにインストールされているプログラムの新しいバージョンをインストールし、次のことを行いたい場合は、注意してください。

- 旧バージョンを保存しておきたい場合。

ダイアログによって、旧バージョンと同じサブライブラリーがデフォルトとして示されても、このサブライブラリーに新しいバージョンをインストールしてはなりません。

注: 複数バージョンが存在する環境の MSHP サポートは、APPLY PTF (PTF の適用) 機能だけに限定されます。

つまり、このような環境では、APAR/ローカル修正機能はサポートされません。

- 旧バージョンを新バージョンで置き換えたい場合。

MSHP REMOVE ステートメントを使用して、古いプログラム情報をシステム・ヒストリー・ファイルから除去しなければなりません。ただし、このコマンドは、ライブラリーから該当するメンバーを削除するわけではありません。それらのメンバーは、新たにインストールするメンバーによって置き換えられます。

詳細については、「*z/VSE System Control Statements*」を参照してください。

注: プログラムの新しいバージョンとは、新リリースや修正レベルのことではありません。例えば、COBOL for VSE/ESA 1.1.0 の場合、次のようになります。

- 1 は、バージョン標識、
- 1 は、リリース標識、
- 0 は、修正レベル標識です。

追加 VSE プログラムのインストール

「*Install Programs - V2 Format* (プログラムのインストール - V2 形式)」ダイアログを使用すれば、VSE/拡張機能 バージョン 2 のライブラリアン・フォーマットで配布されている z/VSE オプション・プログラムまたは追加 VSE プログラムをインストールできます。

このライブラリアン・フォーマットを使用すると、複数のライセンス・プログラムを 1 本の配布テープで配布することができます。このフォーマットでは、ライブラリアンの機能によりテープがスキャンされて、そのテープに関する情報が収集されます。これにより、各プログラムのインストールに必要なライブラリー・スペースの量などの情報が得られます。テープ上のプログラムは、一度に、1 つ、複数、またはすべてをインストールできます。

このダイアログから作成されるジョブ・ストリームは、ジョブ管理を使用してインストールを管理します。121 ページの『その他の考慮事項』に、ダイアログに対するジョブ管理の処理が説明してあります。ダイアログは、次の 2 つの独立した作業から構成されています。

1. *Prepare for Installation* (インストールの準備)

このダイアログは、配布テープをスキャンして、1 本または数本のテープ上にある、200 までの追加 VSE プログラムのリストを作成します。**KEEP PRODUCT LIST** (プロダクト・リストの保管) を使用すると、このリストを保管することができます。また、SYSLST に報告書を印刷します。

オプション・プロダクト・テープに 200 を超えるプロダクトが含まれる場合、このインストール作業を分割する必要があります。合計 200 までのプログラムについては、「*Prepare for Installation*」および「*Install Program(s) from Tape*」タスクを実行できます。残りのプログラムについては、このテープについて 2 つのステップを繰り返します。

2. *Install Program(s) from Tape* (テープからプログラムをインストール)

このダイアログは、プログラムのリストを、そのデフォルト・ライブラリーとともに表示します。適切なライブラリーにインストールするために、1 つ以上のプログラムの選択ができます。

このダイアログを初めて使用するか、または新しいテープを使用する場合は、上記の作業 1 と 2 の両方を行う必要があります。

同じテープを使用して以前にこのダイアログを使用したことがあれば、プログラム・リストが保存されている可能性があります。その場合は、「*Prepare for Installation*」を実行する必要はありません。

次の項では、ダイアログのプロセスについてさらに詳しく説明します。

このダイアログにアクセスするには、まず「*Function Selection* (機能選択)」パネルを表示して、次のものを選択してください。

- 1 (Installation (インストール))
- 1 (Install Programs - V2 Format (プログラムのインストール - V2 形式))
- 1 (Prepare for Installation (インストールの準備))

追加 VSE プログラムのインストール

または

- 2(Install Program(s) from Tape (テープからプログラムをインストール))

管理者用ファースト・パス	同義語
111	デフォルト: ユーザー:

または

管理者用ファースト・パス	同義語
112	デフォルト: ユーザー:

2 つの作業のそれぞれを順序どおりに (1、2) と選択してください。

「Prepare for Installation」ダイアログ

Prepare for Installation (インストールの準備) は、次のことを行うジョブを作成します。

- 1 本以上の配布テープをスキャンする。
- プログラム統計情報を収集する。

ジョブは、システム・プリンターにスキャン・レポートを印刷するほか、テープ上にあるすべての追加 VSE プログラムの内部リストを作成します。このリストは、「*Install Program(s) from Tape* (テープからプログラムをインストール)」ダイアログを使用すると表示されます。

注: 「*Prepare for Installation* (インストールの準備)」ダイアログは、インストールしたいプログラムがテープにスタックされていない場合でも使用できます。

以前のインストールで保管されたプログラム・リストは、「*Prepare for Installation* (インストールの準備)」を実行すると、必ず新しいプログラム・リストで置き換えられます。

```

INS$PRI2                PREPARE FOR INSTALLATION

Enter the required data and press ENTER.

TAPE ADDRESS.....    _____    Address of input tape unit (pcuu). For
                                         valid addresses enter a "?".

VIRTUAL TAPE.....    2                Is it a virtual tape? Enter 1 if
                                         it is a virtual tape, enter 2 if
                                         not.

PF2=REDISPLAY  3=END

```

図 7. 「Prepare for Installation」 ダイアログ

仮想テープから製品をインストールする場合は、テープ・アドレスを入力します。

「Job Disposition (ジョブの後処置)」パネルで、このスキャン・ジョブをバッチでサブミットするか、VSE/ICCF 1 次ライブラリーに保管するか、あるいはその両方を行うことができます。

z/VSE を DVD で注文したか、あるいはインターネットからダウンロードした場合は、仮想テープを使用するとして 1 を入力します。

ジョブを実行依頼するときに実テープを使用する場合は、最初のテープをマウントするように要求されます。ダイアログで指定したテープ・ドライブを使用してください。ほかにもテープがあるときは、順次そのマウント指示が与えられます。

ジョブが完了したら、印刷されたスキャン・レポートを検討してください。追加 VSE プログラムをインストールする前に、下記のいずれかが必要かどうかを判断してください。

- このインストール用に、デフォルトのライブラリーまたはサブライブラリーを変更する。
- ライブラリー・スペースを増やす。

ライブラリーまたはサブライブラリーが置かれている空間を拡張したい場合は、次の機能を使用できます。

1. File and Catalog Management (ファイルおよびカタログの管理) ダイアログを使用して、VSE/VSAM マスターまたはユーザー・カタログ・スペースを拡張する。

使用されるデフォルト・ライブラリーのリストについては、「IBM z/VSE 計画」を参照してください。

2. VSE/VSAM 管理スペースにはないライブラリーの場合、VSE/ICCF ライブラリー 59 にあるスケルトン SKLIBEXT。このスケルトンは、追加 VSE プログラムを、VSE/VSAM の管理下でない特定のライブラリーにインストールするよう、はっきり指定したい場合にのみ使用してください。

追加 VSE プログラムのインストール

ダイアログとスケルトンについては、「IBM z/VSE 管理」で説明されています。

追加 VSE プログラムに生成サブライブラリーが含まれている場合、スキャン・レポートは 2 つの項目を表示します。

1. 最初の項目は、実動サブライブラリーに関するものであり、
2. 2 番目の項目は、生成サブライブラリーに関するものです。

追加 VSE プログラムをインストールする場合は、両方のサブライブラリーがインストールされます。

インストールの準備ができたなら、127 ページの『テープからプログラムをインストールするダイアログ』に進んでください。

仮想テープからのインストール

仮想テープからのインストールとして 1 を入力した場合は、次に示すパネルが表示されます。このパネルで、テープ・イメージ・ファイルの場所を示す VSAM ファイル名、IP アドレス、またはホスト名を入力することができます。

VSAM からプロダクトをインストールする場合は、TCP/IP for z/VSE を使用して、テープ・イメージ・ファイルを先に VSAM データ・セットにアップロードしておかなければなりません。

```
UTL$VTAX                VIRTUAL TAPE: SPECIFY THE DATA SET

Enter the required data and press ENTER.

If the file resides on the VSE system specify the following:

VSAM FILE NAME .....          Unique name of the VSAM file
                               containing the tape image.

If the file resides on a remote system specify the following:
hostname                       _____
or
IP Adress:                     _____
...                             _____
...                             _____
PORT.....                      _____ TCP/IP port number
DATA SET NAME :                _____
...                             _____
...                             _____
...                             _____
...                             _____

PF1=HELP      2=REDISPLAY  3=END
```

図 8. パネル - *Virtual Tape: Specify the Data Set* (仮想テープ: データ・セットの指定) (VSAM)

プロダクトをリモート・システムからインストールする場合は、IP アドレスまたはホスト名と、ファイルの場所を指定します。TCP/IP ポート番号の指定はオプションです。

ワークステーションまたは DVD にあるファイルは仮想テープ形式になっているため、直接使用できます。

```

UTL$VTAX          VIRTUAL TAPE: SPECIFY THE DATA SET

Enter the required data and press ENTER.

If the file resides on the VSE system specify the following:

VSAM FILE NAME .....          Unique name of the VSAM file
                               containing the tape image.

If the file resides on a remote system specify the following:
hostname      198.51.100.24_____
or
IP Adress:    _____
...          _____
...          _____
PORT.....    _____ TCP/IP port number
DATA SET NAME : F:¥DRIVER¥VSEvrnXB.AWS_____
...          _____
...          _____
...          _____
...          _____

PF1=HELP      2=REDISPLAY  3=END

```

図 9. パネル - *Virtual Tape: Specify the Data Set* (仮想テープ: データ・セットの指定) (リモート・システム)

テープからプログラムをインストールするダイアログ

Install Program(s) from Tape (テープからプログラムをインストール) により、配布テープ上の一部のまたはすべての追加 VSE プログラムがインストールされます。

FULIST はテープ上のプログラムを表示します。このリストは、「*Prepare for Installation* (インストールの準備)」の作業時に作成されています。

```

INS$OP11          INSTALL ADDITIONAL PROGRAM(S) FROM TAPE

LIST OF PROGRAMS TO BE INSTALLED

OPTIONS:  1 = INSTALL   2 = SKIP INSTALLATION

      OPT      IDENTIFIER      LIBRARY      SUBLIBR.
      NAME     NAME           NAME         SEQ.NO.   TAPE NO.

      1      OS390.....9.4.0 PRD2      OS390        1         1
      1      LEVSE,DBCS.1.4.10 PRD2      SCEEBASE     2         1
      1      DB2/VSE.....7.5.0 PRD2      DB2750       3         1
      1      ASN/VSE.....7.4.0 PRD2      ASN740       4         1
      1      DB2/VSE.CE..7.5.0 PRD2      DB2750C     5         1
      1      CONN.CLIENT.9.4.0 PRD2      PROD        6         1

      -      _____      _____
      -      _____      _____
      -      _____      _____

PF1=HELP      2=REDISPLAY  3=END          5=PROCESS

ALL SCANNED PRODUCTS NEED A MINIMUM OF 82427 LIBRARY-BLOCKS.

```

図 10. パネル - *Install Additional Programs from Tape* (テープからの追加プログラムのインストール)

注: 「*Prepare for Installation* (インストールの準備)」を使用しなかった場合、および前のテープからのインストールで保管されたリストがない場合、ダイアログとユーザー指定の値に関する詳しい情報については 132 ページの『その他の考慮事項』を参照してください。

ダイアログにより、ジョブ管理の制御下で実行するジョブ・ストリームが作成されます。このジョブ列内のジョブはいずれも取り消してはなりません。取り消しを行うと、ジョブ管理の処理を中断させてしまいます。139 ページの『付録 A. ジョブ管理の概説』に、ジョブ管理および問題発生時にしなければならないことの説明があります。

z/VSE ダイアログを用いてテープから追加 VSE プログラムをインストールする場合に、実行する必要があるステップを以下に示します。

ステップ 1 - Install Additional Program(s) from Tape (テープからの追加プログラムのインストール) (パネル IN\$SOPI1)

FULIST に、インストールしたいプログラムを指示します。OPT 欄には、次のように入力してください。

- 1 - Install (インストール)
- 2 - Skip Installation (インストールのスキップ)

FULIST には、次の情報が表示されます。

IDENTIFIER (ID、識別名)

これは、テープ上のプログラムを示します。

LIBRARY (ライブラリー名) と SUBLIBRARY NAME (サブライブラリー名)

これは、追加プログラムのインストール先となるデフォルトのライブラリーまたはサブライブラリーを示します。このライブラリー名とサブライブラリー名は変更できます。

プログラムに実動部分および生成部分がある場合は、その両方が同じライブラリーにインストールされます。ダイアログで示されたサブライブラリーは、実動部分にのみ使用されます。

生成部分に対しては、プログラムが、インストールに使用するデフォルトのサブライブラリー名を用意します。デフォルトのサブライブラリーは、ダイアログを使って変更できません。

SEQUENCE NUMBER (シーケンス番号)

これは、テープ上のプログラムのシーケンスを示します。これは、入力プログラムの資料と突き合わせたい場合に役立ちます。

この値は変更できません。

TAPE NUMBER (テープ番号)

これは、プログラムが収められているテープの番号を示します。この情報は、入力内容を追加 VSE プログラムの資料と突き合わせたい場合に役立ちます。

この値は変更できません。

インストールしたい追加 VSE プログラムを選択します。PF5 を押して、情報を処理してください。下記の項目の説明のとおり、別のパネルが画面に現れます。

ステップ 2 - Install Additional Program(s) from Tape (テープからの追加プログラムのインストール) (パネル INSSOPI2)

パネルに、追加 VSE プログラムのリストを保管するか消去するかを入力します。

KEEP LIST OF PROGRAMS (プログラム・リストの保存)

プログラムのリストを保管するか、または消去するかを指定します。

- 1 - Save the list (リストの保管)
- 2 - Erase the list (リストの消去)

リストを保管しておく、と、次回のダイアログへのアクセスでそのリストが表示されます。ここでプログラムのいくつかをインストールし、(同じテープ上の)他のプログラムを後でインストールする場合には、このリストを利用できます。「*Prepare for Installation* (インストールの準備)」を再実行する必要はありません。

このリストを消去しても、「*Prepare for Installation* (インストールの準備)」ダイアログを使用すれば、新しいリストを作成することができます。ENTER を押すと、次のセクションで説明するパネルが現れます。

ステップ 3 - Install Additional Program(s) from Tape (テープからの追加プログラムのインストール) (パネル INSSODI2)

このパネルに、インストール用の磁気テープ・アドレスを指定します。

TAPE ADDRESS (テープ・アドレス)

インストールに使用する物理テープ・アドレス (*pcuu*) を指定します。

VIRTUAL TAPE

仮想テープからインストールを行っている場合に指定します。

ジョブ・シーケンスが作成されます。ENTER を押すと、「*Job Disposition* (ジョブの後処置)」パネルが表示されます。

ステップ 4 - Job Disposition (ジョブの後処置)

「*Job Disposition* (ジョブの後処置)」パネルでは、そのジョブをバッチでサブミットすることも、それを VSE/ICCF の 1 次ライブラリーに保管することも、あるいはその両方を行うこともできます。

ジョブを実行依頼するときに実テープを使用する場合は、最初のテープをマウントします。ダイアログで指定したテープ・ドライブを使用してください。このテープは、指示があるまで、位置変更したり取り外したりしてはなりません。ジョブ管理は、インストールを完了させるジョブを管理します。詳しくは、132 ページの『その他の考慮事項』を参照してください。複数のテープがある場合は、次のテープをマウントするよう指示されます。

注: 以下の通知メッセージが表示されます。ここで、xxxxxxx は V2-STACKED または NOT V2-STACKED を示します。

```
IESI0083I TAPE FORMAT IS xxxxxxxx
```

このメッセージは、通知用であり、無視することができます。メッセージが NOT V2-STACKED である場合、ライブラリアン RESTORE ジョブは戻りコード 4 を返して終了することがあります。これはエラーではありません。インストールは正常に行われました。

生成サブライブラリーを含む追加 VSE プログラムをインストールする場合、システムは次のメッセージを表示します。

• M235I INSTALLATION WILL BE DONE AS FOLLOWS:

このメッセージは、ターゲット・サブライブラリーにリストアされるサブライブラリーがどれかを知らせるものです。

• M089D ENTER "GO" TO CONTINUE, OR "CANCEL" TO TERMINATE

インストールを続けるには、**GO** と入力してください。

プログラム・リストを使用しないプログラムのインストール (パネル IN\$OPI3)

以下のいずれも行わない場合、プログラム・リストはありません。

1. ダイアログ「*Prepare for Installation*」を使用する。
2. 前のインストール済み環境のリストを保存する。

ただし、プログラム・リストがなくても、「*Install Program(s) from Tape* (テープからプログラムをインストール)」ダイアログは使用できます。その場合、スキャン・レポートで提示される、テープ内容に関する情報はありません。したがって、「*Install Program(s) from Tape* (テープからプログラムをインストール)」で指定する入力項目については、特別な考慮事項がいくつかあります。これについて以下で説明します。

FULIST に、もう 1 つのオプション (5 =DELETE) が表示されます。ある行に情報を入力する際に入力ミスをしたら、OPT 欄に 5 と入力して、その入力内容を削除できます。

IDENTIFIER (ID、識別名)

プログラムを識別する名前を入力しなければなりません。これは、バックアップ ID と同じです。この ID は固有 (他と異なるもの) でなければなりません。

正しい値についてはプログラム資料を検査してください。誤った ID を指定すると、テープ上に追加 VSE プログラムを見つけることができません。

LIBRARY (ライブラリー名) と SUBLIBRARY NAME (サブライブラリー名)

追加 VSE プログラムに実動部分と生成部分がある場合、同じ ID を二度指定してください。生成部分のライブラリー名には、***GEN** と入力してください。ダイアログで示されたサブライブラリーは、実動部分にのみ使用されます。生成部分に対しては、プログラムが、インストールに使用するデフォルトのサブライブラリー名を用意します。

SEQUENCE NUMBER (シーケンス番号)

シーケンス番号は無視してください。

TAPE NUMBER (テープ番号)

これは、プログラムが収められているテープの番号を示します。番号は昇順で指定しなければなりません。

プログラムの再インストール

「*Install Programs - V2 Format* (プログラムのインストール - V2 形式)」ダイアログを使用して、プログラムの再インストールができます。プログラムの最初のインストール先以外のサブライブラリーを指定すると、さらに別のパネルが表示されます。このパネルには、次のものが示されます。

- プログラムのバックアップ ID
- 現在プログラムが入っているサブライブラリー
- 再インストールしたい新しいサブライブラリー

1 つのサブライブラリーに 1 つの追加プログラムがインストールできます。このため、使用したいサブライブラリーを指定しなければなりません。

- 1 - Install in new sublibrary (新しいサブライブラリーにインストール)
- 2 - Install in original sublibrary (元のサブライブラリーにインストール)

新しいサブライブラリーにインストールする場合は、ダイアログによってシステム・ヒストリー・ファイルが更新されます。しかし、プログラムはまだ元のサブライブラリーにあります。これは、元のサブライブラリーから削除しなければなりません。個々のプログラムの資料を参照し、そのサブライブラリーから削除すべきライブラリー・メンバーの名前を決めてください。

バージョン 1 フォーマットのプログラムのインストール

ライブラリアン・バージョン 1 フォーマット (バージョン 2 VSE/拡張機能より前のライブラリアン・フォーマット) で出荷された追加 VSE プログラムをインストールする場合は、「プログラムのインストール - V1 形式」ダイアログを使用しなければなりません。このダイアログは、ライブラリアンのバージョン 2 に収められているが、テープにスタックされていない追加 VSE プログラムをインストールする場合に使用できます。

バージョン 1 フォーマットで配布された追加 VSE プログラムは、スタックされたバージョン 2 フォーマットのプログラムとは次の 2 つの点で異なります。

1. 1 本のテープには 1 つの追加 VSE プログラムしか収められていません。
2. テープをスキャンして、プログラム統計情報を収集することができません。

注: バージョン 1 フォーマットのプログラムは、DVD でもインターネットでも配布されません。

このダイアログでは、MSHP の制御のもとで追加 VSE プログラムをインストールするジョブ・ストリームが、ダイアログで指定されたシーケンスに従って作成されます。各プログラムは、1 本のテープからインストールされます。ジョブ・ストリームでは、次のテープをシーケンスどおりにマウントするよう要求されます。

ジョブ・ストリームによって、プログラムは適切なライブラリーにインストールされます。さらに、対話式インターフェースで必要なシステム情報が更新されます。

ジョブ・ストリームは、ジョブ管理の制御のもとで実行されます。ダイアログに対するジョブ管理処理については、『その他の考慮事項』を参照してください。

その他の考慮事項

1. 追加 VSE プログラムをインストールする前に、ライブラリーもしくはサブライブラリーに十分なフリー・スペースがあることを確認してください。

配布テープと一緒に提供された関連資料を参照してください。この資料には、プログラムのスペースの所要量に関する最新情報が記載されています。

2. ジョブ・ストリームは、ダイアログで使用されたシーケンスどおりに各ライセンス・プログラムをインストールします。マウントしたテープに、正しいプログラムが入っているかどうかは検査されません。このため、まえもってテープを正しいシーケンスに整理しておいてください。すると、マウント要求があったときに、すぐに正しいテープをマウントすることができます。
3. 追加 VSE プログラムの機能をインストールするときに問題が発生する場合は、MSHP に対して COMPATIBLE ステートメントが必要になることがあります。この MSHP ステートメントに関する説明については、「z/VSE System Control Statements」を参照してください。

プログラムのインストール - V1 形式 ダイアログ

このダイアログにアクセスするには、まず「Function Selection (機能選択)」パネルを表示して、次のものを選択してください。

1 (Installation (インストール))

2(プログラムのインストール - V1 形式)

管理者用ファースト・パス	同義語
12	デフォルト: ユーザー:

インストールしたい各プログラムごとに、上記の情報を入力する必要があります。

ステップ 1 - Install Additional Program(s) from Tape (テープからの追加プログラムのインストール) (パネル INSSODI1)

このパネルはインストールされるプログラム・テープのリストを表示します。ここでは、次の情報を入力する必要があります。

TAPE NUMBER (テープ番号)

これは、プログラム・テープのマウント・シーケンスを示します。この値は変更できません。

テープを、実際の使用順序に従って並べておいてください。これで、ジョブ・ストリームでテープのマウントを要求されたときに、すぐに正しい順序でテープをマウントすることができます。ダイアログでもジョブ・ストリームでも、正しいテープがマウントされたかどうかを検査できません。したがって、ダイアログで使用されるシーケンスに合わせてテープを整理しておくことが重要です。

TAPE LABEL (テープ・ラベル)

インストールしたい各プログラムのテープ・ラベルを入力してください。テープ・ラベルとは、テープを識別するための外部ラベルのことです。このラベルは、ジョブ・ストリームが実行される時、取り付け要求とともに表示されます。

16 文字まで入力できます。各プログラムのインストールにおいて、ラベルの名前は固有でなければなりません。

LIBRARY (ライブラリー名) と SUBLIBRARY NAME (サブライブラリー名)

追加 VSE プログラムのインストール先にしたいライブラリーまたはサブライブラリーを入力してください。ダイアログには、デフォルト・ライブラリーの PRD2 とサブライブラリーの PROD が表示されます。

配布テープと一緒に提供された資料を参照して、追加 VSE プログラムに必要なスペース量を調べ、使用するライブラリーまたはサブライブラリーを決めてください。ライブラリー・スペース情報を示すスキャン・レポートがないため、これは重要です。使用するライブラリーに適切なスペースがあることを確認してください。

追加 VSE プログラムに実動部分と生成部分がある場合、両方とも同じサブライブラリーにインストールされます。

ステップ 2 - Install Additional Program(s) from Tape (テープからの追加プログラムのインストール) (パネル IN\$ODI2)

このパネルに、インストール用の磁気テープ・アドレスを指定します。

TAPE ADDRESS (テープ・アドレス)

インストールに使用する磁気テープ装置のアドレスを入力してください。

VIRTUAL TAPE

仮想テープからインストールを行っている場合に指定します。

ステップ 3 - Job Disposition (ジョブの後処理)

「*Job Disposition* (ジョブの後処理)」パネルでは、そのジョブをバッチでサブミットすることも、それを VSE/ICCF の 1 次ライブラリーに保管することも、あるいはその両方を行うこともできます。

ジョブを実行依頼するときに実テープを使用する場合は、テープ順序の最初のテープをマウントするように要求されます。ダイアログで指定したテープ・ドライブを使用してください。このテープは、指示があるまで、位置変更したり取り外したりしてはなりません。

ジョブ・ストリームからオペレーターに指示があるたびに、ダイアログで指定した順序に従って各テープをマウントしてください。

第 11 章 VM/VSE インターフェース・ルーチンのインストール - (VM のみ)

このセクションでは、VM/VSE インターフェース・ルーチンのインストール方法およびその主な機能の概要を説明します。この章は、VM のもとで z/VSE をインストールするユーザーのためだけのものです。

VM/VSE インターフェースの使用法については、「IBM z/VSE 操作」に説明があります。また、この中には、端末ユーザーの z/VSE ゲスト・システムへのアクセスの仕方についても説明があります。そこでは、CP DIAL コマンド、VTAM クロスドメイン、および VM/パススルー機能も説明されています。

VM/VSE インターフェース・ルーチンについて

VM/VSE インターフェースは、VSE フェーズと z/VSE で提供される CMS モジュールがセットになっています。これらのフェーズとモジュールには、CMS から 1 つまたは複数の z/VSE ゲスト・システムにインターフェースをとるための機能が備わっています。VM/VSE インターフェース・ルーチンは、IJSYSRS.SYSLIB に納められています。ユーザーは、このライブラリーからルーチンを取り出して、それらのルーチンを CMS ミニディスクにインストールしなければなりません。

『VM/VSE インターフェースがサポートする機能』で説明する機能は、提供されている監視プログラムのいずれかを使用すると z/VSE ゲスト・システムとの通信に使用することができます。

VM/VSE インターフェースがサポートする機能

VM/VSE インターフェースを使用すると、以下のことができます。

1. 指定の所有者 (CMS ユーザー ID) に、ジョブまたはシステムからのメッセージの一部または全部を出す、あるいは、全く出さない。
2. ジョブ実行の結果得られるメッセージに応答する。ジョブには、固有のジョブ所有者 ID (CMS ユーザー ID) がなければなりません。
3. CMS 端末から z/VSE ゲスト・システムにジョブをサブミットする。
4. (REDISPLAY コマンドを含む) VSE コマンドを z/VSE ゲスト・システムに出して、その結果のメッセージを CMS ユーザーに出す。
5. CP コマンドを出して仮想マシンで実行し、その結果得られる CP メッセージを CMS ジョブ所有者に転送する。

VM/VSE インターフェースは、機能強化された z/VSE コンソール機能を利用します。詳しくは、IBM z/VSE 操作を参照してください。

VM/VSE インターフェース・ルーチンの概説

表 17. VM/VSE インターフェースのモジュールとフェーズ

CMS ファイル名 (fn)	CMS ファイル・タイ プ (ft)	VSE ライブラリー (ブック) 名	機能
		\$IJBVMCF.PHASE	VM/VSE インター フェース処理ルーチン
SUBVSE	EXEC	SUBVSE.Z	仮想 VSE システムで のジョブのサブミッ ト
VSECMD	MODULE	VSECMD.Z	<ul style="list-style-type: none"> z/VSE システムで の VSE および CP コマンドの実 行 z/VSE システムか らのメッセージの 取り出し
VSECMD	EXPLAIN	EXPCMD.Z	VSECMD コマンド用 ヘルプ・パネル

VSE/ESA 2.1 では、以前のファイル VSECP、VSEMSG、VSEREP、およびこれら
の EXPLAIN ファイルはドロップされました。それらの内容と機能は VSECMD に
統合されています。

VM/VSE インターフェースのインストール方法

VM/VSE インターフェースを使用する前に、該当する機能を使用する許可を受けて
いる CMS ユーザーすべてに、CMS モジュールを配布しておかなければなりません。

VSECMD の使用を制御する際には、注意が必要です。VSECMD は、主にシステ
ム管理者のためのものです。

z/VSE では、VSE/ICCF ライブラリー 59 に (139 ページの図 11 に示している)
スケルトン SKVMVSE が取められています。このスケルトンを使用して z/VSE ゲ
スト・システムから VM マシンの MAINT に MODULES、EXPLAINS、および
EXEC を出力します。(VM ID の MAINT は、一般にこのマシンに使用されます。) 出
力ジョブが正しく行われるようにするには、VSE/POWER 穿孔書き出しプログラ
ムを VM パラメーターを使って開始し、クラス A ジョブを処理できるようにする
必要があります。

インストール作業のリスト

1. まず、スケルトン SKVMVSE を VSE/ICCF ライブラリー 59 から 1 次ライ
ブラリーにコピーしてください。VSE/ICCF ライブラリー・メンバーをコピーす
るには、「*Program Development Library* (プログラム開発ライブラリー)」ダイ
アログを使用できます。

- 次に、スケルトンのコピーを編集します。-V001- 変数を、穿孔出力に対応する VSE/POWER 宛先パラメーターで置き換えます。これは、VM/VSE インターフェースをインストールする VM ユーザー ID と同じ名前です。

注: スケルトンのコピーが完了するときに、括弧に含まれるコンマが上書きされないようにしてください。これは、変数 -V001- の一部ではありません。

ジョブが実行されると、メンバーは変数に指定された宛先 ID の読み取りキューに置かれます。

- z/VSE および VM で同じユーザー ID は使用しないでください。同一のユーザー ID がある場合、これらが同じ人を識別していることを確認する必要があります。CMS および LPAR モードの z/VSE の両方から z/VSE コンソール機能にアクセスするために、同じユーザー ID を同時に使用することはできません。
- ルーチンのロード先になる CMS ミニディスクにアクセスしてください。デフォルトは、最初にアクセスされた R/W ミニディスクになります。ミニディスクは、次のいずれかになります。
 - MAINT 319 (一般アクセス用)
 - 特定ミニディスク (例えば、301)
- VM/VSE インターフェースは IPL 中に (SYS コマンド VMCF=YES) アクティブにされます。


```

* $$ JOB JNM=PUNVMVSE,CLASS=0,DISP=D
* $$ PUN CLASS=A,DISP=D,DEST=(,-V001-),JSEP=(0,N)
// JOB PUNVMVSE PUNCH VM/VSE MODULES FOR INSTALLATION
* *****
* *
* * - - - - - INSTALL VM/VSE FEATURE - - - - -
* *
* * THIS JOB PUNCHES DIFFERENT CMS MODULES
* * OF THE VM/VSE FEATURE TO A DEFINED VM USERID.
* * AT THIS USER-ID, THE MODULES ARE INSTALLED VIA THE CMS
* * 'DISK LOAD' COMMAND (NO OTHER ACTION REQUIRED).
* *
* *
* * THE FOLLOWING VARIABLE IS USED AND HAS TO BE CHANGED:
* *
* * -V001- VSE/POWER DESTINATION PARAMETER FOR PUNCH OUTPUT.
* * IDENTICAL TO THE NAME OF THE VM USERID AT WHICH
* * THE VM/VSE FEATURE WILL BE INSTALLED, E.G. 'MAINT'
* *
* *****
* AFTER YOU HAVE MODIFIED THE SKELETON ENTER '@DTRSEXIT'
* FROM THE EDITOR'S COMMAND LINE.
* THIS MACRO WILL DELETE ALL DESCRIPTIVE TEXT FROM THIS FILE,
* BY DELETING ALL LINES WHICH ARE MARKED WITH THE CHARACTER C
* IN COLUMN 71.
// LIBDEF *,SEARCH=(IJSYSRS.SYSLIB)
// UPSI 1
// EXEC DITTO
$$DITTO SET EOD=))))))
$$DITTO CC
* $$ SLI MEM=VSECMD.Z
* $$ SLI MEM=EXPCMD.Z
* $$ SLI MEM=SUBVSE.Z
))))))
$$DITTO EOJ
/*
/*
/&
* $$ EOJ

```

図 11. z/VSE スケルトン SKVMVSE

付録 A. ジョブ管理の概説

ジョブ管理は、ジョブ・ストリームの実行シーケンスを管理する z/VSE プログラムのことです。このプログラムを使用すると、ユーザーが介入しなくても、一連のジョブをサブミットできます。また、個々のジョブをリリースする必要もありません。

83 ページの『第 8 章 インストール 第 2 部 - 詳細説明 - LPAR モードおよび z/VM』からはジョブ管理によって処理が制御され、残りの手順用にジョブがリリースされます。これは、インストール・ジョブ・ストリームの処理と呼ばれます。ジョブ管理処理は、初期インストールとは別の下記の実インストール作業で使用しますので、ジョブはすべて対話式インターフェースで生成されます。

- z/VSE の初期インストール
- Install Programs - V2 Format (プログラムのインストール - V2 形式)
- プログラムのインストール - V1 形式

- PTF の適用
- 高速サービス・グレードアップ (Fast Service Upgrade)のインストール

ジョブ管理は、ジョブ・ストリームの開始時に、実行すべきジョブの順序付けリストを作成します。ジョブ管理はリストを使用して、VSE/POWER 読み取りキューからジョブを選択的にリリースします。リストは、再始動またはリカバリーのためにディスクに保管されます。

インストールのダイアログに関する特別な考慮事項

z/VSE のインストールの場合、4 つのダイアログがジョブ管理プログラム管理シーケンスというジョブ・ストリームを作成します。それらのジョブ・ストリームがサブミットされると、ジョブ管理の制御のもとでサブミットされます。

この 4 つのダイアログは、本書の次の個所で説明してあります。

1. 123 ページの『追加 VSE プログラムのインストール』
2. 131 ページの『バージョン 1 フォーマットのプログラムのインストール』
3. 「IBM z/VSE システム・アップグレードおよびサービス」の『PTF 処理』および『高速サービス・アップグレードの実行』

ジョブ管理シーケンスは、区画ごとに一度に 1 つしか始動できないので注意してください。また、4 つのダイアログのいずれからのジョブ・ストリームについても、1 つの区画で実行できるジョブ・ストリームは、一度に 1 つだけなので注意してください。141 ページの『エラー処理時に役立つ情報』では、どのオプションを用いてエラー状態を処理するかを説明します。

ジョブ管理コマンド

ジョブ管理プログラムがアクティブにされたときに問題が起こると、事前定義されている異常終了ジョブに制御が渡り、取るべき処置が指示されます。

ジョブ管理が管理するジョブを取り消す場合は、十分に注意してください。これを行うのは、ジョブ管理プログラムが応答を待っているか、またはジョブがリソースが使用可能になる (例えば、テープのマウント) のを待っている場合のみです。

異常終了ジョブが制御権を得ると、次の 3 つのオプションのいずれかを選択することができます。

RESUME

異常終了発生時に実行されていたジョブが、再始動されます。ジョブが何も実行されていなかった場合は、実行シーケンスにおける次のジョブが始動されます。この方法を使用して、ジョブを再始動するようにしてください。

RESET

重大な問題が発生した場合のみ、RESET コマンドを使用してください。RESET を使用する場合は、ジョブを実行しそこなわないようにしてください。

RESET を選択すると、さらにメッセージが出され、次に実行するジョブの名前の入力が必要になります。指定するジョブは、リスト内のどのジョブでもかまいません。リセットされたジョブ以降のすべてのジョブも実行されません。

ジョブ・ストリームは複雑になる場合があります。ジョブ管理シーケンスを変更するときにはいつでも、問題が発生する可能性があります。例えば、1つのジョブと前に実行された別のジョブの間に依存関係が存在する場合があります。また、ジョブの中には、ジョブ管理シーケンスにおける次のジョブに情報や処置を渡さなければならないものがあります。

EXIT ジョブ管理の処理が停止します。異常終了したジョブには、未完了というフラグが付きます。これにより、問題を分析し、訂正することができます。

その後、以下のことを実行すると、ジョブ管理を再始動させて作業を完了させることができます。

1. 該当する異常終了ジョブをリリースする。これには、次のコマンドを入力してください。

```
r rdr,xxxxxxx
```

ここで、xxxxxxx は、異常終了ジョブ名を示します。各作業とそれに対応する異常終了ジョブを、表 18 に示します。

2. 後に、次の 3 つのオプションのいずれかを選択するよう指示されます。

- RESUME
- RESET
- EXIT

表 18. ジョブ管理処理のための異常終了ジョブ名

タスク名	異常終了ジョブ名
z/VSE 初期インストール	INSABEND
「Apply PTF (PTF の適用)」ダイアログ	DTRPTFAB
「Install 高速サービス・グレードアップ (Fast Service Upgrade)」ダイアログ	DTRFSUAB
「プログラムのインストール - V1 形式」ダイアログ	DTRABxx ¹
「Install Programs - V2 Format (プログラムのインストール - V2 形式)」ダイアログ	DTRABxx ¹

¹ ジョブ名 DTRABxx の xx は、システムが内部で生成します。DTRABxx 異常終了ジョブの名前は、各ダイアログのジョブ・ストリームで示されます。

エラー処理時に役立つ情報

例えば、ある区画に現在サブミットされていない未完了のジョブ・シーケンスがあり、それと同じ区画に別のジョブ・シーケンスがサブミットされた場合、z/VSE はメッセージを出します。

問題が生じた場合、次のように処理してください。

エラー処理時に役立つ情報

1. 2 番目のジョブ・シーケンスを取り消す。2 番目のジョブ・シーケンスは、現在のジョブ・シーケンスが正常に終了してから、サブミットすることができます。

または

2. 現在実行中のジョブ・シーケンスを取り消して、2 番目のジョブ・シーケンスを実行する。

ジョブ管理プログラムが管理したジョブの 1 つが失敗した場合、メッセージは、再開、リセット、もしくは終了するかを尋ねてきます。疑わしいソフトウェア問題を処理するために、次のステップを実行します。

- **0 EXIT** を入力します。ジョブ管理プログラムの処理が停止します。異常終了したジョブには、未完了というフラグが付きます。問題の分析と訂正を行います。
- **R RDR,xxxxxxx** を入力してジョブ管理プログラムを再始動させます。(xxxxxxx は異常終了ジョブ名です。)
- **0 RESUME** を入力します。異常終了ジョブが開始されます。ジョブが何も実行されていなかった場合は、実行シーケンスにおける次のジョブが始動されます。

これらのステップを実行しても問題が解決しない場合には、次のことを実行してください。

- **0 RESET** を入力します。システムが次に実行する必要があるジョブの名前を尋ねてきます。例えば、失敗したジョブを実行する前に実行したジョブです。
- **0 xxxxxx** を入力します。この場合、xxxxxxx は次に実行するジョブの名前です。リストのどのジョブでも指定できることに注意してください。リストされたジョブ以降のすべてのジョブが、すでに実行されていても実行されます。

付録 B. 199 を超える VSE/ICCF ユーザーまたは 199 を超える VSE/ICCF ライブラリーのマイグレーション

このセクションは、199 人を超える VSE/ICCF ユーザー、または 199 を超える VSE/ICCF ライブラリーをマイグレーションするユーザーのみを対象としています。

199 を超える VSE/ICCF ユーザーまたは VSE/ICCF ライブラリーをマイグレーションする前に、z/VSE の初期インストールを完了させる必要があります。そのうえで、次のステップを実行してください。

1. 必要なライブラリーおよびユーザーを入力して DTSFILE を再フォーマットする。
 - a. 新しい z/VSE システムの DTSFILE のバックアップをテープにとる。
 - b. 必要な数のユーザーおよびライブラリーで、新しい DTSFILE をフォーマットする。
 - c. FORMAT コマンドでライブラリーとユーザーに新しい値を指定して、新しい DTSFILE をリストアする。
 - d. 199 を超えた分のライブラリーを追加する。
2. マイグレーション・ユーティリティ IESBLDUP を使用して、旧バージョンの VSE システムからユーザー・プロファイルをマイグレーションする。
3. 旧バージョンの VSE システムから、私用の VSE/ICCF ライブラリーをリストアする。

スケルトン SKDTSEXT により、VSE/ICCF DTSFILE の拡張に関する詳しい情報が提供されます。

詳細情報

DTSFILE をフォーマットするために使用するコマンドについての詳細情報は、下記で調べることができます。

- 「IBM z/VSE 管理」で『VSE/ICCF DTSFILE の再フォーマット設定』を参照してください。
- 145 ページの『付録 C. 新リリースへのマイグレーション』の z/VSE マイグレーション・ユーティリティ IESBLDUP

付録 C. 新リリースへのマイグレーション

z/VSE マイグレーション・ユーティリティー IESBLDUP

このセクションでは、z/VSE マイグレーション・ユーティリティー IESBLDUP について説明します。

テスト・システムがインストールされている場合に新規システムをテストした後でユーザー・プロファイルおよび他の制御データを移行する必要があるときなどは、IESBLDUP を使用できます。

IESBLDUP ユーティリティーの紹介

IESBLDUP は、z/VSE 6.2 に、DOS/VSE、VSE/SP、または z/VSE 6.2 より前のすべてのリリースの z/VSE からユーザー・プロファイルを移行するだけでなく、ユーザーが調整した選択パネルやアプリケーション・プロファイルも移行します。IESBLDUP は、ユーザー・プロファイルまたはその他のデータを更新し、現行の VSE 制御ファイル (IESCNTL) および現行の VSE/ICCF DTSFILE に追加します。

マイグレーションの際に、入力ソースは以下のシーケンスで処理されます。

1. 現在の VSE/ICCF DTSFILE。
2. 旧 VSE 制御ファイルおよび旧 VSE/ICCF DTSFILE (またはこのいずれか) のコピー
3. CICS/VSE サインオン・テーブル DFHSNT (CICS/VSE 2.3 または以前の CICS システムからマイグレーションの場合)

重複するユーザー ID が検出された場合は、そのユーザー ID の最初のものだけが追加されます。VSE/ICCF および CICS/VSE 用に定義されたユーザー ID は、モデル z/VSE ユーザー・プロファイルと一緒に、新規ユーザーを z/VSE に定義するためのデータを提供します。

IESBLDUP を使用して、システムのユーザーの状況報告書を作成することもできます。状況報告書は、VSE 制御ファイル、VSE/ICCF DTSFILE、および CICS サインオン・テーブル (DFHSNT) に定義された、すべてのユーザー ID および関連データをリストします。こうした状況報告書は、ユーザー・プロファイルおよびデータを保守するのに貴重な情報を提供します。

DFHSNT に関する注意事項

CICS/VSE 2.3 は、DFHSNT (サインオン・テーブル) が組み込まれた、CICS システムの最後のバージョンです。それ以降のシステムである CICS Transaction Server for z/VSE では DFHSNT をサポートしなくなりました。

DFHSNT の最も簡単なマイグレーション方法は、まず旧 VSE 制御ファイルに DFHSNT をマイグレーションすることです。この処理を行うには、IESBLDUP を実行してから、旧 VSE 制御ファイルのバックアップ・コピーを作成して、実際にマイグレーションを行います。この方法は、CICS/DOS/VS 1.7 から CICS/VSE 2.3 までのマイグレーションに適用できます。

IESBLDUP 制御ステートメント

IESBLDUP の処理は、IESBLDUP 制御ステートメントに定義されたオプションを使用して制御してください。制御ステートメントを使用しないと、デフォルト・オプションが有効になります。制御ステートメントとオプションについては、156 ページの『制御ステートメント』で説明します。

計画と概念について

VSE/ICCF DTSSFILE および VSE 制御ファイルの z/VSE 6.2 へのマイグレーション

VSE/SP または VSE/ESA システムから z/VSE 6.2 にマイグレーションを行う場合、CF=YES が制御ステートメントに指定されていると、旧 VSE 制御ファイルと旧 DTSSFILE が一緒に処理されます。

ユーザー・プロファイルは、旧ファイルからコピーされます。旧 VSE 制御ファイルからのレコードはフォーマットしなおされ、現行の VSE 制御ファイルに組み込まれます。モデル・プロファイルおよび DFHSNT の値は、入力データとして使用されません。旧 VSE 制御ファイルも、z/VSE 予約名 (IES で始まる) を参照するユーザー選択パネルがあるかどうかスキャンされます。ユーザーのパネルに、削除された z/VSE パネルまたはアプリケーションの名前が入っている場合、そのような名前は、対応する z/VSE 6.2 機能に変更され、状況報告書にリストされます。

VSE/ICCF DTSSFILE のみの DOS/VSE ユーザー定義のコピー

旧 DTSSFILE は SYS004 から読み取られます。SYS005 に対する IGN の割り当て (/ / ASSGN SYS005,IGN) は必須です。これにより、VSE 制御ファイルが CF=YES と指定されていても読み取られることがなくなります。

旧 DTSSFILE からのユーザー・プロファイルは、変更なしに直接現行の DTSSFILE にコピーされます。DTSSFILE から現行の VSE 制御ファイルに、z/VSE ユーザー・プロファイルを直接追加することができます (DTSSFILE=YES)。このステートメントを使用すれば、モデル・プロファイルを使用しなくても、旧 DTSSFILE のユーザー定義を現行の DTSSFILE にコピーすることができます。

VSE/ICCF DTSSFILE のみのマイグレーション (DOS/VSE)

DOS/VSE からマイグレーションする場合、入力データとして使用するのは旧 DTSSFILE のコピーのみです。

現行の VSE 制御ファイルに存在しないユーザー ID が検出されると、いくつかの処置がとられます。

- そのユーザー ID が現行 VSE 制御ファイルに追加されます。
- ユーザー・プロファイルが作成され、現行の VSE 制御ファイルに追加されません。

ユーザー ID、パスワード、および VSE/ICCF ライブラリー番号は、旧 DTSSFILE レコードから取られます。z/VSE オプションおよび VSE/ICCF 指定は、制御ステートメントの ADMN または PROG キーワードで指定されたモデル・ユーザー・プロファイルから取られます。

- DTSFILE にユーザーを追加するために、DTSUTIL ADD ステートメントが作成されます。
- 新しいモデル・プロファイル (例えば、SYSA および PROG) を使用したくない場合は、146 ページの『VSE/ICCF DTSFILE のみの DOS/VSE ユーザー定義のコピー』に説明されている要領で旧 DTSFILE のユーザーをコピーしなければなりません。

VSE/ICCF DTSFILE

制御ステートメントで DTSFILE=YES が指定された場合、ユーザーは、現行の DTSFILE から追加されます。ユーザー・レコード (B\$ および E\$ レコード) は、現行の DTSFILE から読み込まれます。検出された固有の ID それぞれに対して、ユーザー・プロファイルが作成され、現行の VSE 制御ファイルに追加されます。ユーザーの ID、パスワード、VSE/ICCF ライブラリー番号、および VSE/ICCF に関する指定は現行の DTSFILE レコードから取られます。z/VSE オプションはモデル・ユーザー・プロファイルから取られます。

z/VSE で必要な VSE/ICCF オプション

z/VSE 対話式インターフェースが正しく作動するためには、ユーザー・プロファイルを特定の VSE/ICCF のオプションで定義することが必要です。

例えば、タイプ 2 ユーザー用のモデルとしてタイプ 1 ユーザー・プロファイルが指定された場合、VSE/ICCF オプションのバイトの設定は正しくありません。新しいユーザー・プロファイルが現行の VSE 制御ファイルに追加される場合、互換性のない VSE/ICCF オプションは状況報告書にリストされます。

制御ステートメントで **ALT=YES** が指定され、新しいユーザーが ADD されることが分かると、これは z/VSE デフォルト値を使用して追加されます。現行の DTSFILE 中の既存のユーザーに関する値は、デフォルト値に変更されます。

z/VSE のデフォルト値は次のとおりです。

- OPTA、OPTB、および OPTC バイト

ユーザー・タイプ 1 (管理者):

```
OPTA - 011*00*1
OPTB - **111010
OPTC - **000*0*
```

ユーザー・タイプ 2 (プログラマー):

```
OPTA - 000*01*0
OPTB - **000000
OPTC - **000*0*
```

- * 検査あるいは変更されないビット

```
TIMEOUT - 600
LOGONRTN - @L$LOGON
DEL, TAB, BS, ESC, END, and HEX - Set to OFF
```

VSE/ICCF オプションに関する詳細については、「IBM z/VSE 管理」の『ユーザー・プロファイルの保守』の項を参照してください。

予約済み VSE/ICCF ライブラリー

VSE/ICCF ユーザーを追加する場合、z/VSE の予約済みライブラリー (50 ~ 68) の 1 つが指定されているかどうかを判別するため、ユーザーのライブラリー番号が検査されます。指定されていた場合、そのライブラリーは互換性がないものとして状況報告書にリストされます。

制御ステートメントで ALT=YES が指定されている場合、ライブラリー番号は、管理者に対しては 10 に、プログラマーに対しては 9 に変更されます。代替ライブラリーが z/VSE の予約済みライブラリーの 1 つとして指定されている場合、それは変更されませんが状況報告書にその旨が示されます。

CICS サインオン・テーブル (DFHSNT)

制御ステートメントで SNT=YES が指定されている場合は、項目について DFHSNT のスキャンが行われます。現行の VSE 制御ファイルに定義されたユーザー ID と一致するものがない場合は、DFHSNT ユーザー ID がタイプ 3 のユーザー (非 VSE/ICCF ユーザー) として追加されます。

145 ページの『IESBLDUP ユーティリティーの紹介』の「DFHSNT に関する注意事項」も参照してください。

IESBLDUP ユーティリティーの使用

IESBLDUP は、以下の処理を実行します。

- VSE 制御ファイルをユーザー・プロファイルと制御データ情報で更新します。
- ジョブ DTRMIGR を作成して VSE/POWER 読み取りキューに格納します。

DTRMIGR は VSE/ICCF ユーティリティー DTSUTIL を呼び出して、次の機能を実行します。

- 現行の VSE/ICCF DTSFILE に新規ユーザー・プロファイルを追加する。
- z/VSE 6.2 とは互換性がない VSE/ICCF DTSFILE オプションを変更する。
- パフォーマンス上の理由から、ダミー・テーブル ADM\$USRT を VSE/ICCF ライブラリー 50 にカタログする。「*Maintain User Profiles* (ユーザー・プロファイルの保守)」ダイアログを初めて使用した後で、テーブル ADM\$USRT を削除する。

IESBLDUP が終了した直後に DTRMIGR が処理されるようにするには、IESBLDUP を CLASS=A ジョブとして実行します (DTRMIGR は CLASS=A, DISP=K として作成されます)。

割り当て

IESBLDUP ジョブ・ストリームについては、次の割り当てが使用されます。

- SYS004

旧 VSE/ICCF DTSFILE のコピー (DTSRSTR) がマウントされるテープ・ドライブを定義します。

- SYS005

旧 VSE 制御ファイルのコピーがマウントされる磁気テープ装置を定義します。ただ 1 台のテープ・ドライブが利用可能で、制御ステートメントで CF=YES が

指定されている場合には、SYS005 を指定解除 (// ASSGN SYS005,UA) しなければなりません。その上で、オペレーターに対して、DTSFILE コピーの処理が完了した後で、旧 VSE 制御ファイルのコピーを SYS004 にマウントするよう指示が出されます。

DOS/VSE の場合、入力データとして使うのは DTSFILE だけなので、SYS005 を // ASSGN SYS005,IGN と定義することにより、旧 VSE 制御ファイル (CF=YES の場合にも) が読み込まれないようにしなければなりません。

- SYS010

現行の VSE/ICCF DTSFILE が常駐するディスク装置を定義します。出荷時点の DTSFILE は SYSWK1 システム・ディスクに収められています。DTSFILE の割り当ては、プロシージャー DTRICCF により行われます。

IESBLDUP の実行

IESBLDUP の実行の際に、ユーザーは下記のことを守る必要があります。

- IESBLDUP は、VSE/POWER が管理するバッチ区画で実行する必要があります。VSE/POWER は、z/VSE 6.2 とともに配布されたように SPOOL=YES オプションを指定して生成する必要があります。
- UPDATE=YES が指定され、対話式インターフェースがアクティブである場合は、次の CEMT コマンドを入力して VSE 制御ファイル (IESCNTL) をクローズします。

CEMT SET FILE(IESCNTL) CLOSE

次のコマンドを入力して、セキュリティー・サーバー区画を閉じてください。

MSG FB,DATA=CLOSECNTL

VSE 制御ファイル (IESCNTL) を再オープンするには、次のとおり入力します。

CEMT SET FILE(IESCNTL) OPEN

セキュリティー・サーバー区画を再オープンするには、次のとおり入力します。

MSG FB,DATA=OPENCNTL

IESCNTL がクローズされている場合、対話式インターフェースにサインオンすることはできません。

また、ユーザーは、DTRMIGR を実行する前に DTSFILE を切断するように要求されます。次のコマンドを入力してください。

/DISC DTSFILE

DTRMIGR が終了したら、次のコマンドを使用して DTSFILE を再接続します。

/CON DTSFILE

- 制御ステートメントで UPDATE=NO が指定されている場合、現行の VSE 制御ファイルおよび DTSFILE の両方とも読み取り専用モードで使用され、クローズまたは切り離しの必要はありません。

- VSE/ICCF モジュールの DTSFILRT および DTSUTIL は、IESBLDUP にアクセス可能な z/VSE ライブラリー内になければなりません。SNT=YES を設定している場合は、CICS サインオン・テーブル (DFHSNT) についても同じことが言えます。

状況報告書

マイグレーション作業の結果を示す状況報告書は、SYSLST に印刷されます。次の項目がリストされます。

- VSE 制御ファイル、VSE/ICCF DTSFILE、および CICS サインオン・テーブル DFHSNT (DFHSNT がマイグレーション済みである場合) に定義されている既存のユーザー ID
- 割り当てられた VSE/ICCF ライブラリー、使用されたモデル・プロファイル、および一致する DFHSNT 項目が検出されたかどうかの標識 (SNT が指定された場合) と共に処理されるそれぞれのユーザー ID

検出された VSE/ICCF オプションが z/VSE 6.2 と互換性がない場合には、古い値が状況報告書に表示されます。

モデル・ユーザー・プロファイル

現行の VSE 制御ファイルに追加される各ユーザー・プロファイル (旧 VSE 制御ファイルからのユーザーを除く) に対して、既存の z/VSE ユーザー・プロファイルが新規ユーザーのモデルとして使用されます。モデル・プロファイルは、新規ユーザー・プロファイルを作成する時のデフォルト値を提供します。

z/VSE 提供のユーザー・プロファイル (例えば、SYSA、PROG、および OPER) は、モデル・プロファイルとして使用できます。また、「*Maintain User Profiles* (ユーザー・プロファイルの保守)」ダイアログを使用して、独自のモデル・プロファイルを定義することもできます。

現行 DTSFILE または旧 DTSFILE から現行の VSE 制御ファイルに追加されたユーザーの場合、選択されるモデルは、VSE/ICCF DTSFILE ユーザー・レコードで定義されているユーザー・クラスに基づきます。ADMN に関する制御ステートメントで指定されたプロファイルは、管理者用のモデル (OPTB=1 のビット 2) として使用され、PROG に対して指定された名前は、その他の全ユーザー用として使用されます。デフォルト (変更することができます) は、ADMN=SYSA および PROG=PROG です。別のモデル・ユーザーを使用する場合、関連するユーザーを新規 (z/VSE 6.2) VSE 制御ファイルに定義する必要があります。

ユーザーが、タイプ 3 のユーザーとして CICS サインオン・テーブル (DFHSNT) から追加される場合、プロファイルは、制御ステートメントの GENL パラメータを使用して定義しなければなりません。名前が指定されない場合、デフォルトは、ユーザー・タイプがタイプ 2 からタイプ 3 へ変更された GENL=PROG です。デフォルト・プロファイルとして PROG を使用すると、初期選択パネルは、VSE/ICCF へのアクセスを必要とする選択を提示します。しかし、タイプ 3 のユーザーは、VSE/ICCF 機能へのアクセスは行えません。そのため、タイプ 3 のユーザー用に独自のデフォルト・プロファイルを作成することをお勧めします。

新しいユーザーの追加

新規ユーザー ID を z/VSE に追加したい場合は、「z/VSE System Utilities」に記載されているように、バッチ・プログラム IESUPDCF を使用しても構いません。システムのマイグレーション後に、新しいユーザーを追加することをお勧めします。

z/VSE 6.2 へのマイグレーション

旧システムからの必要なバックアップ

マイグレーションを行う際は、旧 DTSFILE と旧 VSE 制御ファイルをテープにコピーしておく必要があります。

DFHSNT (最新版は CICS/VSE 2.3 DFHSNT) に定義されているユーザーをマイグレーションしたい場合は、IESBLDUP からアクセス可能なライブラリー内に DFHSNT があることを確認する必要があります。

1. VSE/SP または VSE/ESA からマイグレーションする場合は、「Backup/Restore Library Objects (ライブラリー・オブジェクトのバックアップ/リストア)」ダイアログを使用して旧 DTSFILE のコピーを作成します。

DOS/VSE のユーザーである場合には、VSE/ICCF ユーティリティー DTSUTIL を使用して、DTSFILE のコピーを作成します。DOS/VSE では VSE 制御ファイルが入力データとして使われないため、ステップ 2 は該当しません。

2. VSE/SP または VSE/ESA からマイグレーションする場合は、旧 VSE 制御ファイル (IESCNTL) のコピーを作成します。

バックアップ・コピーの作成は、次のどちらかの方法で行います。

- a. 対話式インターフェースを使用して

VSE 選択パネルで「Resource Definition (リソース定義)」ダイアログを選択してください。「File and Catalog Management (ファイルおよびカタログの管理)」ダイアログで、VSE/VSAM ユーザー・カタログ VSESPUC に対して「Display or Process a File (ファイルの表示または処理)」パネルを選択してください。次のパネルで COPY 機能を選択して、VSE 制御ファイル (IESCNTL) をコピーしてください。COPY 機能では VSE/VSAM REPRO コマンドを使用します。要求されたら、以下の項目を指定してください。

- ボリューム通し番号 (CF0001)
- RECORD FORMAT=3 (可変長ブロック化レコード)
- BLOCK SIZE=4000

注: VSE 制御ファイルのコピーを作成する場合は、VSE/VSAM バックアップ/リストア機能は使用しないでください。VSE/VSAM REPRO コマンドを使用する必要があります。

- b. バッチ処理用のジョブ・ストリームの作成

```

* $$ JOB JNM=BACKNTR,CLASS=A,DISP=D,NTFY=YES
// JOB COPY FILE
// DLBL COPYIN,'VSE.CONTROL.FILE',,VSAM,          X
//          CAT=VSESPUC
// TLBL COPYOUT,'CONTROL.FILE',,CF0001
// ASSGN SYS005,181
// EXEC IDCAMS,SIZE=AUTO
// REPRO INFILE (COPYIN) -
//          OUTFILE (COPYOUT -
//          ENVIRONMENT (BLOCKSIZE (4000) -
//          RECORDFORMAT (VARBLK) -
//          STDLABEL -
//          PRIMEDATADEVICE (2400) REW)) -
//          NOREUSE
//          /*
//          /&
//          * $$ EOJ

```

図 12. VSE 制御ファイルをバックアップする場合のジョブ例

予防的処置

以下の処置は、移行失敗時のリカバリーに役立ちます。

マイグレーションが失敗した場合は、VSE 制御ファイル (失敗の時点で更新は行われていないため、これは損傷していません) のバックアップ・コピーを作成できます。バックアップ・コピーを作成するのに最適なのは、初期インストールのポスト・ベース処理が終了した時点です。

1. 「Backup/Restore Library Objects (ライブラリー・オブジェクトのバックアップ/リストア)」ダイアログを使用する、新規 z/VSE 6.2 システムの DTSFILE のバックアップ。マイグレーション・エラーの場合にも、DTSFILE の正しいバージョンを利用できるようにするために、このステップを実行します。マイグレーション・エラーを検出した場合は、159 ページの『マイグレーション・エラーからのリカバリー』ページを参照してください。ただし、現行の DTSFILE 割り振りよりも多くのライブラリーまたはユーザーをマイグレーションする場合には、DTSFILE のバックアップ前に、再フォーマットが必要になります。z/VSE 提供の DTSFILE には、199 ライブラリーおよび 199 ユーザーのための割り振りが入ります。
2. 新規の z/VSE 6.2 システムの VSE 制御ファイル (IESCNTL) のバックアップ。詳しくは、151 ページの『旧システムからの必要なバックアップ』を参照してください。

また、159 ページの『マイグレーション・エラーからのリカバリー』も参照してください。

マイグレーションのステップ

該当する移行手順を以下にまとめます。

1. 旧 DTSFILE と旧 VSE 制御ファイルのバックアップ・テープを作成します。

DFHSNT をマイグレーションするには、IESBLDUP にアクセス可能なライブラリー内に DFHSNT が存在していることを確認しなければなりません。

2. IESBLDUP を実行するジョブ・ストリームを用意します。

制御ステートメントは、// EXEC ステートメントの直後に配置しなければなりません。アクティブなデフォルト値については、156 ページの『制御ステートメント』を参照してください。

3. まず制御ステートメントで UPDATE=NO を指定して IESBLDUP を実行し、状況報告書を受け取ります。
4. 状況報告書を検討して、エラーがあれば訂正します。
5. 制御ステートメントを UPDATE=YES に変更して、再度ジョブをサブミットします。UPDATE=YES の場合には、対応するメッセージが出されたら、VSE 制御ファイルをクローズします。
6. IESBLDUP の処理が完了すると即座に、ジョブ DTRMIGR がサブミットされます。指示が出されたら、DTSFILE を切り離します。
7. 状況報告書を検討します。
8. ユーザー ID をマイグレーションした後、それらのユーザーを BSTCNTL ベースのセキュリティーに追加する必要があります。ユーザーの追加には、2 つのオプションがあります。
 - 「BSM Group Maintenance」 ダイアログ (ファスト・パス 282)
 - BSTADMIN


```
// EXEC BSTADMIN
CONNECT GROUPXX USER
/*
```
9. BSTSAVER を使用すると、BSM セキュリティー定義をマイグレーションできます。

例 1: VSE/ESA システムからの z/VSE 6.2 へのマイグレーション

次の例は、VSE/ESA システムから z/VSE 6.2 へのマイグレーションの方法を示しています。ユーザー・プロファイル SYSA および PROG が、管理者およびプログラマーのユーザー・モデルとして暗黙に使用されています。

このサンプル・ジョブ・ストリームは、VSE/ICCF ライブラリー 59 内にスケルトン IESBLDUP として収められています。

マイグレーション・ユーティリティー IESBLDUP

```

* $$ JOB JNM=IESBLDUP,CLASS=A,DISP=D
// JOB IESBLDUP  MIGRATION
* *
* * FOLLOWING VARIABLES HAVE TO BE CHANGED BEFORE SUBMITTING:
* *
* * --V001--          VOLID OF THE DTSFILE BACKUP TAPE
* * --V002--          TAPE DRIVE WHERE DTSFILE BACKUP IS
* *                   MOUNTED
* * --V003--          VOLID OF THE BACKUP TAPE OF THE
* *                   CONTROL FILE
* * --V004--          TAPE DRIVE WHERE THE BACKUP OF THE
* *                   CONTROL FILE IS MOUNTED
*
* IMPORTANT:
*   AFTER INITIAL INSTALLATION IS COMPLETED, IN ORDER TO
*   DEFINE THE MIGRATED USERS TO THE BSTCNTL BASED SECURITY
*   YOU HAVE TO PRESS PF6 (GROUPS) ON PANEL 'USER PROFILE
*   MAINTENANCE' FASTPATH 211.
* *****

// EXEC PROC=DTRICCF
// TLBL DTSRSTR,,--V001--    **DTSFILE BACKUP**
// ASSGN SYS004,--V002--
// TLBL CFCOPY,,--V003--    **CONTROL FILE COPY**
// ASSGN SYS005,--V004--
* *****
* ARE BOTH TAPES READY?
* IESCNTL MUST BE CLOSED IF UPDATE=YES IS SPECIFIED. PERFORM
*   CEMT SET FILE(IESCNTL) CLOSE    IN EACH CICS WITH THE
*   MSG FB,DATA=CLOSECNTL          INTERACTIVE INTERFACE ACTIVE
*   TO CLOSE THE FILE IN BSM
* *****
// PAUSE IESCNTL CLOSED, TAPES READY?
// EXEC IESBLDUP,SIZE=64K
CF=YES,DTSRSTR=YES,UPDATE=YES
/*
* *****
* IESCNTL CAN BE REOPENED:
*   CEMT SET FILE(IESCNTL) OPEN    IN EACH CICS
*   MSG FB,DATA=OPENCNTL          TO OPEN THE FILE IN BSM
* *****
// PAUSE OPEN IESCNTL
/&
* $$ EOJ

```

図 13. VSE/ESA システムからのマイグレーション用のジョブ・ストリーム例

155 ページの図 14 に、生成されたマイグレーション・レポートの例が示されています。

```
// EXEC IESBLDUP,SIZE=64K,PARM='INSTALL'   MIGRATE USER PROFILES
1S541 PHASE IESBLDUP IS TO BE FETCHED FROM IJ5YSRS.SYSLIB
12/15/04 z/VSE MIGRATION UTILITY                -INITIALIZATION-                PAGE 1
DTSFILE=NO,DTSRSTR=YES,SNT=NO,UPDATE=YES
IESU00021 VSE CONTROL FILE 'IESCNTL' OPENED FOR OUTPUT
IESU00041 ICCF DTSFILE OPENED
IESU00061 BACKUP DTSFILE 'DTSRSTR' OPENED
IESU00121 CONTROL FILE COPY OPENED
12/15/04 z/VSE MIGRATION UTILITY                -STATUS OF EXISTING VSE USER IDS-        PAGE 2
CONTROL
USER ID  DTSFILE  FILE
$SRV    N        2      II USER PASSWORD HAS EXPIRED
AAAA    A
AZZZ    A
CICSUSER      3      II USER PASSWORD HAS EXPIRED
CNLS      1      II USER PASSWORD HAS EXPIRED
DBDCCICS     1
FORSEC      1
OPER       N        2      II USER PASSWORD HAS EXPIRED
POST       A        1
PRODCICS     1
PROG       N        2      II USER PASSWORD HAS EXPIRED
SYSA       A        1      II USER PASSWORD HAS EXPIRED
VCSR      1
TOTAL     7        11
ALLOC    199
DTSFILE USER TYPE:
A = ADMINISTRATOR
N = NORMAL
CONTROL FILE USER TYPE:
1 = ADMINISTRATOR
2 = PROGRAMMER
3 = GENERAL
12/15/04 z/VSE MIGRATION UTILITY                -CREATE USER PROFILES-                PAGE 3
CONTROL  DEFAULT  ICCF  -----ICCF OPTIONS INCOMPATIBLE WITH z/VSE-----
USER ID  DTSFILE  FILE  PROFILE  LIBR  LIBR  ALT  OPTA  OPTB  OPTC  LOGON  TIMEO  DEL  TAB  BS  ESC  END  HEX
USERS ADDED FROM DTSFILE BACKUP & CONTROL FILE COPY:
*$SRV    A        1      SYSY      11      IGNORED, DUPLICATE ID ON CONTROL FILE
AAAA    A        1
ABCD    A        1
AMAD    A        1
AMA1    A        1
AMA2    A        2
A591    A        1
ELKE    A        1
*FORSEC  A        1
HSC2    A        1
NLST    A        1
*OPER    A        1
*POST    A        1
*PROG    A        1
SCHA    A        1
*SYSY    A        1
TEST    A
TIN1    A
USCH    A        1
VOL1    N
VOL3    N
VOL5    N
WACK    A        1
XXXX    A        1
ZELL    A
* = INDICATES THAT USER ID WAS NOT ADDED
IESU01501 97 RECORDS WERE ADDED TO VSE CONTROL FILE
IESU00101 IESBLDUP EXECUTION COMPLETED, END OF JOB
1S551 LAST RETURN CODE WAS 0000
```

図 14. マイグレーション・レポートの例

例 2: 既存のユーザー ID の状況報告書の作成

次の例では VSE 制御ファイル、VSE/ICCF DTSFILE、および CICS サインオン・テーブル DFHSNT (DFHSNT が存在する場合) に定義されているユーザー ID をリストする状況報告書を作成します。

```
* $$ JOB JNM=IESBLDUP,CLASS=A,DISP=D
// JOB IESBLDUP STATUS REPORT OF USER IDS
// EXEC PROC=DTRICCF
// EXEC IESBLDUP,SIZE=64K
CF=NO,DTSRSTR=NO,UPDATE=NO
/*
/&
* $$ EOJ
```

図 15. 状況報告書のジョブ・ストリーム例

例 3: 状況報告書出力

図 16 は状況報告書出力の例です。

```
// EXEC IESBLDUP,SIZE=64K
1S54I PHASE IESBLDUP IS TO BE FETCHED FROM IJSYSRS.SYSLIB
10/05/04 z/VSE MIGRATION UTILITY                -INITIALIZATION-                PAGE 1
      CF=NO,DTSRSTR=NO,UPDATE=NO
IESU0002I VSE CONTROL FILE 'IESCNTL' OPENED FOR INPUT
IESU0004I ICCF DTSFILE OPENED
10/05/04 z/VSE MIGRATION UTILITY                -STATUS OF EXISTING VSE USER IDS-    PAGE 2
      CONTROL
USER ID  DTSFILE  FILE
$SRV    N        2
AAAA    A        1
AMAD    A        1
ASTA    A        1
AZZZ    A        1
CICSUSER      3
CNSL        1
DBDCCICS     1
ELKE    A     1
FORSEC     1
HSCZ    A     1
OPER    N     2
POST    A     1
PRODCICS    1
PROG    N     2
SYSA    A     1
VCSRV    1
TOTAL    11    15
ALLOC    199
DTSFILE USER TYPE:
  A = ADMINISTRATOR
  N = NORMAL
CONTROL FILE USER TYPE:
  1 = ADMINISTRATOR
  2 = PROGRAMMER
  3 = GENERAL
IESU0150I      0 RECORDS WERE ADDED TO VSE CONTROL FILE
IESU0010I IESBLDUP EXECUTION COMPLETED, END OF JOB
1S55I LAST RETURN CODE WAS 0000
EOJ MIGRAT    MAX.RETURN CODE=0000                DATE dd/mm/yyyy, CLOCK hh/mm/ss, DURATION 00/00/00
```

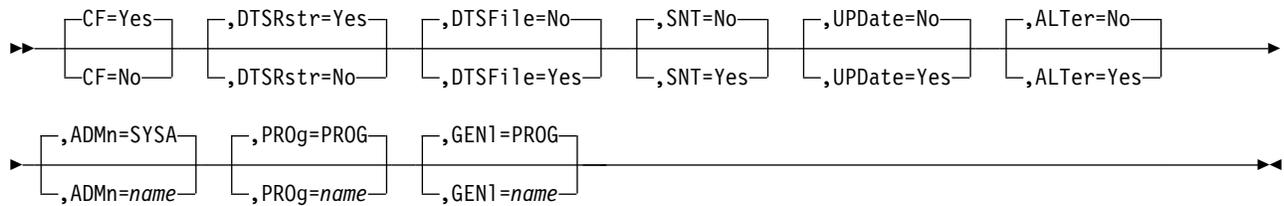
図 16. 状況報告書出力の例

制御ステートメント

制御ステートメントは、// EXEC IESBLDUP ステートメントの直後に置かなければなりません。処理オプションはキーワードによって選択され、複数のステートメントで指定することができます。

制御ステートメントの形式

制御ステートメントの形式は次のとおりです。



パラメーター

デフォルト値には、下線が付いています。

CF=Yes|No

旧 VSE 制御ファイルのコピーを処理するかどうかを指定します。

Yes 旧 VSE 制御ファイルのコピーは、SYS005 に割り当てられたテープ・ドライブから読み取られます。ただ 1 台のテープ・ドライブだけが利用可能な場合、SYS005 を割り当て解除しなければなりません。DTSFILE コピーの読み取り後には、VSE 制御ファイルのコピーは、SYS004 に割り当てられたドライブにマウントされます。旧 VSE 制御ファイルのレコードは、現行の VSE 制御ファイルに追加されます。重複キーをもつレコードおよび予約済み z/VSE レコード・タイプ (IES レコード) は無視されます。このオプションを指定する場合には、DTSRSTR=YES も指定しなければなりません。

No 旧 VSE 制御ファイルのコピーは処理されません。

DTSRstr=Yes|No

旧 VSE/ICCF DTSFILE のコピーを処理するかどうか指定します。

Yes CF=YES が指定されると、

旧 VSE/ICCF DTSFILE のコピーが、SYS004 に割り当てられたテープ装置から読み取られます。VSE/ICCF ユーザー・プロファイルは、現行の DTSFILE にコピーされます。現行の DTSFILE には存在しないユーザー ID が旧 DTSFILE 上にある場合、そのユーザー ID は、旧 DTSFILE から現行の DTSFILE へコピーされます。

CF=NO が指定されると、

旧 VSE/ICCF DTSFILE のコピーが、SYS004 に割り当てられたテープ装置から読み取られます。ファイルで検出された各 ID について、ユーザー・プロファイルが作成され、現行の VSE 制御ファイルおよび現行の DTSFILE に追加されます。現行の VSE 制御ファイルにその ID がすでにある場合は、旧 DTSFILE のその ID は無視されます。

No 旧 DTSFILE のコピーは読み取られません。

DTSFile=Yes|No

現行の VSE/ICCF DTSFILE に定義されたユーザー ID に対して、z/VSE ユーザー・プロファイルを作成するかどうかを指定します。

Yes 現行の DTSFILE が読み取られ、検出された各 ID ごとに、ユーザ

ー・プロファイルが作成され、現行の VSE 制御ファイルに追加されます。ID がすでに VSE 制御ファイルにある場合、その ID は無視されます。

No 現行の DTSFILE からユーザー・プロファイルは作成されません。

SNT=Yes|No

CICS サインオン・テーブル (DFHSNT) を処理するかどうかを指定します。145 ページの『IESBLDUP ユーティリティーの紹介』の「DFHSNT に関する注意事項」も参照してください。

Yes テーブル DFHSNT は、ユーザー・プロファイルの作成および現行の VSE 制御ファイルへの追加時に、一致するユーザー ID が探索されます。その ID は、DFHSNT 内の USERID フィールドと比較されます。ID およびパスワードが一致した場合は、DFHSNT 項目を使用して、新規ユーザー ID に関する (CICS TIMEOUT やセキュリティ・キーのような) CICS データを提供します。DFHSNT は、旧 VSE 制御ファイルから追加されるユーザーがあるかどうかはスキャンされません。それらのユーザー用の CICS データは、旧ユーザー・プロファイルから取られます。

DFHSNT 項目に、4 ~ 8 文字のユーザー ID および 3 ~ 6 文字のパスワードが入っている場合、および現行の VSE 制御ファイルに定義されているユーザー ID と一致するものがない場合、その ID は、タイプ 3 ユーザーとして追加されます。

No テーブル DFHSNT は処理されません。現行の VSE 制御ファイル内の CICS データに対しては、デフォルト値が使用されます。ユーザーは、DFHSNT から追加されません。

UPDate=Yes|No

現行の VSE 制御ファイルおよび VSE/ICCF DTSFILE を更新するかどうかを指定します。

Yes 新規ユーザーが現行の VSE 制御ファイルに追加され、現行の DTSFILE は、新規および変更済み VSE/ICCF ユーザーで更新されます。

No 現行の VSE 制御ファイルは更新されず、現行の DTSFILE を更新するためのジョブ DTRMIGR はサブミットされません。ジョブは、編集モードでのみ実行されます。

ALTer=Yes|No

z/VSE とは互換性のない VSE/ICCF オプションを変更するかどうかを指定します。

Yes VSE/ICCF ユーザー (タイプ 1 および 2) を追加する場合、ユーザーの VSE/ICCF オプションは、z/VSE 非互換オプションについて検査されます。追加されるユーザーが、非互換オプションを指定している場合、そのオプションは z/VSE と互換性のあるものに変更されます。VSE/ICCF オプションの説明については、「IBM z/VSE 管理」の『ユーザー・プロファイルの保守』を参照してください。

No 互換性のない VSE/ICCF オプションは変更されません。

ADMn=SYSA | name

入力データが現行の DTSFILE または旧 DTSFILE からのものである場合に、管理者 (OPTB=1 のビット 2) 用の「モデル」として使用するユーザー・プロファイルを指定します。このプロファイルは、新規ユーザー用のデフォルト・データを提供します。指定されるモデル・ユーザー・プロファイルは、IESBLDUP の実行前に、現行の VSE 制御ファイルに定義しておかなければなりません。

PROG=PROG | name

入力データが現行の DTSFILE または旧 DTSFILE からのものである場合に、タイプがプログラマー (OPTB=0 のビット 2) の「モデル」ユーザーとして使用するユーザー・プロファイルを指定します。このモデル・ユーザー・プロファイルは、新規ユーザー用のデフォルト・データを提供します。指定されるユーザー・プロファイルは、IESBLDUP の実行前に、現行の VSE 制御ファイルに定義しておかなければなりません。

GENI=PROG | name

ユーザーをタイプ 3 ユーザーとして、CICS サインオン・テーブル (DFHSNT) から z/VSE に追加する場合に「モデル」として使用する、ユーザー・プロファイルを指定します。指定されるユーザー・プロファイルは、IESBLDUP の実行前に、現行の VSE 制御ファイルに定義しておかなければなりません。指定されたプロファイルがタイプ 3 のプロファイルではない場合、VSE/ICCF オプションは無視され、ユーザーはタイプ 3 ユーザーとして追加されます。

マイグレーション・エラーからのリカバリー

旧 VSE 制御ファイルを移行するときにエラーが発生する場合、以下の手順を実行すれば、以前に保存された新規 VSE 制御ファイルを復元できます。

また、152 ページの『予防的処置』も参照してください。

1. z/VSE 選択パネルで、「Resource Definition (リソース定義)」ダイアログを選択します。
2. 「Display or Process a File (ファイルの表示または処理)」ダイアログから COPY 機能を選択します。
3. 「Copy Files (ファイルのコピー)」パネルで、そのファイルを出力ファイルとして指定し、2 番目の入力ファイルをテープとして指定します。
4. ファイル ID および名前を入力します。
5. 「Copy Files - Tape Specification (ファイルのコピー - テープの指定)」パネルで、以下のものを指定しなければなりません。
 - RECORD FORMAT=3 (可変長ブロック化レコード)
 - BLOCK SIZE=4000

注: ジョブはサブミットする前に編集する必要がありますので、ジョブをサブミットして即時サブミットさせないでください。

6. ジョブを編集し、REPLACE オプションを挿入します (160 ページの図 17を参照)。
7. ジョブをサブミットします。

VSE 制御ファイルのリストアに関するジョブ例

```
* $$ JOB JNM=RETCNTR,CLASS=A,DISP=D,NTFY=YES
// JOB  AMAD  COPY FILE
// DLBL COPYOUT,'VSE.CONTROL.FILE',,VSAM,
//      CAT=VSESPUC
// TLBL COPYIN,'CONTROL.FILE',,CF0001
// ASSGN SYS004,181
// EXEC IDCAMS,SIZE=AUTO
  REPRO INFILE (COPYIN -
    ENVIRONMENT (BLOCKSIZE (4000 ) -
      RECORDFORMAT (VARBLK) -
      STDLABEL -
      PRIMEDATADEVICE (2400) REW)) -
    OUTFILE (COPYOUT) -
    NOREUSE REPLACE
/*
/&
* $$ EOJ
```

X

図 17. VSE 制御ファイルのリストア

付録 D. 仮想テープからの初期インストールの準備

z/VSE は DVD で注文できますが、インターネットでダウンロードすることもできます。どちらの方式も、仮想テープ・フォーマット (AWS テープ・フォーマット) に基づいています。インストールは両方のメソッドで同様です。電子デリバリーの場合は、最初に IBM の Web サイト (Shopz) からファイルをワークステーションにダウンロードして **unzip** する必要があります。z/VSE が DVD で配布された場合は、お客様のワークステーションでデータを直接使用することができます。

以下の表に、z/VSE テープ・イメージに使用されているファイル名を挙げます。

表 19. テープ・イメージのファイル名

テープ・イメージ	DVD	電子デリバリー (インターネットからダウンロードして unzip する)
基本テープ	VSEvmEN.aws	VSEvmEN.aws
拡張基本テープ	VSEvmXB.aws	VSEvmXB.aws
Db2 ヘルプ・テープ	DB2SERVE.aws	DB2SERVE.aws
オプションの製品・テープ	VSEvmOP.aws	VSEvmOP.aws

最初の DVD には、z/VSE 基本、拡張基本、および Db2 ヘルプの各テープ・イメージのファイルが入っています。オプションの製品は 2 枚目の DVD に入っています。電子デリバリーでは、Download Director が DownloadDirector と呼ばれるディレクトリを作成して、ZIP 仮想テープ・イメージ・ファイル (AWS テープ・イメージ・ファイル) をこのディレクトリ (例えば、C:\DownloadDirector) にダウンロードします。

インストールの準備

z/VSE 6.2 のインストールを開始する前に、以下のステップに従ってください。

1. 基本テープの仮想テープ・ファイルを準備する。
2. 基本テープを含むファイルを実テープにコピーする (『ワークステーションでの仮想テープ・ファイルの準備』を参照)。
3. 拡張基本製品とオプションの製品をインストールして、インストールを完了する。

ワークステーションでの仮想テープ・ファイルの準備

ダウンロードしたファイルを、圧縮ユーティリティ (例えば、PKUNZIP) を使用して **unzip** します。ZIP ファイルはそれぞれ 1 つの仮想のテープ・イメージ・ファイルを含んでいます。z/VSE を DVD で受け取った場合は、仮想テープ・ファイルがすでに仮想テープ・フォーマット (aws) になっていて、すぐ使用することができます。

以下のセクションでは、z/VSE を DVD からインストールまたはアップグレードするために必要なステップを説明します。

初期インストールのための準備

基本テープ (AWS テープ・フォーマット) を実テープにコピーします。仮想テープ・フォーマットのテープ・イメージの読み取りが可能なシステムに z/VSE 6.2 をインストールする計画の場合は、イメージを実テープや VSAM にコピーする必要がありません。エミュレートされたテープ装置の配布ファイルを使用して、初期インストールを直接続行することができます。

ファイルを実テープにコピーするには、カートリッジが最低 250 MB を収容可能でなければなりません。

必要な APAR に関する最新情報については、z/VSE プログラム・ディレクトリーを参照するか、または z/VSE Web サイトで入手できるインストール指示を参照してください。

仮想テープを実テープにコピーするには、VSE 仮想テープ・サポートを使用します。これは、リモート・サイト (ワークステーション) から、または VSAM および FTP とその後の DITTO テープ間コピーを介して行うことができます。

VSE 仮想テープ・サポート操作上の考慮事項に関する文書を、z/VSE サービスおよびサポートの Web ページで入手できます。

ワークステーションのリモート・テープ・イメージを使用して、基本テープを実テープにコピーする方法

以下のステップで、テープ・イメージのコピーを行います。以下に示すように、VSE ジョブを実行して、ワークステーションに存在する仮想テープ・フォーマットの基本テープ・イメージを、実テープにコピーします。このジョブは、アドレス *cuu1* の仮想テープを使用して、*cuu2* の実テープに DITTO テープ間コピーを行います。指定が必要なパラメーターについては、以下の例を参照してください。ご使用のワークステーションで VSE 仮想テープ・サーバーが開始したことを確認してください。

```
* $$ JOB JNM=COPYTAPE,CLASS=0,DISP=D
// JOB COPYTAPE
// PAUSE PLEASE MOUNT A TAPE ON <cuu2>
// UPSI 1
DVCDN <cuu1>
// PAUSE - DEVICE DOWN OK
// VTAPE START,UNIT=<cuu1>,LOC=<host_id>,FILE='<filename>',READ
DVCUP <cuu1>
// ASSGN SYS010,<cuu2>,08 * OUTPUT MEDIA, COMPRESSED
// ASSGN SYS011,<cuu1> * INPUT MEDIA
// EXEC DITTO
$$DITTO REW OUTPUT=SYS010
$$DITTO REW INPUT=SYS011
$$DITTO TT INPUT=SYS011,OUTPUT=SYS010,NFILES=<99>
/*
DVCDN <cuu1>
// VTAPE STOP,UNIT=<cuu1>
DVCUP <cuu1>
/&
* $$ EOJ
```

ジョブをサブミットする前に、以下のパラメーターを入力してください。

<cuu1>

入力テープ (仮想) の装置アドレス。

<cuu2>

出力テープ (実) の装置アドレス。

<host_id>

VSE 仮想テープ・サーバーが稼働しているワークステーションの IP アドレスまたはホスト名

<'filename'>

z/VSE 基本テープを含むリモート仮想テープ・イメージのファイル名とパス (例: C:¥DownloadDirector¥VSEvrmEN.AWS)

注: すべてのファイルをコピーしてください。テープ上のファイルの数として、99を入力できます。メッセージ

0P36I NO REC FND

は無視してください。

注: 基本テープおよび拡張基本テープの NFILES の値については、z/VSE プログラム・ディレクトリーを参照してください。

テープ・イメージを実テープにコピーしたあと、z/VSE 6.2 基本テープのインストールを続行します。

z/VSE システムの VSAM テープ・イメージを使用する方法

z/VSE システムの VSAM テープ・イメージを使用するには、以下のステップを行います。

- スケルトン SKVTAPE (ICCF ライブラリー 59) を使用して、VSAM に仮想テープ・ファイルを定義する。基本テープをコピーするには、およそ 250 MB の VSAM スペースが必要です。
- 仮想テープ・フォーマット (aws タイプ) の基本テープを、FTP を使用して VSAM に転送する。詳しくは、164 ページの『基本テープを VSAM にアップロードして、仮想テープから FSU を行う方法』を参照してください。
- 仮想テープ・フォーマット (aws タイプ) の基本テープを、FTP を使用して VSAM に転送する。
- VSAM 基本仮想テープを DITTO ジョブで実テープにコピーする。これについては、162 ページの『ワークステーションのリモート・テープ・イメージを使用して、基本テープを実テープにコピーする方法』で説明されていますが、次の VTAPE コマンドを使用します。

```
// VTAPE START,UNIT=<cuu1>,LOC=VSAM,FILE='<tape image file>',READ
```

<tape image file> は、テープ・イメージを含む VSAM ファイルのラベル名 (例えば、VTAPE1) です。

テープ・イメージを実テープにコピーしたあと、z/VSE 6.2 基本テープのインストールを続行します。

基本テープを **VSAM** にアップロードして、仮想テープから **FSU** を行う方法

仮想テープを使用してリリース・アップグレードを実行する場合は、スケルトン SKVTAPE (ICCF ライブラリー 59 で提供される) を使用して VSAM ESDS クラスタを定義します。カタログには、およそ 250 MB のフリー・スペースが必要です。

テープ・イメージを VSAM データ・セットにアップロードします。基本テープは、TCP/IP FTP を使用して VSAM データ・セットにロードします。これを行うには、VSE/ESA 区画用の TCP/IP に FTP デーモンを定義する必要があります。アップロードには、以下のコマンドを使用します。

```
C:\DownloadDirector>ftp 10.2.3.45          <-- IP address or hostname of VSE system
Connected to 10.2.3.45.
220-TCP/IP for VSE -- Version 01.05.00 -- FTP Daemon
Copyright (c) 1995,2001 Connectivity Systems Incorporated
220 Service ready for new user.
User (10.2.3.45:(none)): sysa                <-- ここにユーザー ID を入力
331 User name okay, need password.
Password:                                   <-- パスワードを入力
230 User logged in, proceed.
ftp> bin                                    <-- switch to binary mode
200 Command okay.
ftp> quote site lrecl 32758                 <-- record size of your file
200 Command okay.
ftp> quote site recfm v                     <-- set record format to variable
200 Command okay.
ftp> put VSEvrMY.YY.AWS VSE.VTAPE.FILE     <-- enter your filenames
```

基本テープをロードしたあと、仮想テープから FSU を開始することができます。

追加プロダクトのインストール

拡張基本テープからのプロダクトは、オプションのプロダクトと同じく、対話式インターフェース・ダイアログを使用してリモート・サーバー (ワークステーション) からインストールすることができます。関連した仮想テープ・ファイルも FTP を使用して VSAM に転送することができます。VSAM 仮想テープからのインストールも、対話式インターフェース・ダイアログを使用して行います。必要な場合は、仮想テープを実テープにコピーすることもできます。コピーするファイルの数は、テープに入っているプロダクトの量によって決められます。DITTO テープ間コピー・ジョブでは 999 個のファイルを指定できますが、この場合は仮想入力テープにエラー・メッセージが生成されます。

Db2 ヘルプ機能をインストールするには、Db2 のインストール時にリモート仮想テープ・ファイルを指す仮想テープ・アドレスを指定するか、または仮想 Db2 ヘルプ・テープを実テープにコピーします。

インターネットから **z/VSE** を受信するための追加情報

お客様のご注文によっては、ZIP 形式でパッケージされた品目が含まれることがあります。この場合は、次の手順で実行してください。

1. xxxxxx.zip file をワークステーションにダウンロードする。
2. unzip 機能を使用して、ファイルを抽出する。

- 抽出した資料をブラウザして、readme.txt、index.htm、または index.html などのファイルを開始させる。

抽出されたファイルの大部分は、直接使用することができます。場合によっては、お客様のご注文に、最初から DVD にパッケージされていた ADDITIONAL MATERIAL または ADDITIONAL PUBLICATIONS が含まれることもあります。これらは、ファイル拡張子 .iso を持つ ISO 9660 イメージとして提供される可能性があります。ISO 9660 DVD-ROM イメージは、データおよびプログラムが DVD に入っている通りに正確に表記されている単一のラージ・ファイルであり、内容と論理形式の両方を反映しています。

.iso ファイルを使用するには、次の 2 つのオプションがあります。

- 物理的な DVD を作成する。これを行うには、ご使用のワークステーションに DVD 書き込み機能と、ISO 9660 形式をサポートするソフトウェアが備わっている必要があります。物理 DVD を作成すると、それは元の DVD の正確なコピーであり、元のイメージの特性 (例えば、特殊なファイル名や、該当する場合は、ブート可能 DVD など) をすべて持つものになります。
- 仮想 DVD ソフトウェアを使用する。仮想 DVD ソフトウェアは、お客様のコンピューターの DVD ドライブをエミュレートして、お客様がプログラムを実行し、DVD イメージ・ディレクトリーおよびファイルに提供されているデータを表示したり使用したりすることができるようにします。これは、物理 DVD を作成する代わりにの方法です。このソフトウェアは、.iso ファイルをサポートしている必要があります。

ご使用条件をお読みになって、これらのパッケージを処理するために使用するソフトウェアに固有の手順に従ってください。

仮想テープを使用する場合のファイル名およびその他の考慮事項

リモート仮想テープで必要な Linux、UNIX、または Windows ファイルが存在しない場合は、該当する VTAPE START コマンドがサブミットされた後で、自動的に作成されます。ファイル名を割り当てる場合は、以下に概説する特定の規則と特性を順守する必要があります。

Linux および UNIX の考慮事項

Linux および UNIX では、大/小文字の区別がありますが、z/VSE ホスト (対話式インターフェースのダイアログを使用) で作成されるジョブ・ストリームは大文字です。そのため、場合によっては、そのようなジョブ・ストリームを編集して、ファイル名を Linux または UNIX の規則に適應させる必要があります。

Windows の考慮事項

Windows ファイル名にはブランクを含めることができるため、ファイル名は引用符で囲む必要があります。ファイル名に含まれる引用符は、2 つの単一引用符としてコーディングする必要があります。例えば、次のようになります。

```
FILE='D:¥John''s¥Virtual Tapes¥vt001401.001'
```

Windows ファイル名は、100 文字を超える長さにすることができます。リモート・ファイルの場合の限度は 100 文字であるため、FILE='filename を

仮想テープからのインストール

2 回または 3 回でも指定できます。ファイル名はストレージ内で連結され、長さ 200 または 300 のファイル名でも可能になります。次の例は、前の例と同等です。

```
FILE='D:',FILE='¥John's¥Virtual Tapes¥',FILE='vt001401.001'
```

例

「Prepare for Installation」 ダイアログで生成されたジョブの例を以下に示します。

```
* $$ JOB JNM=INSPRE,DISP=D,PRI=3, C
* $$ NTFY=YES, C
* $$ LDEST=*, C
* $$ CLASS=0
// JOB INSPRE SCAN OPTIONAL PRODUCT TAPE
// LIBDEF PHASE,SEARCH=(PRD1.BASE,IJSYSRS.SYSLIB)
* *
* * PREPARE ADDITIONAL PROGRAM INSTALLATION
* * - SCAN PROGRAM TAPE
* *
* * VIRTUAL TAPE SPECIFIED, NO REAL TAPE DRIVE REQUIRED ON
* * 280
// EXEC IJBVTDLG
UNIT=181,
HOSTNAME=123.123.123.123
HOSTNAME=
HOSTNAME=
HOSTNAME=
HOSTNAME=
HOSTNAME=
HOSTNAME=
FILE='DATASET*****'
FILE='*****'
FILE='*****'
FILE='*****'
FILE='*****'
FILE='*****'
FILE='*****'
READ /*
// ASSGN SYS006,280
// MTC REW,SYS006
// EXEC DTRIPRE,PARM='VDDR=280'
/*
// ASSGN SYS006,UA
// VTAPE STOP,UNIT=280
/&
* $$ EOJ
```

上記ジョブは、サブミットする前に、ライブラリーに保管し、必要に応じて編集することができます。例えば、SET CASE MIXED コマンドを使用して下記に示されるステートメントを作成するとします。

```
:
:
FILE='my*TEST.file*****'
FILE='*****'
FILE='*****'
FILE='*****'
FILE='*****'
FILE='*****'
FILE='*****'
FILE='*****'
:
```

最終的にジョブがサブミットされたときに、大/小文字混合のファイル名が使用されます。

特記事項

本書は米国 IBM が提供する製品およびサービスについて作成したものです。この資料は、IBM から他の言語でも提供されている可能性があります。ただし、これを入手するには、本製品または当該言語版製品を所有している必要がある場合があります。

本書に記載の製品、サービス、または機能が日本においては提供されていない場合があります。日本で利用可能な製品、サービス、および機能については、日本 IBM の営業担当員にお尋ねください。本書で IBM 製品、プログラム、またはサービスに言及していても、その IBM 製品、プログラム、またはサービスのみが使用可能であることを意味するものではありません。これらに代えて、IBM の知的所有権を侵害することのない、機能的に同等の製品、プログラム、またはサービスを使用することができます。ただし、IBM 以外の製品とプログラムの操作またはサービスの評価および検証は、お客様の責任で行っていただきます。

IBM は、本書に記載されている内容に関して特許権 (特許出願中のものを含む) を保有している場合があります。本書の提供は、お客様にこれらの特許権について実施権を許諾することを意味するものではありません。実施権についてのお問い合わせは、書面にて下記宛先にお送りください。

〒103-8510

東京都中央区日本橋箱崎町19番21号

日本アイ・ビー・エム株式会社

法務・知的財産

知的財産権ライセンス渉外

IBM およびその直接または間接の子会社は、本書を特定物として現存するままの状態を提供し、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任を負わないものとします。国または地域によっては、法律の強行規定により、保証責任の制限が禁じられる場合、強行規定の制限を受けるものとします。

この情報には、技術的に不適切な記述や誤植を含む場合があります。本書は定期的に見直され、必要な変更は本書の次版に組み込まれます。IBM は予告なしに、随時、この文書に記載されている製品またはプログラムに対して、改良または変更を行うことがあります。

本書において IBM 以外の Web サイトに言及している場合がありますが、便宜のため記載しただけであり、決してそれらの Web サイトを推奨するものではありません。それらの Web サイトにある資料は、この IBM 製品の資料の一部ではありません。それらの Web サイトは、お客様の責任でご使用ください。

IBM は、お客様が提供するいかなる情報も、お客様に対してなんら義務も負うことのない、自ら適切と信ずる方法で、使用もしくは配布することができるものとします。

本プログラムのライセンス保持者で、(i) 独自に作成したプログラムとその他のプログラム (本プログラムを含む) との間での情報交換、および (ii) 交換された情報の相互利用を可能にすることを目的として、本プログラムに関する情報を必要とする方は、下記に連絡してください。

IBM Director of Licensing
IBM Corporation
North Castle Drive, MD-NC119
Armonk, NY 10504-1785
US

本プログラムに関する上記の情報は、適切な使用条件の下で使用することができませんが、有償の場合もあります。

本書で説明されているライセンス・プログラムまたはその他のライセンス資料は、IBM 所定のプログラム契約の契約条項、IBM プログラムのご使用条件、またはそれと同等の条項に基づいて、IBM より提供されます。

IBM 以外の製品に関する情報は、その製品の供給者、出版物、もしくはその他の公に利用可能なソースから入手したものです。IBM は、それらの製品のテストは行っておりません。したがって、他社製品に関する実行性、互換性、またはその他の要求については確認できません。IBM 以外の製品の性能に関する質問は、それらの製品の供給者にお願いします。

IBM の将来の方向または意向に関する記述については、予告なしに変更または撤回される場合があります、単に目標を示しているものです。

本書には、日常の業務処理で用いられるデータや報告書の例が含まれています。より具体性を与えるために、それらの例には、個人、企業、ブランド、あるいは製品などの名前が含まれている場合があります。これらの名前はすべて架空のものであり、類似する人物や企業が実在しているとしても、それは偶然にすぎません。

著作権使用許諾:

本書には、様々なオペレーティング・プラットフォームでのプログラミング手法を例示するサンプル・アプリケーション・プログラムがソース言語で掲載されています。お客様は、サンプル・プログラムが書かれているオペレーティング・プラットフォームのアプリケーション・プログラミング・インターフェースに準拠したアプリケーション・プログラムの開発、使用、販売、配布を目的として、いかなる形式においても、IBM に対価を支払うことなくこれを複製し、改変し、配布することができます。このサンプル・プログラムは、あらゆる条件下における完全なテストを経ていません。従って IBM は、これらのサンプル・プログラムについて信頼性、利便性もしくは機能性があることをほのめかしたり、保証することはできません。これらのサンプル・プログラムは特定物として現存するままの状態を提供されるものであり、いかなる保証も提供されません。IBM は、お客様の当該サンプル・プログラムの使用から生ずるいかなる損害に対しても一切の責任を負いません。

プログラミング・インターフェース情報

本書には、プログラムを作成するユーザーが z/VSE のサービスを使用するためのプログラミング・インターフェースが記述されています。

商標

IBM、IBM ロゴおよび [ibm.com](http://www.ibm.com) は、世界の多くの国で登録された International Business Machines Corp. の商標です。他の製品名およびサービス名等は、それぞれ IBM または各社の商標である場合があります。現時点での IBM の商標リストについては、<http://www.ibm.com/legal/copytrade.shtml> をご覧ください。

Adobe、Adobe ロゴ、PostScript、PostScript ロゴは、Adobe Systems Incorporated の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Java およびすべての Java 関連の商標およびロゴは Oracle やその関連会社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

Linux は、Linus Torvalds の米国およびその他の国における商標です。

Microsoft、Windows、Windows NT および Windows ロゴは、Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標です。

UNIX は The Open Group の米国およびその他の国における登録商標です。

製品資料のご使用条件

これらの資料は、以下のご使用条件に同意していただける場合に限りご使用いただけます。

適用条件

IBM Web サイトの「ご利用条件」に加えて、以下のご使用条件が適用されます。

個人使用

これらの資料は、すべての著作権表示その他の所有権表示をしていただくことを条件に、非商業的な個人による使用目的に限り複製することができます。ただし、IBM の明示的な承諾をえずに、これらの資料またはその一部について、二次的著作物を作成したり、配布 (頒布、送信を含む) または表示 (上映を含む) することはできません。

商業的使用

これらの資料は、すべての著作権表示その他の所有権表示をしていただくことを条件に、お客様の企業内に限り、複製、配布、および表示することができます。ただし、IBM の明示的な承諾をえずにこれらの資料の二次的著作物を作成したり、お客様の企業外で資料またはその一部を複製、配布、または表示することはできません。

権利

ここで明示的に許可されているもの以外に、資料や資料内に含まれる情報、データ、ソフトウェア、またはその他の知的所有権に対するいかなる許可、ライセンス、または権利を明示的にも黙示的にも付与するものではありません。資料の使用が IBM の利益を損なうと判断された場合や、上記の条件が適切に守られていないと判断された場合、IBM はいつでも自らの判断により、ここで与えた許可を撤回できるものとさせていただきます。お客様がこの情報をダウンロード、輸出、または再輸出する際には、米国のすべての輸出入 関連法規を含む、すべての関連法規を遵守するものとします。

IBM は、これらの資料の内容についていかなる保証もしません。これらの資料は、特定物として現存するままの状態を提供され、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任なしで提供されます。

アクセシビリティ

アクセシビリティ機能は、運動障害または視覚障害など身体に障害を持つユーザーがソフトウェア・プロダクトを快適に使用できるようにサポートします。
z/VSE のアクセシビリティの主要機能により、ユーザーは以下のことができるようになります。

- 画面読み上げ機能および画面拡大機能などの支援機能の使用
- キーボードのみを使用して、特定の機能または画面を使用したのと同等の機能を操作
- 色、コントラスト、フォント・サイズなど表示属性のカスタマイズ

支援機能の使用

画面読み上げ機能などの支援機能は、z/VSE のユーザー・インターフェースを使用して機能します。この支援機能を使用して z/VSE インターフェースにアクセスする場合、その特定情報については支援機能の資料を参照してください。

資料の形式

本製品の資料は、Adobe Portable Document Format (PDF) で提供され、アクセシビリティ標準に準拠しています。PDF ファイルの使用に問題があり、Web ベース形式の資料を必要とする場合は、s390id@de.ibm.com 宛てに E メールを送信するか、または下記の宛先まで書面でご請求ください。

IBM Deutschland Research & Development GmbH
Department 3282
Schoenaicher Strasse 220
D-71032 Boeblingen
Federal Republic of Germany

この請求には必ず、資料番号および表題を付記してください。

IBM は、お客様が提供するいかなる情報も、お客様に対してなんら義務も負うことのない、自ら適切と信ずる方法で、使用もしくは配布することができるものとします。

用語集

この用語集には、IBM z/VSE の用語および定義が含まれています。

この用語集では、以下の相互参照を使用します。

1. 「を参照」は、ある用語から推奨される同義語への参照、あるいは頭字語または省略形から定義済みの完全な形式への参照を示します。
2. 「も参照」は、関連のある用語または対比する用語への参照を示します。

他の IBM 製品の用語集を参照するには、www.ibm.com/software/globalization/terminology にアクセスしてください。

A

アクセス制御ロギング報告機能 (Access Control Logging and Reporting). 保護データへのアクセスの試行をすべてログに記録し、そのような試行に関する報告書を選択した形式で印刷する IBM ライセンス・プログラム。

アクセス制御テーブル (access control table) (DTSECTAB). ユーザーが所定のリソースにアクセスするための権利を検査するために、システムで使用されるテーブル。

アクセス・リスト (access list). プログラムが参照できるアドレス・スペースまたはデータ・スペースを各項目が指定する表。

アクセス方式 (access method). ファイルまたはアドレスの定義およびそれらの間のデータ移動を行うためのプログラム。すなわち一組のコマンド (マクロ)。VSE/VSAM や VTAM がこの例。

アカウント・ファイル (account file). VSE/POWER によって維持されるディスク・ファイル。VSE/POWER および VSE/POWER で実行されるプログラムによって生成されたアカウント情報が含まれている。

アドレッシング・モード (addressing mode (AMODE)). プログラムの属性の 1 つであり、入力時にプログラムが処理のために作成するアドレス長のこと。アドレスの長さは、24 ビット、31 ビットまたは 64 ビットのいずれか。24 ビット・アドレッシング・モードでは、プロセッサはすべての仮想アドレスを 24

ビット値として扱う。31 ビット・アドレッシング・モードでは、プロセッサはすべての仮想アドレスを 31 ビット値として扱う。64 ビット・アドレッシング・モードでは、プロセッサはすべての仮想アドレスを 64 ビット値として扱う。ANY をアドレッシング・モードとするプログラムは、24 ビット・アドレッシング・モードまたは 31 ビット・アドレッシング・モードのいずれでも制御を受け取ることができる。64 ビット・アドレッシング・モードは、プログラム属性として使用できない。

管理コンソール (administration console). z/VSE において、すべてのシステム・メッセージを受信する 1 つ以上のコンソール。ただし、特定のコンソールに対するメッセージは除く。特定のコンソールに対するメッセージ (例えば、メッセージをそのコンソールにエコー出力する要求とともに実行依頼されたジョブから出されたメッセージ) のみを受信する「ユーザー・コンソール (user console)」と対比。管理コンソールのオペレーターは、すべての未処理のメッセージに応答して、すべてのシステム・コマンドを入力できる。

代替ブロック (alternate block). FBA ディスク上で、欠陥ブロックの代わりにデータを格納するように指定されているブロック。

代替索引 (alternate index). VSE/VSAM を使用するシステムにおいて、代替キー (つまり基本クラスタの基本キー以外のキー) に基づいて編成した基本クラスタの索引項目。例えば、仮に名前が順序付けされた人事ファイルは、部門番号でも索引付けできる。

代替ライブラリー (alternate library). ある端末のユーザーがライブラリーへの接続要求またはライブラリーの切り替え要求を出したときにその端末からアクセスできる、対話式にアクセス可能なライブラリー。

代替トラック (alternate track). ある端末のユーザーが (ライブラリーの) 接続要求または切り替え要求を出したときにその端末からアクセス可能になるライブラリー。

AMODE. アドレッシング・モード (addressing mode)。

APA. 全点アドレス可能。

APAR. プログラム診断依頼書。

付加ルーチン (**appendage routine**). 物理的にプログラムまたはサブシステム内にあるが、論理的には監視プログラム・ルーチンの拡張であるコードの部分。

アプリケーション・プロファイル (**application profile**). 1 つまたは複数のアプリケーション・プログラムの特性が格納されている制御ブロック。

アプリケーション・プログラム (**application program**). ユーザーのために、またはユーザーによって作成されたプログラムであり、ユーザーの作業に直接に使用される。在庫管理や給与計算のプログラムがこの例。「バッチ・プログラム (**batch program**)」および「オンライン・アプリケーション・プログラム (**online application program**)」も参照。

AR/GPR. アクセス・レジスターと汎用レジスターのペア。

ASC モード (ASC mode). アドレス・スペース制御モード。

ASI (自動化システム初期設定) プロシージャ (ASI (automated system initialization) procedure). 自動化システム初期設定の値を指定する一連の制御ステートメント。

アテンション・ルーチン (**attention routine (AR)**). オペレーターがアテンション・キーを押したときに制御を受け取るシステム・ルーチン。このルーチンは、コマンド入力にむけたコンソールのセットアップ、コマンドの読み取り、およびコマンドが要求したシステム・サービスの開始を実行する。

自動化システム初期設定 (**ASI (automated system initialization (ASI))**). システム・スタートアップ時に、システム・スタートアップのための制御情報をカタログ登録して、自動検索できるようにする機能。

自動開始 (**autostart**). オペレーターによる最小限の介入で、またはオペレーターによる介入なしで VSE/POWER を始動する機能。

補助ストレージ (**auxiliary storage**). プロセッサの一部ではないアドレス可能ストレージ。例えば、ディスク装置上のストレージ。「外部ストレージ (**external storage**)」と同じ。

B

B 一時 (B-transient). 先頭に \$\$B を使用する名前を持ち、論理一時域 (LTA) 内で実行されるフェーズ。そのようなフェーズは、特殊な監視プログラム呼び出しによって活動化される。

境界 (**bar**). 2 ギガバイト (GB) 境界。

基本通信アクセス方式 (**BTAM (basic telecommunications access method (BTAM))**). リモート装置との読み取り通信および書き込み通信を許可するアクセス方式。BTAM は z/VSE ではサポートされない。

BIG-DASD. 64 K のトラックを超える容量を持ち、ディスクの最大 10017 のシリンダーを使用する、ラージ DASD のサブタイプ。

ブロック (**block**). 通常、1 単位として伝送される複数のファイル・レコードから構成されるブロックを指す。ただし、レコードが非常に大きい場合は、ブロックは単一レコードの一部となることもある。FBA ディスクでは、ブロックは 512 バイトのデータ・ストリングを指す。「制御ブロック (**control block**)」も参照。

ブロック・グループ (**block group**). VSE/POWER において、固定ブロック方式 (FBA) 装置の基本的な組織単位。それぞれのブロック・グループは、数個の「転送単位」すなわちブロックで構成される。

C

CA 分割 (CA splitting). VSE JavaBeans のホスト部分であり、z/VSE のインストール時に読み取りキューに入れられるジョブ STARTVCS を使用して開始される。デフォルトで動的クラス R で実行される。VSE/VSAM において、指定されたフリー・スペースの最小量が追加のデータによって使い果たされたときに、制御域を動的に 2 倍にして、その CI を均等に分散するためのもの。

紙送り制御文字 (**carriage control character**). 印刷される出力レコード (行) の先頭文字。次の行が印刷される前にスキップする必要がある行数を判別する。

カタログ (**catalog**). ファイルとライブラリーの記憶位置に関するディレクトリー。カタログには、ファイルが保管されている装置のタイプ、パスワード、ブロック化因数など、その他の情報を含めることができる。サブライブラリー内にフェーズ、モジュール、またはブックなどのライブラリー・メンバーを保管するためのもの。「VSE/VSAM カタログ (**VSE/VSAM catalog**)」も参照。

セル・プール (**cell pool**). アプリケーション・プログラムから得られる仮想記憶域であり、呼び出し可能セル・プール・サービスによって管理される。セル・プールはアドレス・スペースまたはデータ・スペースにあ

り、最低 1 つのエクステンントを持つアンカー域を含み、また同じサイズのセルを複数含んでいる。

中央設置場所 (central location). コンピューター・システムの制御装置 (通常は、コンピューター室内のシステム・コンソール) が設置されている場所。

チェーン・サブライブラリー (chained sublibraries). サブライブラリーで特定のライブラリー・メンバーを検索する順序を指定することにより、サブライブラリーをチェーンングできるようにする機能。

チェーンング (chaining). 同じタイプのメンバー (例えば、フェーズまたはオブジェクト・モジュール) をシステムが検索する、サブライブラリーの論理接続。

チャンネル・コマンド・ワード (CCW) (channel command word (CCW)). チャンネル・アドレス・ワードで指定された主記憶域内の場所にあるダブルワード。1 つ以上の CCW が、データ・チャンネルの動作を指示するチャンネル・プログラムを構成する。

チャンネル・プログラム (channel program). データ・チャンネルの一連の動作を制御する 1 つ以上のチャンネル・コマンド・ワード。この順序の実行は、サブチャンネル開始命令によって開始される。

チャンネル・スケジューラー (channel scheduler). 監視プログラムの中で、すべての入出力操作を制御する部分。

チャンネル・サブシステム (channel subsystem). IBM Z に対して広範な追加のチャンネル (入出力) 機能を提供する z/Architecture の機能。

チャンネル間接続 (CTCA) (channel to channel attachment (CTCA)). 以下の環境において、データを交換できるようにする機能。

1. VM で実行されている 2 台の仮想 VSE マシンの間で VSE/POWER の制御下で行う。または、
2. 2 台のプロセッサの間で VTAM の制御下で行う。

文字コード化要求 (character-coded request). コード化され、文字ストリングとして転送される要求。「フィールド形式化要求 (field-formatted request)」 と対比。

チェックポイント (checkpoint).

1. ジョブ・ステップを後で再開できるように、ジョブおよびシステムの状態に関する情報を記録しておくことができるポイント。
2. そのような情報を記録するためのもの。

CICS (顧客情報管理システム) (CICS (Customer Information Control System)). 端末ユーザーとデータベースとの間のオンライン通信を制御する IBM プログラム。リモート端末で入力されたトランザクションは、ユーザー作成のアプリケーション・プログラムによって並行して処理される。プログラムには、データベースの構築、使用、および保守のための機能が含まれている。

CICS ECI. CICS 外部呼び出しインターフェース (ECI) は、CICS Transaction Server for z/VSE によって提供される CICS ビジネス論理インターフェースの 1 つの可能なリクエスト・タイプ。これは CICS クライアントの一部であり、z/VSE ホストで CICS 機能に対してワークステーション・プログラムを許可する。

CICS EXCI. 外部 CICS インターフェース (EXCI) は、CICS Transaction Server for z/VSE によって提供される CICS ビジネス論理インターフェースの 1 つの可能なリクエスト・タイプ。これは、すべての BSE バッチ・アプリケーションから CICS 機能呼び出すことができるようにする。

CICS システム定義データ・セット (CSD) (CICS system definition data set (CSD)). オンライン・リソース定義 (RDO) を使用して CICS に定義されたすべてのレコードに対するリソース定義レコードを収めた VSAM KSDS クラスタ。

CICS Transaction Server for z/VSE. 端末ユーザーとデータベースとの間のオンライン通信を制御する z/VSE の基本プログラム。これは、CICS/VSE の後継のシステムです。

CICS TS. CICS トランザクション・サーバー

CICS/VSE. 顧客情報管理システム (Customer Information Control System/VSE(CICS/VSE)). 現在は拡張基本テープでは出荷されず、サポートも行われていない。z/VSE 5.1 以降では実行できない。

クラス (class). VSE/POWER において、同じ入力装置からの、または同じ出力装置へのジョブのグループ。

CMS. z/VM で実行される会話型モニター・システム。

共通ライブラリー (common library). ライブラリーを所有しているシステム (サブシステム) の任意のユーザーが対話式でアクセスできるライブラリー。

通信アダプター (communication adapter). 関連ソフトウェアが実装された回路カード。このカードを通して、プロセッサ、コントローラー、またはその他の装置をネットワークに接続することができる。

連絡領域 (**communication region**). プログラム内およびプログラム間での情報の転送のために確保しておく監視プログラムの領域。

コンポーネント (**component**).

1. コンピューター・システムの一部であるハードウェアまたはソフトウェア。
2. コンポーネント ID によって識別される、製品の機能部分。
3. z/VSE では、VSE/POWER または VTAM などのコンポーネント・プログラム。
4. VSE/VSAM では、名前を付けられ、カタログされた保管レコードのグループ。例えば、キー順ファイルまたは代替索引のデータ・コンポーネントまたは索引コンポーネントなど。

コンポーネント ID (**component identifier**). コンポーネントを MSHP に対して一意的に定義する 12 バイトの英数字ストリング。

条件付きジョブ制御 (**conditional job control**). ジョブ制御プログラムにおいて、このプログラムがテストする条件に基づいて 1 つ以上のステートメントを処理またはスキップする機能。

接続 (**connect**). 最下位レベルでライブラリー・アクセスを許可するためのもの。特定のサブライブラリーを使用するには、「読み取り」または「書き込み」などの修飾子が必要である。

接続プーリング (**connection pooling**). CICS TS で z/VSE データベース・コネクタの接続を管理 (再利用) するために、z/VSE 5.1 の更新で導入された。

コネクタ (**connector**). z/VSE のコンテキストでは、コネクタは、2 つのプラットフォーム (Web クライアントと z/VSE ホスト、中間層と z/VSE ホスト、または Web クライアントと中間層) を接続するためのミドルウェアを提供する。

コネクタ (**e-business コネクタ**) (**connector (e-business connector)**). 異機種混合環境に接続するために提供されるソフトウェアの部分。大部分のコネクタが、z/VSE 以外の Java 対応プラットフォームと通信する。

コンテナ (**container**). IBM WebSphere Application Server などのアプリケーション・サーバーの JVM の一部であり、リソース管理およびトランザクション管理のリソースを提供することによって、サーブレット、EJB、および JSP の実装を容易にする。例えば、EJB 開発者は、アプリケーション・サーバーの JVM に対してコーディングできないが、コンテナによって提供されるインターフェースに対してはコーディングできる。コ

ンテナの主な役割は、EJB とクライアントの間の中継として機能することである。これは VSE JavaBeans のホスト部分であり、z/VSE のインストール時に読み取りキューに入れられるジョブ STARTVCS を使用して開始される。デフォルトで動的クラス R で実行され、複数の EJB インスタンスを管理するためのものである。作成された EJB は、アプリケーション・サーバー上にあるコンテナに保管する必要がある。コンテナはその後、すべてのスレッド化、および EJB とのクライアント対話を管理し、接続プーリングおよびインスタンス・プーリングを調整する。

制御インターバル (**CI**) (**control interval (CI)**).

VSE/VSAM がレコードを保管し、フリー・スペースを分散化するディスク・ストレージの固定長域。これは、VSE/VSAM がディスク・ストレージとの間で情報を転送する場合の単位となる。FBA の場合、クラスター定義では、ブロック・サイズの整数倍で制御インターバルを定義する必要がある。

制御プログラム (**control program**). システムにおいて、プログラムの実行をスケジュールし、監視するためのプログラム。

会話型モニター・システム (**CMS**) (**conversational monitor system (CMS)**). 仮想計算機オペレーティング・システムであり、一般的な対話式タイム・シェアリング機能、問題解決機能、およびプログラム開発機能を提供し、z/VM の制御下で作動する。

カウント・キー・データ (**CKD**) 装置 (**count-key-data (CKD) device**). データを次のようなレコード形式で保管するディスク装置。すなわち、カウント・フィールド、キー・フィールド、データ・フィールド。カウント・フィールドには、主に、レコードのアドレスが、シリンダー、ヘッド (トラック)、レコード番号、データ・フィールドの長さの形式で入れられる。キー・フィールド (もし存在する場合) には、レコードのキーまたは探索指数が入れられる。CKD ディスク・スペースはトラック単位とシリンダー単位で割り振られる。「FBA ディスク装置 (FBA disk device)」と対比。「拡張 CKD 装置 (extended count-key-data device)」も参照。

区画間連絡制御 (**cross-partition communication control**). VSE サブシステムとユーザー・プログラムが相互に通信できるようにする機能。例えば、VSE/POWER。

暗号トークン (**cryptographic token**). 通常は単にトークン と呼ばれ、デジタル署名の生成またはデータの暗号化などの暗号機能を実行するためのインターフェースを提供する装置。

暗号化 (**cryptology**).

1. 情報を暗号文と呼ばれる読めない形式に変換 (暗号化) して、その情報を保護する方法。秘密鍵を持っているユーザーのみがメッセージを平文に復号 (暗号化解除) できる。
2. 情報の内容を隠すためにデータを変換し、無許可の使用や検出されない変更を防止すること。

D

データ・ブロック・グループ (data block group). データ・ファイル上で VSE/POWER ジョブに割り振ることができるスペースの最小単位。この割り振りは装置特性には関係しない。

データ変換記述子ファイル (DCDF) (data conversion descriptor file (DCDF)). DCDF を使用すると、PC とそのホストの間でデータを転送する際に、レコード内の個々のフィールドを変換できる。DCDF は、PC 環境とホスト環境の両方に対して特定のファイルのレコード・フィールドを定義する。

データ・インポート (data import). あるオペレーティング・システムで使用していたデータを、継続して別のオペレーティング・システムで使用できるように再形式設定するプロセス。

ファイル間データ転送、テスト、および操作 (DITTO) ユティリティ (Data Interfile Transfer, Testing, and Operations (DITTO) utility). カード入出力装置、テープ装置、およびディスク装置用のファイル間サービスを提供する IBM プログラム。最新バージョンは DITTO/ESA for VSE。

データ言語 /I (Data Language/I (DL/I)). CICS で使用されるデータベース・アクセス言語。

データ・リンク (data link). SNA において、リンク接続と、ネットワーク・ノードを結合するリンク・ステーションとの組み合わせ。例えば、z/Architecture チャンネルとこれに関連付けられたプロトコルとの組み合わせ。論理リンクと物理リンクの両方がある。

データ・セキュリティー (data security). 偶発的か意図的かを問わず、無許可の開示、転送、変更または破壊に対してデータを保護する。

データ・セット・ヘッダー・レコード (data set header record). VSE/POWER では、DSHR と略される。別名は NDH または DSH。出力データの前または入力データの中間のいずれかにある NJE 制御レコードで、データ形式の変更を示す。

データ・スペース (data space). z/Architecture の命令を通じてプログラムが直接操作できる、最大 2 ギガ

バイトの連続仮想記憶域アドレスの範囲。アドレス・スペースとは異なり、データ・スペースはユーザー・データのみを保持できる。これには共有域、プログラムはいずれも含まれない。データ・スペースでは命令は実行しない。「アドレス・スペース (address space)」と対比。

データ端末装置 (DTE) (data terminal equipment (DTE)). SNA において、データ送信側、データ受信側、またはその両方として機能するデータ装置の一部。

データベース・コネクタ (database connector). z/VSE 5.1.1 で導入された機能であり、クライアント部分とサーバー部分からなる。クライアントは、z/VSE でアプリケーションによって使用される API (CBCLI) を提供し、Java 対応プラットフォーム上のサーバーは、データベースによって提供される JDBC ドライバーを接続する。クライアントとサーバーの両方が TCP/IP を介して通信する。

Database 2 (Db2). IBM のリレーショナル・データベース管理システム。

Db2 ベース・コネクタ (Db2-based connector). VSE/ESA 2.5 で導入された機能であり、VSAM および DL/I 機能とともに、Db2 ストアード・プロシージャを使用して Db2、VSAM、および DL/I のデータにアクセスできるようにするカスタマイズ済みの Db2 バージョンが含まれている。

Db2 Runtime only Client edition. Client Edition for z/VSE には、z/VSE および Linux on z Systems を統合するために、いくつかの拡張機能が付属しており、パフォーマンスが改善されている。

Db2 ストアード・プロシージャ (Db2 Stored Procedure). z/VSE のコンテキストでは、Db2 ストアード・プロシージャは、Db2 データにアクセスする Language Environment (LE) プログラムである。ただし、VSE/ESA 2.5 以降では、Db2 ストアード・プロシージャを使用して VSAM データおよび DL/I データにアクセスすることもできる。このようにして、VSAM と Db2 の間でデータを交換できる。

DBLK. データ・ブロック (Data block)。

DCDF. データ変換記述子ファイル。

非ブロック化 (deblocking). ブロックの各レコードを処理できるようにするプロセス。

専用 (ディスク) 装置 (dedicated (disk) device). 複数のユーザーで共有することができないディスク装置。

装置アドレス (device address).

1. 入出力装置をその装置番号で識別するもの。
2. データ通信において、データが送信可能または受信可能な任意の装置を識別するもの。

装置駆動システム (DDS) (device driving system (DDS)). CICS スプーラーまたは PSF など、VSE/POWER 外にあるソフトウェア・システム。宛先装置にスプール出力を書き込む。

装置サポート機能 (DSF) (Device Support Facilities (DSF)). IBM プログラムおよびユーザー・プログラムからディスク・ボリュームにアクセスできるようにするため、ディスク・ボリューム上で操作を実行する IBM 提供のシステム制御プログラム。これらの操作の例としては、ディスク・ボリュームの初期設定および代替トラックの割り当てがある。

装置タイプ・コード (device type code). 4 桁または 5 桁のコードであり、コンピューター・システムに対して入出力装置を定義するために使用される。ICKDSF も参照。

ダイアログ (dialog). 対話式システムでは、一連の関連した照会と応答のことで、2 人の人間の間で行われる会話と類似している。z/VSE では、特定の作業 (例えば、ファイルの定義など) を行うために使用する一連のパネル。

ダイアログ・マネージャー (dialog manager). ユーザーとシステム間の通信を容易にする z/VSE のプログラム・コンポーネント。

デジタル署名 (digital signature). コンピューター・セキュリティにおいて、受信側が送信側の ID を証明できるようにする、メッセージまたはメッセージの一部に付加された暗号化されたデータ。

デジタル署名アルゴリズム (DSA) (Digital Signature Algorithm (DSA)). デジタル署名アルゴリズムは、米国政府によって定義されたデジタル署名用の規格。DSA デジタル署名は、1 組の規則 (すなわち DSA) と、署名者の ID およびデータの保全性を検証できるような一連のパラメーターを使用して計算された大きな数のペアである。DSA は、署名を生成して検証する機能を提供する。

ディレクトリー (directory). z/VSE において、プログラム・ライブラリーの索引。

直接アクセス (direct access). 記憶装置上のデータに、そのシーケンスではなくアドレスを使用してアクセスすること。ディスク装置においては、磁気テープとは逆に、これが典型的なアクセスとなる。「順次アクセス (sequential access)」と対比。

ディスク・オペレーティング・システム常駐ボリューム (DOSRES) (disk operating system residence volume (DOSRES)). システム始動に必要なプログラムおよびプロシージャーが入っている、システム・サブライブラリー IJSYSRS.SYSLIB があるディスク・ボリューム。

ディスク共有 (disk sharing). 独立した複数のコンピューター・システムで、共有ディスク装置上の共通データを使用できるようにするオプション。

後処置 (disposition). ジョブ入力項目またはジョブ出力項目の処理方法を VSE/POWER に指示する手段。RDR/LST/PUN キューにある項目は項目のローカル後処置に従って処理され、XMT キューにある項目は項目の伝送後処置に従って処理される。例えば、ジョブは処理後に削除されるか保持される。

配布テープ (distribution tape). z/VSE のような事前構成オペレーティング・システムを含む磁気テープ。このテープは、プログラム・インストールのために、ユーザーに提供される。

VSE 用 DITTO/ESA (DITTO/ESA for VSE). ファイル間データ転送、テスト、および操作ユーティリティー。ディスク装置、テープ装置、およびカード装置用のファイル間サービスを提供する IBM プログラム。

DSF. 装置サポート機能 (Device Support Facilities)。

DSH (R). データ・セット・ヘッダー・レコード。

ダミー装置 (dummy device). 実在の入出力装置に関連付けられていない装置アドレス。この装置アドレスにおける入出力は、ディスク上でスプールされる。

二重 (duplex). 同時に送受信できるデータ通信に関連した用語。

DU-AL (ディスパッチ可能単位 - アクセス・リスト) (DU-AL (dispatchable unit - access list)). z/VSE メインタスクまたはサブタスクに関連付けられたアクセス・リスト。プログラムは、そのタスクに関連付けられた DU-AL、およびその区画に関連付けられた PASN-AL を使用する。185も参照してください。

動的クラス・テーブル (dynamic class table). 動的区画の特性を定義するテーブル。

動的区画 (dynamic partition). 固定された静的割り振りを使用せずに、「必要に応じて」作成および活動化される区画。処理後、占有されたスペースは解放される。動的区画はクラスによってグループ化され、ジョブはクラスによってスケジュールされる。「静的区画 (static partition)」と対比。

動的スペース・レクラメーション (**dynamic space reclamation**). 自動的に再利用可能になるように、ライブラリー・メンバーの削除によって解放されるスペースに対して提供されるライブラリアン機能。

E

ECI. 175

エミュレーション (**emulation**). プログラミング手法および特別のコンピューター機能を使用して、別のシステム用または使用可能な装置とは異なる入出力装置を使用するように書かれたプログラムを、コンピューター・システムで実行できるようにすること。

エミュレーション・プログラム (**EP**) (**emulation program** (**EP**)). IBM の制御プログラムであり、チャンネル接続された 3705 または 3725 の通信コントローラーが、IBM 2701 データ・アダプター装置または IBM 2703 伝送制御をエミュレートできるようにする。

エンド・ユーザー (**end user**).

1. アプリケーション・プログラムを使用する人。
2. SNA において、SNA ネットワークを通るユーザー・データの最終的な送信元または宛先。アプリケーション・プログラムまたは端末オペレーターが考えられる。

Enterprise Java Bean. EJB は分散 Bean である。「分散」とは、EJB の一部分が Web アプリケーション・サーバーの JVM 内で実行されるのに対して、他の部分は Web ブラウザーの JVM 内で実行されることを意味する。EJB は、データベース内の 1 つのデータ行 (エンティティー Bean)、またはリモート・データベースへの 1 つの接続 (セッション Bean) のいずれかを表す。通常、両方のタイプの EJB が一緒に作動する。これによって、リレーショナル・データおよび非リレーショナル・データが混在する異機種混合環境において、標準化された方法でデータを表しデータにアクセスすることが可能になる。「*JavaBean*」も参照。

入力順ファイル (**entry-sequenced file**). VSE/VSAM ファイルのうち、レコードが内容とは無関係にロードされ、相対バイト・アドレスを変更できないファイル。レコードの取り出しおよび保管はアドレッシング・アクセスによって行われ、新しいレコードはファイルの最後に追加される。

環境記録・編集・印刷 (**EREP**) プログラム (**Environmental Record Editing and Printing** (**EREP**) **program**). システム・レコード・ファイルに収められているデータを詳細分析のために使用できるようにする z/VSE 基本プログラム。

EPI. 「*CICS EPI*」を参照。

ESCON チャンネル (エンタープライズ・システム接続チャンネル) (**ESCON Channel** (**Enterprise Systems Connection Channel**)). 光ファイバー・ケーブルを使うシリアル・チャンネルであり、ホストと入出力装置用との間の高速接続を可能にする。これは、z114 まで ESA/390 および IBM Z 入出力インターフェースに従っている。zEC12 プロセッサでは ESCON チャンネルはサポートされない。

出口ルーチン (**exit routine**).

1. 2 つのルーチン・タイプ (インストール・システム 出口ルーチンまたはユーザー出口ルーチン) のいずれか。「出口プログラム (**exit program**)」と同じ。
2. 「ユーザー出口ルーチン (*user exit routine*)」を参照。

拡張アドレス可能度 (**extended addressability**). アドレス・スペース内または外にある、31 ビットまたは 64 ビットの仮想記憶域をプログラムが使用できる能力。

拡張リカバリー機能 (**XRF**) (**extended recovery facility** (**XRF**)). z/VSE における CICS の機能の 1 つで、ある CICS システムを他の CICS システムのバックアップとして使用することによって、CICS の可用性を強化するもの。

外部セキュリティー・マネージャー (**ESM**) (**External Security Manager** (**ESM**)). z/VSE の一部である基本セキュリティー・マネージャー (BSM) の場合と比較して、拡張された機能および柔軟性を提供することができる、有料のベンダー製品。

F

FASTCOPY. 191

高速コピー・データ・セット・プログラム (**VSE/高速コピー**) (**fast copy data set program** (**VSE/Fast Copy**)). 191

高速サービス・アップグレード (**Fast Service Upgrade** (**FSU**)). z/VSE のサービス機能で、リフレッシュ・リリースをライブラリー制御テーブルなどの制御情報を生成し直さないでインストールするためのもの。

FAT-DASD. ラージ DASD のサブタイプの 1 つ。4369 シリンダー (64 K トラック) より大きく、64 K シリンダーまである装置をサポートする。

FCOPY. 「*VSE/高速コピー・データ・セット・プログラム* (*VSE/Fast Copy*)」を参照。

フェンス (**fence**). プロセッサ複合体の 1 つ以上のコンポーネントまたはエレメントを、残りのコンポーネントまたはエレメントと分離すること。この分離は論理境界によって行われる。これによって、ユーザー操作と保守手順を同時に行うことができる。

取り出し (**fetch**).

1. 一定量のデータを見つけて、それをストレージからロードすること。
2. あるプログラム・フェーズをサブライブラリーから仮想記憶域に移し、そのフェーズに制御を渡すこと。
3. 2 を実行するために使用されるマクロ命令 (**FETCH**) の名前。「ローダー (*loader*)」も参照。

ファイバー・チャンネル・プロトコル (**FCP**) (**Fibre Channel Protocol (FCP)**). ファイバー・チャンネル標準に準拠しており、IBM zSeries プロセッサ上で FICON 機能カードおよび FICON Express 機能カードを使用してシステムと周辺装置の接続を可能にする、ハードウェアとソフトウェアの組み合わせ。z/VSE では、zSeries FCP は業界標準の SCSI ディスク装置にアクセスするために使用される。

フラグメント化 (ストレージの) (**fragmentation (of storage)**). 仮想記憶域の実アドレス範囲または仮想アドレス範囲で、ストレージの未使用セクション (フラグメント) を割り振ることができないこと。

FSU. 高速サービス・アップグレード (**Fast service upgrade**).

FULIST (機能リスト ; **F**unction **L**IST). ユーザーの選択用に一組のファイルまたは機能、あるいはその両方を表示する選択パネルの種類。

G

生成 (**generation**). 「マクロ生成 (*macro generation*)」を参照。

生成機能 (**generation feature**). プログラムのオブジェクト・コードをユーザーの要件に合わせて調整するために使用される IBM ライセンス・プログラムの注文オプション。

GETVIS スペース (**GETVIS space**). プログラムへの動的割り振りに使用できる、区画内または共有仮想記憶域内のストレージ・スペース。

ゲスト・システム (**guest system**). 別の (ホスト) システムの制御下で実行されるデータ処理システム。メインフレームでは、z/VSE は z/VM のゲストとして実行できる。

180 z/VSE V6R2.0 インストール

H

ハードウェア・ウェイト (**hard wait**). すべての操作が延期されたときの、プロセッサの状態。ハードウェア・ウェイト状態からシステムをリカバリーするには、新規システムのスタートアップを実行させる必要がある。

ハッシュ関数 (**hash function**). ハッシュ関数は、可変サイズの入力データを受けて、ハッシュ値と呼ばれる固定サイズのストリングを返す変換である。暗号化では、ハッシュ関数には以下の追加のプロパティがある。

- ハッシュ関数は計算が簡単。
- ハッシュ関数は片方向。つまり、「逆」関数を計算することは不可能。
- ハッシュ関数には衝突がない。つまり、異なる入力と同じハッシュ値になることは不可能。

ハッシュ値 (**hash value**). テキストにハッシュ関数を適用した結果として得られる固定サイズのストリング。

高水準アセンブラー (**VSE 版**) (**High-Level Assembler for VSE**). 拡張アセンブラー・プログラミング・サポートを提供する、プログラミング言語。z/VSE の基本プログラム。

ホーム・インターフェース (**home interface**). 新規 EJB オブジェクトのインスタンス化、EJB のイントロスペクト、および EJB インスタンス化の削除を行うメソッドを提供する。リモート・インターフェースについては、デプロイメント・ツールによって実装クラスが生成されるため、これが必要になる。すべてのセッション Bean のホーム・インターフェースが、少なくとも 1 つの *create()* メソッドを提供する必要がある。

ホスト・モード (**host mode**). この動作モードでは、PC は VSE ホストをアクセスすることができ、プログラマブル・ワークステーション (PWS) 機能では、VSE の移動ユーティリティを使用できる。

ホスト・システム (**host system**). データ通信構成において、制御または最高位のシステム。

ホスト転送ファイル (**HTF**) (**host transfer file (HTF)**). IBM パーソナル・コンピューターに送られたりそこから出されたりするファイルのための中間のストレージ域として、z/VSE のワークステーション・ファイル転送サポートにより使用される。

HTTP セッション (**HTTP Session**). z/VSE のコンテンツでは、サーブレットを呼び出す Web ブラウザー・クライアントを識別する (つまり、クライアントと中間層プラットフォームとの間の接続を識別する)。

ICCF. 「VSE/ICCF」を参照。

ICKDSF (装置サポート機能) (Device Support Facilities). IBM ディスク装置のインストール、使用および保守をサポートする z/VSE 基本プログラム。

組み込み機能 (include function). プログラム入力に組み込むライブラリー・メンバーを取得する。

索引 (index).

1. 索引順次データ・セットまたは索引付きファイル内でレコードを見つけるために使用されるテーブル。
2. それぞれがキーとポインターで構成されるペアの順序付き集合であり、キー順データ・セットまたはキー順ファイルのレコードを順序付けて見つけるために使用される。索引レコードのいくつかのレベルで編成される。「代替索引 (alternate index)」も参照。

入出力制御システム (IOCS) (input/output control system (IOCS)). 主記憶装置と補助記憶装置との間のデータ転送を処理する一群の IBM 提供ルーチン。

通信統合アダプター (ICA) (integrated communication adapter (ICA)). 複数回線を接続できるプロセッサの部分。

統合コンソール (integrated console). z/VSE において、z/VSE システム・コンソールとして動作する、IBM Z で使用可能なサービス・プロセッサ・コンソール。統合コンソールは、一般に、IPL 中に使用され、他のコンソールが使用できないときにリカバリーの目的で使用される。

対話式計算制御機能 (ICCF) (Interactive Computing and Control Facility (ICCF)). システムのプロセッサにリンクされた端末の許可ユーザーに対して、タイム・スライス・ベースでインターフェースの役割を果たす IBM ライセンス・プログラム。

対話区画 (interactive partition). VSE/ICCF を経由して対話的にサブミットされたジョブ処理を目的とした仮想記憶。

対話式ユーザー通信ビークル (IUCV) (Interactive User Communication Vehicle (IUCV)). z/VM 下の操作用の VSE 監視プログラムにおいて使用可能なプログラミング・サポート。ユーザーはこのサポートを使用すると、優先されていないゲストと通信する場合と同じ方法で、他のユーザーまたは CP と通信することができる。

中間ストレージ (intermediate storage). データを処理する前に、そのデータを一時的に保持するために使用される任意の記憶装置。

IOCS. 入出力制御システム (Input/output control system)。

IPL. 初期プログラム・ロード (Initial program load)。

リカバリー不能エラー (irrecoverable error). コンピューター・プログラムまたは実行の範囲外にあるリカバリー手法を使用しないとリカバリーできないエラー。

IUCV. 対話式ユーザー通信ビークル (Interactive User Communication Vehicle)。

J

JAR. プラットフォームに依存しないファイル形式で、多くのファイルを 1 つのファイルに集約する。複数のアプレットおよびその必要条件コンポーネント (.class ファイル、イメージ、および音) を 1 つの JAR ファイルにバンドルしてから、単一の HTTP トランザクションを使用して Web ブラウザーにダウンロードできる (ダウンロード速度が大幅に向上する)。また、JAR 形式では圧縮がサポートされ、ファイル・サイズが削減される (さらにダウンロード速度が向上する)。使用される圧縮アルゴリズムには、ZIP アルゴリズムとの完全な互換性がある。アプレットの所有者は、JAR ファイル内の個々の項目にデジタルに署名し、その発信元を認証することもできる。

Java アプリケーション (Java application). Web ブラウザーの JVM 内で実行される Java プログラム。プログラムのコードは、ローカル・ハード・ディスク上または LAN 上にある。Java アプリケーションは、グラフィカル・インターフェースを使用する大規模プログラムの場合がある。Java アプリケーションは、すべてのローカル・リソースに無制限にアクセスできる。

Java バイトコード (Java bytecode). バイトコードは、Java ソース言語ステートメントが入っているファイルのコンパイル時に作成される。コンパイル済み Java コード (つまり「バイトコード」) は、実行準備ができていたプログラム・モジュールまたはファイル (一度に 1 つの命令が実行されるようにコンピューター上で実行される) と似ている。ただし、バイトコード内の命令は、実際に Java 仮想マシン に対する命令である。命令を一度に 1 つずつ解釈する代わりに、バイトコードは、ジャストインタイム (JIT) コンパイラーを使用してオペレーティング・システムのプラットフォームごとに再コンパイルされる。通常、これにより Java プログ

ラムをより高速に実行できる。バイトコードは、接尾部 .CLASS を持つバイナリー・ファイルに入っている。

Java サブレット (Java servlet). 「サブレット (servlet)」を参照。

JHR. ジョブ・ヘッダー・レコード。

ジョブ・アカウンティング・インターフェース (job accounting interface). ジョブ・ステップごとにアカウンティング情報を累積する機能。システム・ユーザーへの課金、新規アプリケーションの計画、およびシステム操作のより効率的な監視のために使用される。

ジョブ・アカウンティング・テーブル (job accounting table). 監視プログラム内で、ユーザー用の会計情報が累算される区域。

ジョブ・カタログ (job catalog). それぞれの DLBL ステートメントでファイル名 IJSYSUC を指定することによって、ジョブのために使用可能になるカタログ。

ジョブ入力制御言語 (job entry control language (JECL)). プログラマーがジョブの処理方法を VSE/POWER に指示するために使用される制御言語。

ジョブ・ステップ (job step). 1 回の実行に必要な JCL ステートメントを備えた関連するプログラムのグループのうちの 1 つ。各ジョブ・ステップは、そのジョブ全体に対する 1 つの JOB ステートメントのもとにある EXEC ステートメントによって、ジョブ・ストリーム内で識別される。

ジョブ・トレーラー・レコード (JTR) (job trailer record (JTR)). VSE/POWER パラメーター JTR。別名 NJT。入力キューまたは出力キュー内のジョブ項目を終了し、アカウンティング情報を提供する NJE 制御レコード。

K

キー (key). VSE/VSAM において、データ・レコード内の特定のフィールド (キー・フィールド) から取得される 1 つ以上の文字。索引項目またはレコード自体の識別および順序付けのために使用される。

キー・シーケンス (key sequence). レコード自体または索引内にあるレコードのキーのいずれか、またはその両方の照合シーケンス。キー・シーケンスは英数字順になる。

キー・シーケンス・ファイル (key-sequenced file). レコードがキー・シーケンスにロードされ、索引によって制御されている VSE/VSAM ファイル。レコードの検

索と記憶はキーによるアクセスまたはアドレス順アクセスによって行われ、新しいレコードは、キー・シーケンスにファイルに挿入される。

KSDS. キー順データ・セット。「キー・シーケンス・ファイル (key-sequenced file)」を参照。

L

ラベル (label).

1. テープ・ボリューム、ディスク・ボリューム、ディスクレット・ボリューム、またはそのようなボリュームに入っているファイルの識別レコード。
2. アセンブリ言語プログラミングにおいて、一般にブランチに使用される名前の付いた命令。

ラベル情報域 (label information area). ジョブ制御ステートメントまたはコマンドから読み取ったラベル情報を保管するためのディスク上の区域。「ラベル域 (label area)」と同じ。

Language Environment for z/VSE. VSE プラットフォーム上での Language Environment の実装となる IBM ソフトウェア・プロダクト。

言語翻訳プログラム (language translator). ある言語で書かれたステートメントを受け取って、別の言語の同等のステートメントを生成するアセンブラー、コンパイラー、その他のルーチンを総称する用語。

大規模 DASD (Large DASD). 以下を満たす DASD 装置。

1. 64 K トラックを超える容量を持つ。かつ
2. カタログによって所有され VSE/ESA 2.6 より前に作成された、VSAM スペースを持たない。

LE/VSE. Language Environment for z/VSE の略語。

ライブラリアン (librarian). システム・ライブラリーと専用ライブラリーを保守、サービス、そして編成する一連のプログラム。

ライブラリー・ブロック (library block). サブライブラリーに保管されているデータのブロック。

ライブラリー登録簿 (library directory). システムがアクセスするライブラリーの特定のサブライブラリーを見つけられるようにする索引。

ライブラリー・メンバー (library member). サブライブラリーに保管して取得できる、データの最小単位。

行コマンド (line commands). VSE/ICCF において、画面上の各行の宣言を変更する特殊なコマンド。例えば、行の宣言のコピー、移動、または削除が可能。

リンケージ・エディター (**linkage editor**). 独立して変換された 1 つ以上のオブジェクト・モジュールから、または 1 つ以上の既存のフェーズ (実行可能コード) から、あるいはこれらの両方から、フェーズを作成するために使用されるプログラム。フェーズの作成時に、リンケージ・エディターは、入力として使用できるモジュールとフェーズの間の相互参照を解決する。プログラムは新たに作成されたフェーズをカタログ登録できる。

リンケージ・スタック (**linkage stack**). システムからプログラムに与えられる保護ストレージ域。ブランチ・スタックまたはスタッキング・プログラム呼び出しの際に状況情報が保存される。

リンク・ステーション (**link station**). SNA において、ノードから接続できリンクを制御できる、ハードウェアとソフトウェアの組み合わせ。

ローダー (**loader**). データまたはプログラムを主記憶域内に読み込むルーチン (一般にはコンピューター・プログラム)。「再配置ローダー (*relocating loader*)」も参照。

ローカル共有リソース (**local shared resources (LSR)**). VSE/VSAM のオプションであり、ファイル間で制御ブロックを共有するために 3 つの追加のマクロによって活動化される。

ロック・ファイル (**lock file**). VSE の共有ディスク環境において、共有システムが共有データへのアクセスを制御するために使用するディスク上のシステム・ファイル。

論理区画 (**logical partition**). LPAR モードで、システム制御プログラムの動作をサポートするために定義されるサーバー・ハードウェアのサブセット。

論理レコード (**logical record**). 通常は単一の対象に関連し、データ管理により 1 単位として処理されるユーザー・レコード。「物理レコード (*physical record*)」と対比。物理レコードは論理レコードより大きいこともあれば小さいこともある。

論理装置 (**LU**) (**logical unit (LU)**).

1. プログラミングにおいて、入出力装置アドレスを表すために使用される名前。物理装置 (*PU*)、システム・サービス制御点 (*SSCP*)、1 次論理装置 (*PLU*)、および 2 次論理装置 (*SLU*)。
2. SNA において、ユーザーが以下の目的で SNA ネットワークにアクセスする際に使用するポート。
 - a. 別のユーザーと通信するため。および
 - b. SSCP の機能にアクセスするため。LU では、少なくとも 2 つのセッションをサポートできる。1 つは SSCP とのセッションであり、もう 1

つは別の LU とのセッションである。その他の LU とのセッションを多数サポートできることがある。

論理装置名 (**logical unit name**). プログラミングにおいて、入出力装置のアドレスを表すために使用される名前。

論理装置 6.2 (**logical unit 6.2**). 分散処理環境におけるプログラム間通信のための SNA/SDLC プロトコル。LU 6.2 には、次のような特徴がある。

1. セッション・パートナーとは対等の関係にある。
2. 1 つのセッションを複数のトランザクションで効率よく利用できる。
3. 包括的なエンドツーエンドのエラー処理。
4. 製品の実装にマップされた構造化済み verb で構成される、汎用アプリケーション・プログラミング・インターフェース (API)。

ログオン解釈ルーチン (**logons interpret routine**).

VTAM において、ログオン情報を変換し、解釈テーブル項目に関連付けられたインストール・システム出口ルーチン。ログオンの検査も行う。

LPAR モード (**LPAR mode**). 論理分割モード

(**Logically partitioned mode**). PR/SM 機構がインストールされているとき、構成 (CONFIG) フレーム上で使用可能となる CP モード。LPAR モードでは、オペレーターは、処理装置のハードウェア・リソースを複数の論理区画に割り振ることができる。

M

マクロ定義 (**macro definition**). 単一のソース・ステートメントから一連のアセンブラー・ステートメントおよび機械命令を生成するための名前、形式、および条件を定義する 1 組のステートメントと命令。

マクロ展開 (**macro expansion**). 「マクロ生成 (*macro generation*)」を参照。

マクロ生成 (**macro generation**). ステートメントの定義によってマクロ命令がプログラム内で置換される、アセンブラー操作。この操作は、アセンブリーの前に行われる。「マクロ展開 (*macro expansion*)」と同じ。

マクロ (命令) (**macro (instruction)**).

1. アセンブラー・プログラミングにおいて、マクロ定義で既に定義されている一連のステートメントをアセンブラーに処理させる、ユーザーが作成したアセンブラー・ステートメント。

- ある要求に対する応答として、特定のアクションがある順番で実行されるように定義された一連の VSE/ICCF コマンド。

システム・ヒストリー保守プログラム (MSHP) (maintain system history program (MSHP)). VSE システムに関する各種のインストール活動、調整活動、および保守活動を自動化したり、制御したりするために使用されるプログラム。

メインタスク (main task). マルチプログラミング環境内の区画にあるメインプログラム。

マスター・コンソール (master console). z/VSE において、すべてのシステム・メッセージを受信する 1 つ以上のコンソール。ただし、特定のコンソールに対するメッセージは除く。特定のコンソールに対するメッセージ (例えば、メッセージをそのコンソールにエコー出力する要求とともに実行依頼されたジョブから出されたメッセージ) のみを受信する「ユーザー・コンソール (user console)」と対比。マスター・コンソールのオペレーターは、すべての未解決なメッセージに回答し、すべてのシステム・コマンドを入力することができる。

最大 CA (maximum (max) CA). カウント・キー・データ装置または固定ブロック装置の最大制御域サイズに相当する割り振り単位。CKD 装置では、最大 CA は 1 つのシリンダーに等しい。

メモリー・オブジェクト (memory object). IARV64 マクロを使用して作成される、2 GB 境界より上に割り振られる仮想記憶のチャンク。

メッセージ (message). VSE において、プログラムからオペレーターまたはユーザーに送信される通信。これは、コンソール、ディスプレイ、または印刷出力で表示できる。

MSHP. 「システム・ヒストリー保守プログラム (maintain system history program)」を参照。

マルチタスキング (multitasking). 同一の区画で、1 つのメインタスクと 1 つ以上のサブタスクが並行して実行されること。

MVS. 多重仮想記憶。MVS/390、MVS/XA、MVS/ESA、および z/OS (OS/390) オペレーティング・システムの MVS エレメントを意味する。

N

NetView. ネットワークをモニターし、管理して、ネットワークの問題を診断するために使用される z/VSE のオプション・プログラム。

ネットワーク・アドレス (network address). SNA で、サブエリアとエレメント・フィールドから構成されるアドレスであり、リンク、リンク・ステーション、または NAU を識別する。サブエリア・ノードはネットワーク・アドレスを使用し、周辺ノードはローカル・アドレスを使用する。周辺ノードに接続されているサブエリア・ノードの境界機能は、ローカル・アドレスをネットワーク・アドレスに変換し、ネットワーク・アドレスをローカル・アドレスに変換する。「ネットワーク名 (network name)」も参照。

ネットワーク・アドレス可能装置 (NAU) (network addressable unit (NAU)). SNA では、論理装置、物理装置、またはシステム・サービス制御点。パス制御ネットワークによって伝送される情報の発信元または宛先。各 NAU には、パス制御ネットワークに対して NAU を表すネットワーク・アドレスがある。「ネットワーク名 (network name)」、「ネットワーク・アドレス (network address)」も参照。

ネットワーク制御プログラム (Network Control Program (NCP)). シングル・ドメイン、マルチドメイン、および相互接続ネットワーク機能のために、通信コントローラー・サポートを提供する IBM ライセンス・プログラム。フルネームは ACF/NCP。

ネットワーク定義テーブル (NDT) (network definition table (NDT)). VSE/POWER ネットワーキングにおいて、ネットワーク内のすべてのノードがリストされているテーブル。

ネットワーク名 (network name).

- SNA において、ユーザーが NAU、リンク、またはリンク・ステーションを参照するために使用する記号 ID。「ネットワーク・アドレス (network address)」も参照。
- マルチドメイン・ネットワークにおいて、VTAM アプリケーション・プログラムを定義する APPL ステートメントの名前。このネットワーク名は、ドメイン間で固有でなければならない。

ノード (node).

- SNA において、ネットワーク内の複数のリンクに共通したリンクの終点または接合点。ノードは、ホスト・プロセッサ、通信コントローラー、クラスター・コントローラー、端末に分散させることができる。ルーティングやその他の機能がもつ能力は、ノードによって異なることが可能である。
- VTAM において、記号名で定義されたネットワーク内の点。「ネットワーク・ノード (network node)」と同じ。「大ノード (major node)」および「小ノード (minor node)」を参照。

ノード・タイプ (**node type**). SNA において、サポートするプロトコル、および含むことができるネットワーク・アドレス式装置 (NAU) によって、ノードを指定すること。

O

オブジェクト・モジュール (プログラム) (**object module (program)**). アセンブラーまたはコンパイラーの出力であるプログラム単位で、リンケージ・エディターに入力する。

オンライン・アプリケーション・プログラム (**online application program**). 表示装置で使用される対話式プログラム。アクティブな場合は、データを待つ。入力が行われると、その入力を処理し、表示装置または別の装置に応答を送信する。

オペレーター・コマンド (**operator command**). コンソールまたは端末を介して発行される、制御プログラムに対するステートメント。オペレーター・コマンドが発行されると、制御プログラムは、要求された情報の提供、通常の変更、新しい操作の開始、または既存の操作の終了を行う。

オプション・ライセンス・プログラム (**optional licensed program**). インストール援助サポートを使用してユーザーが VSE にインストールできる IBM ライセンス・プログラム。

出力パラメーター・テキスト・ブロック (**OPTB (output parameter text block (OPTB))**). VSE/POWER のスプール・アクセス・サポートにおいて、自動開始のために定義されたユーザー定義のキーワードが * \$\$ LST ステートメントまたは * \$\$ PUN ステートメントに含まれている場合に、出力キュー・レコードに含められる情報。

P

ページ・データ・セット (**page data set (PDS)**). ページをプロセッサ・ストレージで必要としない場合に、そのページが記憶されるディスク・ストレージの 1 つ以上のエクステンツ。

ページの固定 (**page fixing**). ページをマーク付けして、明示的に解除しない限りプロセッサ・ストレージにとどまるようにすること。明示的に解除されるまでは、ページアウトできない。

ページ入出力 (**page I/O**). ページイン操作およびページアウト操作。

ページ・プール (**page pool**). 仮想モードのプログラムのページングに使用可能な、ページ・フレームのセット。

パネル (**panel**). 端末画面上に一度に表示される一式の情報。パネルを上下にスクロールする操作は、マニュアルのページをめくる操作に相当する。「選択パネル (**selection panel**)」も参照。

区画平衡 (**partition balancing**). システムの複数またはすべての区画でプロセッサ上での時間と同じ時間がかかることをユーザーが指定できる z/VSE 機能。

PASN-AL (1 次アドレス・スペース番号 - アクセス・リスト) (**PASN-AL (primary address space number - access list)**). 区画と関連付けられているアクセス・リスト。プログラムは、その区画に関連付けられた PASN-AL、およびそのタスク (作業単位) に関連付けられた DU-AL を使用する。「DU-AL」も参照。

各区画には、独自の固有 PASN-AL がある。この区画で実行されるすべてのプログラムが、PASN-AL からデータ・スペースにアクセスできる。したがって、プログラムはデータ・スペースを作成し、それに対する項目を PASN-AL 内に追加し、その項目に索引付けする ALET を取得できる。その区画に含まれている他のプログラムに ALET を渡すことによって、プログラムは、その同じ区画で実行される他のプログラムとデータ・スペースを共有できる。

PDS. ページ・データ・セット。

フェーズ (**phase**). 仮想記憶にロードできる実行可能コードの最小単位。

物理レコード (**physical record**). 補助ストレージとの間で転送されるデータの量。「ブロック (**block**)」と同じ。

PNET. VSE/POWER のもとで使用可能なプログラミング・サポート。選択されたジョブ、オペレーター・コマンド、メッセージ、およびプログラム出力をネットワークのノード間で送信できるようにする。

POWER. 「VSE/POWER」を参照。

事前生成オペレーティング・システム (**pregenerated operating system**). 主としてオブジェクト・コードの形式で IBM から出荷される、z/VSE などのオペレーティング・システム。主制御プログラムのサイズ、ライブラリーの編成とサイズ、およびディスク上に必要なシステム域などの重要な特性は、IBM で定義される。ユーザーはオペレーティング・システムを生成する必要がない。

予防保守 (**preventive service**). 予想される問題を避けるために、1 つ以上の PTF を VSE システムにインストールすること。

1 次アドレス・スペース (**primary address space**).

z/VSE において、区画が実行されるアドレス・スペース。1 次モードのプログラムは、1 次アドレス・スペースからデータを取り出す。

1 次ライブラリー (**primary library**). 特定の端末ユーザーが所有し、そのユーザーが直接アクセスできる VSE ライブラリー。

プリンター・キーボード・モード (**printer/keyboard mode**). 1050 コンソール・モードまたは 3215 コンソール・モード (装置依存) を指す。

VSE 印刷サービス機能 (**Print Services Facility (PSF)/VSE**). 高性能プリンターをサポートするアクセス方式。

専用区域 (**private area**). 共有域 (24 ビット) と共有域 (31 ビット) の間の仮想スペース。ここで (専用) 区画が割り振られる。専用区域の最大サイズは、IPL 時に定義される。「共有域 (*shared area*)」も参照。

専用メモリー・オブジェクト (**private memory object**). メモリー・オブジェクトを作成した区画のみがアクセスできる、2 GB 境界より上に割り振られるメモリー・オブジェクト (仮想記憶のチャンク)。

専用区画 (**private partition**). 共用として定義されていないシステムのすべての区画。「共用区画 (*shared partition*)」も参照。

実動ライブラリー (**production library**).

1. 事前生成オペレーティング・システム (または製品) において、そのシステム (または製品) のオブジェクト・コードが入っているプログラム・ライブラリー。
2. 通常の処理に必要なデータが入っているライブラリー。「テスト・ライブラリー (*test library*)」と比較。

プログラマー論理装置 (**programmer logical unit**). 主にユーザー作成プログラム用に使用可能な論理装置。「論理装置名 (*logical unit name*)」を参照。

プログラム一時修正 (**program temporary fix (PTF)**). APAR に記述された 1 つ以上の問題を解決またはバイパスすること。PTF は、現行リリースのプログラムに対する予防保守を目的に IBM ユーザーに配布される。

PSF/VSE. 印刷サービス機能 /VSE (Print Services Facility/VSE)。

PTF. 「プログラム一時修正 (*Program temporary fix*)」を参照。

Q

キュー制御域 (**QCA**) (**Queue Control Area (QCA)**). VSE/POWER において、データ・ファイルの領域。以下のものが含まれていることがある。

- 拡張チェックポイント情報。
- 共有環境に関する制御情報。

待ち行列ファイル (**queue file**). VSE/POWER によって維持される直接アクセス・ファイル。ジョブ入力およびジョブ出力のスプーリングに関する制御情報が保持されている。

R

ランダム処理 (**random processing**). データの処理を、ディスク・ストレージ上でのデータの位置とは無関係に、データの処理対象となる入力によって決まる任意の順序で行うこと。

実アドレス域 (**real address area**). z/VSE において、動的アドレス変換 (DAT) がオフの状態、アクセスされる主記憶域。

実アドレス・スペース (**real address space**). アドレスが主記憶域内のアドレスに 1 対 1 でマップされるアドレス・スペース。

実モード (**real mode**). VSE において、プログラムがベージングされない処理モード。「仮想モード (*virtual mode*)」と比較。

リカバリー管理サポート (**RMS**) (**recovery management support (RMS)**). ハードウェア障害に関する情報を収集し、プロセッサ、入出力装置、またはチャンネルのエラーによって失敗した操作の再試行を開始するシステム・ルーチン。

リフレッシュ・リリース (**refresh release**). アップグレードされた VSE システムで、リリースの最新の保守レベルが適用されたもの。

相対レコード・ファイル (**relative-record file**). レコードが、固定長のスロットにロードされ、そのスロットの相対レコード番号によってアクセスされる VSE/VSAM ファイル。

リリース・アップグレード (**release upgrade**). FSU 機能を使用して、z/VSE の新規リリースをインストールすること。

再配置可能モジュール (**relocatable module**). タイプ・オブジェクトのライブラリー・メンバー。1 つのメンバーとしてカタログが作成される 1 つ以上の制御セクションで構成される。

再配置ローダー (**relocating loader**). 必要に応じてフェーズのアドレスを変更し、ユーザーが選択した区画にそのフェーズを実行のためにロードする機能。

リモート・インターフェース (**remote interface**). z/VSE のコンテキストでは、リモート・インターフェースを使用すると、EJB がリモート z/VSE ホスト上にある場合でも、クライアントは EJB に対してメソッド呼び出しを行うことができる。コンテナはリモート・インターフェースを使用して、クライアント・サイド・スタブおよびサーバー・サイド・プロキシ・オブジェクトを作成し、クライアントから EJB への入力メソッド呼び出しを処理する。

リモート・プロシージャ・コール (**RPC**) (**remote procedure call (RPC)**).

1. クライアントがサーバーからのプロシージャ呼び出しの実行を要求するために使用する機能。この機能には、プロシージャのライブラリーおよび外部データ表現が組み込まれている。
2. 別のノード内のサービス・プロバイダーに対するクライアント要求。

常駐モード (**RMODE**) (**residency mode (RMODE)**). 仮想記憶内の、プログラムが常駐すると予期される場所に関連したプログラム属性。RMODE 24 は、プログラムが 24 ビット・アドレス可能域 (16 メガバイトより下) に常駐しなければならないことを示す。RMODE ANY は、プログラムが 31 ビット・アドレス可能ストレージ (16 メガバイトより上または下) の任意の場所に常駐できることを示す。

REXX/VSE. 汎用プログラミング言語で、特にコマンド・プロシージャ、バッチ・プログラムの高速作成、プロトタイピング、およびパーソナル・ユーティリティに適用している。

RMS. リカバリー管理サポート。

RPG II. ビジネス・データ処理用のアプリケーション・プログラムを作成するために設計された、商用指向のプログラミング言語。

S

SAM ESDS ファイル (SAM ESDS file). SAM マクロと VSE/VSAM マクロの両方でアクセスできるように、VSE/VSAM スペースで管理される SAM ファイル。

SCP. システム制御プログラミング。

SDL. システム・ディレクトリー・リスト (System directory list)。

検索チェーン (**search chain**). 指定したタイプの特定のライブラリー・メンバーを取得するために、チェーン・サブライブラリーを検索する順序。

第 2 レベル・ディレクトリー (**second-level directory**). システム・サブライブラリーのディレクトリー・トラックにある最高位のフェーズ名が入っている SVA 内のテーブル。

Secure Sockets Layer (SSL). クライアントがサーバーの認証を受け、すべてのデータおよび要求を暗号化できるようにするセキュリティー・プロトコル。SSL は、Netscape Communications Corp. および RSA Data Security, Inc. によって開発された。

セグメント化 (**segmentation**). VSE/POWER において、プログラムのリスト出力または穿孔出力を複数のセグメントに分割し、このプログラムがそのような出力の生成を終了する前に、印刷または穿孔を開始できるようにする機能。

選択パネル (**selection panel**). 項目のリストが表示された画面で、ユーザーはここから項目を選択できる。「メニュー (*menu*)」と同じ。

検知 (**sense**). 特定の入出力装置または通信装置の状況や特性を (要求に対して、または自動的に) 判別すること。

順次アクセス方式 (**SAM**) (**sequential access method (SAM)**). 入出力装置との間でレコードまたはブロックの読み書きを次々に行うデータ・アクセス方式。このサポートは、要求に応じて、印刷装置での行送りまたはページ替え、あるいはテープ・ドライブ上でのテープ・マークのスキップなどの装置制御操作を実行する。

サービス・ノード (**service node**). VSE 不在ノード・サポート内で、不在ノードに配布するためにコピーされたマスター VSE システムをインストールしてテストするために使用されるプロセッサ。また、プログラム修正は、まずサービス・ノードで適用されてから、不在ノードに送信される。

サービス・プログラム (**service program**). システムをサポートするために機能を実行するコンピューター・プログラム。「ユーティリティー・プログラム (*utility program*)」を参照。

サービス・リフレッシュ (**service refresh**). サービスの一形式で、すべてのソフトウェアの現行バージョンが収められている。システム・リフレッシュとも呼ばれる。

サービス装置 (**service unit**). ディスクまたはテーブ (カートリッジ) 上の 1 つ以上の PTF。

共用域 (**shared area**). z/VSE において、共有域 (24 ビット) には監視プログラム域および SVA (24 ビット) が含まれており、共有域 (31 ビット) には SVA (31 ビット) が含まれている。共有域 (24 ビット) はアドレス・スペースの先頭 (16 MB より下) にあり、共有域 (31 ビット) は末尾 (2 GB より下) にある。

共用ディスク・オプション (**shared disk option**). 独立した複数のコンピューター・システムで、共用ディスク装置上の共通データを使用できるようにするオプション。

共有メモリー・オブジェクト (**shared memory objects**). 2 GB の制限を超えて割り振られる仮想記憶のチャンク。複数の区画で共有できる。

共有区画 (**shared partition**). VSE において、システムの仮想アドレス・スペースの他の区画にあるプログラムにサービスを提供し、このようなプログラムと通信を行うプログラム (例えば、VSE/POWER) に割り振られた区画。多くの場合、共有区画は不要。

共用スプーリング (**shared spooling**). VSE/POWER アカウント・ファイル、データ・ファイル、および待ち行列ファイルを、VSE/POWER を用いている複数のコンピューター・システム相互間で共有させる機能。

共有仮想記憶域 (**SVA**) (**shared virtual area (SVA)**). z/VSE において、頻繁に使用されるフェーズ、区画間で共有されている常駐プログラム、およびシステム・サポート用の区域のリスト・システム・ディレクトリー・リスト (SDL) が入っている高位アドレス域。

SIT (システム初期設定テーブル) (SIT (System Initialization Table)). システム初期設定プロセスで使用されるデータが入っている CICS のテーブル。具体的には、SIT は、ロードされる指定済みの CICS システム制御プログラムおよび CICS テーブルのバージョンを (接尾部文字によって) 識別できる。

スケルトン (**skeleton**). ユーザー固有の情報を挿入してはじめて処理できるようになる一連の制御ステートメントまたは命令 (あるいはこれらの両方)。

Socks 化された (socksified). 「Socks 対応 (*socks-enabled*)」を参照。

Socks 対応 (Socks-enabled). Socks プロトコルを認識する TCP/IP ソフトウェアまたは特定の TCP/IP アプリケーションに関する用語。「Socks 化された (Socksified)」は、「Socks 対応」を表す俗語。

Socks プロトコル (socks protocol). 保護されたネットワーク内のアプリケーションが、Socks サーバー 経由でファイアウォールを通過して通信できるようにするプロトコル。

Socks サーバー (socks server). 保護されていないネットワーク内のサーバー・アプリケーションに、ファイアウォール経由のセキュアな片方向接続を提供する回線レベル・ゲートウェイ。

ソース・メンバー (**source member**). VSE がサポートするいずれかのプログラミング言語で書かれたソース・ステートメントを含むライブラリー・メンバー。

分割 (**split**). 指定されたフリー・スペースの最小量が新しいレコードで使い果たされたときに、ストレージ・スペース (CI または CA) の特定の単位を動的に 2 倍にすること。

スプーリング (**spooling**). ディスク装置をバッファ・ストレージとして使用し、コンピューターの周辺装置とプロセッサの間のデータ転送時の処理遅延を少なくすること。z/VSE では、スプーリングは VSE/POWER の制御下で行われる。

スプール・アクセス保護 (**Spool Access Protection**). VSE/POWER のオプション機能。個々のスプール・ファイル項目アクセスを、セキュリティー・ログオンの実行によって認証されたユーザー ID に制限する。

スプール・ファイル (**spool file**).

1. 後で処理するために保存された出力データが入っているファイル。
2. ディスク上の 3 つの VSE/POWER ファイル (キュー・ファイル、データ・ファイル、およびアカウント・ファイル) のうちの 1 つ。

SSL. Secure Sockets Layer (SSL) を参照。

スタック・テーブ (**stacked tape**). IBM 提供の製品付属のテーブで、複数のライセンス・プログラムのコードが入っている。

標準ラベル (**standard label**). テープ・リールなどのデータのボリューム、またはデータのボリュームの一部であるファイルを識別する固定形式レコード。

独立型プログラム (**stand-alone program**). VSE システムから独立して (制御されずに) 稼働するプログラム。

スタートアップ (**startup**). オペレーティング・システムの IPL を実行して、すべてのサブシステムとアプリケーション・プログラムを操作可能にするプロセス。

開始オプション (**start option**). VTAM において、VTAM システムの作動時の条件を決定するユーザー指定のオプションまたは IBM 指定のオプション。開始オプションは事前定義することも、VTAM の開始時に指定することもできる。

静的区画 (**static partition**). IPL 時に定義される区画で、定義された一定量の仮想記憶域を占有する。「動的区画 (**dynamic partition**)」も参照。

ストレージ・ディレクター (**storage director**). 記憶制御装置の独立したコンポーネント。記憶制御装置のすべての機能を実行するため、この装置に接続されたディスク装置へのアクセス・パスを 1 つ提供する。1 台の記憶制御装置には 2 つのストレージ・ディレクターが備えられている。

ストレージのフラグメント化 (**storage fragmentation**). 仮想記憶域の実アドレス範囲または仮想アドレス範囲で、ストレージの未使用セクション (フラグメント) を割り振ることができないこと。

副次割り振りされたファイル (**suballocated file**). 既に定義されているデータ・スペースの一部を占有する VSE/VSAM ファイル。データ・スペースは、他のファイルを含むことがある。「固有ファイル (**unique file**)」も参照。

サブライブラリー (**sublibrary**). VSE において、ライブラリーをさらに分割した一部分。サブライブラリー内でのみ、メンバーにアクセスできる。

サブライブラリー登録簿 (**sublibrary directory**). アクセスしたサブライブラリー内でメンバーを見つけるためのシステム用索引。

サブミット (**submit**). 処理のためにジョブをシステムに渡す VSE/POWER 機能。

SVA. 「共有仮想記憶域 (**shared virtual area**)」を参照。

同期データ・リンク制御 (**SDLC**) (**Synchronous DataLink Control** (**SDLC**)). リンク接続による同期、コード透過、ビット・シリアル情報転送を管理するための規則。伝送交換は、交換リンクまたは非交換リンク上で全二重または半二重で行われる。リンク接続の構成は、Point-to-Point、マルチポイント、またはループのいずれかになる。

SYSRES. 「システム常駐ボリューム (**system residence volume**)」を参照。

システム制御プログラミング (**SCP**) (**system control programming** (**SCP**)). システムの操作またはそのサービス、あるいはその両方の基礎となる、IBM 提供の非ライセンス・プログラム。

システム・ディレクトリー・リスト (**system directory list** (**SDL**)). 頻繁に使用するフェーズおよび SVA に常駐する全フェーズのディレクトリー項目を示すリスト。このリストは SVA に入っている。

システム・ファイル (**system file**). z/VSE において、オペレーティング・システムが使用するファイル。例えば、ハードコピー・ファイル、記録ファイル、ページ・データ・セットなど。

システム初期設定テーブル (**SIT**) (**System Initialization Table** (**SIT**)). システム初期設定プロセスで使用されるデータが入っている CICS のテーブル。具体的には、SIT は、ロードされる指定済みの CICS システム制御プログラムおよび CICS テーブルのバージョンを (接尾部文字によって) 識別できる。

システム記録ファイル (**system recorder file**). ハードウェアの信頼性データを記録するために使用されるファイル。「記録ファイル (**recorder file**)」と同じ。

システム・リフレッシュ (**system refresh**). 「サービス・リフレッシュ (**service refresh**)」を参照。

システム・リフレッシュ・リリース (**system refresh release**). 「リフレッシュ・リリース (**refresh release**)」を参照。

システム常駐ファイル (**SYSRES**) (**system residence file** (**SYSRES**)). オペレーティング・システムを収めた z/VSE システム・サブライブラリー IJSYSRS.SYSLIB。このファイルは、システム常駐ボリューム DORSRES に格納されている。

システム常駐ボリューム (**SYSRES**) (**system residence volume** (**SYSRES**)). システム・サブライブラリーが保管されているディスク・ボリューム。ここから、ハードウェアがシステム始動用の初期プログラム・ロード・ルーチンを取得する。

システム・サブライブラリー (**system sublibrary**). オペレーティング・システムが入っているサブライブラリー。システム常駐ボリューム (SYSRES) に保管される。

T

タスク管理 (**task management**). タスクによるプロセッサおよび他のリソース (入出力装置を除く) の使用を制御する制御プログラムの機能。

時間イベント・スケジューリング・サポート (**time event scheduling support**). VSE/POWER では、時間イベント・スケジューリング・サポートにより、事前定義の時刻に 1 回または繰り返してジョブを区画内で処理するようにスケジュールできる。* \$\$ JOB ステートメントの時間イベント・スケジューリング・オペランドを使用して、必要なスケジューリング時刻を指定する。

TLS. 「Transport Layer Security」を参照。

トラック・グループ (**track group**). VSE/POWER において、CKD 装置用のファイルの基本組織単位。

トラック保護 (**track hold**). あるプログラムによって更新されているトラックが、別のプログラムによってアクセスされないように保護する機能。

トランザクション (**transaction**).

1. バッチまたはリモート・バッチ入力における、ジョブまたはジョブ・ステップ。2. CICS TS では、表示装置のオペレーターが使用できる 1 つ以上のアプリケーション・プログラム。ある 1 つのトランザクションは、1 つまたは複数のディスプレイ装置から同時に使用することができる。特定のオペレーターに対するトランザクションの実行は、タスクとしても参照される。
2. 与えられたタスクは、一人のオペレーターのみに関連づけることができる。

一時域 (**transient area**). 要求に応じて優先順位の高いシステム・サービスを提供するために使用される制御プログラム内部の区域。

Transport Layer Security. 最新の SSL 暗号プロトコル。プライバシーおよびデータ保全性をさらに強化する。

ターボ・ディスパッチャー (**Turbo Dispatcher**). マルチプロセッサ・システム (CEC (中央電子複合システム) ともいう) を使用できる z/VSE の機能。そのような CEC 内の各 CPU は、z/VSE の共有仮想記憶域 (監視プログラム、共有域 (24 ビット)、および共有域 (31 ビット)) にアクセスできる。すべての CPU には、

同等の権限がある。つまり、CPU は割り込みを受信し、特定の CPU が複数の作業単位を占有することはない。

U

UCB. 汎用文字セット・バッファ (Universal character set buffer)。

汎用文字セット・バッファ (**UCB (universal character set buffer (UCB))**). UCS 情報を保持するためのバッファ。

UCS. 汎用文字セット (Universal character set)。

ユーザー・コンソール (**user console**). z/VSE において、特定のコンソールに対するシステム・メッセージのみ受信するコンソール。それらのメッセージは、例えば、メッセージをコンソールにエコーさせるための要求とともにサブミットされるジョブから出される。「マスター・コンソール (*master console*)」 と対比。

ユーザー出口 (**user exit**). IBM のソフトウェア・プロダクトが提供するプログラミング・サービスであり、アプリケーション・プログラムの実行中に要求して、後でユーザー指定のイベントが発生したときに制御をアプリケーション・プログラムに戻すことができる。

V

可変長相対レコード・データ・セット (**VRDS (variable-length relative-record data set (VRDS))**). 可変長レコードが含まれている相対レコード・データ・セット。「相対レコード・データ・セット (*relative-record data set*)」 も参照。

可変長相対レコード・ファイル (**variable-length relative-record file**). 可変長レコードが含まれている VSE/VSAM 相対レコード・ファイル。「相対レコード・ファイル (*relative-record file*)」 も参照。

VIO. 「仮想入出力域 (virtual I/O area)」を参照。

仮想アドレス (**virtual address**). 仮想記憶内の場所を指し示すアドレス。仮想アドレスに記憶されている情報を使用するときには、システムによってプロセッサ・ストレージ・アドレスに変換される。

仮想アドレス可能度拡張 (**VAE (virtual addressability extension (VAE))**). 複数の仮想アドレス・スペースの使用を許可するストレージ管理サポート

仮想アドレス・スペース (**virtual address space**). 仮想アドレス域 (仮想ストレージ) の一部であり、ユーザーが専用区画および非共有区画を割り振ることができる。

仮想ディスク (**virtual disk**). プログラムがワークスペースとして使用できる最大 2 GB の連続仮想記憶域アドレスの範囲。仮想ディスクはストレージ内に存在するが、ユーザー・プログラムに対しては実際の FBA ディスク装置として現れる。仮想ディスクに対する入出力操作はすべて代行受信され、ディスクに書き込まれるデータまたはディスクから読み取られるデータは、データ・スペースとの間で移動される。

データ・スペースと同様に、仮想ディスクに保持できるのはユーザー・データのみであり、共有域、システム・データ、およびプログラムは格納されない。アドレス・スペースやデータ・スペースとは異なり、仮想ディスク上で直接にデータをアドレッシングすることはできない。仮想ディスク上のデータを操作するには、プログラムで入出力操作を実行する必要がある。

z/VSE 5.2 からは、仮想ディスクは共有メモリー・オブジェクトで定義できる。

仮想入出力域 (**VIO**) (**virtual I/O area (VIO)**). ページ・データ・セットの拡張。主に制御データ用の中間ストレージとしてシステムによって使用される。

仮想モード (**virtual mode**). プログラムの操作モード。プログラムの仮想記憶域を補助するために必要なプロセッサの (実) 記憶域が不足した場合に、仮想記憶域をページングできる。

仮想区画 (**virtual partition**). VSE において、仮想記憶の動的区域の一部。

仮想記憶 (**virtual storage**). ユーザーのためのアドレス可能スペース・イメージで、ここから命令およびデータが主記憶域の位置にマップされる。

仮想テープ (**virtual tape**). z/VSE において、仮想テープは、テープ・イメージを含むファイル (またはデータ・セット) である。仮想テープでは、物理テープと同じ方法で読み取りまたは書き込みを行うことができる。仮想テープには以下のようなものがある。

- z/VSE ローカル・システムの VSE/VSAM ESDS ファイル。
- サーバー・サイドのリモート・ファイル。例えば、Linux、UNIX、または Windows のファイル。そのようなリモート仮想テープにアクセスするには、z/VSE とリモート・システムとの間の TCP/IP 接続が必要。

ボリューム ID (**volume ID**). ボリューム通し番号。ボリュームをシステムで使用するとき準備するときに割り当てられるボリューム・ラベル内の番号。

VRDS. 可変長相対レコード・データ・セット。「可変長相対レコード・ファイル (*variable-length relative record file*)」を参照。

VSAM. 「VSE/VSAM」を参照。

VSE (拡張仮想記憶) (Virtual Storage Extended). 基本オペレーティング・システムおよびユーザーが必要とするデータ処理のための IBM 提供プログラムおよびユーザー作成プログラムから構成されるシステム。VSE および VSE が制御するハードウェアは、1 個の完結したコンピューティング・システムを形成することになる。現行バージョンは z/VSE と呼ばれる。

VSE/拡張機能 (VSE/Advanced Functions). 基本システム制御を提供するプログラムで、ライブラリアン、リンケージ・エディターなどの監視プログラムおよびシステム・プログラムを含む。

VSE コネクター・サーバー (VSE Connector Server). VSE JavaBeans のホスト部分であり、z/VSE のインストール時に読み取りキューに入れられるジョブ STARTVCS を使用して開始される。デフォルトで動的クラス R で実行される。

VSE/DITTO (VSE/ファイル間データ転送、テスト、および操作ユーティリティ) (VSE/DITTO (VSE/Data Interfile Transfer, Testing, and Operations Utility)). ディスク装置、テープ装置、およびカード装置用のファイル間サービスを提供する IBM ライセンス・プログラム。

VSE/ESA (Virtual Storage Extended/Enterprise Systems Architecture). z/VSE の以前に使用されていたシステム。

VSE/高速コピー (VSE/Fast Copy). ディスクからディスクへの高速コピー・データ操作、および磁気テープまたはディスク上の中間ダンプ・ファイルを介したダンプ/復元操作のユーティリティ・プログラム。

VSE/FCOPY (VSE/データ・セット高速コピー・プログラム) (VSE/FCOPY (VSE/Fast Copy Data Set program)). ディスクからディスクへの高速コピー・データ操作、または磁気テープまたはディスク上の中間ダンプ・ファイルを介したダンプ/復元操作の IBM ライセンス・プログラム。独立型バージョンの FASTCOPY ユーティリティもある。

VSE/ICCF (VSE/対話式計算制御機能) (VSE/ICCF (VSE/Interactive Computing and Control Facility)).

システムのプロセッサにリンクされた端末の許可ユーザーに対して、タイム・スライス・ベースでインターフェースの役割を果たす IBM ライセンス・プログラム。

VSE/ICCF ライブラリー (VSE/ICCF library). システム・データおよびユーザー・データが入っている小さなファイル (ライブラリー) から構成されるファイルで、VSE/ICCF の制御下でアクセスできる。

VSE JavaBeans. すべての VSE ベースのファイル・システム (VSE/VSAM、ライブラリアン、および VSE/ICCF) へのアクセスを許可して、ジョブを実行依頼し、z/VSE オペレーター・コンソールにアクセスする JavaBeans。クラス・ライブラリーは `VSEConnector.jar` アーカイブ内に含まれている。「JavaBeans」も参照。

VSE ライブラリー (VSE library). ディスク上に保管された、各種形式のプログラムとストレージ・ダンプの集合。プログラムの形式は、ソース・コード、オブジェクト・モジュール、フェーズ、またはプロシージャーなどのメンバー・タイプによって示される。VSE ライブラリーは、あらゆるタイプのメンバーが入っている最低 1 つのサブライブラリーで構成される。

VSE/POWER. 主として入出力をスプールするために使用される IBM ライセンス・プログラム。このプログラムのネットワーク機能により、VSE システムは、他のリモート・サーバーとファイルを交換したり、あるいは他のリモート・プロセッサでジョブを実行することができる。

VSE/VSAM (VSE/仮想記憶アクセス方式) (VSE/Virtual Storage Access Method). 磁気ディスク装置上にある固定長レコードと可変長レコードの直接処理または順次処理のための IBM アクセス方式。

VSE/VSAM カタログ (VSE/VSAM catalog). ファイルとボリュームに関する包括的な情報が入っているファイル。ファイルの探索、ストレージ・スペースの割り振りと割り振り解除、プログラムまたはオペレーターがファイルにアクセスする許可をもっているかどうかの検査、およびファイルの使用統計の累積の際、VSE/VSAM はこのカタログを必要とする。

VSE/VSAM 管理スペース (VSE/VSAM managed space). VSE/VSAM の管理下に置かれている、ディスク上のユーザー定義のスペース。

W

実行待ちサブキュー (wait for run subqueue).

VSE/POWER において、ディスパッチ可能ジョブが実行開始時間の順序で並べられた、読み取りキューのサブキュー。

待ち状態 (wait state). すべての操作が延期されたときの、プロセッサの状態。ハードウェア・ウェイト状態からシステムをリカバリーするには、新規システムのスタートアップを実行させる必要がある。「ハード待ち (*hard wait*)」を参照。

ワークステーション・ファイル転送サポート

(Workstation File Transfer Support). データが中間ストレージに保管されている z/VSE ホスト・システムとリンクで結ばれた IBM パーソナル・コンピュータ (PC) 間のデータ交換を可能にするサポート。PC のユーザーはこのデータを検索でき、z/VSE とは無関係に処理できる。

作業ファイル (work file). 処理中のデータの一時保管のために使用されるファイル。

数字

24 ビット・アドレッシング (24-bit addressing). 最大 16 メガバイトのアドレス・スペースのアドレス可能度を提供する。

31 ビット・アドレッシング (31-bit addressing). 最大 2 ギガバイトのアドレス・スペースのアドレス可能度を提供する。

64 ビット・アドレッシング (64-bit addressing). 最大 2 ギガバイト以上のアドレス・スペースのアドレス可能度を提供する。

索引

日本語, 数字, 英字, 特殊文字の順に配列されています。なお, 濁音と半濁音は清音と同等に扱われています。

[ア行]

アクセシビリティ 171
アクセス
 ジョブ CATSECT 101
 ダイアログ xii
 テーブル DTSECTAB 101
 統合コンソール 27
アクセス制御
 アクセス制御テーブル (DTSECTAB) 121
 パスワードの変更 108
アダプター 102
新しいユーザーの追加 151
印刷バッファの作成 111
インストール
 オプション・プログラム 120, 121
 仮想テープからの 162
 簡単な説明 33
 基本的なインストール手順 4
 計画 11
 作業 139
 自動 47
 手動インストールの開始 (VM のもとで) 70
 ジョブ・ストリームの概要 83
 生成機能 116
 セキュリティ機能がアクティブな z/VSE 84
 ダイアログ (特別な考慮事項) 140
 他社製プログラム 120
 調整 11
 統合コンソールによる 27
 入出力構成プログラム 47, 55
 バージョン 1 フォーマットのプログラム 131
 バージョン 2 フォーマットのプログラム 123
 プログラム・リストを使用しないプログラム 130
 ワークシート 5
 IBM zEnterprise EC12 への 48, 56
 LPAR モードでの z/VSE 55
 SCSI ディスク・サポート 22
 VM 環境の z/VSE 69

インストール (続き)
 VM/VSE インターフェース 136
 z/VSE (VM のもとで) 69
 z/VSE 基本プログラム 91
インストール時の問題 28
 入出力装置 29
 不十分なシステム構成 30
インストール情報の VSE/ICCF DTSFILE への穿孔 90
インストールの概説 4
インストールの概要図 2
インストールの流れ xi
インストール・ダイアログに関する考慮事項 140
インストール・ディスク 13, 17, 19, 20
 LPAR 環境 13
 z/VM CMS 環境 17, 19, 20
インストール・ワークシート 5
インストール・ワークシートの記入 5
オプションのインストール作業 111
オンライン・パネル 99

[カ行]

開始
 システム 11
 ジョブ管理シーケンス 83
 VSE/POWER 制御のプリンター 88
概説
 概説 4
 概要図 2
 基本ファイル 7
 ジョブ管理プログラム 139
 生成機能 116
 追加プログラムのインストール 119
 VM/VSE インターフェース ルーチン 136
 z/VSE インストール 1
拡張基本テープ 119
拡張物理アドレスのサポート
 基本情報 11
 装置検知機能 24
 物理装置アドレス 11, 22, 24
 VSE アドレス 11, 22, 24
仮想テープ
 使用する場合のファイル名/大文字と小文字の規則 165
仮想テープからの初期インストールまたは FSU の準備 161
仮想テープを使用する場合の命名/大文字と小文字の規則 165
カタログ登録
 ハードウェア情報 87
 メンバーを z/VSE ライブラリーに 92
 ASI IPL プロシージャ 87
 VTAM スタートアップ情報 87
画面フォーマット 23
環境
 選択 84
 IPL プロシージャと JCL プロシージャの調整 84
監視プログラム
 生成パラメーター 116
 IBM 提供 23
簡単な説明 (インストール) 33
完了
 初期インストール 99
 初期インストール用の個別設定データ 101
 ジョブ管理プログラム 95
 ハードウェア・テーブル 102
基本的なインストール手順 4
基本プログラムの削除 115
ゲスト・システム、VM のもとでの VSE アクセス方式 135
 テープからの IPL の実行 69
 VM/VSE インターフェースのインストール 136
 z/VSE のインストール 69
言語依存メンバー 90
更新
 ハードウェア・テーブル 106
高速サービス・グレードアップ (Fast Service Upgrade)
 最初のシステムと生成部分の保守サービスの同期化 118
個別設定されたヒストリー・ファイル情報 101
コマンド
 プリンターの始動 88
 CP DISC 28
 DEF STOR 49, 69
 LUCB アテンション・コマンド 111
 PGO 88
 SET DATE 28
コンソール
 コンソールのタイプ 27
 CP DISC コマンド 28
 IPL ADD コマンド 28
 OPERATE コマンド 28
コンソール・モードの定義 69

[サ行]

最小

ハードウェア要件 23

IPL 用の構成 30

サインオン・テーブル (DFHSNT) 148

サインオン・パネル 99

作業ファイル (初期化の際に使用) 92

サポートされる

プロセッサ 23

サポートされるプロセッサ 23

識別

入出力装置 29

時刻機構 (TOD) 28

システム

プリンター 64

システム・コンソール

切り離し 28

システム・コンソールの切り離し 28

システム・スタートアップ

CICS のスタートアップ 83

システム・ヒストリー・ファイル

個別データの更新 101

初期インストール用の個別設定データ
101

システム・ヒストリー・プログラムの保守

ジョブ PERSONAL 101

COMPATIBLE ステートメント 132

システム・ライブラリー 61, 75

テープからの IJSYSRS のリストア 75

リストア 61, 75

事前定義環境 23

実行

自動初期インストール 48

手動/VM のもとでのインストール 69

手動/ネイティブ・インストール 55

IPL (DOSRES 上の SYSRES からの)
78

実行中

ジョブ管理プログラムの制御するジョ
ブ 87

INSTALL プログラム 84

自動初期インストール

インストール 第 1 部 47

インストール 第 1 部 (簡単な説明)
33

インストール 第 2 部 (簡単な説明)
35

簡単な説明 33

使用すべき場合 1

テープからの IPL の実行 48

ディスクからの IPL の実行 48

デフォルト値 8

問題が生じた場合 9

手動インストール (LPAR モード)

インストールの開始 57

手動インストール (LPAR モード) (続き)

システム・ライブラリーのリストア 61

テープからの IPL の実行 56

ディスクからの IPL の実行 56

ディスクの初期化および VTOC の配
置 59

DOSRES からの IPL の実行 64

手動インストール (VM のもとで)

インストールの開始 70

システム・ライブラリーのリストア 75

準備作業 (VM のもとで) 69

テープからの IPL の実行 69

DOSRES からの IPL の実行 78

手動インストール (z/VM)

ディスクの初期化および VTOC の配
置 72

準備

インストール・ワークシート 5

追加プログラムのインストール 124

ハードウェア構成リスト 24

準備作業 (インストール)

基本情報 11

LPAR モード (自動) 47

LPAR モード (手動) 55

SCSI ディスク・サポート 22

VM のもとで (自動) 47, 49

VM のもとで (手動の) 69

使用

インストール・ダイアログ (追加 VSE
プログラム用) 121

システム・コンソール xi

統合コンソール xi

VM/VSE インターフェース ルーチン
135

紹介

VM のもとでの z/VSE のインストー
ル 69

z/VSE のインストール xvii

z/VSE を LPAR モードでインストー
ル 47, 55

初期インストール

概説 4

概要図 2

完了 99, 106

構成リスト 24

システム・ライブラリーのリストア
61, 75

ジョブ BASEREST 91

ジョブ CATSECT 101

ジョブ CLEANUP 95

ジョブ DUMPINIT 92

ジョブ FIRSTUSE 101

ジョブ HISTREST 89

ジョブ ICCFLOAD 90

ジョブ ICCFREST 90

ジョブ INSGEN 117

初期インストール (続き)

ジョブ LIBRDEFS 90

ジョブ NLICFRES 91

ジョブ NLLIBRES 90

ジョブ PERSONAL 101

ジョブ SAVEMEMB 92

ジョブ UPDSECT 101

ジョブ VSAMDEFS 89

ジョブ VSAMINIT 91

ジョブ管理プログラム処理 87

ジョブ管理プログラムの完了 95

ジョブ・ストリームの概要 83

ジョブ・リストの作成 87

ステップのシーケンス 4

生成機能 のインストール 117

ハードウェア情報のカタログ登録 87

メディア・タイプ 1

ASI IPL プロシージャのカタログ登
録 87

VSE の IPL 64, 78

VTAM スタートアップ情報のカタロ
グ登録 87

初期インストール時のジョブ・リストの作
成 87

初期インストール処理の完了 95

初期インストールの計画 11

初期インストール用の構成リスト 24

初期化

ソフトウェア情報/分析の作業ファイ
ル 92

ディスク、および VTOC の配置 59,
72

VSE/VSAM ファイルの、およびロー
ド 91

ジョブ管理の EXIT オプション 140

ジョブ管理の RESET オプション 140

ジョブ管理の RESUME オプション 140

ジョブ管理の異常終了ジョブ名

CUSABEND 140

DTRABxx 140

DTRFSUAB 140

DTRPTFAB 140

INSABEND 140

ジョブ管理プログラム

異常終了ジョブ名 140

オプション 140

概要 139

完了 95

コマンド 140

再始動 140

ジョブ BASEREST 91

ジョブ CLEANUP 95

ジョブ DUMPINIT 92

ジョブ HISTREST 89

ジョブ ICCFLOAD 90

ジョブ ICCFREST 90

ジョブ管理プログラム (続き)
 ジョブ INSABEND 140
 ジョブ LFCBLINK 111
 ジョブ LIBRDEFS 90
 ジョブ NLICFRES 91
 ジョブ NLLIBRES 90
 ジョブ SAVEMEMB 92
 ジョブ VSAMDEFS 89
 ジョブ VSAMINIT 91
 処理 87, 127
 追加 VSE プログラムのインストール
 (V2 フォーマット) 123
 プログラムのインストール - V1 形式
 127, 131
 問題処理 140
 EXIT オプション 140
 RESET オプション 140
 RESUME オプション 140
 ジョブ・ストリーム処理 83
 資料
 z/VSE ライブラリー xii
 身体障害 171
 スキャン・レポート 124
 スケルトン
 SKLIBEXT 124
 SKVMVSE 136
 スペース所要量 121
 制御ステートメント 156
 生成機能
 インストール 116, 117
 サービス・インストール後のインスト
 ール 118
 ジョブ INSGEN 117
 生成機能をインストールする時期 117
 セキュリティー 84, 108
 装置検知機能
 拡張物理装置アドレスのサポート 11,
 22
 検知不能な装置 64
 装置の自動定義 64, 78
 複数のアドレスを持つ装置 102
 装置タイプ・コード 7, 24
 装置ダウン状況 30

[夕行]

ダイアログ
 高速サービス・グレードアップ (Fast
 Service Upgrade) のインストール
 139
 再インストールのための Install
 Programs - V2 Format (プログラムの
 インストール - V2 形式) (インス
 トール) 131
 生成機能 のインストール 117, 118
 特別な考慮事項 140

ダイアログ (続き)
 プログラムのインストール - V1 形式
 131, 139
 File and Catalog Management (ファ
 イルおよびカタログの管理) 124
 Install Programs - V2 Format (プロ
 グラムのインストール - V2 形式)
 123, 139
 Install Program(s) from Tape (テープ
 からプログラムをインストール) 123,
 127
 Prepare for Installation (インストー
 ルの準備) 123, 124
 PTF の適用 139
 対話式インターフェース (ダイアログも参
 照のこと) xii
 ダウンロードする、z/VSE をインターネ
 ットから 7
 ダミー装置 102
 端末プリンター
 開始 88
 初期インストール 64
 追加 VSE プログラムの再インストール
 131
 追加の VSE ライセンス・プログラム
 追加 z/VSE プログラムの形式 120
 追加 z/VSE プログラムのタイプ 120
 追加 z/VSE プログラムのバージョン
 1 およびバージョン 2 の形式 120
 バージョン 2 の形式 120
 通信アクセス方式 94
 および CICS/ICCF のスタートアップ
 94
 ジョブ CICSICCF 94
 ジョブ TPSTART 94
 ジョブ VTAMSTRT 94
 データ
 保護 108
 テープからのインストール 20
 定義
 コンソール・モード 69
 コンソール・モード (VM) 49
 ストレージ (VM) 49
 装置 24
 端末 (VM) 49
 ハードウェア 24
 ライブラリーおよびサブライブラリー
 90
 ローカル VTAM 端末 (非 SNA) 85
 ローカル VTAM 端末 (SNA) 86
 VSAM カタログ、VSAM スペース、
 および VSAM クラスタ 89
 VTAM ユーザー端末 84
 ディスク
 初期化 59, 73
 ディスクからインストール 13, 17, 19, 20

ディスクからのインストール 11
 ブート可能インストール・ディスクの
 作成 11
 ディスクの初期化
 3390 60, 74
 ECKD 60, 74
 ECKD (3390 タイプ) 59, 60, 73, 74
 FBA 59, 60, 73, 74
 デフォルト値 (自動インストール) 8
 電子デリバリー 161
 トークンリング (アダプター) 102
 統合コンソール 27

[ナ行]

入出力構成データ・セット 47, 55
 入出力構成プログラム 47, 55
 インストール 47, 55
 スケルトン SKIOPCPN 47, 55
 入出力構成データ・セット 47, 55
 IOCDs のダウンロード 47, 55
 入力
 個別設定されたヒストリー・ファイル
 情報 101

[ハ行]

ハードウェア
 構成 24
 サポートされるプロセッサ 23
 統合コンソール 27
 ユニプロセッサ/マルチプロセッサ
 ー 23
 要件 23
 ハードウェア構成テーブル
 完了 102
 更新 106
 不明装置リスト 102
 ハードコピー・ファイル 28
 配布テープのレイアウト 120
 パスワード
 変更 108
 BASE 102
 FORSEC 108
 POST 108
 PROG 108
 SYSA 102
 VTAM パスワード 105
 パフォーマンス
 システム
 パフォーマンス 26
 システムの調整 26
 パラメーター 17
 汎用文字セット・バッファ (UCB)
 作成 111

汎用文字セット・バッファ (UCB) (続き)
 プロシージャ名 111
 LUCB アテンション・コマンド 111
非
 バージョン 1 フォーマット 131
 SNA コントロール・ユニット 84
ファースト・パス xii
ファイル ID
 等しい 78
ファイル転送 FTP クライアント 20
ファイル転送 FTP サーバー 20
フォーマット (画面) 23
複数のバージョンのプログラム 122
複数のバージョンのプログラムのインストール 122
不十分なシステム構成 30
物理装置アドレス
 拡張物理装置アドレスのサポート 11, 22
不要な z/VSE プログラムの削除 115
プリンター
 印刷バッファ 111
 印刷バッファの作成 111
 スタートアップ (VM ユーザー) 88
 プリンターとトレーン/ベルトの組み合わせ 111
 VSE/POWER 制御 88
プログラム
 リスト 121, 124
プログラムのインストール - V1 形式 ダイアログ 132
プロセッサ・リソース/システム管理機構
 LPAR モードで実行される z/VSE 47, 55
変更
 z/VSE ユーザー ID のパスワード 108
ボリューム識別ラベルの重複 30

[マ行]

マイグレーション
 不明装置の 102
 199 を超える VSE/ICCF ユーザー 143
 199 を超える VSE/ICCF ライブラリー 143
 BSTCNTL 106
 IESBLDUP ユーティリティ 143
 TCT を CSD に 106
マイグレーション・エラー 159
マイグレーション・エラーからのリカバリ 159

マイグレーション・ユーティリティ 145
マルチプロセッサ 23
未識別
 装置 (VSE/SP バージョン 2 からのマイグレーション) 102
 装置リスト・パネル 102
実テープからのインストール
 実テープの作成 20
モード
 エミュレーション・モード 59, 72
 ディスク固有モード 59, 72
モード指定、装置の 24
問題処理、ジョブ管理 140

[ヤ行]

ユーザー
 IBM Z へのインストール 27
 IBM zEnterprise EC12 へのインストール 48, 56
ユーザー ID
 CICSUSER 108
 DBDCCICS 108
 FORSEC 108
 OPER 108
 POST 99, 108
 PRODCICS 108
 PROG 108
 SYSA 102
 \$SRV 108
ユーザー端末
 VTAM 端末 84
ユーティリティ IESBLDUP 143
ユニプロセッサ 23
要件
 最小限必要なハードウェア 23
用紙制御バッファ (FCB)
 作成 111
 プロシージャ名 111

[ラ行]

ライブラリー・スペースを増やす 121, 124
ライブラリアン・フォーマット 123, 131
ラベル情報 7
 基本ファイルの概説 7
 z/VSE DVD 7
リストア
 言語依存メンバー 90
 システム・ヒストリー・ファイル 89
 システム・ライブラリー 61, 75
 テープからの IJSYSRS 61
 VSE/ICCF DTSFILE 90

リモート
 問題判別 108
ローカル
 SNA VTAM ユーザーと非 SNA VTAM ユーザー 85
 SNA コントロール・ユニットと非 SNA コントロール・ユニット 84
論理分割 (LPAR) モード 47, 55

[ワ行]

ワークシート 5

[数字]

1024 台の装置 29
3390 ディスク装置 27

A

ALTER 権限 121
ASI IPL プロシージャ 87

B

BASE パスワード 99
BASEREST 91
BSTCNTL 106

C

CICSUSER ユーザー ID 108
CKD ディスクの初期化
 3390 タイプ 59, 60, 73, 74
CLEANUP 95
CMS モジュール
 SUBVSE 136
 VSECMD 136
CP コマンド
 CP DIAL 135
 CP DISC コマンド 28
CSD (CICS システム定義) 106

D

Db2 Server for VSE 7
Db2 Server for VSE ヘルプ 7
DB2 のインストール 84
DBDCCICS ユーザー ID 108
DEF GRAF 49
DEF STOR 49
DEF STOR コマンド 49, 69
DELxxx ジョブ (削除) 115
DFHCSDUP 106

DFHSNT 148
DOSRES 27, 30, 59, 72
DOS/VSE からのマイグレーション 146
DTRABxx 140
DTRFSUAB 140
DTRIASI 87
DTRIHARD 87
DTRIJB LD 87
DTRIVTAM 87
DTRPTFAB 140
DTSECTAB 106, 121
DTSECTRC 106
DTSFILE
 リストア 90
DUMPINIT 92
DVD の出荷 7
DVD の配布 161

E

ECKD 装置 59, 73
Enterprise Storage Server 23

F

FBA ディスクの初期化
 9336 タイプ 60, 74
FIRSTUSE (ジョブ) 101
FORSEC ユーザー ID 108

H

HCPVMI232E 31
HISTREST 89

I

IBM zEnterprise EC12 48, 56
IBM サービス
 サービス・レベル 118
 生成機能 118
IBM 提供の監視プログラム 23
ICCFLOAD 90
ICCFREST 90
IESBLDUP 145, 148
IESBLDUP ユーティリティ 143
IJSYSRS (リストア) 61
INSABEND 140
INSGEN (ジョブ) 117
INSTALL プログラム 84
IOCDS (データ・セット) 47, 55
IOCP 47, 55
IPL
 最小構成 30

IPL (続き)
 ディスクからの 2 回目以降の IPL 66, 78
 ADD コマンド 28
 ASI プロシージャ 87
 DOSRES から VSE を 64, 78
 IPL プロシージャの調整 84
ipl 装置エラー 31
IPL プロシージャと JCL プロシージャの調整 84

L

LEREST 90
LFCBLINK 111
LIBRDEFS 90
LPAR モードおよび VM での z/VSE
 自動インストール 47
LPAR モードでの z/VSE
 手動インストール 55
LUCB アテンション・コマンド 111

M

MACREST 90
MSHP に対する COMPATIBLE ステートメント 121

N

NLICFRES 91
NLLIBRES 90

O

OPER ユーザー ID 108
OPERATE コマンド 28

P

PERSONAL (ジョブ) 101
POST ユーザー ID 99
PRD2.CONFIG 92
PRD2.SAVE 92
PRODCICS ユーザー ID 108
PROG ユーザー ID 108

R

RAMAC アレイ・ファミリー 23

S

SAVEMEMB 92
SCSI ディスク・サポート 11
SCSI へのインストール 33, 51
Shopz 7
SNA
 コントロール・ユニット 84
SYSA ユーザー ID と SYSA パスワード 102
SYSWK1 27, 30, 59, 72

T

TCP/IP の構成 84
TCP/IP、構成 84
TCT (端末管理テーブル) 106
TERM CON 3270 49

U

UPDSECT (ジョブ) 101

V

VCSRV ユーザー ID 108
VM (VM のもとの VSE)
 手動インストールの開始 70
 準備作業 49, 69
 cuu の IPL 49, 69
 DEF GRAF コマンド 49, 69
 DEF STOR コマンド 49, 69
 IPL の実行 49, 69
 MAINT (ユーザー ID) 136
 TERM CON 3270 コマンド 49, 69
 VM/パススルー機能 135
 z/VSE ゲスト・システムのサポート 69
 z/VSE のインストール 69
VM/VSE インターフェース 69
 インストール作業のリスト 136
 概説 136
 サポートされる機能 135
 スケルトン SKVMVSE 136
 説明 135
 CP DIAL 135
 MAINT (VM ユーザー ID) 136
 SUBVSE 136
 VSECMD 136
VSAMDEFS 89
VSAMINIT 91
VSE アドレス
 拡張物理装置アドレスのサポート 11, 22
VSE 制御ファイル 146

- VSE 入出力構成プログラム 47, 55
- VSE/ICCF
 - ライブラリー 59 47, 55, 124, 136
- VSE/ICCF DTSFILE 146
- VSE/ICCF オプション 147
- VSE/ICCF ライブラリー 148
- VSE/POWER
 - アカウント・ファイル 64, 78
 - 開始完了 78
 - キュー・ファイル 64, 78
 - データ・ファイル 64, 78
 - プリンターの始動 88
- VSE/VSAM
 - ファイルの初期化 91
 - ファイルのロード 91
- VSE/VSAM ファイルのロード 91
- VTAM
 - クロスドメイン 135
 - パスワードの活動化 105
 - ユーザー端末 84
- VTAM パスワード 105
- VTAM パスワードの活動化 105
- VTOC 26
 - 等しいファイル ID 78
- VTOC 内の等しいファイル ID 78

Z

- z13 23
- z196 23
- zEnterprise 23
- z/VM 69
- z/VSE
 - インストール・プログラム 84
 - オンライン・パネル 99
 - 基本ファイル、概説 7
 - サインオン・パネル 99
 - システム・コンソールの切り離し 28
 - 事前生成システム xvii
 - 自動インストール 47
 - プログラム削除 115
 - DOSRES からの IPL 64, 78
 - IOCP バッチ・プログラム 47, 55
 - LPAR モードでのインストール 55
 - VM のもとで 69
 - VM のもとでのインストール 69
 - VM/VSE インターフェース 69, 135
- z/VSE 6.2 へのマイグレーション 151
- z/VSE オプション・プログラム
 - インストール (ダイアログを使用) 120
- z/VSE 基本ファイルの内容 7
- z/VSE 情報の VSE/ICCF DTSFILE への追加 90
- z/VSE の基本ファイル、概説 7



プログラム番号: 5686-VS6

Printed in Japan

SC43-2942-01



日本アイ・ビー・エム株式会社

〒103-8510 東京都中央区日本橋箱崎町19-21